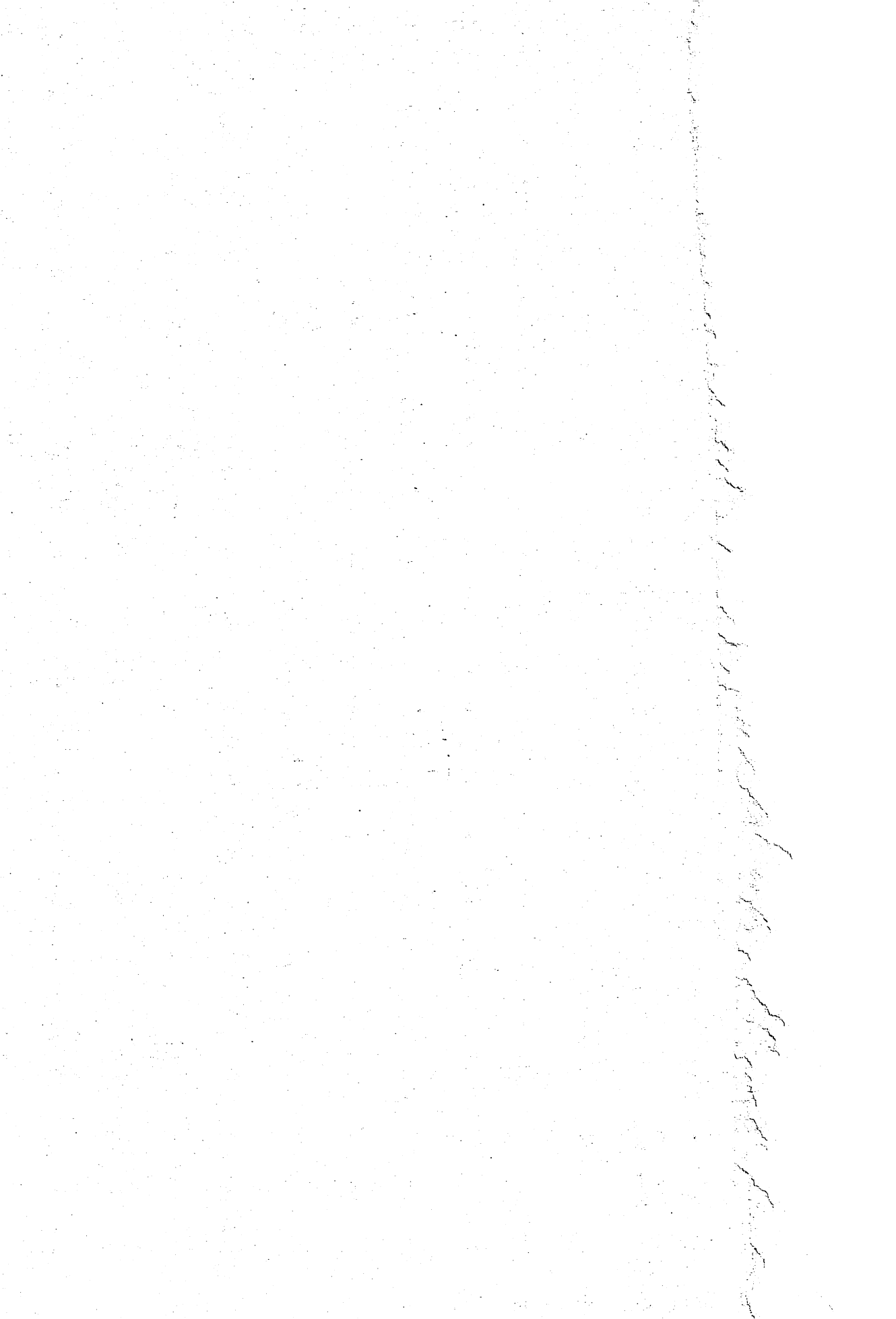


平成十三年三月
津山郷土博物館紀要第十四号

津山松平藩町奉行日記 九

安永六年（一七七七）
安永九年（一七八〇）

津山郷土博物館



津山松平藩町奉行日記 九

目次

町奉行御用日記 安永六年 大沢三平筆

同 九年 大沢三平・後藤守助筆

津山松平藩町奉行一覽表

1
58

59
127

128
132

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」安永六年および同九年を収録した。

一、本文の表現法は、つとめて原文の形にしようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体 扣 嘔 歎 喧嘩 音物 稠敷 又候 与風 風 盼 籠 拵 糶 綺

5 変体がないは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

ㄥ（より）ノ（して）尸（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（ \sphericalangle ）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで読解できない文字は、字数を推定して「」で括り、虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残っていない文字を記してあるものは、その箇所に□○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は小島徹が担当した。

安永六丁酉年正月ヨリ十二月ヨリ

御用日記

三十 大沢三平

(表紙)

正月元日 晴

一辰上刻諸士登城於桜之間御帳付於御縁側御名代御家老造酒(永見)之助殿御受礼有之右畢而當役大沢三平御勘定奉行栗田只次郡代添役西尾多内御祝儀申上候

二日 晴

一旧冬廿九日之夕京都徳大寺中納言殿内玉置小平馬と申者玉置広四郎方江駕籠三人若堂老人菊桐之燈灯御用と書付有之箱と馬上と二張鎗持はさみ箱にて表へ乗掛ケ門之戸を叩キ御用と呼ハリ候ニ付豊屋其外隣家家々承之立出見候処広四郎方玄関を明籠を釣込候由右之趣孫右衛門(除)内分申之出候件之小平馬と申ハ忠兵衛儀ニ候処当所人別余徘徊御差留之者ニ候故広四郎甚恐入候旨拙者宛内伺出候ニ付父子之間柄ニ候得者差当り上之御計ヒ可有事ニ無之何分不輕事ニ候間意味合申含メ候いつれ徘徊御差留之者押付入込候段不

埒ニ付今晚永井甚大夫江及噂右之家諸大夫ハ添簡持參差出し候ニ付是又指出候処御家老中江之宛ニ候間御用番中へ申達し候上御家老中へ差出し可然旨同人より申来り即晚与兵衛殿へ申達し候処御家老中へ差出し可然旨被仰聞今夕勘解由殿へ右添翰差出候処徘徊不相成もの自身差出候儀御不審立御開封不被成候一件追々可取計一御蔵米六拾四匁五分町米六拾匁五分一勝山(マ)今年状到来

正月三日 晴

一今日御用初日參之各出仕御用席へ當役大沢三平御勘定奉行栗田只次郡代添役西尾多内御蔵奉行金井伝七岸権六御金奉行天野郡太川口小弥太相揃出座一同御祝儀述之三平ハ御城下御静謐之段申上追々引座旧冬ハ御省略之事ニ付御吸物御酒不被下之候

同月十六日受取書付有

一掛合場冥加銀札百貳拾三匁四分役所江取立今日御勘定所江納候一玉置広四郎方小平馬と申者之儀ニ付京都田中武兵衛江通用之書状及御沙汰候処可遣旨ニ付大目付平井郷左衛門以御役場之添書被遣候而者武兵衛如何ニ可存段申之添書出申候同心福田甚蔵へ委細申含メ出京申渡候旅用ハ同役方不束之一件ニ付孫左衛門孫右衛門取陪候積郷左衛門追及噂候処拙者とも添書出し候儀ニ付彼等計セ候も如何飛脚料ハ追而可指出旨被申聞候

一甚蔵儀今日七つ時出立燈灯持老人召連候

一泰安寺金平ハ置候質物泰安寺江可相渡意味大年寄へ及噂尚又部屋目付市左衛門(除)ハ質屋呼寄盜ものニハ候へ共寺之家来ハ出入ものに頼質に為置候儀ニ付寺ハ相對受取可申儀と之御趣意ニ候得共還

而寺へ対し町方之本意悪敷ニ付盜もの一通リにて並之通ニ御取上有之候旨申渡候由尤甚大夫江粗及噂置候

四日 夜前の雪

一新魚町魚住屋太郎右衛門と船頭町高瀬屋勘右衛門掛り合書面今日孫左衛門へ相渡今一応太郎右衛門江指込可有之旨申談

一鍛冶屋喜兵衛持家屋敷旧冬取揚候ニ付来ル廿日迄（三）に一統入札触為取計候

正月五日 晴

一今日町方礼廻動大年寄札元并札元補欠其外医師方例之通ニ而申置町々年寄同断供孫八屋（在野）作右衛門罷出候

一幾野御代官所中里忠助大井田与五郎（在野）年頭書且又吉野郡江之原村口留十歩一御運上申一年分錢相場書申来奥山印遣（三）シ

一乃井野河端代八（在野）年頭祝書別ニ錢相場之儀申来奥書印遣ス

一御蔵米六拾三匁町米五拾九匁

六日 晴

一西川酒井良蔵永松太惣左衛門（在野）年始状来。泰安寺へ金平贓物送りを以寺社取次西尾多内へ遣ス市左衛門江委細申含メ請取書来ル

一泰安寺金平（在野）取出し質に置候町方所々品々寺社取次西尾多内江送りを以当番市左衛門に申含メ引渡向方受取有之

七日 晴

一坪井中里藤蔵（在野）年初之状来ル

八日 晴

一郡代所（在野）申聞一宮里方仁左衛門と申者去極月八日夜盜賊入紛失之

品町方触取計くれ候様則大年寄江申付候大目付所江達之上也

一今町ぬしヤ喜助役（在野）介きん千ヶ寺参道中にて勝不申足痛致し今二百計逗留断

一西今町沢田屋六兵衛南側ニ而表口三間裏行拾五間但四歩二厘役東隣者住屋弁蔵西隣ハ公文屋清左衛門質物書人去辰拾月五百目町内京屋伝兵衛借候処此度受返断

正月九日 晴 夜中の雪少

一河原町十兵衛旧冬（在野）組合預手鎖申付置候所断々相詫候ニ付今日呼出し呵之上手錠免し伺

一爆竹之触例之通差出ス

一平岡屋忠蔵追込指免候様野条縫殿助（在野）申聞

十日 晴

一平岡屋儀今日差免申渡十兵衛免し申渡

十一日 晴 十二日 晴曇 十三日 晴

一祇園坊札今日孫左衛門（在野）勤者所江納銀式両可出由

一孫右衛門儀御屋敷ニ而拜靈為仕度段平井郷左衛門へ及噂承知之上稲垣（在野）も次へ直談来ル廿一日上り候様為心得候

一西今町久米屋勘七（在野）蔵合伊三郎造酒株譲り請申度右之様を以伊三郎方ニハ売買不仕旨之願聞届

一福田甚蔵今日京都（在野）帰着与兵衛殿江委細申上候

一新魚町（在野）うをや与八（在野）中村善次倅重助へ懸り合之書付平井郷左衛門（在野）被相渡候即日孫左衛門江渡ス

十四日 晴 十五日 晴

一德大寺殿諸大夫添翰之御返簡御家老中江御渡被成候ニ付孫左衛門
江相渡一件別ニ記之同心兩人差向候様今日与兵衛殿江御移り有之
候

一久米屋勘七坪屋藤十郎造酒株去辰借受候処此度相戻し断

十六日 晴

一諸士登城御具足御祝儀御例格之通芥子之間御連座隨而宇治橋之間
御奏者 大目付 海老原極人鈴木此右衛門 同 永井甚大夫平井郷左衛門大沢三平頂戴相
済畢而御祝儀被下難有旨御礼申上候

一引統御用番与兵衛殿大書院出坐其外例之通連座御祝儀相済引統當
役御郡代御勘定奉行添役郡代御用所江罷出御祝儀相済恐悦申上候
引統町医其外御面謁場所相調平井郷左衛門江申達郡代中江申合例
之通

松之間御縁側并居御家老御年寄松之間
へ御出平井郷左衛門東之方下段町奉行
西之方下段名披露無之何茂年頭御祝詞
申上候旨取合述之

中之口北を頭に鍵之手ニ并居段橋
之下北を頭に大庄屋と少間有之様
子ニ罷有御家老御年寄銀鷺之間江
御出平井郷左衛門關際上段着座町
奉行北之方下段ニ着名披露年頭御
祝詞何も申上候旨述之引統南之方

大年寄 同 札元 同 同 同

岩佐孝碩
川嶋桃庵
中嶋仙庵
阿部周益

藏合孫左衛門
斎藤孫右衛門
山本三右衛門
川口藤十郎
茂渡藤右衛門
竹田七郎兵衛

大庄屋并居郡代添役共披露畢而屏 札元補欠 妹尾平兵衛

風之内江御家老御年寄入座此間ニ各退かせ候而退出有之候当年

ハ当病多有之如件

一組中杯事省略小頭代部屋目付兩人計杯事

一勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄吉紺屋形具服壳西川善助断

一從公儀水油稼之儀ニ付御触書出郡代所申合受取

一玉置小平馬今日帰京ニ付出立致候由届出申達 忠兵衛事

一京都田中武兵衛江小平馬一件ニ付掛ケ合之書面尤同心差立可申旨

御用番与兵衛殿被仰渡候平井郷左衛門江も同様被申聞候尤右ニ付
取計之趣意申上候

正月十七日 晴

一平井郷左衛門江一条ニ付田中武兵衛江書状来ル

一一条ニ付差向候同心甚藏儀ハ一応相動候ニ付相省キ残而市左衛門

ハ及用捨七人一鉢之内ニ而小頭部屋目付申合寄合を付兩人差出候

様申渡候処室并作右衛門中山伝内を指伺出候ニ付則申付候武兵衛

江申来候旨ニ任セ町家江両三人差添候手段孫左衛門江申含メ候雜

用内借之儀御勘定奉行栗田唯次取計先百匁銀受取之余分入用ニ候

得者武兵衛取計ニ而済候積り

正月十八日 晴

一宮脇町関貫損し候ニ付御修覆之儀年寄共江書付出ス 及御きた大目付所江廻ス

一來月中誕生寺法然上人上方へ出開帳ニ付御城下通行有之右ニ付同

心先弘之儀泰安寺江申出候旨寺社取次西尾多内江被申聞候

一德大寺殿一条ニ付今ハツ時作右衛門伝内差立候尤京都ニて手当用

意のため俄に申付山本屋与三七榎屋与四郎兵衛当日一処に差立候
明朝差立候積りニ心得候処平井郷左衛門の御用所御移り之由ニ而
何分取計可申旨被申聞候ニ付取計候小平馬十六日ニ引払候へ者三
ヶ泊も隔り候而武兵衛方手遣間違候而ハ不宣と思召候儀ニ付如此
御座候と恐察致し候

十九日 晴

- 一 魚住伊予守の年始状到来則返書遣ス
- 一 玉置宇左衛門徳大寺殿一条ニ付京都江四時頃出立
- 一 下紺屋町山かた屋太郎右衛門不勝手ニ付大坂渡部筋大川町^{昆布ヤ}呉ふく
ヤ茂助方へ三年之間奉公罷出度願聞届
- 一 三丁目平の屋伊三郎草津屋茂一郎へ造酒株返し父利助相果候ニ付
- 一 西今町住屋でん夫義助去十月出奔以後尋候得共以今不相知百日之
数立候故町内人別除之断申出る 同月廿三日ニ
及御沙汰

正月廿日 晴

一 泰安寺元家来金平質ニ置候かや単物又候差出候番脇差右三色送り
を以西尾多内へ引渡受取手形有之候

廿一日 晴

- 一 斎藤孫右衛門御屋鋪へ御霊拜ニ参ル
- 一 鍛冶町喜兵衛掛り合取上家同町かち新右衛門入札八百かち徳八入
札八百参拾目ニ而落札也此札高札ニ三拾目増と書記入候得共左様
致候を用ひ候へハ何人ニても高札ニ何拾目増と致し入候義例に成
自然と高札之員数無之道理ニ成候ニ付開キ候上ニ而八百三拾目と
調直させ候

廿二日 晴 夜中小雨

一 三船八郎右衛門方々清太郎置反物一応取上候得共金平懸り合不相
見候ニ付今日返し遣ス

廿三日 晴

- 一 喜兵衛持家高札八百三拾目相極候趣申上大目付所同断
- 一 万人講来廿五日出役之儀其外例格取計之段及御沙汰候大目付所へ
御貸し人之儀申達ス

一 十一年以前亥七月追払被仰付候還八母<sup>字左衛門
と申者</sup>大橋十大夫殿へ申達
亡夫多宮一周忌ニ付右之母計帰住差免度旨御聞届ニ付以後町方々
人別入申出候共承届不苦旨平井郷左衛門被申聞候

一 勝間田町紙屋茂兵衛昨夜盗ニ逢候旨紛失之品巻通届出候則日目明
江下さがし申含メ候

一 備前々大和屋清右衛門例年之通醬油売昨日入

一 小性町浜田屋次郎兵衛東側ニ而家屋敷表口式間五尺七寸五歩裏行
拾三間五尺五寸但半役南隣はりまや仁右衛門北隣北屋喜八四百五

拾目伏見町紙屋宇助売渡同月廿七日証文出ス

一 稲垣も土々連名紙礮の村上大村拙者宛御屋敷へ御用向御座候間明
廿四日昼後御勝手次第出仕可致之旨申来候

正月廿四日 晴

- 一 於御屋敷茂次申聞鳳巖院様御存生之砌被為召候御召下し御遺物被
下置候旨頂戴御用番与兵衛殿へ御札罷越候
- 一 安岡町若田屋佐助江香々美構肝煎公保田村仲右衛門安左衛門三次
郎掛り合百四拾表余九ヶ村々綿代切手米辻可相払之処相滞候を佐
(儀カ)

助方ニ横取又候公納ものを引込候申之然ル所左助方ハ銀札場借も有之其外貫數ニ及候内町借物も有之銀札奉行中ハ貸渡銀札式貫目計も有之候懸声等相聞右肝煎ハ郡代所ニ申出候米數対談ニていか様ニも筋付可申哉と山岡与左衛門ハ掛合候へ共不成一方儀ニ付請持申事いか之儀申述候所与兵衛殿へ同人伺被申候へ其何分御用所へ出候方いかニ付急度拙者とかけ合可然旨思召ニ付与左衛門ハ申聞有之其段承知之上同日与兵衛殿ニ伺上仕右被置御聞被下候而何分懸合取計可申旨申上品ニ寄追而及御沙汰可申儀難計段申上候所可置様与被仰聞候

一昨日書記勝間田町かみやも兵衛書付夜前四つ時分悴善吉儀用事御坐候而差出し候処罷帰不申候付又々私九つ前裏表ノ罷出候而八つ前罷帰候処其内ニ盗人入込書付之通盜取申旨職物書付別ニ記

廿五日 晴

一万人講ニ付郡代山岡与左衛門大沢三平出役無滞相濟御届例之通御両所ニ申達ス寄札高式千式百七拾九枚此銀札拾老貫三百九十五匁内三貫四百拾八匁五分三步ニ引残而七貫九百七拾六匁五分三拾番割 一番五百九拾式匁五步四厘 十番老貫三百六十七匁四分 式拾番同 三十番式貫式百七拾九匁 間々九拾一匁六分 同月廿八日申上候

一平井郷左衛門ハ愛染寺門前四拾才計之男相果見分申付相濟候間取捨之儀申付候様講場ニ申来則小屋之者ニ申付候処右之寺地所紫竹川之上ニ埋候ニ付此段申出承置候

一今津屋孫十郎ハ追廻シ郷藏後北之平明キさる籠一荷大そうき一(飛蓋)

る棒一相添居申注進承置大目付中へ達候
一元魚町平助俸長吉此度誕生寺大坂出開帳ニ付供ニ而来月上旬ニ罷立来ル七月頃迄逗留之儀願承置

正月廿六日 晴 夜雨

此掛り合ニ付年寄共江若田屋身分儀家屋敷數取敢不申様ニ申渡ス
一安岡町若田屋ヲ相手同町古川ヤ多兵衛岡崎屋善吉訴答書付今日差出し且又公保田村肝煎三人書付若田屋ニ返答申付候

廿七日 曇 廿八日 晴

一役所寄り棒損難用候ニ付大納戸へ掛ケ合講場ニ用候棒十本と引替申候尤大目付平井郷左衛門ニ申達候

一山田彦大夫娘大庭郡台金屋村中尾善悦と申医師へ養女ニ貫遣し度旨申ニ付山岡与左衛門を頼大目付中へ申達候所口上届ニ而相濟差遣し候節届ニ而相濟候段郷左衛門ハも被申聞候

一かち喜兵衛ハ取上之家屋敷表口式間裏行十七間但半役東隣かちヤ忠右衛門西隣ハ横野屋徳左衛門今般御触流を以御払ニ相成かち徳八落札ニ申付代銀札八百卅匁則差出廿步一徳八ハ大年寄へ指出於役々承以来何用申者有之候ハ、此連判之者ハ急度申披可致売券状差出候今日八百卅匁御金奉行中送りを以相納候請取有之候

一西新町大笹屋平吉断私家屋敷北側表口式間半裏行拾七間但大溝切半役右之家四年以前午十二月質物ニ書入大坂屋卯兵衛取次銀札式百目借候処此度受返し断此家此度式百五拾匁ニ右卯兵衛ニ賣渡し

本証文同月八日出る
一三町目式丁目六(不詳)今日初而見分致し候

廿九日 晴

一安岡町南側ニ本証文出ル而扇子屋兵助家屋敷表口五間裏行拾六間但シ本役東

隣者岡崎屋善助西隣江川屋太郎市岡崎屋善吉方へ当正月來ル十月切二割ニ定老實三百目借請

晦日 晴

一田中武兵衛來書御家老中諸大夫へ返翰相届亦々再返簡差越尤郷左衛門へも返書あり

一塚屋伊右衛門切手備前邑久郡牛窓大木工右衛門市兵衛半兵衛半右衛門善助小作右六人昨日入

一久保田村元次郎四十歲同人妻四拾五才坪井町藤屋嘉右衛門内縁ニ付引請尤郡代所引合承届ル

二月朔日 晴

一海老原極人呼ニ參土井官左衛門佐々木兵左衛門ハ伊藤采女へ御預ケ替被仰附依之今暮時同心兩人差向候様被申聞孫八多藏兵左衛門宅へ指向候処御使番中奥目付御徒目付下目付立合引渡之砌玄關へ上り相詰候由夫ハ籠跡ニ扣へ途中無滯采女宅ニ而同人挨拶之上引取

二日 晴

一海老原極人呼ニ參足輕山形惣吾追払被仰付候ニ付同心組可差出之旨權兵衛多藏差向候村上清大夫ハ以手紙時刻申來尤拙者儀も罷越申合せ致置其刻差向候宝曆十三子四月三日林田八追払之節之例を以双方取計相濟候

一今日佐々木兵左衛門土井官左衛門變義旧冬廿六日一件ニ付知行被

召上蟄居被仰付候由同心組小頭其外申渡且兵左衛門へ被仰渡之趣承之候書付此丁ニ付置候

(申渡書付・挟込みの別紙)

其方儀去秋以來土井官左衛門御預ケ被仰付置候処旧臘廿六日困飛出門外迄罷出追々追掛出候内何方ニ罷越候哉不相知所々相尋候処伊達与兵衛長屋ニ罷越居候段承之其方并組之者共罷越召捕罷帰候旨相届候御預ケ人之儀候得者万事念入可取計之処籠略之心得變に臨前後甚手拔之致方畢竟兼々武門不心懸ケハ事発門外迄も取放候段重々不屈之至候因之急度可被仰付候得共乍手延も其方召捕候儀ニ付以御容赦知行被召上蟄居被仰付候相眞可罷在候

二日 (以上、佐々木兵左衛門への申渡し)

西村治兵衛へ申渡

其方儀旧臘廿六日土井官左衛門困抜出候節働候へ共官左衛門儀門外へ出し候段不行届致方ニ付番代申付候

二日

山北惣吾(形)

其方儀旧臘廿六日土井官左衛門困抜出候節當番ニ而罷在候処取計甚不宜足輕不似合之仕方不屈至極ニ候仍之急度可申付候へ共加用捨追払申付候此以後御領分へ立帰候ハ、急度可申付候

二日

一同心作右衛門娘旧臘出生之処今朝相果候由承置ク

一西今町鍛屋安右衛門今度内用ニ付赤穂二町目紙屋九郎左衛門方へ

明三日立廿日計逗留ニ而罷越候

三日 晴

一山田彦大夫娘台金谷村へ今朝出立相届ル尤山岡与左衛門へ相頼ム
 一大目付所去ル頃御触手絞油他国へ交易之義不為致候様尤小売致候義者難差留樽数船ニ而も積候様成ル儀如何江戸表ニ而此方様備前亦者安芸様御留主居格別ニ呼出シニ而御触申渡有之由此方様之義者追而御伺之思召も有之間何分心得之ため役所ニ而趣意考候様海老原極人被申聞候

一同心加人塩屋曾内御用向ニ付加藤登八引替申度旨栗田唯次被申聞
 一山田庄吉義稽古事勝手次第ニ差出可申旨海老原極人へ被申渡候即日拙者為御礼御用番衛守殿へ罷越候

一去ル十八日京都へ差向候作右衛門伝内同廿九日出立今夕帰着致候ニ付衛守殿并海老原極人迄申達ス

二月四日 晴

一林田町豊国屋重右衛門方昨日之夜盗人入着もの類凡十八色被取書付を以届出ル

一前書之通物(物懸)ニ付今夕の町方夜廻り申付候

五日 晴

一御蔵米六拾式匁五分町米五拾八匁五分

一伊勢屋伊左衛門伊勢参来ル八日立三拾日計滞留

一上紺町灰屋菊藏借屋はつ身延山来十一日立式百日計

一坪井町角屋庄助ふく渡町南側ニ而家屋敷表口四間裏行拾七間本役東隣ハ中島宗元西者南新座町通り筋代銀札六百目宮脇町あかヤ助

次郎へ売渡同月六日本証文出

六日 晴

一非人共物懸ニ付御家中屋敷或ハ林田上之町辺夜廻り申付候及噂
 一京都田中武兵衛へ御用状小勤者中へ届玉置忠兵衛徳大寺殿へ大方暇出可申弥召捕候ハ、二ツ切飛脚を以案内可申旨即刻衛守殿江及御沙汰海老原極人江も同断

七日 雨

一京都江臨時入用難計作右衛門伝内又々用意取計置
 一京町甚三郎甥因州鳥取弥次郎儀廿八歳此度於御当地紺屋手間仕度由来戌三月迄逗留願

一坪井町ふくヤ嘉右衛門美之職人町綿屋佐助願今般嘉右衛門引請候元次郎元結一通り切尺長細工致し候ニ付壳株ニ被仰付勿論冥加銀も差上候様願書出し候旁下擦等諸人之助力ニ相成候趣他江出し候銀御下ニて潤ニも相成候儀文段ニ有之いつれ苦敷かるましく明日御沙汰も可及儀

二月八日 雨後晴

一昨日記置候元結職願及御沙汰候処御聞届被成候大目付所江も願書差出し御帳に留候由

一來ル十三日誕生寺円光大師御当所通行之旨海老原極人被申聞候
 一陸荷運上物拔荷致候水口屋茂兵衛長次郎甚五郎八十八三吉此もの共錢目付へ見咎メ候処不埒之答致候ニ付難捨置運上奉行中へ届有之御勘定奉行近藤伊左衛門御用所江言達有之吟味取計候様与兵衛殿被仰渡粗伊左衛門江掛ケ合置伺之方之趣被申越候ハ、追々吟味

ニ掛り候積り

一戸川町作人藤四郎後家土岐領勝北郡河内村新右衛門悻善右衛門式
拾三才養子致度願聞届同月十八日証文

一伏見町近江屋和助孫三郎因州伯州之内呉服商売前年之通京都近江
屋之頼ニ付来ル九日之十二月迄滞留

一京町菊屋清左衛門公料綿実座用事ニ付乃井野中屋甚三郎方へ明九
日立往来六七日逗留

一新魚町魚住屋太郎右衛門懸り合船頭町高瀬屋勘右衛門之再返答
一鍛冶場渡船損し書付出

一戸川町作人惣七願亡父為追善心願御当地一ノ宮国分寺納経宿錢持
合なき難儀之廻国ニ薪報謝一夜一人宛人数五十人ニ足候迄一夜泊

り報謝宿仕度病氣故障万一病死早速宿取捨之儀ハ自分ニ仕町内組
合役介懸申間敷尤廻国之儀往来手形所持致し居申候心願成就仕度

旨別紙ニ随分吟味之上実正成廻国計目利跡之追手等懸候儀ハ決而
無御座此段相請合申候由

二月九日 晴 夜中雨

一山岡与左衛門之吉原村勘之丞同与五郎古川村清八入牢申付候由ニ
而手形差越され同心三船孫八同人宅ニ差遣候役所手形例之通

(貼紙)

十日 雨後晴 十一日 晴

一安岡町まつヤ伊助撰州大坂かち木町玉子ヤ九兵衛へ明十二日立四
十日計

一御蔵之当酉春渡御役料御給米相渡し候間受取候様申来ル

一安岡町久米屋勘八悻義八誕生寺大坂出開帳ニ被頼来ル十三日立四

五十日計。三丁目若松屋多十郎父七兵衛同断十三日立卅日計

一下紺屋町福住屋吉左衛門印形紛失ニ付改候印鑑

一御勘定奉行近藤伊左衛門之此度正米他所ニ拔荷致し候者書面相廻
ル

十二日 曇

一御役料式表三斗式合五勺同心組屋夜廻三斗玄関卷斗五升半番卷斗
五升ツ、小頭卷斗五升但式合半ツ、之割合也

一規下紺屋町山形屋与次兵衛借屋十助千ヶ寺順礼来ル十三日立往来式
百日計

一新魚町河本屋伊之平芸州広島詣来十三日立卅日計
十三日 晴

一誕生寺今日通行ニ付同心作右衛門左助両人見計罷出候香包ニ而酒
相送り候由為挨拶泰安寺之使僧来ル

關通行

一拔荷吟味ハ運上奉行中ニ而相濟候ニ付役所取計ニ候由与兵衛殿被
仰渡咎方而己来ル十八日御伺申上候様相成候

一鍛冶場渡船損及御さた候

一太田村六兵衛家内四人東新町かちヤ新蔵借屋ニ引越承届ル

一銀札場貸付之儀孫左衛門引請物と札元諸方貸と差別有之候処向後
ハ實人家と同様ニ役所ニ而相計候様御用番衛守殿之被仰渡則大年
寄ニ申渡候

二月十四日 晴

一伊藤采女弟藤之進^{十一} 山岡与左衛門役介倍吉^{十二}之由昨晚太田官

平と仙波伴藏横手ニ而何之遺恨之候哉倍吉ハ金井伝七悴安之丞^{十一}一
齋藤政弥^{十五}才^由太田官平宅を出歸り懸り候処藤之進跡を追かけ倍吉
声かけ向イ合同人分切付疵腕又ハ面部三ヶ所^淺及候所倍吉刀ニ
留有之無拋存意不遂藤之進ハ無疵此仕義安之丞甲斐々敷左右を相
障エ追々大人彼是取計仙波宅へ倍吉ハ連込親類其外かけ付久原三
益療治夫山岡宅^五引取候由右ニ付山岡与左衛門分件之始末相届
くれ候様申之ニ付采女方^五ハ土岐雄助を以届候段一通り及通用候
右ニ付拙者即刻大目付^貳海老原極人^五右之趣申達候所同人分役筋^五
御届ニ候へハ則御用番へ可申達候然上ハ御裁許可有之候間夫迄^五
与左衛門一分之趣意ハ発し不被申様可相心得旨被申聞候勿論与左
衛門分も届ハ一通りニ而倍吉疵平愈之上^愈ハ尚又趣意御届可申上旨
拙者含罷在候得共極人件之申聞候ニ付此儀も相黙止罷歸候其段同
人^五申聞候

十五日 曇天

- 一 田中武兵衛急御用状来ル^{当月八日 九日出也}則衛守殿并極人^五相達ス
- 一 播州今市綿屋嘉一郎手代忠七例年之通昨日入境屋伊右衛門切手
- 一 天野郡太川口小弥太若田屋佐助分五百匁銀札場へ可致納収旨手
紙来則来ル廿日迄日切ニ申渡ス老貫五百目之儀も皆納可致旨申渡
ス
- 一 勝間田町土手下水門埋洪水之節水堪難儀ニ付断書出ス
^{同邸}
- 一 あへ周益借屋弓削屋徳助去十月廿五日出奔百日相立候故人別離断
書出同月十八日及御沙汰
- 一 坪井町吉野屋六右衛門娘民廿一才円宗寺村喜助方へ養女

一 山手屋弥太郎家守喜太郎借屋作人太兵衛家内四人二宮村長七方へ
引越申度願

一 東新町玉屋伊左衛門自国受酒株去ル未才肥後屋長助へ借候此度
取戻シ

一 同町紙屋佐助断西今町勝ヤ常右衛門^五自国請酒株午才借受候此
度同人方へ返シ

一 同人直屋市郎左衛門他国受酒株午正月分借候又々丑之才^五借受
断

一 同町かちヤ利左衛門妻染身延詣十五日出立式百日計

一 西新町井筒屋善助断安岡町坪屋和助自国請酒株午才分借受候又
々亥迄年延^五

一 今夕極人分手紙罷越候昨^五日届之趣被置御聞置候畢竟東西不弁小
兒之喧嘩之儀併疵も有之ニ付療治相加平愈之上^五ニ而又々届可出夫
迄^五ハ与左衛門^五御預被成候此段御用番中分被仰渡間同人^五可相達
旨被申聞則刻申達ス

二月十六日 夜前分雨ニ而曇

一 与左衛門^五昨夕被仰付候趣奉長尚又御役筋も有之門戸出入等たと
へ幼年之者ニ候^五而も御預之儀ニ候得者差扣慎可罷在哉何分御伺之
儀御差図も被下候様同人分相頼候ニ付極人^五其段相伺候左様事
ニ不及候旨即答ニ付又々同人^五申遣候

一 三木喜三今日相果候ニ付孫左衛門忌服引込申度届出ル^{同月廿四日 出勤為候}

一 弓削村吉野屋彦右衛門へ午十一月五日残り札百九匁九分式厘今津
屋孫十郎一札取之市左衛門立合相渡ス

十七日 雨後晴

同月十八日大目付所江申置(イ)

一 三軒屋中尾清次隣家江是迄下代本沢新兵衛方ニ居候作人孫四郎借度旨申ニ付差置申度上請伏見町久七下請二かい町作人伊介

十八日 晴

一 勝間田町土手水門埋候儀ニ付願出大目付所江差出置

一 元魚町八百ヤ七郎左衛門後家持家東側表口六間半裏行拾七間但式

軒役北隣ハ油屋与市南隣ハ山手屋弥太郎拾四年以前申五月賃入老貫刃借候処此度受帰し右後家ハ断(イ)

二月十九日 晴

一 去ル十三日抜荷之者共咎メ之儀昨日御伺相濟今日役所呼出し船頭町板屋八十八禁足戸川町馬持三吉追込西新町馬持庄吾手錠追込右之者共取計御届御両所江申達候出番伝内多藏別ニ扣有之(イ)

一 抜荷甚五郎甚次郎今日呼出し可申之処東新町横町ニ居候を是迄馬持組頭共不相札候を居所上之町分と相聞候ニ付吟味遂候へハ弥其通

ニ付利七清右衛門八十八ハ不調法之旨書付出ス追而可取計同月廿八日山岡与左衛門へ肝煎以来之場ニ而尋になり候様申談候

一 平岡屋忠右衛門明廿日立大坂行往来四十日

一 豊屋喜左衛門明後廿一日立京都行三十日計田中武兵衛へ御用状相渡ス

廿日 晴

一 西新町伊崎屋長左衛門病身ニ付年寄役倅為次郎名代断

一 東新町年寄清右衛門病身ニ成倅名代則跡役申付清右衛門ハ役免

一 伏見町年寄正木屋八左衛門役免近年不如意ニ付仕覚替候由跡役の

セヤ源助

一 京町戸屋岩右衛門親佐左衛門又々当九月迄大坂逗留断

一 三浦志マ守殿当秋大坂御門番被蒙仰参府被致候ニ付三月七日在処(原)

一 癸駕二月十八日出九津見吉大夫ハ先触来

一 元魚町八百屋七郎左衛門後家去ル十八日書面持家屋敷銀札老貫ニ本証文同月廿一日出

二 階町組屋勘十郎へ売

一 惣豆腐屋共元魚町八百屋四郎左衛門願去十月相願老挺ニ付拾四文ツ、只今迄商売仕候処大豆少々高直に相成候ニ付拾五文商買仕度趣 一 老刃六厘大豆式升 一 三分薪木代 一 老刃三分六厘拾挺分元 一 拾五文売立老刃七分内老刃三分六厘元 一 引 残而三分四厘手間代同月廿八日及御沙汰

一 戸川町ふしヤ甚助娘伊勢廿八才此度小田中権七方へ養女

二月廿一日 雨 廿二日 曇

一 勝間田町荊田屋治七郎老人役ニ付致難儀由とよ野屋忠左衛門儀同役申付候

一 林田町福市屋忠治北側家屋敷表口三間裏行十六間但半役東隣ハ作人磯右衛門西隣ハ宇田屋和七右家屋敷四百刃同町茅野屋伊助売渡

一 元魚町八百屋七郎左衛門後家此度英田郡土居村弟甚十郎へ引越廿三日及御沙汰

一 船頭町和泉屋銀兵衛撰州大坂大川町金岡屋伊兵衛方奉公西ハ来卯年迄(イ)

廿三日 晴

一 戸川町惣七ハ亡父為追善路錢不持納経之六部一夜吉人ツ、五十人

ニ及候迄報謝宿仕尤町内組合之世話かけ不申病氣又ハ相果候共自身取埋可申旨願出段々察度申付候処一々答候へ共何分新規之事殊更異様之義ニ付大目付中へも粗趣意申之聞届不申候

一宮脇町松野屋伝助安岡町綱屋嘉兵衛所持自国受酒当酉より来丑之才^(マ)才^(マ)才^(マ)借。安岡町表屋七兵衛自国請酒株町内若田屋佐助へ貸置候処此度取戻し。東新町丸木屋自国受酒株借受候処御運上銀壹枚差上候得共小商買不商ニ付造酒屋払等も得不致候ニ付運上減少之歎申出候同町たる屋清八西新町并筒屋善助共ニ三人

一戸川町はりまや恵助願私悻義介十九才此度山北村伊左衛門世話ニて西々条郡布原村徳右衛門方へ養子遣

廿四日 晴 廿五日 晴

一栗田唯次酒屋共運上銀^(マ)拾三枚^(マ)、差出候相減候様ニ願書出ル 此節之義ニ

付先是迄之之通差押可申旨尤永井甚大夫^(マ)江も被及噂候処是迄之通^(マ)おさへ置候様被申聞右運上願之趣聞届候へハ追々類も多く相成候趣ニ相聞候由格別之存寄ハ無之哉と被申越候ニ付存寄無之段返答申遣候

一元魚町米屋喜兵衛船頭町紙屋太兵衛江質家一件ニ付出入ニ相成候処此度受返得不致候ニ付太兵衛江売買に相立申度旨組合共も是迄^(マ)掛り合候得共難済且又喜兵衛母の歎先達而母子不和甚喜兵衛不埒之儀も露頭ニ付組合預申付候所近来ニて者喜兵衛も落付母子之間も様子直候様相慎居候ニ付何とそ赦免申付呉候様書付差出仍之右書面承り届太兵衛方へ筋立可申旨申渡ス

一新魚町魚屋源助四年已前已之十月入江屋藤助江銀札百八拾目出家

質ニ而貸渡候処納所不埒ニ付訴状差出ス返答書申付候処不束ニ付来月十五日迄^(マ)ニ濟口致候様ニ申渡追々可取計

一山手屋弥太郎家守喜八郎の親源助去十一月出奔届之上尋申付候得共以今行方不知百日相立候ニ付人別離書付差出ス

一宮脇町大工源藏願勝山城下佐野屋喜兵衛悻伝三郎拾五歳此度養子ニ引請

一加治町伝右衛門伯父去ル辰才五ヶ年弓削村百姓長吉方江出職致候^(魯)処当酉今来ル午之才^(マ)迄年延

一新魚町海布ヤ伊助断借屋忠助不勝手ニ付二宮村広太郎借屋江引越一去ル十九日追込申付候戸川町馬持三吉免し

一板屋八十八儀ハ去ル廿三日禁足を免

二月廿六日 晴

同月十八日延書付六通添書ニ而大坂江遣ス

一大坂村尾彦右衛門桑原作次酒屋大坂町奉行所京都伊予守殿遠国方与力去ル十五日罷出候様申来作次罷出候所大坂油掛町塩屋平右衛門借屋垣屋甚三郎病氣ニ付代長右衛門より及出訴相手方其表坪井町金沢屋庄兵衛東新町紙屋左七林田町油屋源六東新町茶屋五郎右衛門今町西田屋太助右五人江之訴状五通右与力勝部丈右衛門の相渡尤六十日切之旨申聞候旨夫々申渡右日限重便早々可申遣旨其段御奉行所江相届候先格と存候旨同月廿三日出之書面落手一件別に有之

廿七日 晴

此段昨日及御沙汰

一今日大坂訴状五人之者共呼出し読渡急度相濟候様申付候立合石名

小頭式

平太兵衛中山市左衛門斎藤孫右衛門妹尾安次

一新魚町山手屋次兵衛断悴常太郎廿壹才大坂上町粉川屋八九郎へ来ル亥之才^{ウツ}迄三ヶ年奉公

一伏見町小桜屋半兵衛病身足痛ニ付急御用之節悴彦右衛門名代

一釜屋市郎右衛門願林田上之町東新町小池友的借屋居候柳ヤ多七卅

七才引受

三月十五日取文出ス

一船頭町作人源兵衛船頭町南側ニ而家屋敷表口三間裏行五間壹尺但

吉軒役西隣長左衛門東隣船頭町河原町境代五拾又同町勤兵衛へ売

二月廿八日 晴

一二階町喜太郎親源助去十一月六日欠落相届尋申付候所日数定之通

ニ而人別離願出候ニ付今日及御沙汰

一野村百姓仁兵衛去ル十二日之夕盗人入紛失之物添郡代西尾多内御

沙汰申上町方へ触出之儀申聞則通用ニ付触出申渡候

一

廿九日 晴

一境屋伊右衛門切手備前小畑町鼠屋甚八例年之通元結売昨日入

一久世原方助大夫此元大脇惣八江^{当町福渡町}銀老貫目貸候処返濟不埒

之儀去冬十二月九日之書記ニ有之候以来組合預に申置候所右助大

夫名代半助銀子相受取濟口書付差出ス

三月朔日 晴

一作人惣八も濟口書付差出候ニ付乃井野川端代八江右掛り合相濟

助大夫へ出候濟口書付写之書状認今日右半助江渡ス

一幾野平岡彦兵衛殿御代官所手代大井田与五郎中里忠助より書状到

来西々条郡羽出村庄屋伊右衛門相手方新魚町鳥屋与三兵衛相掛り候趣御用ニ付役所江罷出当月十四日其御城下新魚町鳥屋与三兵衛

と申もの方止宿致候処脇差一腰致紛失候之間宿主江懸合候得共

等閑之及返答候ニ付町役人江相断置候由右ニ付其御役所江出訴仕

度旨願出候間差出申候願之趣御聞糺被遣候様致度候右之段可得御

意旨彦兵衛申付如此御座候旨則御用番与兵衛殿江も大目付鈴木此

右衛門江も申達シ候鳥屋儀ニ付坪井町福江屋伊兵衛儀相懸り候ニ

付先他参差留申付候訴訟人ハ伊右衛門ニ候へ共役所江ハ同人^{仲助三郎}

者宿尾高屋宇兵衛召連出^{当番孫八}追々可取計訴訟方ハ一応在処掃り

申候由

一二文字屋善兵衛大坂行来ル三日立廿日計

一中山市差衛門室井作右衛門今日馬見分帳面其外例之通

三月二日 晴

一元魚町龜屋定次郎断大坂梶木町玉子屋へ明三日立卅日計

一若松屋善左衛門悴幸吉大坂ニて弟山本次兵衛方へ遣置候処病身去

ル八月参逗留之処此度引戻し人別入

一二階町関貫北詰并堀ハた塀履繕ニ付足代

一元魚町紙屋茂松西側家屋敷表口三間裏行拾七間但老間役北隣縫屋

惣兵衛南大笹屋伊右衛門質物書入三百目来十一月借二階町田原屋

伊兵衛取次ニ而

一東新町林田村浜田屋佐右衛門中之町三室屋重右衛門へ掛り町端

大商ひ御停止被仰渡を破去冬正米売買致候儀尤馬持老人仲人ニ而

及右内町へ在分入込相止売懸等之差支甚難儀ニ付旧年訴出之候

得共大庄屋大年寄場合ニ而色々かけ合見申候へ共東新町之者一同ニ承引不致趣ニ付月番孫左衛門江太郎右衛門江内借難成旨及案内候由

一新魚町うをヤ与八始二階町疊屋善左衛門仲人ニ而御使組中村善次悴十助先達而下目付今八人へ妻に貰候処離縁持参銀式百五拾匁不相返此儀先達而出入ニ成大目付中へ差出候処御勘定奉行中へ被達善次父子江吟味有之又候右口書を以申候ハ、及掛り合之者共口書取之再三相糺シ又候今日此右衛門江差出ス同月十三日此右衛門江又々被相渡持参銀と申儀吟味取話候様ニ取計へき旨被申候候

三月三日 晴

一今日節句一統礼無之在宿当番も平服大年寄共御用出候ニも平服

四日 雨

一七日立十六日頃吹屋町持陽院こんや町内乘院。同断七日立七日計熱田市正伴共金毘羅参詣元魚町一乘院こんや町万性院。熱田市若狭。徳島屋吉兵衛。安岡町村永ヤ甚吉久米屋岩吉井たヤ安兵衛浄土寺江川屋太郎市年寄和助

一石名佐助七日計在行

五日 晴

一坪井町かとヤ伝助江届かすがへ三本御作事奉行中江買上られ候由一橋本町福市屋嫁直訴夫幸右衛門江道具進戻し親里へ参居申候へ共橋元町年寄共江相渡同町組合共江預ケ申付候当番孫八甚藏承之

一安岡町米屋伊助借屋居申候喜右衛門与申者先月廿九日妻くめ捨置六才ニ成候娘召連与風出申候ニ付喜右衛門妻に尋候所勝手向当日難凌迷惑致罷在候故と被存候由及返答申候由

六日 晴

一志摩守殿明日通行之筈ニ候所十一日迄延引之由大年寄并問屋共江

夜中申出則鈴木此右衛門江其旨為知申遣候

七日 曇

一与兵衛殿江志摩守殿通行相延候段申達之

一中山伝内今日昼廻り江不快引込

一東新町樽屋清八自国受酒株今町久米屋勘七へ戻し願

一元魚町米屋喜兵衛東側表口三間半裏行十七間但六步半役北隣ハ此条別段に入置さ

しヤ長左衛門南隣ハ西ヤ弥吉右家屋敷三年以前未十月質物に書入

舟頭町紙屋太兵衛取次ニ而老貫三百目借用之処此度元利返済私手

前江受取申候由奥書去月廿七日

一右之家屋敷紙屋太兵衛江老貫六百五拾匁売渡願老通出此家屋敷之

儀ハ去歳江段々懸り合ニ成喜兵衛儀ハ組合と申合セ違兼而紙屋と

不和之趣其上喜兵衛方故有之組合共へ預申付置候

三月八日 晴

一組屋勘十郎方綿実油之儀ニ付積下シ候綿実解売ニ相成候而大坂綿

実若察度申候ハ、組屋油稼車故障ニも可成と甚不安に存何とそ座

か問屋に被仰付候ハ、ノ残りハ大坂又ハ兵庫へ積登セ申義ニ而解

売買ハ相止候旨内願有之候得共問屋又ハ座と被仰付候而ハ自然と

不宜候筋とも恐察之上解売買差留候触を出し候而ハ如何可有御坐

之旨案詞ヲ以御用番与兵衛殿へ御同申上置候

一田原屋六兵衛自国受酒株淡路屋清ハ取戻し候断

一二階町北之詰塀覆繕足代おろし申上候

一鍛冶屋喜兵衛出牢何趣意書差上置候

一玉置宇左衛門昨夜帰着悴重右衛門罷出届候状箱左之通

一 田中武兵衛江三月二日之日付此書状ハ御勘定奉行中江宛ニ而參候
ニ付栗田只次江為持遣候処同人江相廻し候

一 小性町浜田屋次郎兵衛封印銀札開封之願組合共書面添出候

九日 雨

一 田中武兵衛江二月廿八日出之状三月四日出之状到来与兵衛殿江及
御沙汰尤鈴木此右衛門江も持參致候別に有之候

一 野井乃松崎左仲江去ル朔日久世藤森屋半助江へ渡候状之返事来ル

十日 晴

一 今町直屋市郎左衛門備中倉敷江来ル十二日立廿日計

一 茅町菅原屋喜兵衛鉄砲町渡り屋敷針医橋本平七倅庄吉廿才此度

養子ニ仕度旨同月十三日聞届候尤植月文助江へ引合候

一 田中武兵衛江大目付中江御用状并拙者江老通西新町ふしヤ清助大
坂大和屋佐助方江明十一日立卅日計逗留ニ而登候ニ付輩江大坂御
屋敷宛ニ認相渡ス受取有之候

十一日 晴

一 西今町広瀬屋平七明十二日金ひら參廿日計

一 志摩守殿今日通行玉置方小休有之候由御徒目付并下目付宿安岡町

木綿屋治助此殿大目付中へ先日申遣置御使者宿齋藤方先日申遣置御取次太田仙助馬駅江

中山市左衛門福田甚藏先松神田権兵衛香山多藏罷出候。此方様江

望月貞助御使者相動候由立宿不申付大番頭ニ而落候由

。向之方江御使者福田伝之丞。宿馬式拾足人足四拾人内式拾

七人拾三人増。玉置広四郎江相廻し候志摩守殿役人江相計り候
様頼太田仙助江式百足御徒目付河村市兵衛江百足下目付江式両先

払江壹両ツ、右者鈴木此右衛門江相届遣し候通行落候届御両所江
申達候

三月十三日 晴晚雨

一 福渡町作人惣八呼出し久世村百姓助大夫一件ニ付呵追込申付候別
ニ袋に入置尤今日取計旨御両所江御届申達ス

一 新魚町魚屋弥兵衛廿四才不如意ニ付勝山野田ヤ彦九郎方江来ル卯

歳迄奉公ニ罷越

一 東新町作人新七勝手ニ付亥歳迄カマから敷鍛冶屋丈右衛門方江奉公

一 二階町嶋屋藤吉播州加古川ねちわく細工九郎兵衛長次郎式人例之
通

十三日 雨

一 馬持上之町甚五兵衛并倅宇助一条式拾五疋馬株ニ候所年来在分ニ

住居候儀今般知候ニ付郡代所ニ而此間吟味有之尤右宇助咎メ筋有
之候処居所之儀手を懸候儀如何然共難捨置町分ニ而も馬指又ハ問

屋をも尋申付候ニ付書付大目付役所江今日出し置申候

一 去ル二日之書記東新町江訴出候趣五年以前已之歳被仰渡候御制定

之趣も候得者郡代所当役所ニおるても掛ケ合ニ落着も難付下方大

庄屋大年寄共内落之対談致し候得共止訴難及ニ付無勘今日大目付

中江及噂候所何分及御沙汰候様ニと有之候ニ付与兵衛殿江於御次
及御沙汰候所先々御内覽可被成ニ而御請取思召寄も候ハ、二三日

中又々仰も可被聞由被仰候

一 去ル八日御伺申上候油稼ニ付解完停止触勝手次第ニ触べき旨被仰
渡候

一昨十二日元魚町米屋喜兵衛儀大年寄孫左衛門於宅同役孫右衛門立合年寄組合呼出し去才以來不埒之義共ニ付町奉行所役所書面ヲ以為読渡禁足相慎ませ候様取計候勿論右書付母親可「」相渡候様ニ孫左衛門ニ申含メ一件袋に入置候同月十六日免

三月十四日 雨

一伏見町柵屋与四郎京都夕夕帰候由兄清六届田中武兵衛来書受取

十五日 晴曇

一坪井町長門屋惣兵衛西国十六日立八十日計。同断元魚町河内屋与七十六日立百日。戸川町高尾屋藤助同断かうしヤ伊助同断

一元魚町差屋長左衛門去申十二月断出借屋安右衛門儀家出いたし尋申付候処備中国久保木村參候由借銀難相渡無抛他出致候得共朋友之者共銀主方へ挨拶仕双方筋立候ニ付呼遣し申度旨承置

一魚町鳥屋与三兵衛撰州豊島郡池田村月野木町植木屋平兵衛手代嘉

兵衛式人上下例年之通植木売一昨日入

十六日 晴

一川口小弥太天野郡太若田屋收納銀札場へ式貫目之内五百匁ハ正月五日急度可相納ニ候処不埒日切も役所申付置ニ付其儀承度旨手紙尚又敵敷可申段及返答候

一宮ワキ町まつヤ伊左衛門北側ニ而家屋敷表口五間裏行拾七間但「東ハ田中屋宇兵衛西ハ武田屋今吉三拾年以前書人卷貫目借用候処此度元利返済請返し候断三倉屋善四郎取次也

十七日 晴

一堺町大室屋藤兵衛南側ニ而家屋敷表口六間七厘五毛裏行八間但九步役也東隣針ヤ惣十郎西隣ハ小鳥屋次郎右衛門銀札七百匁元魚町團屋文七ニ売渡し同月十八日本証文出

一船頭町土橋往來願川向畑ニ小間物仕付時分ニ差かゝり申候所老人「」者川越ニ甚迷惑仕其上近來川渡り之場所惡敷一同ニ難儀致候何卒当夏作取揚時分迄被差置候様ニ申出候

同月廿八日御聞届被成候

一中之町わらヤ兵藏借屋ニ居申松野屋友八同人妻セウ森对馬守殿預り所倉敷上本町箕相屋其八方へ引受人別離

同月廿三日俵夕廿日計日延断

一直屋孫兵衛大坂松屋甚兵衛方へ明後十九日出立卅日計

一安岡町久米屋清兵衛中島喜大夫建家作代伝吾居宅立廻去才三百式拾四匁取替右家当三月切質物取置然処同人退去ニ付庄屋源八

方へ右建家相渡くれ候様被申候得共町奉行所断候へと申候ニ付書付差出候旨同月十八日及御沙汰御聞届同廿四日受取申候

三月十八日 晴

一山岡与左衛門孫子倍吉疵平愈ニ付御届申達呉候様昨口頼越今日於御城鈴木此右衛門ニ達候所退出後与左衛門名代罷出くれ候様申来參候処左之通

其方役介之孫倍吉儀伊藤采女弟藤之口去月十三日喧嘩之一件幼年之儀なから倍吉手疵有之ニ付療治中双方御預被差置候然ル所右疵も最早及「」候旨畢竟願はなき子とも喧嘩之儀ニ候間此上不被及貪着双方御預ケ被差免以後互遺恨不為含様納得可為致候尤惣ノ幼年なりとも言語相慎一朝之怒ニ口を亡し忠孝忘却無之様之心得平日教訓可有之事ニ候

此段拙者の可申達旨被仰出候

右之趣則刻与左衛門江及通達候采女方被仰渡承合くれ候様同人申聞候ニ付問合候所同様之旨被申聞候則差扣伺候ニ付申達候及夜不及其儀旨申来ル

一 小性町浜田屋次郎兵衛歎出候趣近年勝手向不手廻家屋敷諸道具等壳掛銀札場收納且極老之祖母近来病身去ル亥歳祖父善六封印銀札五百目御開封被下候様仍之組合共及尋候所俱「」候ニ付今日及御沙汰候処御聞届被成候右手形書預り居候所相見へ不申近来諸道具壳払候節内へ紛入候哉別紙書付出ス

一 東新町いなはヤ切手大坂松坂屋忠右衛門例年通唐弓弦売昨日入田中武兵衛儀昨夜到着先日御家老中の參候御書翰不差出持參勿論其存寄申上候由栗田唯次於宅一件及面談候

一 今日二階町松葉屋吉右衛門山手屋弥太郎家守 八ツ時裏鉤家消炭今火出早速近辺罷出消留候届御両方へ御届申達ス同月十九日追込廿三日免四月廿三日十日之日延字八分申断候是又申達ス
一 幾野添翰公事宿尾高屋宇兵衛立願明十九日本願寺參卅日計留主之間御用向ハ悴宇八相動候由

一 鍛冶町喜兵衛牢舎御免相伺候処勝手次第取計可申旨被仰聞候
三月十九日 晴

一 山本屋与三七他国受酒株東新町和氣ヤ太兵衛の取戻し
一 坪井町恵方ヤ和右衛門家屋敷表口六間裏行十七間但耆軒役半東隣
一 福江屋伊兵衛西隣ハ大津屋七郎左衛門西之方式間裏行十七間立物
一 式ヶ所新魚町うをヤ甚助取次六百目書人同月廿六日証文出

一 福渡町作人惣八追込差免御届申達ス

一 鍛冶町喜兵衛出牢帰住悴清助并親類組合預ケ其身ハ禁足急度慎罷有候様申渡ス
廿日 晴 廿一日 晴

一 三町目若まツヤ多十郎大坂表三十日延

一 元魚町田原屋善三郎江大坂塩屋甚三郎病氣ニ付長右衛門訴訟五百五拾匁六分七厘酒代滞也鈴木此右衛門の被相渡即日右善三郎呼出し濟口致候様申渡し同月廿二日申渡

一 尾高屋宇八の羽出村伊右衛門公事宿致候処山城村吉右衛門与申者嘸申候ニ付幾野表へ願下しに罷越度旨此段届出承置候

一 茅町六郎兵衛願鉄砲町渡り家敷罷在候作人小太郎五十口才同人妻四拾六才粉二拾才娘拾七才右四人内縁ニ付引請人別入
廿二日 晴

一 今日沼本弥五兵衛見え高橋伊豆旅宿去歳迄ハ小性町ひじヤ兵藏方ニ止宿致し候処少々訳有之当年ハ宿屋之内ニ而可然宿に罷有度輩儀御祈禱も相動候者ニ付旅宅無御座候而ハ難儀ニ付可然取計くれ候様頼ニ付則宿屋頭兩人に申付候様大年寄へ申含メ候

一 昨日山岡与左衛門の被申越今日向方の入牢者下代吟味ニ遣し例之通取計くれ候様申来同心藤森喜作老人差出し

一 山本屋与三七昨夜罷歸り今日同人并証屋与四兵衛届ニ參候ニ付対面ス
三月廿三日 晴

〔訴訟〕一 新魚町うをヤ与八訴訟方相手二階町豊屋吉左衛門中村善次父子へ掛り合中村方ハ追込持參銀ハ六十日切ニ相返候様被仰付追込ニ吉

左衛門を申付与八ハ何兩人相当之申渡「取計候様御用番伊達与兵衛殿被仰渡候御勘定奉行近藤伊左衛門江も被仰渡候上日限等かけ合候様被仰聞候由

一中之町高尾屋切手（網子）あほし余陸屋惣七手代彦右衛門例通八百屋もの昨日入

一元魚町団屋太郎兵衛大坂過書町松屋甚兵衛方へ罷越明「往來廿日計此便に油掛ケ町訴状之返書渡之

一京町太戸屋惣十郎高橋伊豆宿切手出ス文段例之通

一東新町惣兵衛四国偏路来ル廿六日立百日計

廿四日 晴

一中之町小山屋播州網干余陸屋武兵衛例通八百屋物纏ふし一昨日入
・同所平松屋惣九郎例通小間物晒臘（ツツ）。同所丸尾屋六三郎例通荒物塩もの同断

一山岡与左衛門江上州勢多郡川端村無禪与申廻国病氣ニ付伯州米子江右国元江送出候由ニ而宮尾村江院庄へ送り来り候ニ付送り遣候様申付候旨通用申来ル。此段及深更大年「届出ル同月

廿五日之早朝御兩所江達ス

一今夕廻り伝内左助兩人江今町ニて安岡町嘉七と申者と今町坪屋家來喧嘩有之候旨一通り届承置

三月廿五日 晴

一御蔵米六拾三匁五分町米五拾九匁五分

一魚町与八二階町吉左衛門兩人呼出し与八ハ禁足「追込取計

則兩所江申達ス

一福渡町作人和太郎二町目北側家屋敷表三間式歩五リン裏行十七間

但五歩半役東安原屋太兵衛西ハ倉屋忠兵衛代札八百五拾目同町小

倉屋忠兵衛へ売渡同月廿六日証文出

一吹屋町松尾屋熊次郎北側家屋敷表口（西三カ）之間半裏行五間半但式歩役東作人治郎吉西木屋喜助代札九拾目同町作人治郎吉「

廿六日 晴

一茅町万屋弥兵衛乃井野預り所久米南条宗宗村百姓政兵衛と申者廿

五才此度内縁ニ付引受

一おけヤ町作人勘兵衛私惣惣八当月十日之夜夫婦連ニて罷出以今之行衛不相知申欠落と相見申候段届尋申付候

一東新町樽屋清八山本与市他所請酒株与市方（西三カ）借受「年之間也

一中之町甲屋和助網干米子浜村菊屋弥市郎例之年通小間物卸売昨日入

一同所新在家伊部屋清六例年之通塩もの并纏ふしおろし売同断

廿七日 晴 七ツ時江小雨

一同心中山伝内大久保加賀守殿領分久米北条公文村百姓友右衛門（西三カ）粹（西三カ）六（西三カ）十九（西三カ）由緒御座候ニ付私養子契約仕引請申度へヤ目付室井作右衛門持參同月廿九日ニ承届申渡ス

一三丁目浜野屋清吉居宅表口六間半裏行十七間但尙軒役東自分持屋敷并土蔵三ヶ所坐敷壹ヶ所其外か治「東西六間半南北八

間之分右家屋敷江相統居申候地也町内若本屋源七取次ニ而当西ノ

四月江来戊三月切銀札三貫目借用願

一西新町英田屋平右衛門家屋敷北側表口三間裏行十七間但大溝切半

役右之家屋敷七年以前卯三月質物貳百五十拾匁借用之処元利済取戻

〔繼〕吹屋町木屋伝七ハ綾部村之内緑リ山御林下之川向渡瀬と

下地之通ニ而取繕当年ハ七ヶ年之間築致度右ニ付御林之内ニて小

枝曲り木五拾本頂戴仕川之儀者御林下ハ上之広瀬ハなリ下迄御留川

被仰付被下候様候奉願候左候ハ、為御運上七ヶ年之間年々真鴨七

拾羽宛上納可仕粘ハ御用次第差上可申旨

三月廿八日 雨

一玉置広四郎儀旧冬親忠兵衛入来候以来上を恐慎差扣居申候ハ元来

忠兵衛狼藉ニ付御厄介ニ相成候儀広四郎身分に可相咎筋も無御坐

奉存候於御次出勤為仕申度御伺申上候ハ追付於御用所与兵衛殿ハ

先刻之趣何之思召も無之候間勝手次第申付候様被仰渡則刻呼出し

出勤申付候

一 大笹村和吉と申者先達而郡代所ニおゐて追払其後立帰り盗致し被

捕入牢取計有之候ハ此度申立有之出牢之上追払被仰付旨今日於御

次与兵衛殿被仰渡鈴木此右衛門出会也

一 鍛冶町彦左衛門後家狂乱之由呼出し委細を尋福渡町大工吉左衛門

ハ彼レ甥ニて候間趣に随ヒ吉左衛門ニ相受取候様可致旨永井甚大

夫迄及噲置候

廿九日 晴

一 一うをや与八禁足免申渡

一 大笹村和吉今日役所ニ呼出し御領分追払申渡石名左助香山多藏出

役院庄境目ニ追払手形取掃候

一 京町かもや和六奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助例年之通墨売昨日

入

一 久米屋勘八悴大坂ニて日延断四月十七日同人煩候由又候日延断

一 二階町きせる屋伝兵衛先達而預申付候音次母美甘村ニ而乙次兄弟

伊兵衛ハ少々宛助成致候所右母八十才余殊ニ病身旁此度為養生乍

当分同人方へ遣申度願出昨日永井甚大夫迄申達し役所切承届遣ス

一 東新町鍛冶屋新七林田村重助同人妻同人娘此度借屋へ引受四月八

日引合済

一 安岡町波屋喜兵衛悴平七ハ拾四齊勝手ニ付大坂近江町油屋吉兵衛

方へ当年ハ丑之年迄五年奉公ニ出候

四月朔日 晴

一 銭八拾九文玉置広四郎ハ申来候

一 明暗寺番僧此間尾高屋卯兵衛方へ逗留之処今朝出立致候由届出

二日 晴

一 大坂村尾彦右衛門桑原作次ハ来書去月廿三日出候返書

一 京都田中武兵衛昨朝出立之由

三日 雨

一 今日於御用所置屋吉左衛門追込来ル六日差免可取計旨与兵衛殿被

仰渡候中村善次追込免之儀も御勘定奉行中へ被仰渡候

一 鍛冶町彦左衛門後家独身之上半乱之体組合共甚当惑致し火之用心

等も無覚束福渡町甥吉左衛門へ引取らせ候様致度吉左衛門も可引

受候得共女不承知之旨申ニ付今日役所ニ右女呼出し尋候上吉左衛

門方へ参候様ニ申間候ハ殊之外正体なき趣半乱之様子ニ候得共鍛

治町組合共不埒も難知其上右女決而吉左衛門方へハ參かたく持家ニ而いか様ニも暮彦左衛門跡を吊ひ申度旨申ニ付難黙止年寄組頭へも存寄申聞せ此上弥乱心無相違候ハ、可申出旨申聞又々連為帰候

一 福渡町吉左衛門をも呼出し存寄申聞せ相帰し候

四月四日 晴 昨晚夜中雨

一 堺屋伊右衛門京都伏見海道五条上ル町森下町近江屋勤兵衛例年之通小間もの昨日入

一 西新町江見屋伝七願商内ニ付大坂へ来ル六日立三十日計

一 細工町指もの屋借もの屋借屋平右衛門妻ニ対し播州龍野安右衛門無体申之脇差抔拔候体不埒者ニ付目明共へ誤り一札取之柳之土手ニ而追払申付候由承置候

五日 晴

一 一 証屋与四兵衛の親理左衛門仏參に罷越候由十五日逗留斷

六日 晴

一 一 疊屋吉左衛門追込差免し申渡御届申達候

一 一 組中香山多藏儀去ル二日昼廻り之処新田村見せ物場所^イ罷越不埒之体たらく追々漸々悪説御役前難聞逃永井甚大夫^五及噂置候

七日 晴

一 一 中之町高尾屋勤七は^種ん州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎式人例年之通荒物塩もの昨日入

一 一 材木町古金屋善吉倅六之丞廿才不所存ニ付義絶勘当願 同月八日御聞届ニ付申渡す同月廿二日勘当本証文出

一 西新町英田屋平右衛門家屋敷北側表口三間裏行拾七間但大溝切半役東隣塙屋勤右衛門西隣箕作丈庵代銀札三百五拾目町内松屋徳二郎へ売渡

一 西新町住田屋伝^右左衛門家屋敷南側表口六間裏行拾七間但土手切本役也并土蔵一ヶ所長屋二ヶ所又油立木道具類一通其外北側所持借

屋表口式間半裏行拾七間但大溝切半役賃物ニ入同町江見屋伝七取次老貫三百目来戌三月切借用

一 中之町大塚屋十次郎所持之家屋敷北側表口式間半裏行拾七間但半

役也東隣福井屋市兵衛西疊屋文左衛門右屋敷福井屋市兵衛賃物書入百九拾目借用来十一月切本証文同月十八日出

一 一 茂渡市左衛門大坂過書町松屋甚兵衛方へ參候ニ付来ル九日立廿日計

四月八日 晴

一 一 材木町古金屋善吉倅勘当之事及御沙汰

一 一 去ル六日書記多藏今日甚大夫へ申達候而暇差出候様相極候尤例之通御用番中へ不及御沙汰候

一 一 宗旨奉行中の一宗一冊ツ、ニ調候様被申聞候此儀追々相調候儀也

一二 町目小倉屋茂兵衛松屋甚兵衛方へ參明九日ニ立四十日計

一 今日多藏儀左五兵衛於宅部屋目付中山市左衛門室井作右衛門立合申渡左之通尤平組神田権兵衛も立合

一 御奉公致候ものハ何れ之役筋ニても重き事ニ候へ共当役所之儀町家を引受万端心得可有之処此度多藏儀役所存寄不任儀有

之間いとま差出候尤御家中江之奉公相構之候

十日 晴 十一日 曇折節小雨

一羽出村伊右衛門掛り合ニ付嘯ニよつて山城村吉右衛門と申もの幾(マ)
野御代官所江願下ケに罷出候由同月十三日粗及御沙汰候

四月十二日 晴 十三日 晴雨

一来ル十月十五日万人講伺候処御聞届被成則申渡ス

一西新町英田屋平右衛門弟栄次郎四拾三才林田上之町長助借屋へ引越

一橋元町朝元屋源藏おたれ繕致度土手筋通路繩張仕度往来差留濟次第引取申候断大目付中迄及沙汰置申付ル

一二月十九日之処林田上之町分ニ罷在候馬持甚五郎其節手錠追込当役所ニ而取計かたく延引之処ニ抜荷咎ハ郡代所ニ而取計可然旨西尾多内江永井甚大夫被申聞鈴木此右衛門ハ拙者此趣噂有之候是ハ去月甚五郎計ヒ方談かけ置候ニ付移り被申聞たるニ付右甚五郎儀ハ両役所是迄某(マ)か居所不相糺候ニ付以来郡代ニて申渡ニ者在中ニ而町馬持候儀不相成候旨ニ計ヒ被付候由

一御使組野上郡次と申者香山多藏代リニ遣し候段永井甚大夫被申候惣ノ諸組此度之如き筋有之時ハ御使組御入被成候方近例之旨当組部屋目付共ハ株を仲間へ被下置候様相断候へ共御時節柄左様ニも拙者難及沙汰併多藏借物組中連判借り有之銘々償ニ成可申と右之通伺候へ共其儀ニハ不及趣ニ相濟候且又御使組代り被仰付候ハ、人差無之内ニ被仰聞候様ニと申候へ共是又上御渡被成候を相受取候儀可然此方人指致シ其者不埒有之時ハ還而差違

に相成候ニ付是又拙者場相ニ而搔取御使組三人之内筆頭之者ニ相極則今日小頭植月文助兩人郡次を同道ニ而左五兵衛方へ参此方ニても部屋目中山市左衛門室井作右衛門立合受取右一条ニ付御勘定奉行栗田只次互応対

(挟込みの別紙)

一組之者共へ多藏株を被下候様ニ歎申候得共当時ニてハ有ものへ御使組を御入被成候ニ候得者御不益之儀ハ私ハ難申上候又組之者手前ハ多藏借物ニ掛り合御座候故其分被引取候様可相成候ニ付相歎キ候

一御使組御入候ニ極り候ハ、其段為知度奉存候人柄御座候而万一組中人中ニ故障候而ハ迷惑ニも可存候究り候而上ハ其人に疵付候道理故一応為知度奉存候併私ハ人を差候而ハ其者に不埒御座候時見違差違ニ成候而其場ニ至り申上方可及当惑候

大沢三平

一市中一宮河原ニおゐて振鬮村方願御聞届両橋へ建札之儀郡代所ニ通用

一錢九拾文遣

十四日 雨

一見習番明日の三と申付杉元郡次初而対面御時節柄ニ付杯事去暮喜作通ニ計候

四月十五日 晴

一宗門奉行松島十学へ六宗打込ニ仕立候儀申談候尤西尾多内江も及

通用候

一 林田町おけや藤兵衛儀橋元町福市屋一件ニ付禁足申付候

十六日 晴

一 上之町馬持助儀拔荷一条ニ付手錠追込取計有之候是ハ先達而二月十九日書表ニ有之在分故郡代所之計也右ニ付問屋并馬肝煎共同申付候

一 細工町伊之助山北村居申候常右衛門四拾四才私親ニて候ニ付此度引請願

一 中之町二月屋与七北側表口式間裏行拾四間四步役勝間田町岩次郎質物に入此度戻し東隣豊屋文左衛門西隣ハ西布ヤ伊助百匁町内茶屋孫三郎へ売渡し同月廿四日証文出

十七日 晴

一 大目付中々廻状從江戸表飛脚到来殿様御病氣御快然被遊当月六日被成御出勤候旨申来恐悦之御事ニ候因是為御悦明十八日御帳付候間辰中刻今巳之中刻迄之内登城可有之旨 又壹枚ニ鉄弥様御儀当月五日就吉辰御前髪被為執御名式部様与御改被成候此段為相知候様被仰出候尤右御名に差合候名面可被相改候 則町触廻物例之通申渡組中へも相触候

一 西新町住田屋伝右衛門本証文家売証文出

〔役職〕一 於一宮此度市中於地方振鬨興行同心共并之通見廻り而已ニ申渡ス
一 鳥屋与三兵衛大坂岸部ヤ茂十郎手代清八利八式人小間物おろし昨日入例年之通同人京香具屋兵助手代五兵衛例年之通小間物売昨日入

十八日 晴

一 油掛町塩屋甚三郎訴状懸合之者共今日延之儀及御沙汰今晩仕廻認遣ス

一 今日御帳付廻動 〇 三軒屋草苺届
例之通一通り及御沙汰
一 市町ニ付参り掛り青野八人連祭文 吹屋町矢之原屋七兵衛 枕芝之居十人 燒町 世話焼
屋市左衛門同断

一 中之町三室屋重右衛門儀林田村浜田屋佐右衛門一件ニ付呵追込過料式貫文同断ニ付林田町馬持伊兵衛呵追込過料式貫文被仰付候申渡之趣ハ於役所宜計候様御用番衛守殿於御席被仰渡候立合無之一多藏跡郡次拜領屋敷御使組之分鉄砲町ニ家有ニ而致所持候当町田中分ニ家居有之見取 手荒地 候間指当城代町ニ而拜領地申立ニ而家居為致候儀もいかニ付其分ニ致し右多藏拜領家敷ハ差上 此段相基大夫江及鳴御勘定奉行へもかけ候

一 盗定八与申者目明文太捕来小屋江預置候処為指儀も無之ニ付某等手前ニて為払候非人共皿村境追連行追払候由甚大夫へ粗談候
同月廿三日及御沙汰六月同断 作州
一 乃井野河端代ハ飛札西川筋中川筋積登塩俵口銭取之冥加銀差上山間通名ニ申来候得共拙者老人ニ而返事候
相稼度之旨土岐美濃守殿領分同国勝北郡河内村与三郎当御預り所同国吉野郡田殿村多助申合請負願出候因是相尋候筋有之候間其御領分右川筋相稼候舟持共之内惣代ニ而来月八日当役所江差出しくれ候様申来り則大年寄共へ申渡ス

一 塗師勘平儀明十九日大坂江参度段逗留卅日計
四月十九日 晴
一 羽出村伊右衛門鳥屋掛り合内済ニ付右訴状下ケ呉候様断書出し昨日願書相渡候処同人儀右為礼尾高屋同道ニ而役所江参候

廿日 晴

一 委ひヤ長右衛門二文字屋例歳之通次兵衛喜八多助善八參候由断

一 宗旨奉行松島十学相見へ宗門改帳之儀一町六宗之積り三十三冊認
候様被申聞候役所ハ三十三町六冊六宗之積りニ而ニ可認と談候処同月廿三日

三日ニ認方江戸聞合ニ成

廿一日 晴 廿二日 晴白雨 夜中烈敷

一 今日中之町三室屋重右衛門追込過料林田町馬持伊兵衛追込過料呼
出し申渡一件訴方東新町惣代として播磨屋茂八ますヤ惣兵衛年寄
召連於郡代所ハ浜田屋佐右衛門手錠追込過料三貫文与申付候由尤
同日之取計ハ兼而申合候夫々御届申達ス

四月廿三日 晴白雨

一 か治場土橋下方願ニ付是迄被差置候所甚橋損し万一洪水之時押流
し候事無覚束旨申出ニ付取揚時分迄ハ難置為引取候旨栗田只次被
申聞則永井甚大夫江其段申承知之上大年寄へ申渡

一 西今町三倉屋善四郎兵庫へ參明廿四日立卅日計断五月廿七日又卅日之
日延

一 かヤ町岡島屋仁助北側表口四間半裏行式拾四間但三歩式厘五毛也
右内表口四間半裏行拾四間但五歩式厘五毛東隣ハ作人新七西隣ハ
大工政兵衛銀札三百目作人小次郎ニ売渡同月廿八日本証文出ル

一 堺町南側ニ而三栗屋与三兵衛屋敷地表口四間半裏行十間但三歩三
厘三毛東隣ハ北屋喜八西隣ハふしヤ孫市右之屋敷地銀札式拾目同

町くら敷ヤ孫兵衛江売渡同月晦日本証文出

一 今日一之宮田植祭ニ付権兵衛甚藏罷出候

廿四日 晴

一 一宮江作右衛門郡次出役。三軒屋草刈済

廿五日 晴

一 御藏元届出候
一 牧重郎次ハ土橋引昨日案内今日弥引船渡初御届申達ス

一 甲屋和助播州姫路白銀町上村屋平吉弟武兵衛墨筆太物例年之通

一 孫八喜作一宮出役

廿六日 晴

一 伝内左助一宮出役

一 御藏米六拾五匁町米六拾壹匁

廿七日 晴

一 市左衛門権兵衛出役

四月廿八日 雨

一 同心福田甚藏当正月玉置小平馬一件ニ付京都へ差向路用且又逗留
中三文字屋清右衛門方ニ而賄代其外往来無抛足痛ニ而から籠ニも
乗候ニ付書付を以申出候仍之大目付永井甚大夫へ申達ス且又室井
作右衛門中山伝内両人件之儀ニ付手当致し遣し是又仕来入用三文
宇屋ニて賄代同断申達候所先格も可有之間御勘定奉行中へかけ合
可申よし被申聞則申談候処証文可相廻旨栗田只次被申聞候

一 作右衛門甚藏一宮江出役

一 追込被仰付候三室屋重右衛門馬持伊兵衛兩人共来月二日ニ差免可
申旨御用番衛守殿被仰付候

一 勝間田町荻田屋後土手之水門之儀近來水つかへ上之町ハ大雨之節
水押かけ此わたり一同及難儀去歳ハ申出候得共上之之普請と申先

例も不相知又町分ハ人足出し候例も無之土手下ハ在分ニ候得共是

又先例無之処何も當時之御場合故先町在る人足指出し渡候様郡代
中と申合可取計旨永井甚大夫被申聞候西尾多内へも同様承之

廿九日 晴

一 元魚町藤野屋多吉家屋敷表口八間半裏行拾七間但老軒七步五厘役
北隣ハ豊島屋伝次郎南隣ハ油屋与一郎右之家やしき老貫三百目来
戌四月切實に書入伏見町能勢ヤ源助取次本証文同月晦日出

一 一宮江孫八郎次出役

晦日 晴

一 一宮江伝内喜作出役

五月朔日 晴

一 一宮江市左衛門佐助出役

一 五月二日 晴

一 一宮江権兵衛甚藏出役

一 三室屋重右衛門馬持伊兵衛右両人追込差免し中山市左衛門立合於
孫右衛門宅申渡し過料ハ来ル十日迄に差出し申渡させ候御所江
御届達ス

一 福もヤ武介播州ひめしいつミヤ孫兵衛手代弥次兵衛例年之通小間
もの売昨日入

一 戸川町坂口土佐屋

一 大坂村尾彦右衛門桑原作次来書去月廿八日之出同月十八日遣し
候油掛町塩屋甚三郎掛り合日延願書ハ向之□ニ留置歎書之分ハ御
番所江難差出候ニ付病氣ニ付日延願ニ認差登尤当月中旬頃迄ニ着

坂致候様可取計旨申来候相戻し書面西今町西田屋多助東新町紙屋
左七元魚町田原屋善十郎林田町油屋源六右四人分也同東新町紙屋
分ハ奥書ニ左七病氣と認候処本文者母病氣と有之候ニ付相戻り候

三日 曇 夜中雨

一作右衛門郡次一宮出役

一下高倉村文四郎悴勘次林田町養子ニ貫ひ

一 錢九拾貳文 一 孤独扶持拾七匁三分貳厘七毛

四日 曇

一 一宮江孫八喜作出役小屋弘り見届申出る

一 二階町阿かヤ善三郎明後六日立廿日之逗留大坂行

一 伏見町正木屋八右衛門家屋敷南側表口貳間半裏行拾八間貳尺大溝

切本役也西隣ハ大工伊兵衛東隣ハ筑後屋安右衛門三百匁同町田邑

ヤ治助売

一 菊屋清左衛門反魂丹売善次郎嘉兵衛当十月迄差置願

一 出羽守様来ル十一日院庄御昼休之旨為知寄馬員數之儀聞合来

一 尾州島崎神職吉田左右永見造酒助殿方ニ而祈禱要用ニ付□町西川

屋善助へ宿之儀被頼去才之通願書差出与兵衛殿江態与及御沙汰候

平井郷左衛門江も手紙ヲ以申達ス同月五日也

一 出羽守様御通行ニ付人馬触三拾三疋手合セ可致之旨尤八疋ハ例之

通通シ馬貳駄 問屋共々約諾致し候由仍之用意馬五疋取計御座有度

通用致し候平井郷左衛門江も右ヲ達置同月五日

五月五日 晴

一 今日端午廻礼無之役所当番平服

一昨四日之書記阿賀屋善三郎江大坂村尾桑原江之返一一一狀

六日 晴

一京町かもヤ和六松井屋源兵衛悖又七同手代嘉七例年之通反魂丹壳

一さかいヤ伊右衛門勢州白子村形屋忠右衛門悖庄兵衛例年之通形壳

一同人大坂金屋半兵衛手代六兵衛例年之通大工道具壳昨日入

一藏元姫路屋彦兵衛乃井野江罷越候初村屋伊助同道西人共二舟持
惣代之名目三而

七日 曇 八日 晴

一大目付所ニ而御徒目付并下目付立宿申達ス東新町岩屋
文蔵 御口頭柴山治

部右衛門江御先弘立宿昨日通ス安岡町かち長一

一御飛脚仕廻ニ付大坂訴状相手方当所三人歎書并紙屋左七分認直し

共ニ四通村尾桑原両所江差遣ス扣有之

一出羽守様大井川留ニ付来ル十二日ニ相延候出役之儀申達ス来ル御

当日大盤殿若罷出候段是又達御礼供物ハ頂戴

一勝間田町後口水門渡之場所見分作目付罷出候間郡代所当役厚く申

談し候様ニ西尾多内江井郷左衛門被申聞通用

一永井甚大夫今日詰江戸被蒙仰候仍之市郷御政事平井郷左衛門江被

仰付候由 一御通行ニ付道見分市左衛門孫左衛門相勤ル

五月九日 晴 十日 晴 昼後合雨

一三室屋重右衛門合過料式貫文林田町馬持伊兵衛合同老貫文今日相

納御金奉行中合受取有之候

十一日 雨

一か冶場舟渡止り御両所江申達

十二日 晴

一出羽守様昨晚土居江御着被成候旨問屋合遣候聞合之人罷帰り其段
問屋申出候今朝六半頃川明御届申達ス

一御通行ニ付林田町山本屋与三七方江拙者罷越候若堂三舟孫八石名

佐助御貸人鏈挟箱合羽籠草履取近來御儉約ニ付御渡被成候馬ハ不

出候御目見場所勝間田町貫拔外北ニ付例之通御目録金貳百足被下

之候

一御先弘小頭代り中山市左衛門平中山伝内藤森喜作出役

一郡代代り西尾多内院庄江 出役

一右ニ付左之通

一馬駅江室井作右衛門福田甚藏銀貳両ツ、一御先弘小頭三百

文平両人貳百文ツ、一院庄川老貫文ハ御召船御供舟御馬船

六艘江 一同所六百文ハ藏元伝兵衛舟年寄若本屋善左衛門

兩人江 川辺ハ橋ニ而濟候由。百文才許人へ

一斎藤孫右衛門方御使者宿松島十学出役向方様合御使者一色四郎右

衛門と申仁之由

右諸事無滞濟与兵衛殿江御届罷越候大目付中へ手紙ニ而申達ス

一境屋伊右衛門播州今市綿屋手代忠七例年之通呉服壳昨日入

十三日 晴

一牢舎人多助仕きセ単物一申立相濟候上近藤伊左衛門江かけ合候

同月十八日書付及御沙汰候

一藏元姫路屋彦兵衛昨晚乃井野合婦宅書付差出ス大目付中へも達ス

一古道具屋頭灰屋喜平次ヲ申付候

一東新町かちヤ忠右衛門方江林田村利兵衛同人妻同娘引請四七 卅一 三

一船頭町舟元屋佐助方へ林田上之町作人甚五兵衛悖宇之助老人引受同月廿三日及御沙汰

人別入

但此もの儀ハ馬持ニ而候所年来町分廿五疋之馬在分居住致し候
義先達而當二月十九日之書記同類ニ候処阿等之儀先日郡代所ニ

而取計濟此度町分へ入候

一 二階町市兵衛倅佐助當二月吉野郡豆田村へ商買取統之相談筋ニ參
候処時節柄不宜相談出来兼候由然ル処去月下旬呼ニ遣し候所一兩

日以前罷出候由以後行方不相知候旨届申出る猶又尋申付候

一 相州愛甲郡萩野村全応院弟子鉄心と申僧諸国行脚ニ罷出候所病氣

ニ付伯州米子へ送出新田村へ安岡町送來林田村江遣し候由届出則

今夕及深更候此段郡代所今も例之通為知來ル

五月十四日 晴

一 昨□之送りもの今早朝而御方江達ス

一 今日采女へ御預被置候官左衛門儀隅田族へ引請候官左衛門倅門三

郎と申へ御預ケ被成候尤断絶被仰付候由尤族宅ニ囲被仰付候由

十五日 晴

一 古川屋惣助大坂行明十六日立廿日計逗留

先日於御城同人今此旨演説被申聞為知置候

一 鉄砲奉行太田仙助へ大年寄斎藤孫右衛門呼出し町方鉄砲改取計候

來ル廿四五日迄ニ例之通帳面認差出し候様被申渡候由

十六日 雨 十七日 不正 十八日 晴

一 無宿多助仕着セひとへもの今日相渡

一 牢屋水桶鐵先かけ等入用拾壹匁七分七厘左助へ相渡

一 三室屋宇左衛門倅重右衛門過料式貫文馬持伊兵衛過料壹貫文今日

送り手形を以天野郡太川口小弥太へ相渡受取來ル

一 戸川町土佐屋十藏家守清右衛門届当月二日借屋溝ニ落居申品今朝

見出左之通空色木綿ふる敷一紋丸ニきくやう木綿袷羽織一ひんろ

うじ紋丸に上り藤絹島たはこ入一布財布錢廿九文入久世本家松島

屋と書付有之候由元魚町大庭屋の故有之久世江問合に遣候処右之

類紛失覚候得共以前之儀ニ而事過候付全無貪着由申來仍之町触出

し日切十五日計ニ為取計候

一 橋元町福市屋幸右衛門妻よね儀同町幸右衛門組合ニ預申付置候処

よね親おけや藤兵衛儀落着を不付よね儀ハ幸右衛門方より離縁と

申候得共去状も不所持幸右衛門ハ藤兵衛江預ケ置候と申之双方無

証抛ニ相聞候所詮藤兵衛方よね直訴致候ニ相違なきに付今日書

付を以大年寄孫右衛門江申聞娘よねヲハ藤兵衛へ預ケ申付候

一 吉田左右儀今十五日逗留日延願出則聞届及御沙汰

十九日 不正

一 京町田戸屋惣十郎筑前遠賀郡山鹿浦伝十郎手代又五郎次吉例年之

通茶碗売昨日入

五月廿日 晴

一 かもや和六越中富山船橋町松井屋源兵衛例年之通反魂丹昨日入

一 細工町木屋長兵衛親孫作四国遍路來廿一日立七八拾日計

廿一日 白雨 廿二日 晴

一 六拾六匁御藏米六十式匁町米

一 大坂村尾彦右衛門桑原作次へ書状到來日延断書差出候旨別ニ有

一 牢舎多助へ単物仕着セ七匁八分証文致印形

一 山岡与左衛門へ明後廿四日林田土手之水門御普請方御役人中見分

組頭

被致候間大庄屋肝煎庄屋人足五人召連出し候町分も可然取計候様通用申来候則孫右衛門江申渡此度にてハ大年寄老人勝間田町林田町年寄林田町ハ老人勝間田町式人組頭人足五人熊手差出候様申含メ候

一安岡町かちヤ長兵衛倅源藏明廿三日立參卅日計同町戸島屋長兵衛波屋加兵衛しの屋佐助右三人之娘同日立往来同斷

五月廿三日 晴

一細工町忠右衛門四国来ル廿三日往来六七拾日計

一東新町米屋道休娘ふせ廿四才勝北郡矢田村三毛貞碩妻ニ遣度

一二町目尾高屋宇八親京ニ而病氣快気次第罷帰候様斷

一宗門奉行中江戸表申来当年宗門改一宗一冊ニ認候様勿論冊嵩高ニ相成候ハ、式冊三冊ニ致し候而も不苦候由被申聞候則申渡

一紺口町不動院兼而付弟子ニ致候木山寺児建右弁拾五歳当方ニて御許容候ハ、向方人別離差越異候様仲人を以申談候処其旨承知ニて

此度引請願郡代所江も願候旨今日寺社方申達済引合承届候

一〇ち町かちヤ清助当十九日之夜与風罷出以今相帰不申届出候

但清助親喜兵衛儀ハ出牢之上同人江預ケ組合共江も氣を付候様ニ申付置候処件ニ付尚又親類組合共預之儀改メ申渡させ候

廿四日 晴

一林田土手水門浚下見分普請方役人中不殘被出孫左衛門其外

一右役人中ハ可兒徳次近藤惣兵衛牧重郎次也

廿五日 不正

一水門浚ニ付広四郎罷出候役人中不殘人足打込相働候由

一去ル十八日日記ニ付戸川町掛り合孫左衛門於宅吟味申付候

廿六日 雨

一御蔵米六拾八匁五分町米六拾四匁五分

一大戸村舟持惣代太助塚角村善右衛門小瀬村彦右衛門福渡村喜八川

口村源十郎右村々庄屋宛ニ而乃井野役所五月十七日河内村与三郎

田殿村太助願出塩問屋稼願之儀訴状差返候扱致得心候条可得其意

此段津山土居殿領船持惣代村々江も可申達此差紙追而持參可相返

之旨之文段塚角村庄屋宗左衛門ハ姫路屋彦兵衛粉村屋伊助兩人宛

ニ書面參候由内見ニ出し

一二階町田原屋伊兵衛備後福山いなりヤ九右衛門へ来朔日立卅日計

一土手水門浚今日迄ニ済大年寄并両町年寄共届

五月廿七日 雨

一大目付永井甚大夫江戸表へ今日出立

一宮脇町松野屋伝助地国受酒株安岡町細屋嘉兵衛へ返し

一中之町新屋甚兵衛家屋敷南側表口四間裏行拾七間但六分六リン

「こんヤ甚助東隣作人半治東之方老間口裏行同前老歩六厘之処右

半治江百目ニ売六月五日ニ証文出る

一二階町山手屋弥太郎家守松葉屋吉右衛門借屋文助娘かん十八才不

行跡之処当月十二日罷出依之義絶勘当同月廿八日御聞届不快ニ付西尾多内頼

一魚屋与八郎へ島田重助ハ娘持參銀濟口届出る同月廿八日大目付中迄多内を頼相違ス

廿八日 晴

一風邪ニ付不參届西尾多内を以御届申達ス

廿九日 晴

六月朔日 晴

一 材木町大和屋清八の元寺田治助の口入東新町かち屋新蔵家屋敷質物入尤拾年余ニ相成治助ハ出奔ものニ候処いつ方の証文廻り居候儀無算束何角入組候書付出し候得共相手無之儀ニ付利害申聞候処甚清ハ儀誤入願下ケ書付出ス聞届候

一 一かち喜兵衛俸清助出奔之届喜兵衛妻申出ル

一 京町わたや源七甥京町わたや伊助古道具取売株伏見町田原屋佐助へ相譲度兼而承り置候処右伊助申五月欠落致し其以後取捨有之右伊助の佐助江相渡置候書付も有之ニ付左助へ申付くれ候様承届候

一 橋元町村屋理八南側家屋敷表口式間裏行拾七間半役なり西隣ハ黒茶屋虎吉東隣ハ作人東次質ニ書入来ル十月切百五拾目同町後藤屋孫市取次六月七日証文出ル

一 大目付中の廻状 公儀御触書当三月六日主人羽州村山郡平塩村平塩寺宥成を切殺逃去候下男嘉吉人相書 扣ニ有之候則日町中江触出ス組中牢屋三軒屋迄相触候但町分ハ来ル五日迄来ル八日御城江持参之儀申来ル

一 海老原極人の手紙到来今七時官左衛門儀隅田族宅へ引取候間同心組兩人采女宅江差出族宅迄差添候様申付尤族差図を受相勤候様可申渡之段早速市左衛門を族宅へ遣シ猶又挨拶として相見へ手合申談同心作右衛門喜作差出采女宅ニおゐて駕籠ニ入網引等掛候儀御組の取計候得者私共ハ付添に而参申候と伺候得者駕籠に入候迄ハ此方の取計候綱引かけ候儀ハいつれも候計候人々有之ニ付綱引かけ途中も向之方不付門内切ニ而同心兩人引請罷越候族ハ草履取

計於族宅ハ兩人困へ入錠をぬめ開キ扨族対座し御徒目付下目付見届済引候上ニ而兩人引取申候追付挨拶手紙来ル諸事相済大目付中へ届

六月二日 雨

一 柳之土手笋生切候由関十治取計候銀札卅匁受取候由

三日 晴

一 元魚町紙屋も右衛門明後五日立卅日伯州へ

一 不参御届申達候

一 新魚町山手屋次兵衛方養育致候姉大病之処四年以前追扨粉屋忠助妻ハ病人娘ニ而右夫婦之ものに対面致度其儀病根に成候由歎出候得共甚不輒事ニ付先今日西尾多内を以内意申候処例年拙者江可及勿論夫婦共徘徊之願也 難波駅に其後 差返し一通りハ 平井郷左衛門へ談候事

一 元魚町市ゼ屋伊兵衛来ル五日立九日計四国遍路

一 上紺屋町円乘院来ル七日立十六日頃迄金毘罷

一 今町西田屋多助娘林田村与茂七妻に遣候処離縁ニ付人別入

六月四日 晴

一 元魚町伊勢屋半四郎来ル七日立九拾日計四国遍路

五日 晴

一九拾四文

一 戸川町喜助組合預免し禁足申付候此一件袋に入置候 同月十一日禁足ゆるし 風邪ニ付不能出候万事宜多内を相頼候

一 今夕五時林田村弓削屋横町後合出火夫の表へ出向側へ移夫の南北共弘り升形を越シ南側一統に焼棟数四五十竈数ハ八九拾軒も消失

致し例之通町火消致出精

六日 晴

一吹屋町熱田若狭明七日立七日計金ひら

一不動院祇園開戸来ル七日〆十四日迄申達候寺社方へ引合濟

一かち町与四郎金毘羅日数同断。六之丞万次郎喜之助又市甚六久之丞同断

一西新町并筒屋和兵衛致所持候旅籠屋株林田町藤本屋長助へ讓申度

右株伏見町わけや喜八午〆申^(マ)迄借候^(マ)此度取戻し

七日 晴

一吉田左右罷立候旨届出る

一京町疊屋伊兵衛四国来ル九日立八十日計

八日 晴

一御尋者之儀心懸無之証文町分組中大年寄牢屋三軒屋且又山田彦大夫方之分四通差出ス尤自分証文も出□

一中山伝内室并作右衛門京行ニ付途中昼夜追込又ハ京都ニテ賄代増銀有之申立候得共不相濟登り之分ハ兩人ニ輕尻耆疋被下尤式百十錢ハ御定法本馬七人耆疋ハ被下候趣今日郷左衛門〆被申聞候

六月九日 晴

一大目付中〆廻状 来ル十二日^(九代將軍家重)惺信院様十七回御忌ニ付於泰安寺御供養被仰付候此段為相知候様被仰出候右之趣文略六月九日出る

右ニ付町方へ廻状自身番且此節不動院方參詣も有之挑灯并売もの店等之義先格之通寺社方へも引合大年寄へ心を付候様申合候組中へ廻状十二日朝計出役之儀申渡

一上之町大溝渡一昨日迄に相濟候由

十日 晴

一鍛冶町喜兵衛親類坪井町小島屋平兵衛かや町伊助美職人町憲法屋^(マ)伝藏喜兵衛組合共各預り一札差出し候

一昨夜御作事ニ盗人入候由此方拘無之候得共變儀故記置候

十一日 晴 十二日 晴

一今日御供養無滞相濟同心孫八佐助兩人例之場所ニ相詰候

一坪井町坪和屋丈助古道取売株今般伏見町田原屋佐助へ譲り願出る^(辨和)

一自国他国他領座頭警女共御布施被下候銀札七百四拾式匁五分内式拾四匁在名式人。六匁式分五厘晴衆分耆人。五百七拾匁衆分百拾四人。三匁七分五厘過仙耆人。三拾目打懸拾式人。四拾式匁五分初心三拾四人。三拾六匁寿名廿四人。三拾目配當場役料書役筆墨紙代共右ニ付市左衛門作右衛門出役座頭人数百八拾八人同月十三日及御沙汰候

六月十三日 晴

一海老原極人〆被申聞去ル九日下目付榎原前見廻り候処御藪竹之皮を取候ものを見咎メ候吹屋町金屋借屋忠介と申者之由難捨置候^(マ)

間吟味致候様則日孫左衛門ニ其旨申渡

十四日 不正風不絶

一大目付中〆廻状 来ル十八日暑氣為伺御機嫌御帳付候間巳之刻出仕可有之候此旨同役同列組合ニも可被相達候

一九拾式文

一牢内ニ藤藏多助何角争致候由牢番申出伝内甚藏廻り〆遣牢替申付

十五日 不正風不絶

同月廿四日 謙証文出
一 茂渡真平ハ勝間田町南側豊野屋忠左衛門居候家屋敷表口拾間半裏

行拾七間但二軒役也東隣かミヤも兵衛西隣横町南外裏東西拾五間
南北西之方拾式間右河内屋善左衛門名代ニ而買調置候所先達而善

左衛門大坂ニおゐて相果候所此度真平ハ豊野屋江譲り申度願
同十八日 禁足申付候
一 去ル拾三日之書記及尋候所忠助悴石之丞去ル九日土手之「」用事

遣し候処御敷根江立寄竹きれを以竹の皮式三枚「」し候候処下目
付中被答候旨書付親忠助ハ差出ス

十六日 晴不正霧雨風有

一 御蔵米六拾七匁五分町米六拾三匁五分
同月廿日市左衛門孫左衛門ニ棟梁茂兵衛見分ニ遣ス

一 宮ワキ町武田屋今吉居宅北側西角田町通り近來破損ニ趣横町へ大
分倒昨夜頻リニ危ク扣柱致し外ニ垣結廻度旨申出大目付中江届候
東三四軒連々ニ押かけ候由

一 大坂田中武兵衛ハ御用書来元魚町田原屋日延願 四月を
五月与書直し候由

十七日 雨甚シ

一 勝間田町土手三室屋重右衛門裏家建軒下行倒もの有之 八十五才
計之由 若松

屋次兵衛と申もの、由先無宿先三室屋方氣を添候様申含メ候追々
可取計。京町若松屋方へ引請させ候義可然ニ付其段取計候処親善
右衛門「」違輩之趣ニ付悴義助江申付候へハ致承知候而
同月廿一日引取致世話候処即夕養生不叶相果申候ニ付相
応に葬致候

六月十八日 晴

同月廿三日追込め申渡
一 今津屋孫十郎儀去ル朔日出大年寄共廻状同五日切之廻状四日迄遅
滞致し漸催促を得殊に失念之儀保頭を以断出候儀甚不埒以来之儀
外町響旁今日追込孫左衛門宅へヤ目付市左衛門立合

其方儀当月一日大年寄共ハ廻文同五日切廻り戻り候様役所申

聞其旨取計候処等閑ニいたし漸催促を得遅滞せしめ候儀保頭

を以断出之候惣而廻文之儀者御公私ニ不寄重キ義候恐惶万端
相慎候ハ、即時計方も可有之処兼而町役も申付置候ニ以合な
く前後不届之至ニ候右不埒露頭之上難捨置候ニ付追込申付候

相慎可罷在候
同月廿一日 差免
一 去ル十五日之書記金屋借屋忠助禁足申付候

一 御堀掃除料内納百五拾匁 同月廿日ニ相渡
大島屋平右衛門方ニ質者置候儀ニ付ふとん一夜着ニ散し不申候様取計置
一 去ル十六日公郷村七右衛門同村伝八郡代所ハ牢市左衛門出役

一 今日御帳付内山下廻勤不致候
十九日 晴

一 御蔵米六拾六匁町米六拾式匁
一 今町直屋孫兵衛年寄役申付ル

廿日 晴
一 元魚町糺屋伊助納屋ニ而失火町内余程騒候由申出御両方へ御届申
達

一 鍛冶町年寄与四郎退役願届組頭甚兵衛江跡役申付ル
扣に有之

一 樞原前御敷際へちりあくた其外干物こやし蒔散し不申様以来之儀
触出ス

廿一日 晴

本証文廿三日出
一 身之職人町吉田屋彦兵衛家屋敷南側表口式間半裏行十七間但本役
西隣ハ作人市兵衛東隣豊屋源左衛門右彦兵衛当春病死妻も外方へ
離散致し及絶断彦兵衛存生之内右家屋敷式百五拾目借候ニ付証文

ニ書入置候間売払相納申度五人組相談之上作人市兵衛へ売四拾目
之由願出

六月廿二日 晴 廿三日 晴

則今日申含メ候

一 当七月盆前町中灯笼之儀数年来灯し来候得共此頃八月夜ニも候間
為指示ニも相成不申儀ニ付相止候儀粗御次ニ而及御樽御聞置
一 勝部蓮池蓮葉入札来ル廿六日迄御代官久保田（船紙）「宅へ差出候様
取計呉候旨郡代西尾多内被申聞則取計候

廿四日 晴小雨 夜中雨

一 溝見分小頭代り市左衛門并孫左衛門罷出る

廿五日 雨終日

一 川留届出両御方江申達ス

廿六日 雨後晴 今夜中雨

一 堺町小鳥屋次郎右衛門方へ大坂松屋町筋材木粉川屋八九郎手代式
人平八円次売懸候ニ付十日滞留之願聞届

廿七日 晴

一 鍛冶場往来始御両方へ御届申達ス

廿八日 晴白日

一 元魚町かうじや伊助追込差免ス申達ス

一 馬持廿五人之者共老人表（俵）ツ、大豆拝借願及御沙汰御聞届

〔火災〕一 大目付海老原極人於於火事場御作事方消口に掛り候場江龍吐水仕
かけ申間敷旨相心得候様被申聞候勿論同断御作事方申談候ハ、
水の手差向可申旨則同心共江申含メ候

一 今町福葉屋源兵衛母儀六拾七歳内縁有之山岡与左衛門下代神西

作助方へ今度役介ニ差越申度旨願出

廿九日 晴

一 今夕徳守宮江小頭代り作右衛門平ニ而孫八出役

一 去ル廿六日小鳥屋次郎右衛門方宛式人当所桔梗屋播磨屋三くりヤ
掛り先年不埒ニ付欠落致候元魚町檜もの屋悴当時大坂粉川屋八九
郎方ニ罷有候由此もの一件ニ付大年寄孫左衛門広四郎内分有之候
有無ニ付追而可記

七月朔日 晴

一 山岡与左衛門云州飯右郡宇唯村吉右衛門と申者参宮致候処播州
三ヶ月病氣ニ付送り出し河辺村致注進候由通用

一 中之町福茂屋武助大坂南本町三丁目小ぼうし利兵衛同手代字兵

衛式人例年之通墨筆売昨日入

夜更候ニ付同月二日之朝申達ス
一 今夕四時後右雲州宇唯村吉右衛門林田村へ新田村江送り遣し候由
申出候

二日 晴

三日 晴

一 宗旨証文例年之通磯野伊兵衛太田仙助松島十字の廻状

一 中山伝内伯母致病死候由作右衛門相届出ル

三日 晴

一 大目付海老原極人以後於火事場御作事方消口に掛り候場江ハ龍吐
水仕かけ不申候様且於其場水之手相廻しくれ候様かけ合候ハ、差
「候様被申聞候即日同心共江申聞置候

一 安岡町若田屋去歳以来在中掛り合未筋付「右証文ニ而も有

之候由猶以吟味申付候様尤市郷方平井郷左衛門江被仰達置候間承
り候様ニ於御席御用番与兵衛殿被仰渡候則郷左衛門江申達候処郡
代所今出候若田屋掛り合之書面被相渡候

一西新町飯綱屋源蔵卒為次郎拾七歳六月五日家出之届承り置

四日 晴

一新魚町之者共江去ル廿三日中之町へ異体ニ而四拾七人申合セ旅商
人宿致し候福茂ヤ武介小山屋与三右衛門高尾屋勘七甲屋和助右四
人江他所商人看類振売御差免之願下し致しくれ候様ニ申甚凶事無
覚束右中之町其儀致承知願下此間差出し此儀ニ付先日孫左衛門
中之町願書并書を以魚町へ此返答可申出旨申渡置候処其儀無之直
に申合及右之儀難捨置今日新魚町年寄并組頭共呼出玉置広四郎於
宅孫左衛門立合相催罷越候不埒急度察度可致入込候人数名前申出
候様ニ年寄共江申聞候申出候趣ニより追而可書記

七月五日 晴

一今夕九時〆八時迄之間八子村出火町火消追々駆付相働拙者儀罷出
候取計引取之対面例之通地藏院ト八幡宮江水之手老組宛差向候地
蔵院江拙者罷越候処伊藤采女西尾多内相見え応対セしめ候婦りと
兵衛殿罷越申達此右衛門江同心遣ス

六日 曇

一八幡神主向人地藏院昨夜之挨拶ニ相見候由
一勝間町大屋龜太郎船道町高松屋万蔵田久只今迄持来り古道具株相譲り
申度右之跡私相勤申度旨断
一二階町山手屋弥太郎東側ニ而表口七間半裏行拾七間「役北隣

八磯屋源蔵南隣組屋勘十郎借屋六百匁町内作人勤兵衛江壳渡同月
十一日証文出る

七日 晴 今日無礼勤 八日 晴

同月廿一日生米壳被下候
一同心杉元軍次男子出生昨日申出今日鈴木此右衛門江相届生米ニ付
一宗判取帳例之通来ル十八日〆廿日追之儀御取次中へ相頼候

諸通行

一今朝泰安寺相見へ誕生寺法然上人帰山ニ付今夕佐用之駅泊明日当
所通行泰安寺江止宿之旨右ニ付誕生寺〆も申来り先例之通同心組
江見繕宜取計呉候様被申聞今日粗西尾多内江も引合御用所江及御
沙汰候大目付所〆も先格を以取計候様被申聞候引続キ誕生寺〆も
使僧来ル

一先達而忠兵衛一件ニ付玉置宇左衛門山本与三七柱屋与四兵衛上京
入用之儀一貫勿余ニも及候由元来田中武兵衛〆存付ニ而申来り上
〆被仰付候儀ニても役所〆伺候而三人之者共差越たるニ無之間無
抛広四郎〆為出候様孫左衛門孫右衛門江書面遣候処兩人共随分致
承諾候

一盆中町廻之儀〆當時御肖略御年限中ニ候間如何可仕之〆去月於御次
衛守殿江御伺申上置候所今日大目付所ニ而右尤之儀ニハ候得共何
分相廻し候様可仕之旨御用番中〆被仰聞候由被申聞候

七月九日 晴

一今暮時法然上人之通行ニ付同心作右衛門喜作罷出暮時市左衛門権
兵衛途中代泰安寺ニ而見合引取候毎々ニ誕生寺挨拶有之候由開帳
無之

十日 晴

一 法然上人今朝帰山孫八左助出役鉄砲町橋床^{（2）}迄為一札使僧來泰安寺
もも同断其後六人江銘々御酒差越候旨

一 新魚町福本屋庄助借屋作人六介倅才次郎卅才兼而不所存存寄不相
叶親類共相談之上義絶勘当同月十三日証文出

一 桶屋町勘兵衛智惣八夫婦之者去ル三月家出致し尋申付置候所日數
相立人別離

一 坪井町伊部屋理右衛門願去七月大庭郡与野村安次郎引請候所近来
病身ニ罷成候ニ付親里へ帰度旨人別離

一 新魚町藁屋伝右衛門家屋敷南側表口式間半裏行拾式間「」但半役
東隣私居宅西ハ横町通筋此度町内角屋和助へ質入三百目来ル十二
月切借用本証文同月十三日出

一 新魚町魚屋源介の町内入江屋藤助家やしき取次候処返済不埒去十
一月訴状当三月日切ニ濟口申付候得共不相濟再訴申出此度銀主方
へ家相渡可申旨申付候

一 三町目□つ屋源藏北側ニ而家屋敷去ル未十二月元魚町糶屋伊助へ
質物ニ書入三百匁借受候処此度請返し

十一日 晴

一 か治町かちヤ徳右衛門同町三國屋吉右衛門大岑參十五日立廿日計

十二日 晴 十三日 晴

一 元魚町大笹屋伊左衛門願御作事御普請所御用ニ付所々入札被仰付
十月廿三日石垣渡候ニ付引私候由届出ル

候内堀坂村石工伊兵衛と申者落札相成則伊兵衛弟子拾人計召連近
日之内百日余逗留ニ而罷越度候由申參候尤御普請所の万事勝手向
宜殊ニ數年之馴染を以私方ニ宿致吳候様相願候旨願差出ス

七月十三日 晴 十四日 晴

一 今日七時前^{例之通燈宅ニ而取計候}の町廻り例之通伝内権兵衛供御貸人鑓挾箱合羽籠挑灯
ノ四人近来草履取出候ニ付挑灯持を草履取ニ致し手人不出合羽持
を挑灯持ニ取計候御届例之通直に相動ル

一 元魚町指屋長左衛門倅甚藏登岑十五日立十六日計
十五日 晴 十六日 晴

一 鈴木此右衛門の呼大坂安堂寺町四丁目今宮屋安兵衛借屋山田屋与
兵衛道具壳懸殘銀出入訴状相手元魚町古川屋宗助右宗助ニ去申八
月道具壳懸代銀殘壹貫三百九拾三匁分滯御座候ニ付度々催促仕
候得共埒明不申下ニ而可仕様無御座乍恐御願奉申上候右宗助被為
召右之銀子相渡候様被仰付被下候様之^{七月廿五日}「」山田屋与兵衛印右之通
承知仕候已上家主今宮屋安兵衛印 則刻右宗助呼出し申渡例之通
取計候届御同人江達ス

十七日 曇後雨余程

一 於年内太兵衛病氣之旨甚兵衛申出作右衛門甚藏廻り合立合井上一
粹橋元庄藏療治ニかけ候処尤去ル四日より昨日ニ而二廻り今日合
中村意硯河野永仲ニ替^{此兩人同廿三日切ニ而引候旨甚兵衛届出ル}

一 戸川町清右衛門家守次右衛門去ル十五日病死此者儀ハ先達而於坪
井町兼而変症之処脇差を抜候儀ニ付預之者ニ候故申出ル

一 桶屋町勘兵衛智惣八夫婦三月出奔届日數定式ニ付人別離申達ス
一 新魚町福本屋庄助借屋六助倅才次郎卅才勘当願御聞届

十九日 晴

一 錢遣九拾壹文

一自分証文寺証文并山田彦大夫方例之通引受証文共ニ差出ス

同日廿二日与兵衛殿及御沙汰候
一橋元町福市屋幸右衛門の妻よね暇遣藤兵衛方へ可返旨林田町藤兵

衛方も娘よね受取申度旨双方の書付差出候

七月廿日 晴

一玄關^{二入}申^{三入}候
一元魚町大笹屋伊左衛門の御城石垣請負石工伊兵衛并十人之者宿一

札出之候

廿一日 晴

一牢舎太兵衛へ以藉療治ニ而此間湯をあひセ候所今日三度ニ而済^度

ニ廻り^六
為立合候

一西川ヤ善助備前大和屋清右衛門例年之通醬油売宿切手

一かヤ町笠屋治助北側ニ而家屋敷表口巷間半裏行七間但志歩半役西

隣ハ作人甚右衛門東隣ハ作人龜右衛門百式拾刃同町作人平治へ売

一今夕一方村綿実車場不残焼失^{玉置}届出候鈴木此右衛門迄達ス

廿二日 晴

一今日与兵衛殿江中之町七月四日之書面ニ付取捌之次第申上置候

廿三日 晴

一一方村車場焼失之儀及御御沙汰右村ニ而家守致候者之不念ニ付寺

入致し候由郡代所引請ニ而上達有之候

一玉置組屋兩人禁足申付置候所及御伺候へハ勝手次第免し候へと被

仰聞候

廿四日 晴

一福市屋幸右衛門おけヤ藤兵衛取計部屋目付市左衛門出役玉置宅

幸右衛門ハ追私
藤兵衛ハ禁足

廿五日 雨暮方明かたニ至風甚

一今夕之風ニ而牢屋中間弥助家潰伝助家ハ下地損之処半潰^{弥助儀ハ当分甚兵衛殿江為住候}

廿六日 晴

一水増候ニ付か治場往来留御届申達ス屋後川明申達ス

一他国自国座頭共公儀若君様御袖留御祝儀来ル廿八日ニ頂戴之儀願

出候旨配當場申出候

一愛宕屋^山大善院使僧坪倉了三与申僧上下式人例年之通且那廻り昨日

境屋伊右衛門切手

一牢屋潰家之儀ニ付兼而も申達置候小身之者共自力ニ建候儀難成尤

役家ニても無御坐候段ハ不能了簡何分ニも見分ニ差出被下候様申

鈴木此右衛門江参談候処見分ハ役所申出候様被申聞市左衛門作右

衛門へ申付候

一細工町百万偏^三 おけヤ藤兵衛禁足免す

七月廿七日 晴

一与兵衛殿江座頭共願ニ付申上候処若君様御袖留之儀今日ニてハ難

相知又岡山ニて被相渡迎彼等申ニ任セ相知候御大札之方此方様ニ

而不知候を可渡筋決^{審士康政本志}而無之候間御聞合之上可相渡旨為申聞候様被

仰聞候又式部様ヲ座頭共若殿様与奉存候先達而御改号も被成旁御

祝儀頂戴仕度旨申之候役所ニても若殿様ニて無之殊に先達而内方

様ニ付而ハ一札も致し候事ニ候へハ甚無体之段申合候得共當時御

老人も外御役介様無御座候儀を申立何分若殿様と奉存候ニ付頭戴^頂

仕度旨申之募候由及御沙汰候処何分明日御評儀之上可被仰聞候段

被仰候ニ付広四郎へ申聞置候

廿八日 晴

一公儀御祝儀之儀ハ先達而相知候ニ付御祝儀可被下置候由与兵衛殿
ハ被仰渡候式部様之儀者御厄介様ニ候間願之儀御取上不被成候ニ
付役所ハ搔取申渡候様被仰聞候因是広四郎を御城江呼委細申付候
式部様之儀ハ公儀江も弟子様之趣を以御改号之御届も被成候御嫡
ニも御立被成候ヘハ上下御知らセも有之候下として上を計候儀申
出候段不束と於役所ニ被申聞候旨申聞候ヘハ配当ハ伝之候処他座
頭共承諾致候由今日公儀御祝儀計被下之候例之通取計市左衛門 作右衛門罷出
候

(備川家系)

一大納言様御袖留之御祝儀被下候高八百六拾八匁也 式拾四匁在名
式人。拾式匁晴衆分式人。六百九拾匁衆分百卅八人。三匁七分五
厘過仙。四拾匁打懸拾六人。四拾三匁七分五厘初心卅五人。式拾
四匁寿名十六人。三拾匁役料書役筆墨紙

一魚町廿八人之者共追込之儀御聞濟

同月毎日本証文

一元魚町紙屋茂松西側家屋敷表口三間裏行十七間但老軒役并土蔵一
ヶ所北隣ハ縫屋惣兵衛南隣ハ大笹屋伊左衛門七百目上紺屋町浅屋
留次ヘ売此家当二月質入三百匁也二階町田原屋伊兵衛取次此度請
戻ス

一西今町ぬし喜助方ぎん千ヶ寺參病後断式百日延江戸表口申来候由
一林田町まつ葉屋甚介妻その断夫当三月一日商先ハ不罷帰以今尋候
得共行衛不知候ニ付届出る

一福渡町今夕百万遍

七月廿九日 晴

一御蔵米六拾八匁町米六拾四匁

晦日 晴

一組屋勘十郎新田村分御墓所と申処之綿実水車并筋水掛り悪敷車廻
し候義難相成年々運上御断も立候処此度一方村車去ル廿一日之夕
焼失最早商買之時節ニ向前後難渋仍是右村分車家屋敷不殘引取相
止一方村ヘ取越申度郡代所江願出し去ル廿八日御聞届被成役所江
も同断申出大目付所江も及御噂候
一福市屋幸右衛門追込免し申渡

八月朔日 晴

一今日登城諸士出仕御名代安藤造酒之助殿其外御列座例之通引統御
用所江出座各御祝儀申上ル退出之上内山下其外銘々廻勤
一茂渡市右衛門因州入湯之儀及御沙汰 一座頭ヘ被下候員数申上候

二日 晴

一細工町作人喜助四国偏路来ル三日立往来七八十日計

一宗門帳太田仙助ヘ為持遣ス

一後藤守助御使番稻垣茂次組頭右兩人昨日被為召被仰付候

一今夕伝内甚藏廻り之処馬形町之内元魚町湊屋喜七借屋同町大庭屋

藤吉方宿ニて博奕致候体見及ひ即時踏込候処新魚町与八伴松之助
新職人町吉兵衛三町目若元屋浅吉人込居候ニ付町内之年寄を呼夫
々預博奕道具取上町々へ送候様申付置及深更届出候ニ付家主湊屋
儀も同居ニ候間不殘夫々組合預申付候孫右衛門即刻申出候ニ付猶
又改メ預に為取計候

一 おけや町伝七悻義三郎六才之由同町惣十郎甥嘉平五才計之由義三郎去月六日争ひ候を嘉平祖父市兵衛と申者伝七家先江參孫子打擲ニ逢候事を申伝七悻詰合候を伝七罷出市兵衛と申分ニ成打擲有無難決翌日右惣十郎畑帰候由伝七も畑ハ畑帰候途中ニおるて惣十郎ハ昨日親市兵衛を打擲致候を詰合伝七も俱に申分募り打擲有無ハ難知双方ハ書上致し候何分小児之いさかひを祖父「」叔父或ハ親共之喧嘩打擲体異論ニ取結び候事不埒ニ付捌筋ハも不及相当之裁許可申付趣今日平井郷左衛門へ申置候去月廿八日御用番中江も粗申上置候

八月三日 晴

一 博奕五人之者入牢被仰付度御伺申上候処追付於御次平井郷左衛門立合ニ而唯今御伺申上候者共入牢可申付之旨衛守殿被仰渡候今日入牢申渡御届申達ス作右衛門甚蔵喜作罷出五百ニ出ス

一 来ル五日宗門帳奥書印形致し可差出旨此間仙助ハ申来候

一 御年貢米町方ニて切手替或ハ外払致候儀兼而御停止之処弥可相守之旨例之通御用番御渡被成即日大年寄江触申渡ス

四日 晴雨少

同日七日ニ証文出ル

一 二丁目松屋源蔵北側家屋敷表口三間裏行拾七間但半役東隣ハ元魚町分ニ而吉屋佐右衛門西隣ハ西今町伏見屋茂七家銀札五百目ニ町内留屋倉次江売

五日 晴

一 今朝六半時魚町左之者共追込取計候 又兵衛組 善兵衛組
次郎兵衛 文助 宇兵衛
善兵衛 善四郎 甚吉 長助 藤七 伊大夫 源三郎 五三郎

利助組 平吉 利助 □之助 □九郎 勘次 長兵衛 清右衛門
權兵衛組 弥十郎 与平次 佐助 六郎治 □六 松右衛門 權兵衛
善右衛門 治助 廿八人 申渡之書面一部之扣ニ有之候
右相濟年寄彦兵衛文左衛門并組頭共各禁足 同日七日ニ禁足免

一 御条目読渡大年寄三人罷出其外町々ハ式人ツ、年寄呼出石名平太兵衛小頭代中山市左衛門ヘヤ目付室并作右衛門出番石名佐助

但例歳大年寄ニ取計候ヘ共何角近来不レり殊更博奕之沙汰又ハ為指事ニも無之公事出入有之風儀ニも相掛り候故存寄を為申聞旁此度ハ役所ニ而取計候

一 三軒屋番所上下共ニ大損シニ付書付出ス

八月六日 晴

一 石名左助妻出産小兒無之由（俄）付米半表被下候

一 備中倉敷大橋永治上下式人例年之通温湯散并宝龍丸売

一 御蔵米六拾六匁五分町米六拾式匁五分

一 村尾彦右衛門桑原作次ハ去ル二日出之状到来元魚町田原屋善十郎江大坂油掛町塩屋甚三郎ハ追訴状遠国方与力八田五郎左衛門を以御渡し候ニ付大目付中ヘ今般相廻し候旨申来候去月廿七日桑原作次町奉行所ニ而相受取候由

七日 晴

一 牢□修覆ニ付牢舎人入替伝内軍次兩人遣ス

一 石州さぬきヤ与右衛門と申者元魚町大笹屋友次方ヘ参り上ニ御金入用之儀候ハ、可承由申之候由申出候通例ならさる儀ニ付平井郷左衛門江粗及噂先役所切ニ而難申達旨一宿ハ格別勝手次第罷立候

様ニと友次ハ為及挨拶候

一勝間田町西屋半兵衛ハ山北村理助式拾七才母卅七才内縁ニ付引請

申度 引合済

八月八日 晴

一於御席若田屋左助綿代之儀不埒ニ付追込申付三十日切急度右百十

八表余之儀納所為致候様可申付旨御用番衛守殿被仰渡候

一田原屋善十郎ハ塩屋甚三郎ハ追訴平井郷左衛門ハ被渡候

一牢番中間弥助方潰家ニ式表伝吉ハ先達而ハ半潰ニ成居申候此度猶

以及難儀兩人自力ニ難叶ニ付レ表被下候勿論此儀破損致し候時又

々訴訟申出候儀ニハ無之是ハ以前鉄砲町焼失之節御手当有之候類

是追之上之御普請ニテ無之候間新ニ取様ニも難被成又中間共自力ニ

も得致間敷ニ付被下候義也

一公郷村ハ牢舎人七右衛門伝八牢賄今有ハ取計候様郷左衛門被申聞

尤多内ハかけ合ニ而牢番ハ申付候

一御蔵米六拾三匁町米五拾九匁

一大目付中ハ廻状 御前様御病氣之処御養生不被為叶去月晦日御卒

去被成候段申来候因是今日ハ来十九日迄鳴物高声御停止之事ニ候

普請ハ今日ハ来ル十日迄可為無用候

右之趣同役并支配方ハも可被相達候已上

八月八日

大目付

半切

御前様御卒去之段申来絶言語候御事ニ候因是為御悔御帳付候間明

九日緞子肩衣着用已刻ハ午之刻迄之内出仕可有之候此旨同役同列

組合并支配方ハも可被相達候已上

平井郷左衛門

八月八日

鈴木此右衛門

海老原極人

一右廻状之趣町中触出ス組中并牢屋三軒屋ハも相触候

一自身番例之通御中陰之間為勤候。鳥魚商買之儀御家中ハ御中陰中

町方ハ声高く呼らす潜に売候ハ無構。小屋之者哥三味泉ニテ相廻

り候事御中陰之間差留

一御悔ニ大年寄医師札元同補欠御蔵元共其外町々年寄共追明九日相

廻り候着用麻上下 已前ハ裏付ニ有之候得共いかハニ付
孫右衛門ニ相談之上麻上下ニ致候

八月九日 晴

一投訴之事衛守殿ニ申達ス。昨夜上之町鷹取屋敷ニテ失火有之候由

十日 晴雨

一投訴之沙汰有之ニ付今夕ハ組中ニ而潜ニ申合

一桶屋町土橋大破ニ付大目付中ハ申達ス

一宗旨帳付紙并一紙証文同断孫右衛門ニ認直し申渡候

十一日 晴

一大目付中ハ廻状御臆中為伺御機嫌御帳付候間明後十三日已刻ハ午

之刻迄之内出仕可有之候此旨同役同列組合并支配方可被相達候

十二日 晴

一宗旨改帳認直し差出ス当番市左衛門差添候

十三日 晴

一今日御機嫌伺御帳付

一五月断出候二階町市兵衛梓佐助日数及百日人別離御聞届

一西川屋善助切手勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄八例年之通形売

一今町紙屋六藏浜野屋重兵衛造酒株西の丑年^(マ)追借受

十四日 晴 十五日 晴

一今日女ふミと申船頭町作人長五郎養女ニ候所実母ハ細工町幸助方

罷在元来一宮忠太と申者追私此者妻ニ候所
当町幸助へ再嫁いたし候由ふミも忠太知候右之ふみ長五郎方ヲ家出いたし

所々さまよひ近頃幸助方ニ居候所是を出候後居所無之何とそ長五

郎方へ戻り申度所存ニ而直訴申出候ニ付則細工町幸助呼出し相糺

し候へハ長五郎と幸助方元来ふミニ付かけ合候趣も有之候得共双

方申合せ文を育遣し候趣ニ相成兩人書付を以又々長五郎方へ引取

候様相成候ニ付掛り合細工町へ引渡し候日明文太
為取計候

一 新魚町追込之内組頭六人頭取三人を残し其外ハ追込差免申口

八月十六日 雨 十七日 晴

一中之町瀬戸屋治助借屋宗八四十親彦六七十妻才三十梓松之助九娘

梅五狩野如休へ引越(林)

一 錢九拾弍文

一 誕生寺相見法然上通行之節之挨拶申置(入欠)一種持參挨拶書面遣ス

十八日 白雨有

一 元魚町紙屋茂松(ママ・一ノ一ノ行分の余白あり)

一 魚町追込之内組頭六人今日差免伺之上差免取計御届申達ス

一 新職人町牢舎申付置候吉兵衛妻組合預ニ申付置候所此女元二階町大和屋市郎左衛門娘ニ候へ共吉兵衛と馴合候を憤り不通致候由然

共女懐妊臨月之由ニ而組合共断出候ニ付親市郎左衛門江引取候様

申付牢賄之儀ハ境屋伊助ハ吉兵衛引請之者ニ候間被_レ申付候

一 伏見町近江屋仙助断兄利兵衛三年切大坂錢屋七郎左衛門へ奉公參候処今四年願延承届

一 桶屋町おけや治十郎治郎右衛門と改号

十九日 晴 夜中雨

一 今町井口屋利七忰利助米拾表申納西七月卅日九月切山岡与左衛門

宛八月十八日四時堺町ハ伏見町之間ニて落届出例格之通勘定奉行

中郡代所御藏奉行中御代官中へ通用ニ及び大目付平井郷左衛門江

も申達置候町分触差出ス

一 宮川大橋下之石洪水ニ流れ有之候を何者か手を掛候義も有之候由

依而最寄町江右体之儀無之様申付候而可然旨鈴木此右衛門昨日被

申聞候へ共右之場所廻りハ為及見分其上ニ而一統触可出と廻り同

心江申含メ候

一 御前様御法号今申刻勘解由殿宅ハ泰安寺表門江被為入御先私権兵

衛軍次差出ス町掃除申付候

八月廿日 晴 廿一日 雨

一 安岡町若田屋佐介追込申付候此一件別ニ有之候申渡書面有之候

一 おけや町作人惣十郎作人伝七呼出し呵追込申付候是又別ニ有之候

今日大年寄申渡候所不快ニ付同月廿五日ニ呼出申付候也

一 二階町組屋勘十郎町内年寄役申付候尤山手屋弥太郎跡役

廿二日 晴

一 平井郷左衛門ハ呼に來り大坂御屋敷田中武兵衛ハ申越候趣大坂梶木町玉子屋九兵衛方作州津山今町米屋藤藏と申者今月十九日朝罷

出候処不罷帰候ニ付跡に有之候柳胡離町奉行所江出し候処中ニ繪

(行幸)

(寶陽郡)

符御紋之下ニ御用裏に張紙致し候印形押有之往来ニハ備中国加夜郡高田村藤藏と記し有之候此旨武兵衛〇来り候間今町ニ而遂吟味有無共今月中書付指出し候様被申聞則大年寄江

一安岡町久米屋〇八願借屋作人次兵衛六十娘菊十一御家老組石井多助拜領屋敷へ引越

一身職人町作人仁右衛門願借屋ニ居候武兵衛四十母 七十妻 卅悻 弥吉 七人別離西尾多内長屋江引越

廿三 雨

一新魚町筆頭三人之者追込御伺之上今日差免候而御届申達ス

一公保田肝煎三人〇油屋与一郎美濃屋彦兵衛へ可払宿入用ハ打欠米

ニ而取立有之候を若田屋綿代米不済候ニ付不相払宿兩人〇肝煎江掛ケ合大庄屋大年寄互ニ趣意通用ニ及候へ共落着不致候ニ付今日

山岡与左衛門江申談候上何分暫猶予致し追而可掛合旨談候

一林田村次八借屋文六東新町作人甚助方へ引越

一万人講場所廿四五日之内相受取申度講元〇申出郡代所江通用済

廿四日 雨

右統一今町米屋藤藏と申者無之旨証文認出し候ニ付拙者奥書印形御留主居宛ニ而平井郷左衛門江持参追付添書ニ而被相廻町飛脚代り二階

町文助と申者江相渡ス明日出立致し候由

一安岡町年寄小倉屋次右衛門病氣之処相果申候旨届承置

一鍛冶場船渡留相達候

八月廿五日 晴

一川明申達ス

廿六日 晴

通用之方へ夫々為知達ス 一落シ切手〇村藏多市兵衛与申者拾候旨届出郡代所〇為知

一村瀬八兵衛門前江昨夜堺町弥四郎と申者親子三人臥其儀ニ付大年寄へ手紙を以申来尤穩かに計度旨ニ付内分申出し候ニ付其町為札候処同町家主藤兵衛請人ハ平蔵理三郎兩人ハ魚町之者のよし願無

之者ニ付承知并家主請人共呵候而元来錦織村〇ニて是江帰し引合相済候由承置候

一座頭共同出候ハ御前様御布施壹つ半頂戴仕度由尤廿八日ニ入来廿九日ニ御取計被下候様孫右衛門申出候則日衛守殿平井郷左衛門江

達置候

一明廿七日郡代所〇牢越吟味致度旨申来ル

一今日切手拾表利七を呼出し相渡ス 切手ハ郡代所ハ川部村大庄屋土井太郎右衛門〇書付ニ而此方へ被相廻候 尤年

寄老人組合老人罷出ル

一小性町みそや借屋長兵衛四十妻久米 四十安藤要人殿下屋敷守ニ罷越申度

廿七日 晴 廿八日 晴

一〇村庄屋方へ今町年寄直屋宗十郎利七を召連組合老人右之米切手式表半四分相渡し庄屋〇受取書取帰候

一撰州兵庫戸上留五郎并役介ふん柳庵三人夜前参り十日計逗留断福永ヤ藤助

一茅町磨屋半平南側ニ而家屋敷表口四間式尺五寸裏行拾七間但五分

四厘役東隣大工六郎右衛門西隣坂本屋宇右衛門三百五拾匁坂元屋

宇右衛門へ売。同町南側家屋表口式間四尺七寸五歩裏行十七間但
三步役東隣ハ研屋半平西隣ハ大工幸右衛門銀札百五拾匁研屋半平
ニ売 是売替也

一大目付中〆廻状 公儀御触書当酉六月十五日木挽町五丁目幸之助
母いちを殺逃去候文五郎人相書扣に有之候則日町分へ触書出ス
組中并牢屋三軒屋迄相触候但町分来ル三日迄ニ申渡ス役所〆ハ来
ル八日御城江持參之儀申来候

一 おけヤ町追込之者共今日差免候上申達ス

八月廿九日 晴

一 自他座頭共江今日御布施百ヶ日御仕送り兼而売つ半被下之小頭代
中山市左衛門へヤ目付室井作右衛門出役

一 壹貫六拾三匁壹分式厘五毛

。三拾六匁 在名式人。拾八匁七分五厘 はれ衆分式人

。八百式拾五匁 衆分百拾人。五匁六分式厘五毛 過仙壹人

。四拾八匁七分五厘 打懸拾壹人。五拾式匁五分 初心式拾一人

。三拾壹匁五分 寿名拾式人。四拾五匁 配当場役料書役筆墨紙

一 公郷村入牢伝七今日出牢手形例之通石名左助出役

九月朔日 晴

一大目付中〆廻文 御前様御法号信源院様与奉唱候且又来ル五日就
御三十五日於泰安寺御茶湯被仰付候此段及演達候様御用所御申ニ
付申達候 右組中町分触出ス

一 与兵衛殿〆若田屋佐助差免明日取計候様被仰下申渡ス

二日 晴

一 若田屋儀佐助追込差免候則申達

一 六拾匁五拾六匁

一 安岡町真島屋勘七北側ニ而家屋敷表口式間半裏行十四間半但式步

五厘東隣ハ作人与市郎西隣ハ浜松屋嘉七久米屋清兵衛江質物ニ書

入当八月〆来ル十月迄式百匁借

一 下紺屋町作人弥助東側家屋敷表口式間裏行拾壹間但壹歩五厘北隣

ハ中谷屋喜兵衛南隣ハ自家今般家内に罷在候弟宇助ニ相讓申度

一 西新町樽屋勘右衛門借屋居申清八三十五妻九倅十同文吉林

田村上之町善兵衛方へ引こし申度

九月三日 雨

一 安岡町表ヤ長兵衛南側家屋敷表口四間裏行拾七間但四歩東隣和田

屋喜助西隣若田屋源七町内吉田屋多四郎方江質物書入当九月来戊

四月迄式百目借り

一 新魚町入江屋藤助家屋敷銀主源助江引渡可申旨申付候所「」難成

及延引恐入来ル九月十五日迄日延くれ候様万一日限過候ハ、一言

之申断なく右銀主へ引渡可申旨申出聞届遣候

四日 曇

一 五拾七匁五拾三匁

五日 雨甚

一 信源院様御茶湯被仰付造酒之助殿御名代海老原極人西尾多内詰御

当日計同心伝内軍次出役

一 西新町稲屋源蔵倅為次郎当六月十五日家出致候処此度帰候へ共妖

氣ニ而も受候哉ニ相見申候尤町内其外友達出合ニ対し何之聊も無
之以後相慎ませ可申之旨書付出ス

一戸川町玉屋伝六四十美甘村塚谷屋伊兵衛方へ当九月六戌二月切奉
公

一川留注進御届申達

六日 晴

一大目付中の廻文 御留場之内殺生停止兼而被仰出候得共近年雁
鴨甚不自由ニ相成御用之鳥不相調候依之御鷹場ハ勿論右外たり共
鉄砲殺生一切堅御停止被仰出候若此以後紛敷儀も有之候ハ、目付
之者并其所之郷中ニ而召捕候敷又ハ其所ニ留置誰人ニよらず申出
候様申付候若及見聞致等閑候ハ、当人ハ勿論村役人迄急度可申付
之旨申付置候之間此旨可被得其意候右之趣同役并支配方へも可被
相達候 九月六日付 大目付 則組中牢屋三軒屋触出ス

一御蔵米五拾三匁町米四拾九匁

一川明申達ス

九月七日 晴 八日 晴

一御尋者証文組中町中ハ大年寄山田彦大夫以上四通指出ス

一御服中ニ付来ル十二日大盤若不被仰付候演達承之

一古川屋宗助大坂懸り合六十日切来十六日ニ限候ニ付日延願差出シ
今日及御沙汰明日立御飛脚ニ相登候大目付中も大坂へ申参候由
一坪井町市瀬屋与市京町松岡屋多助無断登坂之上坪井町金沢屋庄兵
衛懸り合之嘍ニ入候儀ニ付呵之上免し申付候

九日 晴

一錦織村興法寺ニ八歳之節此者親公元年屋中間ニ而浪人後魚町又ハ材木町ニ居一參居候庄吉十三今日直訴之趣私父ハ伝
吉と申先達而偏路ニ罷出申候母ハ新職人町横丁ニ居申候元来右之
寺安岡長雲寺ニ被居候節八歳ニ而参行々ハ親をも育可遣旨約束ニ
御座候所無其儀所詮うかく寺ニ而弘法殿之香花とり候迄ニ而□生
産之筋迎も教も無御座行末難相成責而母を育小々之商ニても心か
け申度寺をかけ出申候何とそ趣意相立候様奉願旨申之候然右他
所寺院之儀いか成訳ニて出候哉母方迄ハ追手之人も見へ候段相聞
候付当番切大年寄共場相ニて母に渡し一応寺之人参候ハ、帰し候
様為致候

一宮川大橋下敷石洪水ニ押し流し下ニ至りて留居候をいつれのか手
をかけ候者も有之旨最寄町五申付可然段先日鈴木此右衛門申
聞くれ候得共一応同心共へ申含メ其場見繕はセ置町一統之触書差
出し触留に記之

十日 晴

一三軒屋番申出稻荷社堂ニ野伏五十計之女臥居候を見かけ神主へ為
知候上板橋之上在分へ出し候所今日相果申候由承置候

一細工町嘉兵衛渡世相統之ため垂水村堀屋彦太郎へ当月の亥之二月
迄奉公に罷越度

一伏見町引受人六右衛門願作人勤助去ル亥ノ年追廻佐々木兵左衛門
下屋敷へ罷越居申候処右屋敷入用又々町内ニ罷掃借宅人別人

九月十一日 晴 十二日 晴

一京町海老屋長右衛門京都烏丸通六角下ル町ニ文字屋九兵衛手代喜
八太助善助右三人例年之通呉ふくもの売昨日入

一牢屋江へヤ目付市左衛門出番権兵衛甚蔵書役安次召先達而入置候
博突五人之者共尋ニ付拙者罷越候

十三日 晴

一牢舎多兵衛藤藏多助長右衛門冬仕着セ極人江申達候

一幾野御代官平岡彦兵衛殿明日通行之由町方先例之通先払掃除等之

儀取計申付候大目付中へも達ス

一高尾屋勘七播州余陸屋惣七同手代彦右衛門式人例年之通八百屋も

の売

一京町大村屋源右衛門林田町南側家屋敷表口六間裏行十七間本役西

隣門屋又七東隣八片岡文啓六間之内三間式歩五厘三百五拾匁同町

岩佐屋善七残式間七歩五厘三百匁同町深屋安之丞右兩人江売渡し

九月廿八日売券出候

十四日 晴

一觸 大目付中廻文 公儀御触朱墨之儀朱座之外紛敷朱墨拵売買請

売候者相聞宝曆卯之年御触出候処猥に成候旨ニ付御触出ル扣ニ記

ス西七月

一鑄錢後藤庄三郎支配定座并銀座真鍮錢吹致候両座之外鑄錢難成去

ル辰年御触有之候処手寄を以寺社方願致し候も有之候趣相聞右

体之願有之候ハ、急度咎可被仰付旨之御触也

右ニ様共公儀御触ニ而大目付中相廻候惣町へ触出す

一啓生院様来ル廿一日三回御忌被為当候御用所御申ニ付演達之御触

出候組中相触候

一御代官今夕黒坂村止宿ニ而明早朝通行可有段山岡与左衛門為知

有之候処又候及深更為知外村ニ成明後十六日可成と通用被申聞候
町分江も其旨為知

九月十五日 晴 十六日 晴

一坪井町小塩屋文右衛門願五年以前巳之歳迄御使組相勤候松尾泰

次於江戸御屋敷他行致候所刻限延引出奔以後流浪致候処一兩日以

前与風私方へ罷越妖気ニ而気分不正言語等も怪敷有之其上大病ニ

而追而重病罷成候様相見申候私兄之儀ニ御座候故奉恐入候得共快

氣致候迄差置養生致し遣度奉存候旨書付差出し候ニ付甚不輕候ニ

付即刻為見届役人可遣申談候取計袋ニ入

一若田屋佐助へ公保田村三人江綿代殘銀納所可致旨日切之儀□月廿

日申渡置候処色々才覚仕候得共相納不申銀札場□納□家屋敷并御

蔵引当致し尚又右村納所可仕手段無之候ニ付此上御憐愍宜御歎申

上奉り候旨書付差出

一中之町小山屋与三右衛門あほし平松屋惣九郎例年之通小間物晒臘

一同町甲屋同所米子屋浜村菊屋与十郎例年之通小間物

一同町小山屋はん州余陸屋も兵衛例年之通八百屋もの纏ふし又同州

野田屋平蔵例年之通小間物又同州あほし丸尾ヤ六三郎例年之通荒

物塩もの

十七日 晴

一今朝小塩屋文右衛門方へ為見分市左衛門喜作遣ス即刻御用番与兵

衛殿海老原極人江も罷越申達ス取計之大意右之者大病進退難成趣

ニ付其儘ニ而入牢之体組合ニ預ケ文右衛門儀ハ禁足申付屋夜とも

廻り同心為立寄候様申付候旨御両所江達置候

一備州岡山小畑町鼠屋例年之通元結風売。同宿京都近江屋勘兵衛例年之通小間物きせるおろし

十八日 晴 夜中の雨

一若田屋書付与兵衛殿江差出ス

一〇〇村穢多八兵衛此間福永屋ニ而金拾兩余銀ニ兩替致候而上之横町ニ而剥被取候而下江追掛候処見失候由尤打替ニ銀を入致懷中候処五百匁之分被取百匁余ハ不被取候由其沙汰三町目坪井町辺ニ而も仕候哉心当之儀も候や聞合呉候様山岡与左衛門頼ニ付大年寄へ其心得申聞せ候

一若田屋方之儀家屋敷土藏家財身代限役所取上尤入札ニ取計田畑等も相糺し書付取之質物ニ不入分ハ入札ニ取計可仕旨平井郷左衛門の被申聞

九月十九日 雨

一泰次大切之旨申出候ニ付平井郷左衛門海老原極人江も存寄申之相果候ハ、見届差出可申上旨談置候所孫左衛門の相果候儀届候ニ付市左衛門喜作見分ニ差向則刻御届申達死骸ハ牢屋へ一応遣シ御徒目付付「下目」中山市左衛門神田権兵衛藤森喜作罷出泰次江申渡

其方儀出奔之身として立帰り牢病死之からた取埋申付候

右市左衛門申渡し済立合引取之上ニ而穢多頭へ申渡兼田江取埋候様取計候兩御方江届申達ス

一徳守宮祭礼無滞相済兩御方江御届申達ス

廿日 晴 雨折節

一京町味噌屋清六役免聞届ル菊屋清左衛門小性町兼帯申付候

一川口源三郎音右衛門と改号十月十八日及御沙汰

一 小塩屋文右衛門泰次取計方不届ニ付戸ノ申付候釘貫両様書付を以受取之棟梁茂兵衛大年寄の申付ル文右衛門儀役所へ呼出し申渡ス
三舟孫八石名左助差添戸ノ及差図道具持人足夜ニ入挑灯持以上式人棟梁外大工老人出ル

一 小塩屋茂右衛門儀禁足申付ル是ハ本家委細御届申達ス

一 幾野大井田与五郎中里忠助の来書上米并大豆相場来十一月二日頃取ニ可「レ」

一 若田屋左助呼出し家屋敷土藏家財取上申渡家財改市左衛門喜作差遣ス

九月廿一日 晴

一 雲州神門郡カミ古志村俗名万四郎剃髮浄円大坂表の雲州へ罷帰候由播州印南郡船頭村の病氣ニ而送り来り候旨山岡与左衛門の通用当夕町分のも新田村へ送り申出御届申達〇

一 廿二日 晴 御代官所江入札可出孫左衛門より

一 若田屋佐助方入札廻状来月廿日迄日切 本宅憎屋畑家財 御代官所江入札可出孫左衛門より

一 二階町島屋藤吉加古川ねちわく手伝九郎兵衛長次郎式人例年「レ」

一 当十二月中頃追指置候旨

廿三日 晴

一 小塩屋茂右衛門禁足免ス

一 田中武兵衛の古川屋日延願御番所江差出候段返答〇来ル

廿四日 晴

一今日市左衛門甚蔵喜作牢内博突五人の者共再吟味之為遣ス各誤入
歎候ニ付其旨一札爪判取之尚又蔵合宅へ立寄右五人親々組合共
申聞候処各同様相歎候ニ付孫左衛門ハ是又一札取之年寄組合連印
差出之考之上可伺

一來ル廿六日伝内倅義藤次引取候旨申出承置

一下こんヤ町山形屋太郎右衛門借屋十助当二月千ヶ寺百日日延。か
ち町かちヤ新左衛門当二月身延百日日延。上こん屋町灰屋菊蔵借屋

赤穂屋新兵衛後家二月身延参百日日延

本証文同月廿九日

一西新町山科屋甚蔵家屋敷表口式間半裏行八間并なヤ土手切半役□
西隣ぬしヤ辰次郎東隣岸屋茂助式百五拾日中之町長谷ヤ喜助へ売

一新魚町いセヤ伊大夫二階町栗屋文兵衛持来自国受酒三年借受

一東新町稻葉屋新七大坂松坂屋忠右衛門例年之通唐弓弦売

九月廿五日 晴

一五拾壹匁四拾七匁

一海老原極人ハ下三軒屋立替相成候由尤大破ニ付為知手紙来ル

廿六日 晴

但此度ハ半間計狭く相成候由番人「」
書付出し候へ共大目付中ハ被申聞候ニ付
其カニ承置候

一吹屋町北村屋樋次川向北村分畑稲之中ニ壹升五合銅茶釜壹升五合

羽釜三升鍋有之候由北村庄屋江達シ預ケ置候旨

一伏見町戸田屋忠三郎倅大小御相印持致旅行候儀相聞候

廿七日 晴

一竹田村七三郎入牢郡代所ハ申来り例之通取計「」

廿八日 晴

一牢中五人之者右一札之趣申達ス

一西一之宮村兵助倅伝蔵名子ニ致し二階町山手屋弥三郎「」文太
夫婦之もの引受

一北村落もの儀大目付中ニ達し触出ス

一福寿屋久米吉去ル午九月米屋道休所持造酒株讓受是迄商買致候所
不勝手ニ付此度相止候旨申出ル

廿九日 晴

一御蔵ハ御物成相渡候廻状例之通

一今日牢番呼出し番子源助牢屋ハ因人太兵衛着ものを東新町佐伯屋

江質ニ置候始末聞糺之為呼出し右ニ付因人太兵衛儀も呼出し一通

り尋申付候牢番中間弥助同断書面有之候

一当春願候元結商買藤屋嘉右衛門綿屋左助海田村紙屋江元結紙代三

四百匁滞加右衛門ハ可相払を左助と出入ニ相成双方書付付候へ共

畢竟兩人一同に元結商買之儀願聞届間も無之に申分出来□不埒ニ

付不及貪着候得共加右衛門ハ可相払ニ片付候ニ付今日其□大年寄

共於宅為申渡候別ニ書付有之候市左衛門立合孫右衛門も罷出候蔵

合於宅取計

一新職人町滝元屋平四郎借屋伝吉妻きん願去月九日直訴に出□庄吉

興法寺へ勝手向ニ付差遣度人別離願出候得共伝吉と申夫有之なか

ら妻之願主難心得ニ付伝吉帰候ハ追ハ難聞届旨大年寄共今年寄江申

聞せ候

九月晦日 雨天

一西今町今津屋源次郎酒商買仕来候所不勝手ニ付当「」仕込不仕

候旨書付出ス

一元魚町ひこや佐七郎東か南側角家屋敷表口五間裏行十七間老軒役北隣
八灰屋佐右衛門南隣八横町通老貫目之質ニ書入来戊三月切同町糶
屋伊助取次借用
十月三日本証文出る
天明五日七月返濟断

十月朔日 晴

一与兵衛殿江罷越博奕五人のもの、儀及御内沙汰候

一今日伝内悴義藤次同道対面

一京町田原屋伊兵衛商買筋(マ)因州鳥取罷越明後三日卅日逗留願

二日 晴

一四拾五刃孫左衛門江受取

三日 晴

一伏見町戸田屋忠三郎悴勇藏七月十八日町内江無届登坂其上神仏詣
も致候由実否ハ不定候へ共帯刀致し大文字荷印ナと携出勿論道中
ニ而も何となく存分に振舞候義ナと及見聞候者も有之由ケ様之も
の其分に置候ハ無何処町方之者手ナ「調へ御家中江相印を借候
而町人之荷道中ニても威勢をはり」も不宜様殊ニ去歳御触も御
座候儀旁先日以来町之者共急度示し申候義宜様奉存御内達申上候
急度吟味致し候様被仰付大年寄場ニて及「江処色々陳し候ニ付
尚又今日御伺申上候処疾ハ吟味致候様ニ御聞濟被成ナ」

一若田屋江書出候地所先日郡代所江取上引渡候処又々下方江左之通
下田五畝 下田六畝 下々畑九分 山岡与左衛門江被申聞猶又書
出候様今日大年寄江申渡ス

一例歳遣し候江戸表水野殿役人鈴木甚大夫江米相場書之儀今年も同

様ニ心得候処此度備中知行所江罷越候而帰候ニ付挨拶ナ差越又々
例之通世話致しくれ候様頼来候

一追廻し郷藏北に倒死之者有之郡代所江明早朝「江出し候ニ付今津
屋引請故為立合候様申来り則申渡させナ」

十月四日 晴

一巴乘院金毘羅詣七日立十六日頃帰断

一堺屋伊右衛門江州神崎郡新堂村布屋長兵衛例年之通きせる小間物

五日 晴

一伏見町半兵衛役免願聞届

一河内屋林藏役免跡役見付ヤ千三郎

一宮ワキ町福松屋和七悴新藏荷拾才兼而不所存家出致し親類相談之

上此度義絶勘当願同月八日御聞届
同月十四日本証文

六日 晴

一坪井中里藤藏滝口忠藏詰交代通用状来ル

一熱田若狭金毘羅詣七日立十日滞留。か治屋熊次郎同断

七日 晴

一鍛冶場土橋出来今日江往来牧重郎治江届有之大年寄へ申渡御届申

達ス

一渡部五郎右衛門戸村源五右衛門江来書米平均相場之儀申来ル

一人別二階町石松院兼住所二階家守勤助儀今般勝手ニ付人別離松島十学

長屋江引移り申度跡家守差置候内下紺「江不動院相願同人家来甚

助付置家役等相勤させ度断寺社方へ及噂候由

一東新町肥後屋長助組屋勘十郎他国請酒株十月江丑之十月迄五年之(マ)

間借候断

十月八日 晴

一 坪井町小塩屋戸ノ差免伺申上候処日数廿日ほとニ満免可申旨御用
番衛守殿被仰渡候

一 来十一月十八日万人講伺御聞届被成申渡ス

一 博奕五人之者共差之儀御伺申上候処百日数ニ而免「」可申之旨

衛守殿被仰聞候

一 三次ヤ長右衛門京都烏丸通二文字屋九兵衛手代金十郎老人例年之
通呉ふく商売

一 中之町甲屋和助播州姫路白銀町大村屋平吉弟茂兵衛例年之通墨筆

大物昨日入

九日 晴

一 九拾三文通用

十日 晴

一 坪井屋文右衛門戸ノ差免伝内車治大工棟梁召連筋違を為取年寄組
合を入呼出し之趣申渡畢而役所立例之通召出免申渡ス

一 御蔵より来十二日暮渡御役料御給米可渡之旨廻状

十一日 晴

一 戸田屋勇藏呼出再吟味旅行之間不埒及発言

一 茂渡市右衛門願備中木下肥後守殿下足守津川善右衛門娘滝十七歳

此度養女貫請申度旨十三日及御沙汰承届

十月十二日 晴

一 五拾貳匁五分四拾八匁五分

同月廿九日本筆文出候

一 西新町松屋茂兵衛家屋敷南側表口三間半裏行十七間大溝切四歩役
西隣余野屋兵八東隣伊木屋伊右衛門質物書入中之町倉敷屋伊介取
次ニ而四百目来ル戌十月切借届

一 林田町若狭屋庄兵衛断御使組河村伝藏渡り屋敷作人平兵衛四十五
妻みよ世五俵虎吉五才今般借屋へ引越

十三日 雨

〔田畑〕 一 安岡町若田屋所持之田畑先達而書上残り之分取上郡代所立引渡

一 青木楠五郎殿手代山岡程右衛門上島吉藏津山町当月十五日同
晦日^(ツ)迄上中下新米新大豆日々相場書例年之通来月三日頃迄に差越
候様申来り勘定奉行中書状受取月末右役所迄可相廻候夫大坂
へ遣し候由十月三日之日付

同月廿四日本筆文出

一 林田町松葉屋甚介妻その願家屋敷表口式間裏行拾五間半役西隣ハ
正屋忠八東隣作人喜平次右家屋敷去ル未銀札場質物ニ書入三百目
借受申候然所勘助先達而出奔今以帰り不申行方相知ス候ニ付式百

三拾匁ニ同町作人平兵衛口壳渡銀札場相納度伺候処聞届之由申出
候ニ付奉行中へ問合候処無相違旨申来候ニ付聞届申渡ス

十四日 晴

夜雨

十五日 晴

一 万人講ニ付出役山岡与左衛門拙者相詰無滞濟御用番衛守殿立御届
ニ参大目付中ハ手紙届

寄札高六千七百五拾六枚 此銀札三拾三貫七百八拾匁口拾貫百三
拾四匁三歩引 残而式拾三貫六百四拾六匁五拾番割 一番老貫三

百五拾老匁式分 十番老貫式百拾六匁八厘 式拾番同 三拾番四
貫五拾三匁六分 四拾番老貫式百拾六匁八厘 五拾番式貫七百貳

刃四分 間々式百七拾刃式分四厘

十月十六日 晴

一安岡町大坂屋^{〔店名〕}宇八^{〔店名〕}申出当四月二宮村長五郎^{〔店名〕}質取ニ出候所大庄屋才兵衛頼共又ハ別当^{〔店名〕}とも申烏論ニ存右村江引合候所右長五郎と申ハ番人関助と申者ニ而口振も違不束之由質物見せくれ候様ニ申ニ付取置候質物一々書付遣候由年寄迄申出候ニ付為念書付為致取置勿論山岡与左衛門^{〔店名〕}も被申聞候右関介ハ村ニ而預ケ置候所欠落致候由

一京町かもヤ和六奈良今井町筆屋伊兵衛手代源助例年之通筆墨

十七日 晴

一平岡屋忠右衛門登坂之願明十八日立四十日計玉子屋九兵衛江

十八日 雨

一当三月廿二日牢舍人太兵衛着物□□村^{〔店名〕}番子源助へこしくれ候様頼候処借くれ候様申候を太兵衛致承知候処佐伯屋江質に置請返得不致太兵衛^{〔店名〕}ハ催足^{〔店名〕}不得止事同廿四日薪拾と事寄罷出直に欠落いたし候然ル所牢番共穩便に可致と中間弥助に申含穢多頭太兵衛申合佐伯屋江罷越着物請戻し太兵衛江相渡し候而其儀一向不及沙汰候処□□村番子共右之源助を「^{〔不詳〕}」可致存寄書付村方へ申出其儀甚入組牢中不埒事頭於郡代所難捨置役中へ噂有之書面通用有之候牢番共も七月頃其儀承及候哉へヤ目付場江件之趣粗書付出し候得共其砌不申出候儀打捨置候所牢中之儀外ニ而彼是申分ニ相成候而ハ全難濟候ニ付内外両役所かけ合筋ニ相成牢番并中間共又ハ穢多頭尋書取揃今日御用番衛守殿江申上候処御取置被成尤御政事方

平井郷左衛門江委細申達候郡代山岡与左衛門^{〔店名〕}ハ頃日^{〔店名〕}言達有之候由別ニ袋入置

一御蔵米五拾四刃五分町米五拾刃五分

一とよヤ喜右衛門京都江明十九日立廿五日計

十月十九日 晴

一今津屋孫十郎船株式十二艘九艘有船残而十三艘欠此度七艘出来残

六艘来秋迄ニ拵可申之旨大年寄に為申渡候

一久米南条郡大戸下村久作と申者安岡町若田屋左助江懸り訴状之添

翰川端代八松崎左中^{〔店名〕}差越及御沙汰同月廿日

一右久作宿船頭町川崎屋又十郎

廿日 雨

一乃井野^{〔店名〕}添翰願書之趣去ル未十月津山家中小森喜藤太後家^{〔店名〕}若田

屋左助江銀札五百刃取替後家ハ去四月ニ相果元銀之内百五拾刃払

候由其後催促致候へ共相濟不申町内年寄江相断候処式拾刃相払残

り元分三百三拾刃不足致迷惑候旨也委細者別ニ袋ニ入置

一若田屋左助役所江呼出久作訴状之趣相濟候様申渡

一京町田戸屋紀州わん売嘉助十藏例年之通又筑前茶碗売又五郎新藏

弥吉例年之通

廿一日 不晴

一來ル万人講之節場所若さわ立候時押之為役所并出役人目之不及処

江目明シ仕立ニ而左之者共申付可然旨同心組中談合セ伺出候

橋元町孫市 戸川町甚助 福渡町清助 こん屋町岩右衛門

一若田屋家屋敷借屋家財入札今日於役所石名平太兵衛中山市左衛門

大年寄玉置広四郎立合ニ而開かせ候

持家屋敷土藏 大坂屋宇八落札式貫目。借屋家屋敷 木綿屋次

助落札六百三拾目。古道具 岡崎屋伊三郎落札六拾六匁八分八厘

〆三人 同月廿三日及御沙汰候而平井御左衛門
へ書付出又同廿六日下方へ落札為知

一境屋伊右衛門江州多賀成就院使僧玄乘坊上下式人例年之通

十月廿二日 晴

一太神楽岡田忠大夫參候由届

廿三日 晴

一太神楽御家中を廻り事及御沙汰去年之通相廻候儀延引

一伏見町戸田屋勇藏追込可申付旨御用番衛守殿被仰渡則於役所取計

申渡

一竹田村長三郎牢越吟味軍次罷出候郡代所吟味ニ付昨日申来ル

廿四日

一神善四郎秤相改候ニ付公儀〆諸国一統之御触書大目付中〆出候ニ

付写留町方へ触書出ス

一鳳殿院様来ル十二月二日御一周忌被為当候処来月二日於泰安寺御

取越御茶湯被仰付候此段為相知候之様御用所御申ニ付被申達候旨

大目付中〆廻状

一問屋伝次病死致候旨届出候

一明七ツ時分穢多源助入牢取計候由申来リ 郡代所〆
同心甚藤手形持
参例之通取計候

廿五日 晴

平ト
穢多ト

一〇〇〇〇村番子市兵衛惣牢之前ニ而相番共之月代剃致候処牢番甚兵

近日に可及差図旨申聞置候

十月廿六日 晴

一海老原極人〆大坂御留主居〆相廻候由 西今町
林田町 西田屋多助 油屋源六

紙屋佐七 東新町 三人江塩屋甚三郎代四郎兵衛〆追訴状差候ニ付被相渡

候月番鈴木此右衛門他出ニ付則今日大年寄へ申渡候田中武兵衛〆

も拙者方へ通用書来ル且又坪井町金沢屋庄兵衛元魚町田原屋善十

郎内濟之趣当月十三日町奉行所持相届候由

廿七日 晴

十一月三日大目付中へ及鳴 一万人講之場所警衛ハ有之候へ其後手ニ而物騒か纒之人寄場之者聞

耳被立自分色めき候事有之去ル十五日之講ニも松原之辺酒酔ニ付

余程場〆立出候体甚不宜候ニ付同心共存寄を為考来ル十八日ニハ

目明之立立ニ而後手ハ不及申前之方ニても折々見廻り無益之人立

為致事を早々鎮候義左之四人へ申付候尤山岡与左衛門へも通用

福渡町清助、こんヤ町岩右衛門、橋元町孫市、戸川町甚助

一齋藤孫右衛門〆於泰安寺ニ而御拜之儀伺出候

一 同月廿八日大目付中へ及鳴候不及其儀旨申渡候 廿八日 晴

一 大坂掛り合東新町茶屋五郎右衛門納所筋内濟之趣申上候 左助申

一 若田屋御取上之田畑地立毛ハ被下御年貢ハ吉兵衛〆為納候様可申

渡平井郷左衛門〆山岡与左衛門被申聞通用

一 入牢博奕吉兵衛妻二階町市郎左衛門方ニ而出産致候由出生無之

一 昨晚幾野御代官所御廻米柳之土手ニ而俄中揚ニ有之候ニ付中上番

人〆町江通用相濟以後之儀山岡与左衛門〆申来リ則申渡ス

十月廿九日 晴

一〇〇〇〇村番子市兵衛於牢内不埒有之候旨牢番共申出今日牢屋江
番庄屋市之進召連頭喜平次差添惣頭九郎右衛門も罷出役人作右衛
門左助於牢屋呵申渡別ニ書付有略之

卅日 晴

一備中倉敷御代官所花木伝次郎殿手代高村弥右衛門杉田孫藏上中
下米相場大豆相場之儀飛脚来

一新魚町入江屋藤助家屋敷南側表口四間裏行拾四間但本役也東隣ハ
塩田屋加七西隣ハはりたヤ与平次代銀四百五拾匁町内ひめしヤ留

吉江壳渡し本証文十一月三日

一今町西田屋多助林田町油屋源六大坂ハ滞銀掛り合之追訴申渡日延
願書指出候十一月三日及御沙汰

願書指出候十一月三日及御沙汰

一大戸村久作江安岡町吉兵衛ハ返答書出

十一月朔日 雨

一今日御祝日ニ付御普代之面々登城日参例之通御赤飯不被下候

一備中倉敷上中下大豆平均相場付取に来ル今日相渡

二日 晴

一幾野江相場上中下大豆平均今日飛脚へ渡。野井乃上中下渡ス。勝
(生野) (乃井野)

山平均。西川平均

三日 晴

一衛守殿来歳御留主詰江戸被蒙仰於御用所各御悦得貴意

一若田屋左助当時町内岡崎屋善吉借屋吉兵衛と改大戸村久作江対し
返答書之儀御用番中へ及御沙汰候処乃井野役所へ遣候儀御聞届被

成候

一牢内之儀咎之儀書付を以御伺申上ル

一若田屋入札出銀貳貫七百三匁四分八厘書付認平井郷左衛門迄達候
売券出ル (マ)

此儀者其支配方之者候間惣様役所江差向其上ニ而郡代所江可渡

筋ニ候間先預り置候様ニ被申聞

一林田上之町吉田市郎右衛門母借屋ニ居候新次郎卅四才町内西屋次
同日廿三日引合済

三郎借屋へ引越

一坪井町鍵屋吉兵衛福渡町南側家屋敷表口五間裏行拾貳間但本役東
本証文同月四日ニ出

隣ハ皆木屋甚兵衛西隣紺屋文助銀札四百匁戸川町作人忠七ハ壳渡
本証文同十月六日出

一新職人町長八後家北側表口三間半裏行拾間老軒役東隣坂本屋源兵
衛西隣白銀屋宇兵衛銀札百五拾匁桶屋町作人善藏壳渡

一安岡町大坂屋宇八買若田屋家屋敷表口五間裏行拾四間半老軒役東
隣表屋長吉西隣ハ米屋重右衛門此度入札を以御払ニ相成私落札貳

貫目并貳拾歩一百匁上納致候旨

一同町木わたヤ治助買若田屋家屋敷表口四間半裏行拾四間半老軒貳

歩五厘役東隣ハ生綿屋治助西隣ハ小倉屋安次ニ而候右之家屋敷入

札ヲ以御払ニ成私落札ニ成買上仕銀札六百三拾目并貳拾歩一三拾

老匁五分上納致候由

一同町岡崎屋伊三郎若田屋古道具入札六拾六匁八分八厘

一同町若田屋借屋賃老々ヶ月分六匁六分是ハ御取上之後故上江可出ニ

付 貳貫七百三匁四分八厘売上也

十一月四日 晴

一当四口市宮弁当代拾四匁貳分市左衛門江渡

一 大戸村久作白砂江呼出し宿川崎屋又十郎同道乃井野両所江返書相渡ス一卷扣ニ記

五日 晴 六日 晴

一 錢九拾四文

一 下三軒屋昨晩迄ニ造作相済引移候旨中村豊治申出

一 ひちや勢州朝熊使憎休可坊悦忠坊岩藏坊上下六人例年之通旦那廻り

一 同人雲州杵築多工久大夫上下式人例年之通旦那廻り

七日 晴

一 桔梗屋高野万生院蜜藏上下式人旦那廻り

一 材木町鶴銅屋宇助紀州高野山宝蓮院使憎締円房上下式人例年之通旦那廻り

十一月八日 晴

一 大坂青木楠五郎殿申来候上中下大豆相場書御勘定奉行中へ相渡ス

一 戸田屋帯刀荷印大文字旅行之儀ニ付一統触可差出之旨御窺申上候処御用番与兵衛殿御家中町分もゞり付たるニ可有候間先致延引候様被申渡候

一 東新町紙屋左七日延願及御沙汰今日西田屋 油屋紙屋三通輿書ニ而大坂江差上し

九日 晴

一 大目付中廻状 来正月十四日(藩主康政生母)梅光院様廿三回御忌被為当候ニ付来ル十四日於泰安寺御取越御法事被仰付候且又来正月廿一日誓

(藩主康政兄・龜菊)
海院様十七回御忌被為当ニ付来ル廿一日於右同寺御取越御茶湯被仰付候此段及演達候様御用所御申ニ付申達候右之趣下略

一 京町田原屋伊兵衛はん州姫路江用事ニ付十一日立四十日計
十日 晴

一 錢九拾五文

十一日 晴 十二日 晴

一 上三軒屋やね繕出来之旨中尾清次届

一 小山屋与三右衛門松井屋左兵衛例年之通反魂丹売

一 船頭町金岡屋浅右衛門阿州川端村清兵衛例年之通藍玉売。同州成里村曾右衛門同断

一 戸川町古都河原町小松屋利兵衛江去ル未之年五百匁貸滞ニ付訴之出掛り合橋本町大坂屋和助福本屋浜七船頭町山家屋源七追々可取計

一 三町目若松屋多十郎南側ニ而表口九間裏行拾七間但老軒役西隣ハ浜野屋惣兵衛東ハ横町通ニて右之家屋敷銀札式貫目二町目猿屋吉右衛門江売渡し

一 河原町土橋損し同月十三日ニ申達ス

一 問屋平右衛門添役伝次相果候ニ付右之跡御用之儀粹源之丞へ申付具候様幼年ニ候得共御用向之義者如何様ニも仕候而私引受是迄之通差支無之様急度相勤可申段書付指出ス

一 安岡町菱屋多助助敷若田屋佐助地所質物ニ取置候処先達而証文之写指上候反別敵高村々庄屋役判有之候然ル処麦時節ニ候へハ右質入田畑之儀筋立候様被仰付被下度旨書付指出ス

一川口乙右衛門の孫十郎へ懸り再訴之趣同人へ申付候処今少シ日延之義断候ニ付則聞届相濟候様申渡ス尤及異変候得ハ日切申付候義孫右衛門江申含置候

十一月十三日 晴

一配当場城正申出梅香院様御布施十六日ニ相揃十七日ニ頂戴仕度旨今日御聞届夫々通用

一來ル十二月五日万人講伺御聞届被成候

一林田町松葉屋そのより夫甚助百日ニ及ひ行方不相知候ニ付人別離断書指出御聞届

一〇〇〇〇村穢多源助昨今村方の参候ニ付牢番共取替遣候届山岡与左衛門へ通用追而可致通達由

一大坂田中武兵衛今古川屋惣助一件先達而聞合之返事尤差遣候書面相戻り候別ニ有之

十四日 晴

一今日御法事ニ付今町へ作右衛門甚蔵例之通相詰ル

一目明シ源八文太已来者隔日ニ見廻り役所へ届ケ候様尤諸事致和順勘方心を付無別心申合せ候様部屋目付市左衛門於役所為立合申渡候

一幾野御城米櫛村川岸今今日積下シ注進申出候由山岡与左衛門の通用則大年寄へ例之通取計可申候旨申遣ス

十一月十五日 小雪

一平井郷左衛門へ明日牢番追込之儀申渡候ニ付御使組兩人替りニ申付度旨御勘定奉行へ被達被下候様申遣ス。三町目福谷屋伝助隠居

屋出火近刃火消出鎮候御届申達ス

一昨晚材木町東貫木之辺ニ而蔵合孫左衛門家来立之掛物拾ひ候間申出し候ニ付書付為出候

十六日 晴

一伏見町勇蔵追込ゆるし伺相濟

一牢番兩人追込申付ル代り番御使組兩人部屋目付中市左衛門同道勤方演達尤兩人呼出し候儀市左衛門の申聞候

一古川屋惣助今日呼出大坂表之趣得与申聞せ御番所江押而罷出候儀ハ聞届かたく候間何分暖を入内濟之心得致候様申渡

一エタ頭太兵衛九郎右衛門郡代所江通用之上肝煎庄屋召連来玄関前ニ而牢内より申渡し候但此ヶ条ハ明日之所ニ可記也

十七日 晴

一勇蔵追込差免孫右衛門宅作右衛門立合大年寄兩人親忠三郎へ向後之教訓身持方端預申渡他参ハ差留御領分徘徊ハ無構御届申達

一梅光院様御法事ニ付座頭共御布施被下市左衛門作右衛門罷出候ノ五百八拾三匁。在名式人。はれ衆分老人。衆分八拾九人。過仙

一人打掛拾式人。初心式拾老人。寿名拾老人。小替女老人ノ百三拾八人配当場入用共十八日ニ差出ス

十一月十八日 晴

一万人講ニ付郡代西尾多内大沢三平罷出候例之通御用番与兵衛殿へ御届罷越候大目付中へハ手紙遣ス。札高壹万三千四百拾九枚此銀

札六拾七貫九拾五匁内廿貫百式十八匁五分三步引残而四拾六貫九百六拾六匁五分六拾番ニ割。一番式貫拾式匁八分五厘。拾番老貫

三百四拾壹匁四分。(九)式十番同卅番八貫五百壹匁四分。四拾番壹貫三百四拾壹匁九分。五十番同。六拾番三貫八十六匁間々五百三拾六匁七分六厘

一 伯州穴鴨村幸之丞と申者紙入落し候処拾ひ候もの有之 人京町かけや四郎兵衛両印にて相渡し遣候

一 去ル十五日福谷屋伝助失火ニ付追込可申付旨山岡与左衛門を以同御聞届同月十九日追込申付候

一 西新町岸屋茂助大隅宮ニ而社内を借明十九日稽古相撲為取申度願出宮方在方々も同様願山岡与左衛門を以同候処無御聞届御差留と申筋ニハ無之右場所花等ニても取集候儀ニて無之稽古相撲ニ候ハ、其所得与相糺シ重而相願候儀ニ候へ者其節御評儀可有御坐旨

一 今日六拾番上り札文句勝北郡梶並庄真鍬村与右衛門長畑氏と有之。ゑちこ様のすゝめにて津山のうらの大はくちいちとはつてはりあけた。此通ニ付同心共々今日ハ難渡候相扣られ候様申置届出候ニ付早刻郷左衛門ニ參談何分相渡し可遣併言葉詰致し可然旨達候所尤之由被申聞御用番中ニも拙者致承知候段可及御尊候旨被申候

十一月十九日 晴

一 札渡市左衛門作右衛門喜作罷出る下代勘八出梶並与右衛門同人親孫七一札取之元来無筆宿元ニ而大勢居何方之者共不存文句書申候故相頼申候処上り札文句承り恐入候由文句一向好候儀無之旨宿ハ林田積屋權(七)各印形請人ハ小性町やね屋源太郎委細袋ニ入置

一 三町目福谷屋伝助出火ニ付追込

廿日 晴

一出雲中官西村神大夫御師上下四人旦那廻り桔梗屋庄右衛門一大坂村尾彦右衛門御用状田中武兵衛上京ニ付一部ニ入置

廿一日 晴

一 隣国ニ盜賊徘徊物恩ニ付非人加廻り取計候両御方へ申達置

一 博奕入牢五人之者共出牢申付。藤吉他參留親吉兵衛へ預ケ。若元屋浅吉他參無構身持親へ預。魚町与八伴松之助他參無構身持親預。漆屋喜七組合へ身持預他參無構。作人吉兵衛引請堺屋伊助預身持之儀喜七同断

廿二日 晴

一 西新町奈良屋源兵衛後家英田郡福本村小三郎弟八十八養子掣引受候処此度不縁之断人別除

一 山本三右衛門悴虎市廿才三年以前伯州江尻村徳岡三郎兵衛遣候処不縁之断人別入

一 山手屋弥右衛門元魚町西側家屋敷表口四間裏行十七間壹軒役南隣縫屋惣兵衛北ハ下こん町通り筋銀札四百同町おけや伊三郎へ売渡

廿三日 晴

一 三町目福谷屋伝助追込差免御届申達ス

一 問屋場平右衛門添役伝次相果候得共悴源之丞ニ付是追之通御用向急度無滞様引請相動可申旨書付差出御勘定奉行中へ引合置及御沙汰

一 式拾五人之馬持共老人式表半ツ、拜借大豆願申上候処御聞届被成候

一 武田屋今吉家来昨廿二日三町め福永屋藤助前ニテ米納通拾候旨斷

一 出山岡与左衛門江通用之上及御沙汰

一 京都愛宕山長床坊使僧常意坊上下三人昨日入小性町肥地屋兵藏

一 御蔵米五拾三匁五分四拾九匁五分(附米)

一 一疋屋与四兵衛京都へ明廿四日出立往来十五日

十一月廿四日 晴

一 講元共今来月五日万人講延引仕度断書指出ス文段之大旨年来私共願御聞届被下相統仕町方御蔭を以商内繁昌仕難有来月五日之儀も

御聞届被下追々用意も仕候然処相考見申候処先月之講今日数も無御坐寄之程も難計其上恐入儀も御座候ニ付来月五日之儀ハ延引仕度旨

度旨

右ニ付早刻与兵衛殿へ及御沙汰候処追付御手紙ニ講元共断之

通御聞届被成候旨被仰下郷左衛門江も其段相達し大年寄共江

申遣候諸方へ延引之為知出す橋之建札ハ引跡江小札ニ張紙

一 暮田村落通ひ古城東村是助江武田屋今吉ハ相渡候旨届ル御届申達ス

廿五日 晴

一 牢番兩人追込差免左五兵衛於宅目付立合申渡

一 おけヤ町年寄勘右衛門病死致し届承置

十一月廿六日 晴

一 大目付中ハ廻状 從江戸表飛脚到来殿様倍御機能被成御座当月(續欠)

十三日為上使朽木鞆負殿御越御鷹之雁御拜領被成候之段申来恐悅之御事ニ候因是為御歎御帳付候間明後廿八日辰中刻ハ巳中刻迄之内登城可有之此旨同役同列組合并支配かた江も可被為達候

廿七日 晴

一 河内屋林蔵切手阿州高尾村新兵衛 一本 高原村直兵衛同手代平左衛門 一本 芝原村米次郎 一本 右三通藍玉壳

一 新屋喜兵衛出牢禁足申付置候処在方ニ懸米人を以催促候へ共一向集り不申当日渡世送り兼候ニ付組合親類共歎書同日廿八日郷左衛門江談候得共余例ニもいか不取上

不取上

一 小性町小山屋徳次郎今泉和平次家来光井礮右衛門光井柳碩と改号医道修行致度引受当町人別入

一 坪井町ふしヤ新次身職人町藤原屋武八持来古道具取売相止右跡相勤度

一 材木町福中屋多介林田村弥右衛門悴安次郎拾三養子ニ引受

廿八日 晴

一 □□村非人番関助置質物之儀去月十六日日記ニ有之候以来右村ハ

□□村懸り合先村ニ関助同類盗人も捕へ有之尤質ハ関介引受候歎

彼やトニ手札残り有之先村紛失之品質屋有物と内々引合セ候処不

定候ニ付町方尋呉候様山岡与左衛門被申聞相廻り候扣を以尋させ

候処去ル廿五日迄ニ申出粗無相違ニ付平井郷左衛門江も噂致し与

左衛門江質屋共書付扣書共ニ相渡候

一 小性町土橋損シ及御沙汰大目付所江例之通相廻

一 山北村喜兵衛方被盜もの町方へ尋之儀与左衛門頼ニ付則申合候

一 今日諸士登城御悦御帳付退出後廻勤

十一月廿九日 晴

一 京町今出屋半兵衛阿州中原村兵助手代平兵衛。同州桑島村平次兵

衛手代長右衛門善兵衛式人。同州同村武右衛門手代与一兵衛右三
通例年之通藍玉売

卅日 晴 夜中小雪

一 小頭左五兵衛近所歩行之斷聞届

十二月朔日 晴

一 東新町かちヤ多七家屋敷北側表口式間裏行拾七間但五歩役東隣か
ちヤ治兵衛西隣ハかちヤ市兵衛代銀札四百目町内同人江売此家去
未二月市兵衛取次質式百目此度請返之上

一 三町目若松屋多十郎宝曆八寅五百目并括銀札三百六拾目都合八百

六拾目開封願同月八日御聞届被成候

一 官脇町籠屋いセ願夫源次郎去ル六月家出之届申出候処百日相立人
別除申出同月三日及御沙汰済

一 吹屋町沢屋惣左衛門阿州永留村藍屋重藏手代太七郎式人。同州鶴

島浦藍屋喜右衛門藍玉売式通

二日 晴

一 土岐美濃守殿内作州海内秋田善左衛門ハ添簡英田郡海田村伊八郎
ハ訴訟身職人町綿屋左助相手ニ而紙代銀残百式拾叁匁三分当四月

売同五月二日切手形取候処一向払不申御年貢差支難儀致し候ニ而

呼出し相済候様申付くれ候様願書一件左助嘉右衛門先達而掛り合

一件ニ入置候

三日 晴

一 今日ワたヤ并藤屋呼出し秋田善左衛門添簡之趣申渡候尤綿屋左助

を相手取候ニ付同人江濟候ニ付加右衛門江ハ左助江払候様ニ呵候
是ハ先達而ふし屋ハワたヤ江濟口申渡候へ共伊八相手之訳有之候

一 土岐殿内秋田善左衛門添簡之趣及御沙汰候

一 安岡町若屋ハ相納候銀札勘定所江相納可申旨郷左衛門被申聞尤山

岡与左衛門江かけ合置。今日古郡訴訟掛り合呼
出し一部袋ニ入置候

十二月四日 晴 五日 晴

一 大目付中ハ廻状 御留場之内網ワなはこの類ニ而殺生致ものも

有之様粗相聞不埒之至ニ候兼而被仰付候通心得違有之間敷御目付

之者無用捨申出候様申付置候尤小鳥殺生ハ不苦候此旨可被相心得

候右之趣同役并支配方へも可被相達候

一 来ルハ日寒氣為伺御機嫌御帳付候間巳之刻出仕可有之候此旨――

十二月五日 海老原鈴木平井 三氏ハ

一 材木町多四郎願中之町西屋治右衛門借屋板屋庄兵衛へ林田町和田

屋清六処ニ有之押白貸候儀山北村庄右衛門と渡り合右庄兵衛江渡

候処当月廿五日立退候ニ付右白兩人江相戻り候様断

一 中之町西屋次三郎断板屋庄兵衛去月廿日家内夫婦家出断

一 戸川町作人長兵衛家屋敷南側ニ而家屋敷表口式間裏行十六半但半

役西隣作人藤八東隣作屋庄兵衛百七拾匁町内板屋源「」売

一 魚住伊予守参例之通扇子持参

五日 晴

一 境屋伊右衛門ハ御炊大夫手代森田長左衛門例年之通旦那廻り。藤

波神手代北村留次郎

一 吹屋金屋善助借屋喜助松平遠江守殿領分播州赤穂郡尾長谷村与三

太郎後家娘とわ卅七才此度娘ニ貰

一組屋勘十郎願例歳手絞仕候当年実数余分有之候と相見候ニ付実相
場相知候ため先二三艘積下解売紛敷□之大坂^江積問屋売仕切孫右
衛門方へ差出尤広四郎方先達而取計^一 一ヲ以大坂問屋^江売
渡問屋^ハ御蔵屋敷へ送り手形持参ニ而相済可申旨此度^ハ之儀ハ
如何様共御差図可蒙之旨先二三艘積登相場承り申度旨同月八日及
御沙汰御聞届被成候

一酒改共申出^去申去十二月直段^モ分上り被仰付候然^ル米直段追々下
直ニ付去十二月之通^モ分下り商買仕度旨同月八日御聞届被成候

一材木町入江屋藤介歎宝曆八寅才御封印百目開封願同月^一御聞届

一^一屋源助^ハ入江屋藤助家質之儀^ハ済口書付差出ス

一^一身職人町綿屋佐助^ハ海田村伊八郎へ紙代^ハ払切同人^ハも済口之書付

差出。佐助^江者坪井町年寄并藤屋嘉右衛門組合共^ハ右代銀札来ル

廿日迄急度相済可申異変致候ハ、相并可申旨書付出候

十二月六日 晴

一おけや町作人元右衛門と申者之宅前に廿余り之病女行倒近刃打□

相尋候得共居処不相知言舌不通則元右衛門宅^江引入養生致し遣候

処今朝相果候旨申出候ニ付町分急触ニ取計知音之者心掛も候ハ、

可申出無其儀於後日相知候ハ、越□可申付旨同時目明^モ申付候

処塚町ふし屋孫三^一 一^一三右衛門と申者之方ニ二三日以前^モ追居

申たる女之由追々相^一□書翌日ニ出せん頭町田原屋かしや伝五

郎夫^ハ細工町山伏教^一□以上三人^ハ書付取之今夕桶屋町年寄次郎

右衛門^ハ全間村徳右衛門^ハ右之女ニ親之趣相聞候ニ付飛札差越候

此段御用番衛守殿へ粗申上置大目付中同断

一海内^ハ一件事済候ニ付返書遣候旨向御方^江申達ス

七日 晴

一御蔵米五拾目五分町米四拾六匁五分

一安岡町藤十郎俸左兵衛大庭郡久世村^江出職追願来成^ハ寅才迄又々

五ヶ年

一中之町組屋藤吉借屋作人伝助^卅三人親^六六人妻^七七林田

上之町七介引請

一か治町かちや六十郎娘霜北側表口式間半裏行拾七間但^一□役□隣

かちや定吉西隣かちや太郎兵衛後家也銀札八百目同町かちや松之

助^江売

十二月八日 晴

一寒中御機嫌伺御帳付

一三津屋平右衛門^問方老女広四郎実母相果届

一真壁村市太郎今町^ハ安岡町之間ニ而西口^川通落候ニ付町触候様大

目付中^ハ被申聞則山岡与左衛門^江もかけ合今日触

一竹田村市郎右衛門越訴致候事ニ付入牢被申付例之通牢手形取計□

一今夕御金荷泊り候由届出候

九日 晴

一^一全間村徳右衛門^代屋^ハ大坂屋次郎右衛門^江返書来向々方拾何年以

前致欠^一□申達し候当村帳外ものニ候間不及見届候間御法式に御

取計可被成旨申来候ニ付大谷村清右衛門方^江死女之一条六才之小

児成長之上如何可存之処郡代所^江尋を相頼候段粗申上候

一 古都掛り合ニ付小松屋利兵衛申渡町追払申付西「」年寄見届書付取帰中山伝内神田権兵衛訴訟方古「」呼出し呵込内借致候山橋元町 同上家屋源吉福本ヤ浜七大坂屋「」等ハ禁足申付候一部袋に入

十日 晴

一 藤森喜作方厄介兵作病死致候由届喜作 伯父

一 眞壁村通落シ市太郎書付昨七日今町安岡町之間ニ而及右之通イ

一 八川戸西口御藏通之由也大目付中も被申聞則日触出

一 堺町さかいヤ播州ワたヤ嘉市手代忠七昨日入

十一日 晴

一 おけヤ町死女掛り合之三人江葬申付候処妙願寺江相頼候由本証文同月十日出

一 加治町横野屋小太郎家屋敷かち町北側ニ而表口式間裏行十「」半役東隣かちヤ和兵衛西隣私ニ而銀札六百目町内かち和兵衛へ売

十二月十二日 晴

一 桶屋町倒死之女三人之者町々々葬候旨届出候

一 追廻郷藏積切相濟候由孫十郎届此一件追々筋口付さ其町奉行日記に不相見候

一 吹屋町北村屋弥七々同町中市屋六四郎家屋敷之訊九年以前田新十郎御暇出候節母儀ハ町人之儀ニ付存寄申候処当分先「」家ハ

親類ニ付親孫七へ引請候様被仰聞其砌年寄江も達「」以来役事於于今相勤来候由当町之年寄市郎右衛門も書付新十郎御暇出候節ハ先役瓜生原屋七郎左衛門吹屋八左衛門相勤人別帳面等も仕来を以取計候旨何分不調法仕候段申出候

同月十六日証文出

一 安岡町神目屋勘右衛門南側家屋敷表口三間裏行九間但三步三厘東隣大坂屋宇八西隣井手屋茂市来戌九月切宇八江質入「」

一 船頭町瓜生原屋平兵衛家屋敷表口參間裏行西方式間口分八間「」東老間口之分八間老尺九寸但七分五厘東隣大工六兵衛西隣米屋平「」東方表口老間裏行八間老尺九寸但式歩五厘之所銀札六拾目極

大工六兵衛江売此儀追々御勘定所江もかけ合届立可申

一 講元歎書去ル未正月万人講天氣悪敷寄無数諸入用算用「」之不足銀五百拾六匁老分足銀仕方無御坐無抛私共借入仕是迄日を送り申候當時節柄悪敷迷惑仕候何とそ御勘弁可被下之旨

十三日 晴

一 此間申付候橋元町大坂屋和七福本屋浜七禁足指免候

一 組屋勘十郎綿実大坂問屋大川町尾道屋与三兵衛方へ積登申度尤吉ケ原小桁通切手且又大坂御藏屋敷へ問屋与三兵衛「」

一 生綿実何百何三拾表マ但此實数正味何百何拾貫目 右ハ大坂生綿実問屋大川町尾道屋与三兵衛方江積登申候ニ付送り手形仍

而如件

年号月日 津山生綿実荷主くみ屋勘十郎印

津山御藏屋敷

改 斎藤孫右衛門印

御役人中様

此趣を以問屋御屋敷へ持參毎年七月積仕込ニ致し御番所通り切手口引合候得者解売之紛敷儀無之此上幾重ニも御差図之上御ハ候儀ハ取計可申旨申出則及御沙汰候処御聞届被成大目付所江も達

一 桶屋町死女之儀親類今日及御沙汰候処郡代所江かけ合小女之儀ハ大谷村清右衛門可引受筋ニ当り候様ニも被思召尤山岡与左衛門と

も申談候

一安岡町若田屋家屋敷借屋諸道具家賃入札銀札高式貫七百三匁四分八厘郡代山岡与左衛門_江相渡受取手形有之

十二月十四日 晴

一古都一件ニ付禁足申付置候船頭町山家屋源吉差免

一西川役所_ハ例之通通谷紙到来

十五日 晴

一今日田原屋重次郎_名祇呼出し親六兵衛粉村屋伊助兩人も同断御藏

元彦兵衛年寄今津屋孫十郎罷出部類袋ニ入置候

一東新町米屋道休南側家屋敷表口式間裏行十七間但老步五厘老毛東

五木屋西中元屋代銀札四百匁五木屋源助へ売

一船頭町泉屋銀兵衛当二月大坂へ七年切奉公罷出候所病氣ニ付今般

帰宅

一船頭町瓜生原屋売券

十二月十六日 晴

一竹田村市郎右衛門郡代所_江呼出し候ニ付牢屋_江伝内出る

一安岡町久米屋友七年寄役申付候

一竹田村源右衛門と申者入牢ニ付甚蔵出る

一真壁村落通神代村之者拾候もの有之受取候由為知

〔欄〕一元魚町出拔之土橋穴明届ル十八日及御沙汰

一京町ぬし甚六親甚七所持之家屋敷京町北側表口四間裏行七間但三

步役甚七存生之内弟次男兵吉へ相讓度兵吉名代

十七日 晴

一備中小坂部中島幸右衛門中島幸助_ハ来書例之通紙二束到来近藤武左衛門出府ニ付兩人_ハ申越候由

十八日 晴

一牢中医師遣し藥礼式拾五匁計一服ニ付三分ツ、一廻り四匁今日大

目付中へ申達ス尤牢番共_ハ書付出ス

一玉置広四郎実母忌中之処時節柄ニ付仕之切紙遣ス

一桶屋町元右衛門同町組頭共呼出し死女之儀不慮之世話致候儀詞之

褒美申聞候

一同心藤森喜作娘不幸ニ付吊料之儀申達ス

一及御沙汰
一今町西田屋多助大坂塩屋甚三郎懸り合落口致し届状遣ス

一組屋勘十郎大坂問屋_江綿実積登候趣書付を以村尾彦右衛門_江申遣

ス

一富突と名付博奕ニ紛敷儀御停止之趣公儀_ハ之御触書大目付海老原

右兵衛_ハ被相渡書留西尾多内へ相廻ス町方へ相触候

十九日 晴

一三付屋幸三郎姉京十年以前当国柿原村伝九郎養女不縁ニ付此度引

取

一東新町米屋道休_{五十}當時独身病身ニ付此度宮尾村簀林蔵と申者之

方へ引越一跡人別離願同月廿三日及御沙汰

一東新町くら敷屋左兵衛北側ニ而家屋敷表口式間半裏行拾七間但式

步五厘同町おけや平五郎へ質に入三百匁同月廿二日証文出

十二月廿日 晴

一江戸御屋敷ニ而御家中御触之趣御門前を乗打かふりもの致間敷候

事古格ニ候処猥ニ相成又御長屋内ニ而帶刀不埒ニ相成家事之外武
芸学問等不心懸之趣向後者御慎候様御文段也

一材木町大工伊助西新町所持之家屋敷南側表口三間裏行拾七間但土
手切三步役六百五拾匁西新町高松屋孫市へ売

廿一日 晴 廿二日 晴

一茅町森永屋源兵衛南側家屋敷表口四間四尺七寸五分裏行十七間役
三步質入坂本屋佐助寛政三亥月相済三百匁借同月廿四日証文

一中之町高尾屋勘助へ同町平岡屋忠右衛門(マ)口入切手六拾表申十月
取次此度貸方先取立候ニ付訴状差出ス

(マ) 廿三日 晴

一入馬問屋平右衛門給米受取証文出ス 伝次傳十月迄相勤候ニ付替積
而度商人分也六表相受取候積

一三軒屋豊次服薬之員数書付差出拙者方服薬書付出ス

一当十月十六日之日記大坂屋宇八方質物之一件二宮村の宮尾村へ懸
り合町々所々ニ盗もの質に取候者相知逃候閑助宅ニ質之手札有之

是を以質屋を尋くれ候様山岡与左衛門ハ頼ニ付尋させ候処手札ニ
合候ニ付及通達候然上ハ先村へ郡代所引渡遣度旨ニ付一件存寄

申上候処何分盗もの無相違間先役所申来可渡ニ候ハ、表に不出
相渡候様に可致哉と平井郷左衛門被申聞候ニ付指而存寄も無御座
ニ付其段奉畏候旨御答申達し尤山岡与左衛門とも申談候

十二月廿四日 晴

一九拾四文遣届

廿五日 晴 今夜雨

一九拾三文。中之町福井屋源十郎去未年願家内四人土屋建次郎殿領

分福井屋孫右衛門由緒ニ付引受当酉迄三年出職致候処来戌子迄
追願

一伏見町帶屋源次借屋喜三郎断当廿日夜五半時風呂屋江參候留主へ
盗入別紙之通紛失致候旨届出則日廻り喜作軍次兩人吟味ニ遣候

一吹屋町中市屋宗助後家倅塚田新十郎退散之席立合之役人ハ差図ニ
付引退右家屋敷ハ同町北村屋弥七引請諸役相勤候へ共売買又ハ譲

り願も無之甚不埒ニ相聞候旁大年寄共江宜筋付候様申含候処新魚
町黒田屋宇兵衛右之後家を引請倅藤吉ニ相統致させ度後家相頼

候ニ付歎書差出ス追々可及御沙汰

一伏見町帶屋源次組合預申付候処何となく右紛失之趣同人江疑をか
け候而ハりを願候ニ付大家之身として間近キ借屋喜三郎方変に逢

候を乍存翌日勝山江罷越候事不審も相懸候ニ付万一彼を取逃候而
者吟味之手懸り無之儀ニ付為念手錠預申付候廻り作右衛門左助ハ

取計セ候同月廿六日平井郷左衛門へ申達置

廿六日 晴 夜小雨

一坪井役所滝口忠藏歳末書翰纏節同月廿八日ニ達ス廿到来返書遣ス

廿七日 晴

一大目付中ハ廻状 江戸表ハ飛脚到来殿様倍御機嫌能被成御座当
月十七日御老中御連名御奉書御到来翌十八日四時御登城被遊候

於御白書院御老中御列座松平右近將監殿被任侍従上意被仰渡之段
申来恐悦之御事ニ候右為御歎御帳付候間明後廿八日辰之中刻ハ巳

之中刻迄之内登城可有之候右之趣同役并支配方江も可被相達候
即刻組中町方例之通触出候

一 二宮村の宮尾村懸り合町方ニ取置盜賊物相調山岡与左衛門江引渡
市左衛門軍次両度に差添道ス。右質物取上候ハ関助宅に有之候手
札と先村通用之品と符合之品計被相渡候ニ付其余ハ被相返候ニ付
夫々預ケいつ方受ニ参候共預候分ハ届及差図可申旨大年寄共ハ

為申渡候

同月廿八日御勘定所江奥印を以相納

〔雜〕 去夏方願御聞届被成元魚町懸合問屋冥加銀札四百九匁八分当六月

の十一月迄商内米高老万八千百貳拾石但老枚ニ付貳拾石ツ、合九

百六枚此冥加銀札三百六拾貳匁四分老枚ニ付四分ツ、綿高貳千三

百七拾本但老枚ニ付拾本ツ、札貼懸貳百三拾七枚此冥加銀札四拾七

匁四分老枚ニ付貳分ツ、

一 材木町柵屋忠助并幸助六助喜三郎一件ニ付不審懸り如何付大年寄

宅へ呼出し尋申付候一部ニ有之候他参差留ル

十二月廿八日 晴

一 御帳付御歛廻勤

一 三丁目浜野屋善十郎病死致候旨及御沙汰

一 二宮村関助懸り合ニ付宮尾村庄屋安岡町年寄共へ来書同町大坂屋

宇八方質物手札無之分ハ郡代所ハ相戻し候ニ付彼方へ返渡候処先

達而被盜候当人ハ三品可相請取旨申来候得共手札無之もの可相渡

筋無之候ニ付食着ニ不及候処其儀双方書面かけ合も致候由

一 今夕山岡与左衛門ハ関助懸り合ふとん夜着以上三ツ被返候其外之

質札取揃被差越候委細外ニ扣有

十二月廿九日 雨

一 上紺屋町小山屋右衛門ハ願徳守宮地内に居申候伊駒屋左助当西

五拾七歳妻せつ四十六歳右式人私縁類有之候処此度ハ町内江御入
被下私方へ引請渡世為送申度奉存候旨徳守宮神主ニおるて何之聊
も無之由右寺社取次西尾多内へ引合尚又何方ハ書付申出候由申談
濟聞届候

一 宮ワキ町松屋伊左衛門願北側家屋敷表口五間裏行町並拾老間但五

歩役東隣田中屋宇兵衛西隣武田屋今吉右之家銀札四貫目上紺屋町

小山屋右衛門引受伊駒屋佐助江売渡

一 今日歳暮廻勤御省略御年限ニ付在宿

安永九庚子年正月ヨリ
十二月迄

御用日記

三十三 大沢三平
後藤守助

(表紙)

正月元日 晴

一辰上刻諸士登城於桜之間御帳付御縁側ニ而御名代御家老造酒之助(永見)

殿御受礼有之右畢而当役大沢三平郡代山岡与左衛門御勘定奉行栗

田只次近藤伊左衛門郡代添役北郷門兵衛御用所ニ而年頭御祝儀申(大態)

□御家老勘解由殿御年寄衛守殿御出仕一学殿御当病出仕無之(山田)

一京町吉田屋喜次郎来ル四日ニ禁足免候様致度旨磯野伊兵衛於御城

通用

二日 晴 □夕雪(不詳)

一御藏米卅八匁五分町米卅四匁五分

一今日御用初日参各出仕当役大沢三平郡代山岡与左衛門御勘定奉行

栗田唯次近藤伊左衛門郡代添役北郷門兵衛御藏奉行金井伝七松岡

治部助御金奉行天野郡太川口小弥太御用所へ出座御用初御祝詞一

同述之御城下町一統御静謐之旨申上引統七間廊下御吸物御酒頂戴

大目付所江御礼相述る

一大年寄札元并補欠之面々杯事畢而例之通御酒出□

正月三日 雪

一町方礼廻大旨去春之通

四日 曇 今日出勤不致

一人参売中江忠三郎今日出立

一京町吉田屋喜次郎禁足免ス磯野伊兵衛へ通用

五日 夜雨 今日ハ晴

一乃井野川端代八福井清大夫ハ錢相場付并年頭礼書来同六日調進

六日 晴風立

一藏元文五郎杯事町方年寄共对面昼後ハ孫右衛門繰出し孫右衛門名

披露小頭市左衛門部屋目付伝内□

七日 晴

一西川永松太惣左衛門田中清右衛門ハ年頭書来ル

一祇園三位ハ扇子札持参

一瀧口与次右衛門ハ年頭書

八日 晴

一当年人别改ニ相当り候之旨得其意候様平井郷左衛門被申聞尤山岡

与左衛門江掛ケ合候様被申聞候

一来十六日支配方登城之書付大目付所江差出ス

正月九日 晴

一大目付中ハ廻文 来ル十七日宝珠院様百廻御忌被為当候ニ付於(光長珠・疋)親主夫心

越州長恩寺御茶湯被仰付候此段及演達候様御用所御申ニ付申達候

右之□同役並支配かた江も可被相達候 正月九日

一 今町角屋宇助組合預申付る

十日 晴

源和十三年中島屋文助方へ通

一 英田郡頭蜜寺入来扇子并三折持参栗田只次分承書一件礼文

一 三町目川口市右衛門願位田村十右衛門娘分みな十五才分從弟之由此度

引受

一 今町湯田屋伝八願西川領久米北条郡桑上村甚八娘十六才此度養女

引受

十一日 晴 十二日 晴 夜ニ入雨

一 大盤般若御執行畢而御用所へ恐悦申上ル

十三日 晴

一 勝山渡部唐兵衛戸村源五右衛門分年頭礼状到来返書遣ス

十四日 晴 十五日 晴

一 三町目川口市右衛門分引受本証文出ス

一 一季かヤ町甚右衛門娘いち廿三才此度山西村義八妻に遣シ

一 材木町大和屋清八分悻清八大庭郡原形村兼先瀬吉へ出職先達遣シ

置候処此度帰り

一 坪井町浜の屋嘉市郎妹るい備前赤坂周迎金屋常右衛門妻遣シ

正月十六日 昨夜雪 今日晴

一 諸士登城御具足御祝義例格芥子之間御連坐隨而宇治橋之間赤見類

助鈴木此右衛門平井郷左衛門大沢三平頂戴相濟畢而御祝儀被下難

有奉存候旨御礼申上候

一 引統御用番衛守殿大書院出座被成其外例之通座諸士御祝儀頂戴

濟差統当役御郡代添役共三人御用所へ罷出御祝儀相濟恐悦申上畢

而左之通場所謂へ郡代中申合平井郷左衛門江申達ス

松之間御縁側并居させ御家老中御

年寄中松之間へ御出平井郷左衛門

下段東之方町奉行西之方下段ニ罷

有何も年頭御祝義申上候旨取合名

披露ニ不及

中之口北を頭に鍵之手ニ並居段橋

之下北を頭に大庄屋と少隔御家老

中御年寄銀鷺之間へ御出平井郷左

衛門上段蘭際着座町奉行北之方下

段ニ付名披露年頭御祝儀何も申上

候旨述之役名ハ不申候統而郡代添

役共ニ連座披露大庄屋分追々大年

寄込引取此時御家老御年寄屏風之

内へ御入座此間ニ姫路屋彦兵衛老

人同所江出し名披露畢而為開直ニ

御退出被成候 今日当病左之通

藏合孫左衛門 山本三右衛門 玉置宇左衛門 植月孫四郎

山本平右衛門 熊野屋文五郎

一同心組并牢屋兩人三軒屋兩人杯事濟牢屋中間酒吸物遣ス各去歳之

通

正月十七日 晴 小雪折々風 十八日 晴寒風

一 祇園三位分御礼献ス孫左衛門足痛ニ付広四郎名代

岩佐幸碩

川嶋桃庵

北山周斎

中島清庵

阿部周益

斎藤孫右衛門

玉置広四郎

川口藤十郎

武田七郎兵衛

茂渡莊右衛門

妹尾平兵衛

三船八郎右衛門

姫路屋彦兵衛

御蔵元 計方上記ス

十九日 晴風有

一魚住伊予守の年礼状宇治青松寺京都中江弥左衛門の同断

廿日 晴 廿一日 晴 兩日寒風

一江戸表海老原右兵衛三原金大夫渡部与十郎の大年寄歳暮御祝義献上披露遂候旨書状則大年寄へ相渡礼廻受

一水谷但馬守殿内鈴木甚大夫へ相廻候相場付受取手紙岡村要助の書状添来

一坪井町浜野屋嘉市妹周迎へ川切手婦人主従御藏元調印

一下紺町松元屋長松因州吉川屋忠五郎方へ廿四日出四十日計(屋久)

一山岡与左衛門の新田村広原古地並畑辺ニ昨廿日行倒長右衛門と申者道心者淨円方ニ泊らせ候由申口書相廻る長右衛門町方ニ懸り合有之

廿二日 晴寒風

一淨円書付を以坪井町鍵屋吉兵衛へ尋口上書右長右衛門儀先達こんヤ町借屋に置候由其後灰屋善五郎方へ宿替口上書(町久)其外下紺屋平右衛門口書有明日山岡与左衛門可相廻也

廿三日 晴寒風

一吹屋金屋次郎左衛門借屋七郎兵衛粹熊吉不所存者ニ付勘当願及御沙汰

一淨円書付与左衛門返却町方にて借屋置候吟味書渡ス拘り無之ニ付其段大年寄申聞ス

一平井郷左衛門の於勘定所大札八百三拾三匁余紛失致候間近藤伊左衛門掛ヶ合町方へ可然取計候様被申聞候即晚町々年寄共へ孫右

衛門於宅為申聞□触書ハ不出候子細ハ大札引替ハ勿論老貫目式貫目又ハ六百目なと日々取扱ハ両替屋下地其外融通致候惣ノ金銀米錢穀類差物島類(つゞ)ハ記し無之候然ルに大札之触候而者風下方疑心□殊ニハ銀札場故障ニも可成役所計之厚薄ニも掛りいつれニも容易ニ取計難成ニ付先年寄共計へ為知候并目明とも江も万端心を配り候様ニ申含メ候追々趣意を可「」

正月廿四日 晴

一役所切承り屋又候り申出候牢舎一宮山方万助籠食廿一日之朝持參之処廿二日之朝右入もの、内角塵紙ニ喰ものを詔候書面有之年番共及吟味候処昨日重箱之胞(つゞ)ニ筆墨入候と相見へ尤例之通十文字ハ入候得共其箱ハかわの胞(つゞ)に有之「」ニ不当候由

一中買留次郎勝手ニ付元魚町豊島屋今七由緒ニ付相讓申度聞届

一東新町岩屋文藏願兄善六廿七才摂州大坂瀬戸物町天津屋清八方へ

引受人別離

一月六日ニ証文出

一伏見町小田屋幸吉北側ニ而家屋敷表口式間裏行拾三間半御堀石垣切但三步役東隣紙屋伝吉西隣能勢屋勇次郎百五拾匁町内福田屋守

助江壳渡

一西今町玉屋吉右衛門妙願寺長屋ニ罷有善兵衛と申もの此度借屋江引越申由渡世為仕度

一茂渡庄右衛門家守助七先達而福渡町さわや家守忠助借屋ニ罷在候

市助と申者去ル西□月借屋ニ置候処去十一月下旬行方不相知家財年寄に預ヶ尋申付候

正月廿五日 晴 廿六日 晴

一 下紺屋町桶屋文太郎(2)今迄自分長屋ニ差置候宇助当子六十式才此度手前へ引請申度町内人別入

一 上紺屋町小山屋岩右衛門借屋喜助断去ル十四日之夕五ツ時分他出留守へ盗人入紛失もの付触流し相願取計

一 東新町吉ヤ市右衛門娘つち当子十六才下高倉村喜助養女ニ差遣し申度

一 中買共二丁目浜本屋義兵衛儀当子十七才当時浜本屋喜助株明居申候間中間に差加中間役相勤させ申度願

一 西今町直屋惣十郎年寄役不勝手ニ付役免願聞届跡役車屋七郎右衛門江申付る

一 二丁目福永屋藤助酒役に申付る

一 鍛冶町又兵衛五願十年以前町内文六へ三百七拾匁家屋敷売候処其節式百七拾匁受取残り百匁滞候を町内嘉右衛門扱午之春三拾匁(生野)ツ、五年賦滞候ニ付願書出る急度為払候様申渡ス

一 幾野御代官小林孫四郎殿手代小野三郎次六書状到来当分預り所久米北条郡錦織東村庄屋伝左衛門借屋ニ罷有候源次郎方へ林田中之町平助当十七日之夜参り口論仕平助へ源次郎疵為負村役人共罷越見届医師かけ療治致林田町口之町役人へ右之段村役人共掛ケ合候処同町人別帳外之者之由返答「レ之旨訴出候付今般」見分吟味罷越候然処右平助義深疵ニ御座候哉当廿一日致落命候之段尚又相届候弥右平助儀林田中之町人別帳外之ものニ相違無御坐候哉出生御城下町之者に御座候ハ、親類等可有御座儀と奉存候如何様之訳ニ而何年以前人別帳外相成候哉諸親類等久離之ものニ而構無之

ものニ候哉是等之趣得与御糺被下右貴報被仰下候様仕度奉存候尤林田中之町役人共拙者旅宿錦織東村庄屋方へ差越候付「レ仕度候此段可得貴意旨孫四郎申越候ニ付と印形書御役人中様へと申書状来。今夕八時分又候飛札到来山岡拙者兩人へ宛当番忠蔵六使宛ニ受取遣ス

正月廿七日 晴

一 学殿へ昨日夕江かけ到来之趣申達平井郷左衛門江も同断今夕兩度之返書飛脚差立候。三郎次六今夕飛札「レ入到来拙者一名之返書遣ス此一件追々可記尤袋に始末入置

一 玉置広四郎大坂銭屋左兵衛方へ二月一日立廿日計(八日及口抄汰)

廿八日 晴

一 但州四津美郡高坂村次郎兵衛西々条郡奥津川西六送り出候由郡代所六通用町分送り出し両御方へ御届申候

一 今八後新魚町伊部屋裏摒覆二間半焼近辺早速消留ル駆付追々參大目付中五も申達

廿九日 晴

一 上横野村宇右衛出牢ニ付喜作出役

一 平井郷左衛門六切紙罷越候処大札とりやり致し候もの明九ツ時迄可申出旨町々年寄呼出させ孫右衛門宅ニ而取計(マ)

卅日 晴

一 錦織村一件ニ付山岡与左衛門拙者同道一学殿江掛御目候平井郷左衛門江も參談致候委細袋ニ「レ」

一 新魚町豆腐屋伝次呼出し再吟味取計候

一 平井郷左衛門の切紙今七ツ時一学殿御宅へ可参よし罷越候処被仰

渡此度勘定所紛失之儀ニ付小遣共吟味中人牢被仰付候尤吟味可仕

旨退座之上又々近藤伊左衛門へ右被仰渡有之郷左衛門立合也其上

ニ而引渡等之儀ハ先格を以取計可申旨今日御日柄ニ付夜ニ入勘定

所小遣弥助五兵衛嘉七利八四人追々受取一人ニ中間五人人行燈共ニ

部屋目付差添来り不残入込候上小頭目屋目付五人に对面差添之中

間共為扣置四人之者切戸へ入候而申渡入牢取計申候右相濟御届申

達ス立合市左衛門作右衛門安次出役伝内甚蔵左助順次

二月四日免取計御届申達ス

一新魚町うをヤ六郎右衛門義追込申付候申達ス

二月朔日 晴

一 錦織村へ飛脚差立候明日明後日迄ニ而治定之儀申遣ス断有

二日 雨

一 うを町豆腐屋伝次呼出し再応尋申付る

一 山岡与左衛門拙者一所に衛守殿へ参一件之治定返答之趣及御沙汰

猶又夜ニ入吟味書差出

三日 晴

一 今晚衛守殿の勝手次第書面可遣旨被仰遣書状并吟味書写上之町地

方々の書面印写明六ツ時迄差立中之町年寄にしヤ次右衛門老人当

病ニ而林田町年寄山本屋与三七名代ニ遣ス先方にて□様子一件袋

ニ入去月廿六日小「郎次より懸ヶ合之一条先相濟右与三七

次右衛門共に罷帰候三郎次返書衛守殿并赤見類助江も申達ス

一 御蔵米卅七匁町米卅三匁

一 境屋伊右衛門勢州安芸郡白子村形屋忠右衛門例之通形売。同人切

手備前邑久郡山田牛窓大工喜左衛門市兵衛半右衛門善助五郎左衛

門小作六人宿

一 酒改共の酒石数ニ而何分と位取仕立合御□代御請相定申度之旨伺

書付出ス

一 二階町煙皿屋伝兵衛昨廿四日朝出奔書付三通

一 林田町わかヤ岸願母わき^四林田村藤助役介ニ遣度

一 美濃職人町幾本屋長兵衛借屋与四郎の正月廿八日出悴伊助夜前元

魚町安楽院方ニ居申候所二階町鳥屋金屋^三三人道同ニ而悴を呼出

し何之訳もなく打擲ニ逢目も暗シ誰と申儀も覺不申大勢之事ニ候

故手向も難成漸藤の屋多吉「込候由今朝の痛強出候由訴出る追々

吟味掛り合可糺

一 林田町作人和助娘常当子十六才去ル廿四日之夜不斗罷出候旨

一 高畑友賢の与四郎悴伊助容鉢書

一 小遣四人為吟味牢屋江罷越候市左衛門^{小頭}目付内作右衛門喜作安次

五日 晴

一 赤見類助の切紙罷越候処百匁札町へ渡候村山平学難波吉大夫高橋

清吉此分訳相尋候様被申聞候ニ付即日平学へ参候処御勘定所の受

取吉大夫も同様清吉ハ広原分つ□の取出候儀追々相聞え候

一 明六ツ時小野三郎治囚人召連御城下罷通り候ニ付人足五人先触来

赤見類助^マ追申達ス

六日 晴

- 一 囚人通りニ付此度ハ掛り合之者申分ハ無之候得共為会釈小頭市左衛門二宮原^五遣し同心兩人申付候間御用「」候ハ、可被申付候旨
- 三 平申付候由三郎治^五為及挨拶先を私甚蔵順治相勤自分羽織立付
- 一 下紺屋町和泉屋太兵衛大坂渡部備前屋も助七日日出廿日計
- 一 高橋清吉備中松山領分かき村田弥三右衛門方へ参り候由迎遣し此儀ハ小頭市左衛門掛リニ取計申候
- 候処今夕婦大札之返答ハ昨日書記ニ有京町住居ニ而高橋参知役介之由此処追而可糺

二月七日 昨夜の雨

一 卅六舟卅式欠

- 一 中之町三室屋宇左衛門所持他国受酒株当二月の来寅二月迄東新町丸木屋長四郎断
- 一 京町豊屋和助御堀へ足代断同八日済
- 一 東新町か治治右衛門神戸村坂右衛門娘ちせ式拾式才悻伝之助妻ニ引受

- 一 上紺屋町元結屋元次郎有間行五十日日延願(有馬)
- 一 桶屋町高津屋理右衛門願悻十兵衛儀七竹永庄蔵改大橋十大夫殿出入奉公(案内使来候)

八日 晴

- 一 美職人町与四郎訴悻伊助打擲ニ逢候一件於御次衛守殿へ及御沙汰(渡欠)
- 是ハ菊井幸兵衛と申者金蔵書付ニ出候故也追々遂吟味可申上旨申上置
- 一 来十三日孝恭院様御一周忌ニ付於地藏院御取越御供養被仰付此段(將軍家治嫡男家基)

為相知候様被仰出候右之趣同役同列支配方^五も可被相達候

- 一 当正月八日以来百匁札取扱候ものハ下々追其訳委細遂吟味来十三日迄可被申出候右之趣
- 一 来廿九日泰涼院様十三回御忌ニ付於妙法寺御茶湯被仰付候此段為(前様甚孝御室殿田八百)

相知候様被仰出候右之趣

- 右者大目付中の廻文三通一所に出る此内泰涼院様之分触町へなし
- 一 二町目福永屋藤助願備前警梨郡河田原村小三郎兄猪左衛門縁類ニ御坐候^四私方ニ養育仕度承届
- 一 西新町妹尾平兵衛願森对馬守殿預り所勝南部岩見田村幸次兵衛娘ちか十七内縁ニ付此度養女に仕度
- 一 安岡町岡崎屋善吉私夫婦并弟伊三郎妻共ニ以上三人伊セ参り明九日立往来四十日
- 一 江戸表の出羽守様へ鶴右京大夫殿送り出し候而中追先触
- 一 髪結伊助容鉢再見に廻りの甚蔵喜作右兩人へ申付相手方金蔵へ手錠為打候赤見類助へ届る衛守殿へハ九日ニ達

二月九日 晴

- 一金蔵儀呼出し及吟味候処大様相知候得共難決儀も有之候ニ付吟味中入牢之儀御伺済大目付中^五茂相達右取計候間立合平太兵衛市左衛門作右衛門安次孫左衛門出役喜作郡次
- 一 郡代所の入牢エタ四人今日出牢ニ付出役甚蔵(惣)
- 一 二丁目福永屋藤助備前警梨郡河田原村小三郎兄猪左衛門四十三才此度養育仕度願(以下六箇条は前日と重複、ママ)
- 一 西新町妹尾平兵衛願森对馬守殿預り所岩見田村幸次兵衛娘ちか

七此度養女仕度本証文十六日出る

一安岡町崎屋善吉夫婦并弟伊三郎妻共ニ伊勢參明九日立四十日計

一江戸表ハ出羽守様へ鶴送り通り候由

一美職人町伊助再見之為甚蔵喜作遣ス

一金蔵手錠預赤見類助江申達ス

九日 晴

一金蔵儀吟味中人牟申達ス平太兵衛市左衛門作右衛門出役喜作郡次

十日 晴

一万介贓物品々送を添郡代所江遣ス

一当子才春渡り御役料御給米来十二日相渡し廻状来ル

二月十一日 曇

一今日金蔵吟味ニ牢内へ罷越候。西今町角屋宇助追込申付袋に入

一孝恭院様一周御忌ニ付自身番申付ル

一二丁目尾高屋宇兵衛の家来幸八昨十日広瀬土橋南詰ニおめて作場

へ罷越候上田権八と異論候処同時ニ作場戻り之是又御使組之由打

擲ニ逢痛所不輕訴之候追々可及取計書面一部袋に入

十二日 晴

一福渡町作人宗七借屋八介後家娘みよ^二林田村浅之進妻に遣度

一西新町妹尾平兵衛娘ちか山北村大谷政兵衛妻ニ遣度

一船頭町瓜原屋仁左衛門南側家屋敷表口式間四尺裏行三間但半役西

隣ハ瓜生原屋善助東ハ土手通り百匁組合内作人九兵衛江売渡し

一蔵元兩人ハ横渡船所々損し申繕之儀申出当十三日大目付中へ及樽

候処見合相返し候

十三日 晴

一真木山長福寺西方院役者ハ結縁灌頂来ル三月九日より十三日迄尤

九日四時庭儀修行有之候灌頂入壇御志之衆中ハ三日以前ハ精進ニ

而御出可被成之旨此書面頼来候旨大年寄共ハ伺出候ニ付及御沙汰

御聞届被成而橋建札之儀申渡候

一宮川橋地覆芥より候由以来右跡無之様可申付旨ニ付即日申渡

十四日 晴

一西今町湯田屋伝八六年以前倉敷丈右衛門娘引受候処離縁届書

一中之町川口屋与市借屋所左衛門^三同妻いく^六林田村丹内方へ引受

一林田町作人伝四郎御城代組松井市右衛門やしきへ引越

一船頭町広島屋清七林田上之町甚七倅為次郎^五此度養子

一ふくも屋武介播州あほし新在家村カ□屋善七老人小間物おろし例

年之通。同人備州津高郡妹尾村木綿屋官兵衛倅儀右衛門置表例年

之通

一喜作作右衛門今日牢屋へ金蔵吟味に差越候書面有之

二月十六日 晴

一中之町荒物屋伝右衛門借屋幸助林田上之町長助借屋品倅兵助引受

養子

一同町豊久屋幸助後家やしき表口三間半裏行拾七間但四步東隣高

尾屋勘七西隣作人茂介質物入式百五拾匁町内新屋勘兵衛ハ受返シ

一中之町甲屋右兵衛借屋龍吉^六同人母ミン卅四才たつ吉家内三人林

田上町岩助引受

一鍛冶町かち善太郎林田村喜平次娘もよ^廿此度私妻賣

一吹屋町作人七郎兵衛私伴熊吉儀子廿六才義絶勘当御聞届

一西新町安永屋与平次勝南郡黒土村庄吉と申者二十五才手前へ引請

一東新町かちヤ治兵衛林田村長右衛門娘ちやう当子卅八妻ニ引受

一のたヤ左平小紋字屋伊助右両人組合預

十七本証文

一美濃職人町なきさヤ甚兵衛南横町東側家やしき表口三間裏行拾間
但四步役南隣ワたヤ左助北隣沢田屋善介四百六拾匁町内錦屋佐助

へ売

一明後日万人講棚取崩させ候

十七日 晴

一甚助牢屋へ金藏尋に遣ス

一戸川町打穴屋藤吉北側ニて家屋敷表口四間裏行拾七間但巷軒役東

隣福永屋藤介借屋西隣野本屋藤右衛門式百目同町作人幸助へ売

一二階町塚屋伊右衛門愛宕山大善院使僧正覚坊上下式人例年之通

一林田町箕打屋伊右衛門叔父神戸村市左衛門八十引受養育仕度願

一鍛冶町かち屋伊助娘すみ二拾五才香々美大町村喜十郎妻に遣度

十八日 晴

一今日今町角屋宇助追込差免御伺之上取計

一今津屋孫十郎儀放言紛儀ニ付追込申付る

一淡路守様御参観之節直に日光山へ御社参被成候ニ付御本陣問屋へ

廻状

一幾野田川口右衛門口本小右衛門小野三郎次山岡拙者両人宛書状

到来受取遣追而及御沙汰返書可遣書面之趣錦織村之一件当方親類

共下手人之願等有之間敷哉平助儀食傷服痛ニ而相果候得者右疵ニ

て落命致し候とも難申由右見分村内医師も相聞候旨得与承り糺
し可申越旨一件袋に入

二月十九日 朝小雨

一御家老組荒木弥左衛門懐中紙入切手七表入印形銀札六匁入今町車
屋七郎右衛門家来昨夜拾ひ候由ニ届出ル赤見類助江申達し町方
へ触出ス追付赤見呼に参り造酒之助殿申来り右儀左衛門懐中
ものにて届出候間受取渡し取計可申之旨明廿日小頭部ヤ目付役所
江参当方小頭立合ニ而義左衛門江可相渡申合取計候

廿日 晴

一福渡町武右衛門大久保加賀守殿御領分久米北条郡和田南村才助姉
豊三十七才妻に呼請

一はりま屋孫七戸川町横丁家屋敷表口式間裏行拾間之内裏ニ而東西

四間之所南北六間半但式步半北隣ハ播磨屋幸助南隣ハ買主打穴屋

長七家銀札百五拾匁同町うたの屋長七江売渡

一おけや町勤兵衛倅鉄次郎七才大久保加賀守殿領分桑村義平方へ養
子に遣ス

一桶屋町布屋喜八林田上之町市内娘里卅私妻に引取申度

廿一日 晴

去ル廿日也
一福永屋藤助南新座茶園場掃溜之中ニ赤金盃家来見届出及御沙汰

触出ス

一豊屋喜左衛門明廿二日立三十日計京都へ

一林田町上田屋市次郎家屋敷表口式間裏行拾五間但半役東隣藤本屋

長西隣作人伝四郎娘とセ銀札百七拾匁町内和田屋清六江売本証文

廿七日出ス

一 林田町北側家屋敷北側家屋敷表口式間裏行十五間但半役東隣上田

屋市次郎西隣田辺屋伊助右之家并裏小屋敷銀札式百三拾目町内和

田屋清六壳

一 馬見分市左衛門孫左衛門罷出る

二月廿二日 晴

一 堺町古金屋伝右衛門勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄次郎例年之通

一九拾九文

一 中之町善吉勝山吉田屋甚六兵衛方へ悴政吉当子才の寅述三ヶ年之間奉公

一 船頭町川島屋藤三郎娘きさ^四西川領久米南条南村国島順節妻遣度

一 西今町大工屋三右衛門去亥才^月断神尾儀左衛門役介利右衛門養子

ニ引受候処離縁差返し

廿三日 晴

一 下紺屋町おけや六右衛門山根村吉兵衛娘^四妻に貫度

一 下紺屋町菓子屋伊兵衛山根村忠助娘きね^八娘に貫度

一 牢屋繕場之儀伺出候ニ付大目付処へ申達ス

一來月六日御用日之演説

一 眞壁村興隆寺大口開帳ニ付両橋建札申出候間相心得候様

一 御藏米卅六匁五分町米卅式匁五分

廿四日 晴

一 卅七匁卅三匁。九拾七文。座頭共へ御布施今日頂戴

一 東新町因幡屋新七撰州大坂松坂屋忠右衛門例年之通唐弓弦

一 林田町片岡文啓四国参廿八日立九十九日計

一 熱田若狭金毘羅来月七日立

一 二町目松田屋孫市英田郡倉敷村島屋清作悴七郎兵衛二十四才引寄養育仕度

一 東新町倉敷屋佐兵衛因州知頭郡下板根村^{井原}兵衛と申者当子四拾才此度引受

此度引受

一 東新町かちや忠右衛門二宮村弥三右衛門七拾六才伯父ニ而引請

一 林田町角屋又治一宮神職中島東市姪ふさ^十妻に引請

一 美濃職人町財布屋八十八借屋伊助仙石兵部少輔殿御領分勝南郡入

田村長兵衛と申者伯父ニ而六十四才妻五十一才悴治助十八才此度

引受卅日本証文出ス

一 中之町香々美屋茂兵衛家守田中屋文助幾野預り所勝南郡田井村元

次郎娘まつ拾九才悴文蔵妻貫

二月廿五日 晴

一 牢内金蔵呼出し伝内作右衛門安次順治忠蔵

一 此間之金盃二丁目年寄共山北村庄屋へ遣ス

一 御道見分市左衛門孫左衛門罷出候

一 玉置広四郎一昨夜帰着

一 東新町肥後屋長助西国当廿八日出八十日計

一 戸川町八木求馬金毘羅七日出七日計

一 二階町姫路屋九兵衛娘梅^十上之町伊介方へ六年前願ニ而遣し候

処伊助病死ニ付引戻

一 今町公文屋藤吉御使組畑伝吾娘ふみ^{十二}妻に貫

一 吹屋町鍋屋忠右衛門妹はる四拾貳才下高倉半兵衛妻に遣度

一 船頭町山家屋清兵衛兄作兵衛儀^卅同人妻母林田上之町平八後家家

内人数無御坐候間作兵衛儀を養子仕度

一 林田町野介代屋平四郎御公料小林孫四郎殿支配宮尾村惣介妹ま^七

六^十妻に引受

一 河原町熱田市正金ひら參七日立七日計

一 勝間田町桶屋藤兵衛小林孫四郎殿御代官所久世村桶屋加太郎娘な
を拾七才此度倅久太郎妻に希申度

二月廿六日 晴

一 今日赤見類助^(不詳)切^(不詳)関治儀揚り屋へ引渡候間其旨心得候様被申渡

候七ツ半時受取渡之申合近藤伊左衛門と申談喜作郡次罷出候近藤

迫^(マ)參候節ハ途中相扣見合候様申含メ伝内忠藏屋廻り^(マ)又候伊左衛

門方ニ而一所に成揚り屋へ入候取計加籠^(マ)ハ割場^(マ)御用刀脇差ハ渋

紙ニ入中間持之牢番へ預ケ御徒目付下目付引添取計濟両御方へ御

届申達ス尤伊左衛門宅ニ而相受取二筋繩かけニ取計

一 一 こんや町円乘院七日立金ひら十日計

一 関治揚り屋賄料受取

一 桶屋町大坂屋治郎右衛門西側家屋敷表口式間裏行拾貳間但半役南

隣桶屋源介北隣ハ桶屋善六百匁ニ極おけヤ善七へ売

一 吹屋町持福院金毘羅七日立七日計。小林主水同断

一 一 錢九拾八文。淡路守様御先触来

一 同心左助妹を忠藏江姫申度尤明夕小頭市左衛門^ハ申出候

廿八日 晴

一 尾高屋幸八儀快氣届。髮結伊助是又快氣届兩人今日及御沙汰候内

幸八儀ハ相手組之者故於役所食着無御坐ニ付吟味片付候旨申上候

金藏掛り合御座候ニ付暫入牢之儘ニ指置候様申上候

一 関治儀明後日吟味可致旨尤御徒目付下目付被指出候様赤見類助被

申聞候

一 孝恭院様御布施去ル廿四日被下候銀札高七百貳拾八匁式分九厘人

数百八十匁人今日申上候 五拾四匁在名式人 貳拾五匁打懸拾人

四十匁初心三十式人 三拾三匁寿名式拾式人 三拾匁配當場役料

筆墨

一 新魚町鳥屋与三兵衛撰州豊島郡池田村月野木村植木屋平兵衛と申

者老人例年之通植木売

一 一元魚町一乘坊金毘羅七日出十日。紺屋町万性院同断

一 中之町甲屋右兵衛備中セのおヤ甚四郎例年之通畳表并合葉

一 一小山屋与三右衛門播州あほし丸尾屋六三郎例年之通荒物。同人あ

ほし平松屋多右衛門例年之通小間もの晒臘^(マ)

一 牢屋中間理八夜前^ハ不快割場^ハ助を取

二月廿九日 雨

一 淡路守様御先触吉川和十鈴田字左衛門本馬拾八疋輕尻五疋人足五

十七人

卅日 曇後晴

一 安岡町作人八兵衛播州松平遠江守殿領分赤穂郡大坪村百姓久左衛

門梓常八此度引受

一西今町とうふ屋藤吉借屋作人字八四拾才妻かん卅九才此度二宮広太郎借屋へ

一安岡町神目屋勤兵衛借屋早助娘熊式十才一方村徳助嫁貰

一吹屋町山城屋善右衛門南側表口九間裏行十七間老尺五寸但六歩六厘東隣作人甚七西隣ハ今屋八郎左衛門卅年以前熊太郎名前ニ而買請此度私名前に付替申度願

一中之町河辺周益家守松屋次助乃井野預り所福渡村猿治妹かん卅才妻引受

一安岡町庄野屋藤十郎北側ニ而家屋敷表口四間裏行十七間但半役東隣村永屋吉右衛門西隣大坂屋勤介三百目町内村永屋恵助売

一今日関治牢内吟味場ニ而吟味被仰付拙者罷出御徒目付富沢金左衛門下目付立合小頭市左衛門ヘヤ目付作右衛門書役安次出番喜作□蔵吟味書鈴木此右衛門江差出ス

一今日関治吟味ニ付拙者罷出御徒目付富沢金左衛門下目付立合小頭市左衛門ヘヤ目付作右衛門書役安次出番喜作□蔵吟味書鈴木此右衛門江差出ス

三月朔日 曇

一今朝関治吟味ニ付御徒目付荒井安左衛門下目付小頭市左衛門目付作右衛門書役安次甚蔵順次拙者罷出吟味書鈴木此右衛門江差出ス

三月二日 晴

一今朝関治吟味ニ付御徒目付荒井安左衛門下目付小頭市左衛門目付作右衛門書役安次甚蔵順次拙者罷出吟味書鈴木此右衛門江差出候

三日 晴 四日 晴

一古川屋宗助京都柳之馬場近江屋七三郎方へ六日出卅日計

五日 晴

一学殿今朝江戸立見立ニ罷越ス

一田邑村屋治助夫婦參宮九日立卅日計

一安岡町久米屋勤八梓義八伯州三朝へ湯治四日出廿日計

一尾高屋家来幸八儀徘徊致し其上悪口致候由村上清大夫入来被申聞候ニ付尾高屋方尋候得者右十日迄以来決而他出為仕不申候由又針屋惣十郎方ニ而罷有候を小堀建次慥ニ見請候由被申聞候ニ付針屋方尋候処面体ハ見覚居申候得共此方へ相見候事無之旨書付差出し候ニ付相札シ置候

一野田屋孫三郎方野田屋左衛門同居ニて預ケ置候見申候処右孫三郎節句ニ徘徊致候義ニ付中山伝内〆糺し置候

一中之町福屋甚六娘きよ拾八才御城組小頭井汲松右衛門へ姫に遣

一安岡町作人八兵衛妻久四国七日立百日計

一茅町岡屋庄八四国七日立百日計 一二町目申屋吉左衛門家守新右衛門四国七日立百日計

一伏見町のせ屋源助商儀ニ付備前下津井へ六日出廿日計

一戸川町雲州屋兵右衛門此度雲州広瀬御家中鈴木安右衛門俱ニ而三月二日罷立江戸表へ八拾日之滞留願出此等十三年以前御手廻り去々戌八月者母頼御願口候へ共此度従表公ニ候由

一美濃職人町沢田屋善蔵沢田村平兵衛梓善介卅九才引請

一鍋屋忠右衛門妹はる四拾式才下高倉村半兵衛妻ニ遣度

一山岡与左衛門の通用淡路守様弥来ル八日御通行之由

三月六日 晴

一今日御用席ニ付例之通也来ル八日淡路守様御通行被成候ニ付御徒

目付下目付宿之儀申達ス且拙者御貸人馬之儀同断

一於御次衛守殿勘定所中間四人之者出牢被仰付候旨被仰渡候鈴木此

右衛門出会退出後小頭ヘヤ目付私宅ニ參出役甚蔵作右衛門立合市

左衛門借夜伝内安次也小頭ヘヤ頭ヘ玄関ニ而対面扣さセ置四人ハ白砂

ニ而出牢之儀申渡シ畢而当方小頭ヘヤ目付の渡し候処脇差「」為

差召連帰候趣也御届申達ス

一二町目尾高屋宇兵衛広瀬橋一件ニ付馬子不届ニ付呵追込可申付旨

被仰付候旨鈴木此右衛門被申渡候則日呼出し呵追込申渡御届申達ス

一東新町薬屋与七妻水口屋茂七母京都妙元寺參八日立十日計

一元魚町指屋長左衛門梓甚蔵四国来ル七日立八十日計

一堺町小鳥屋次郎右衛門大坂堂島裏老丁日本道医師吉田松林卅日計

留

一三丁目播磨屋市右衛門金毘羅七日立九日計 一下紺屋町平田屋左

七同町おけや六右衛門同断 一宮脇町倉敷屋喜平次 一今町常屋

彦三郎 一西今町広瀬屋平七同町紙屋六蔵 一鍛冶町鍛冶屋新兵

衛 一今町す□ヤ和助同町池田屋幸助右同断逗留日数少々違有之

七日 晴

一明日町分ニ而肥し持歩ぶましき旨此度申渡候

一安岡町金毘羅參安岡町の十四人昼立承届候十日計

一近江屋和助弟孫三郎例年之通京都近江屋市左衛門方の相頼呉服も

の因州伯州へ来ル八日ニ出十二月迄滞留為仕度

三月八日 晴

一今日淡路守様御通行ニ付今町直屋市左衛門南江下宿ニ而罷出八時

頃例之場所ニ而御目見申上候松越後守様御町奉行大沢三平 御馳

走之為と申披露石名左助註進御郡代北郷門兵衛の御替之為知御立之時二宮ニ而御休被成候由ニ付其段申達ス引統房遠橋御註進申達ス

神田唯次相勤若堂杉元軍治右三人相詰ル御先弘中山市左衛門三船

孫八石名忠蔵御貸馬両口鑓挾箱合羽主人草履取。御使者ハ三沢六

郎「」御取次ハ西尾多内。大番所造酒之助殿鈴木此右衛門太田官

平

一西新町□屋甚兵衛京都妙覚寺參詣来ル九日立卅日計

一湊屋喜七後家東側角表口五間裏行十七間南隣ハいセ屋長右衛門北

ハ横町茂渡庄右衛門江質物ニ入七百目借受来ル辰之暮迄〆

一元魚町灰屋左衛門阿毘達參詣明日立十三日計

九日 晴

一玉置宇左衛門備前岡山赤穂屋和七昨八日罷越五六日逗留

一昨日人足高百九拾五人内六拾人札払同廿五人分払残而百拾人□馬

式拾足

一安岡町古川屋安右衛門高野參詣来ル十一日ニ出廿日計

十日 晴

一二階町研屋新九郎東側家屋鋪表口三軒裏行拾七間但シ本役南隣大

和屋勘兵衛北隣白銀屋莊助堺町小鳥屋治郎右衛門へ二百匁売渡

十一日 晴

一御蔵米三拾七匁五分町米三拾三匁五分

一坪井町浜野屋嘉市町次の備前周迎金屋常右衛門夫婦十四日逗留

一下紺屋作人助七町次養子早助夫婦当月朔日罷出行衛不相知候旨届出

「付尋申付候

一山本与惣七妻召連参宮来ル十五日立九拾日計

一吹屋町吹屋八左衛門母召連参宮日数同断

一二階町境屋伊右衛門宿屋頭役免願聞届候紛忠七へ跡役申付ル

三月十二日 晴

一坪井町小倉屋清右衛門へ年寄親跡役申付ル

十三日 晴

一林田町馬持和助娘正月廿四日与風罷出所々相尋候処昨夜罷帰り天

怪之体届承置ク

一不動院付弟右弁十六日立金毘羅参詣十二日計

一御蔵米三拾八匁町米三拾四匁

一惣社宮市町ニ付参懸り人形遣十人計り世話焼安岡町土屋茂市郡代

所寺社方通用之上承届尤御用所へ申上ル

一今町長野屋安之進大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ来ル十五日出三拾

日計り

一大目付中の廻状 近々惣社宮於社地見せ物有之候右場所へ自分

并妻子ハ不申及下々迄参候儀御停止之事候若紛敷ニ而罷越候者

有之候ハ、急度可被仰付目付之ものの無用捨申出候様申付置候此

段可被得其意候右之趣同役并支配方へも可被相達候即日組中其外

相触ル

一惣右衛門殿御家来牧幸兵衛義於役所致吟味候様鈴木此右衛門の被

申渡候当日此右衛門へ罷越今日ハ手当難成候付延引可致旨談候処
其旨先方へ達候様致申聞候付拙者罷越惣右衛門殿へ致対面罷帰ル
今晚同性惣次郎町次へ明五ツ時家来幸兵衛当役所へ被差越候様尤家来
指添之儀以手紙申遣ス相応之返書参ル

一山岡与左衛門の櫛井村百姓四人今夕入牢尤御日柄ニ付牢番預ケ取
計呉候様申来り同心忠藏出役

十四日 雨

一今日牧幸兵衛惣右衛門殿の被指越西川権兵衛付添役所縁側小頭部

屋目付西に書役源治拙者中英町次に座ス右脇平太兵衛並居幸兵衛儀者

公事人ニても無之惣右衛門殿家来ニ付脇指差込ニ而縁側向拙者居

させ付添権兵衛儀ハ立合之ため縁側近く扣させ鳥屋金藏懸り合之

儀發言之上幸兵衛相当之答致書付印形取之此右衛門私持参直に衛

守殿へ指出ス委細者金藏懸り合一件袋ニ入置

一勘ヶ由殿執権江勝山戸村平之進家臣去ル七日堺町肥後屋茂治郎方

に而御徒止宿ニ而西川平兵衛へ書状相届候様頼置候処去ル十二日

迄不相届勝山江何角間違有之西川平兵衛の内聞相聞へ候ニ付追々

取計可申

一去ル九日勘解由殿遠乗拙者門前間遠く御越之処同心神田順次下座

不束之趣紛敷仕方馬脇のも見うけ候□夜前西川平兵衛の噂ニ付今

日当番之処何角なく追込置候追々可致思慮候

一関治一件ニ付博奕会合之者且又右宿致候者共取計当り大意を記し

今日此右衛門江差出ス

三月十五日 晴

一明日二町目尾高屋宇助追込差免可申旨鈴木此右衛門被申聞候

一昨日之書記堺町ひこ屋茂次郎不埒ニ付追込取計可申旨御伺衛守殿
へ申上候

一元魚町玉島屋安右衛門の西川酒井良藏役介上下五人夜前参り十五
六日計逗留届

一下紺屋町讚州参十六日ニ十二日計

一中之町甲屋右兵衛播州姫路白銀町上村屋平吉例年之通墨筆并太物
。網千米子浜茶屋弥七郎悴新兵衛例年之通小もの売。網千新在家
伊部屋清六老人例年塩もの并經節各切手同断

十六日 晴

一尾高屋宇兵衛呼出追込差免

一安岡町綿屋吉左衛門市場村武七娘りよ私紛弁吉妻に引受候処当正
月六日弁吉相果候ニ付今般右武七方江指戻し申度

一安岡町村永屋悴甚吉此間於皿村金毘羅酒迎之者江溢れ甚乱妨いた
し候旨専沙汰ニ付預ケ申付候

一大年寄三人町中歳暮年頭献上代金式步差出同十八日御飛却仕舞ニ
付中島彦六江遣ス

一堺町肥後屋咎之儀伺之通勝手次第申付候様衛守殿の被仰下候則□
呼出追込申付候扣に有之候

三月十七日 晴 夕雨

一九拾七文

一紺屋町南側いさわ屋太助糲室屋此節ぬくもり不足少し火を入置候
処今八時他出留守上より葉落候哉燃出近町打寄消留申候駆付其外

註進又組中追々来ル大目付中へ為知鎮り上両御方へ御届申達ス

一神田順次儀今日差免し申付候西川平兵衛追小頭挨拶ニ罷越

一中之町高尾屋勘七播州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎兩人例年之通荒
物塩もの。福もヤ武助撰州島之内大宝町万屋吉次郎例年之通革足
袋すいのふ金とうし。同人大坂順慶町山城屋弥三郎例年之通小間
もの

十八日 晴

一火事届書差出追込御伺相済則申渡御届申達ス

一酒改共何角書付平井郷左衛門江先達而差出置候処此趣ニ而石数ニ

極メ相当之書付申付勝手次第及御沙汰可然旨同人被申聞候

一所々会式開帳ニ付可為群集即右場所ニ而喧嘩口論酒乱無之様相慎
候様しめし之為御伺申上御聞届之上町方へ廻状為出候

十九日 晴

一鳥屋金藏出牢之上町分追込申付候書面袋に入置出番甚藏忠藏成道
寺前ニ而今町年寄立合追込一札取帰る御届鳥屋一件ニ付安楽院取
計不埒ニ付呵。鳥屋豊藏禁足。与四郎父子禁足。元魚町年寄ふじ
のヤ多吉呵

一海老原右兵衛東府の帰着

廿日 晴

一元魚町豊屋喜兵衛幾の預り所上河内村善藏娘かる嫁に引受

一東新町青山道閑四国廿七日立式百日計

一加治町小鉄屋小兵衛四国廿三日立百日計

一今町井口屋利七乃井野預り所福渡村与茂七姉石式拾七才悴利八妻

引受

一橋元町浅本屋兵助旅籠屋株同町若狭屋藤吉へ譲願

一 二階町茂渡庄右衛門家守嘉兵衛借屋山野屋勘五郎六年以前願来ル
寅才^(マ)込大場郡くセ村かち権七方引受出職聞届今般

一 今津屋孫十郎追廻郷藏之内去ル十八日之晚用事ニ付家来参戸を明
候処決不明其段告ニ帰り又式人参り候処戸も明居申内ニ鍋釜鍋ふ
とん其外十六色世帯道具焼干之飯白米等有之先刻戸不明候ハ内に
忍ひ住居候もの有之右之間に逃出たると相見候由右拾六色ハ地方
ニ付候儀ニ而横山村庄屋へ相渡させ候目明ニ申合置候得共先為扣
候

一 小性町阿波屋定右衛門因州鳥取片原三丁目茗荷屋平兵衛親類ニ付
此度こんヤ手間ニ当三月の卯之二月迄三年之間引受

一 堺屋伊右衛門京都伏見海道五条上ル町森下町近江屋勘兵衛例年之
通小間物きせる壳

一 惣社江見せもの今日初り孫八順治

一 今夕廻り伝内左助安岡町村永屋甚吉尋ニ遣ス

三月廿一日 昨夜の雨

一 安岡町村永屋甚吉儀去ル十二日於皿村金毘羅戻候自他之者男女に
不限妨をなし法外溢候由露頭伝内左助を夜前廻り吟味に遣ス同
道之者同町西原屋惣助かヤ町岡島屋幸助^同伴^同吹きヤ虎吉五
人書付取帰る

廿二日 晴

一 誕生寺富興行ニ付ノリ之為甚藏孫八参詣并目明老人相添参

一 美濃職人町髪結伊助親子禁足免二階町鳥屋豊藏同断

一 喜作忠藏惣社行

一 小倉屋茂兵衛当国三十三所参詣明後廿四日出十二日計

一 元魚町豊島屋伝次妻金藏髪結を打擲致候節仕方奇特ニ付大年寄宅
ニ而称美之褒美伝次申渡ス

三月廿三日 晴 伝内軍治惣社宮へ

一 □屋太助失火ニ付追込。肥後屋茂次郎届状不埒追込及御沙汰差
免

一 追廻郷藏ニ鳥乱忍ひ住居去ル十八日引請今津屋孫十郎用事ニ付下
人遣し明候処戸前明す其段告ニ帰候跡ニ而内戸を明立去候もの
有之候由下女^(マ)相嘸し夫^(マ)藏之内改メ候処鍋釜其外品々十六□相
見早速書付出し尤地所ハ郡代所構向之方ニても同様ニ承知候事ニ
候

一 西新町吉武弁寿村田村□水後家借屋新助拾七才同人母^(マ)此度引受^(不詳)
八^四

一 西新町笠屋与三右衛門借屋岡本屋伊右衛門六拾宅才同人妻^(マ)上之^八
八^五 町与平次方へ引越

一 小山屋与三右衛門網干余陸ヤ茂兵衛例年之通八百屋もの纏

一 新魚町鳥屋与三兵衛大坂塚筋久宝寺町岸部ヤ茂十郎手代利八一人
例年之通小間もの

一 安岡町村永屋恵助借屋古川屋市右衛門^五西々条郡中谷村甚右衛門^六
へ引越

一 三町目若元屋五兵衛四国来ル廿七日出八十日計

一 安岡町久米屋兵八弟伊三郎式十六乃井野預り所勝北郡余野村六郎

右衛門養子ニ遣シ

一戸川町市助四国来ル廿七日立式百日計

一今津屋孫十郎郷藏に有之候鳥乱者之道具町分江触出候

一二階町勤五郎是ハ茂渡庄右衛門家守嘉兵衛借屋ニ居申六年以前今
来ル寅才^(ツ)迄久世村かち権七方へ引受出職ものニ候処此度一応帰候
而又々右村江家内不残引越渡世仕度一跡人別離及御沙汰候

廿四日 昼後合雨 △西原屋惣助かヤ町伊助禁足

一作右衛門順治惣社。かヤ町岡島屋幸助倅同茂兵衛倅吹屋虎吉安岡
町△

一衛守殿合呼に參安岡町村永屋甚吉追込取計候様被仰渡即日取計出
番左助孫八立合市左衛門安次広四郎目付□人足り不申ニ付略之候

廿五日 晴

一孫八左助惣社引弘見届

三月廿六日 雨天

一上こんヤ町松本屋長松因州鳥取橋元屋八左衛門方へ来□九日出四
十日計

一酒改共四人合石高五千六拾七石七斗四升。六百六拾六石七斗七升
三室ヤ右衛門
近江ヤ和助

五百式石七斗。式百六拾式石九斗壹升。百九拾一石式斗式升。
吉田屋喜次郎
本布屋喜兵衛

三百四拾五石七斗四升。七百六拾七石九斗式升。六百卅八石壹斗
次田屋嘉兵衛
桑原安右衛門

六升。五百八拾石七斗七升。百五拾八石三斗八升。百式拾七石三
ふく水屋藤介
直屋惣十郎

斗三升。百九拾八石一斗三升。八拾式石式斗。六拾壹石五斗。九
直屋惣十郎
久米屋勤七

拾四石三斗三升。式百四拾三石壹斗六升。百四拾六石五斗式升
直屋市郎左衛門
坪屋和助

弁書ニ惣酒改候処石数件之趣減少何となく近年惣ノ不商無抛又時

節柄ニ寄増候義も可有御坐尤右ニ付何ほと、申儀軽く被仰付被下
候様当年之儀ハ銘々手前ニ而相考候所節柄^(ツ)ニて石数減し候様御考
弁吳候様申出ル

一京町辻屋五三郎借屋菊右衛門去ル十七日夜火燧蒲団紛失届出候ニ
付触出候処申出候

一桶屋町市兵衛後家東側ニ而家屋敷表口裏行^{三間}但壹歩式厘東隣作
人内後家西隣作人助八南ハ吹屋町通り也四拾五勾町内八助へ売
渡同廿九日証文出ス

一同人類七十式才今度院庄村忠六私智故罷越申度
廿七日 曇 今夕拙者 ニ而不快
廿八日及御沙汰

一玉置広四郎勝山山田屋忠右衛門姉ちか内縁ニ付役介ニ引受申度
一茅町安岡町五人之者免す

廿八日 晴 昼頃水降古今珍事 重サ拾八九匁所ニより
百匁余ニ及候由

一今日不快出勤不仕北郷門兵衛江何角相頼

一玉置広四郎京都六角ニ文字屋方へ罷越小平馬大病之由 今日及御沙汰
一大目付中合廻状 近々二宮於社地見せ物有之候右之場所江自分
并妻子不申及下々迄參候儀御停止之事情若まきらハしき躰にて罷

越候者有之候ハ、急度可被仰付候目付之者合無用捨申出候様申付
置候此旨可被得其意候右之趣——則組中其外相触候
(生野)

一幾野田川文右衛門根本小右衛門合与左衛門拙者宛来書中川西川所々
御城米積受負之入札来月廿日迄ニ入札致持參尤是迄請負候面々も
可罷出之旨一々書付来ル与左衛門合返書調遣ス

一中山市左衛門兄中山市内不幸ニ付父子引込 辰内四月二日出勤
市左衛門八同月四日合出勤

三月廿九日

一三軒屋番所昨日之冰ニ而屋根損候由届出

一安岡町神場屋伊兵衛於高野宮操世話被頼候由書付出ス及御沙汰候

一伏見町小田屋伊平次家屋敷北側ニ而表口三間裏行拾三間但半役東

隣のセ屋勇ニ西隣のセ屋源助家代五百目家守田原屋左助ヘ□

一□本屋喜兵衛中買一札差出ス

一不動院方右弁来月上旬迄日延

一茅町作人甚右衛門下田野村川西太兵衛四拾八才同人妻倅多次郎娘
四十八 四十三 十五

いし引受
三才

一□屋伊助明後二日立大坂梶木町玉子屋ヘ卅日

四月朔日 晴 二日 晴

一三町目福永屋藤助大坂過書町松屋甚兵衛ヘ卅日計

一熱田市正倅市之進召連継目吉田官為致度廿六日之逗留来ル十六日

立

一盜賊吉五郎入牢々番預取計喜作出番郡代所

一浜野屋六郎左衛門明後三日出三十日計播州龍野山崎屋長兵衛□

一福中屋和助林田上之町植月伊助渡り屋敷吉兵衛十三父母共ニ借屋ヘ

引受

三日 晴

□酒改共石高書付并弁書今日及御沙汰置候

□津屋方追廻し郷藏不レりニ付呵追込申付候様衛守殿六□仰渡尤

与左衛門五可申談由

「月廿六日ニ有之候京町菊右衛門ふとん□代所六可渡由」
被申聞候

「徳助被盜候脇指老腰町方ヘ触出くれ候様則取計徳助名八□出候

□高野宮芝居法衆引経札入り甚藏郡次出役神場屋六案内

四月四日 晴

一作右衛門順次芝居

一安岡町村永屋甚吉手錠追込差免市左衛門甚藏郡次御届申達ス。菊

右衛門蒲団郡代所六相廻り受取相渡遣ス

一福永屋助右衛門明五日立卅日計大坂過書町松屋甚兵衛方ヘ

五日 雨

八日本証文出
一東新町かち平左衛門家屋敷南側ニ而表口三間半裏行十七間但五歩

役西隣鍛冶新藏東ハ私居宅老貫八百目西新町高松屋平吉江壳渡候

一今津屋孫十郎郷藏不レりニ付呵追込申付市左衛門伝内孫右衛門御

届

一玉置宇左衛門倅十右衛門備中矢掛中西与四郎方ヘ遣四日出十八日

計

一勝間田町蒔田屋治七郎奥津江式廻り去ル三日願

六日 晴

一湊屋喜七後家本証文

一堺屋伊右衛門江州神崎郡新野村布屋七兵衛老人きせる小間物計

七日 晴

一京都徳大寺殿ニ相勤候玉置小平馬去月廿四日病死広四郎儀去月廿

八日当方出立四月二日京着之処即夕野送り取計候由徳大寺殿方諸

大夫右之家暇出候由御留守居田中茂兵衛へ通□有之候ハ去月廿八日之由御当所江も田中ハ被申上候由

□小平馬義届出候ニ付平井郷左衛門江申達し戸前ハおろさせ悔帳□之通尤同人儀ハ御咎も懸り候者ニ付旦那寺ニ而仕「」俗名□間敷尤無名ニても石塔ニても決而出し不申□様以後共□心得候様孫右衛門江書付を以申□候衛守殿江も申上置候

一 こんヤ町門屋次右衛門借屋瀬介夜前盜□入書付を以届出ル

一 今夕五つ時盗人義八ヲ小島新五右衛門横手ニ而捕尤宗永寺長屋ものニて弥吉と申去才材木町古金屋勘当致し候伊勢と申倅之由相聞え不及食着宗永寺ニても無謂儀ニ携候ニ付長屋ハ出し「」

四月八日 雨

一 夜前捕候盗人義八日明共手前ニ而吟味之上小屋江預置候所今日御伺申上候而今晚牢番預ケニ取計入牢於宅市左衛門作右衛門安次出番甚藏伝内

一 酒運上八拾枚銀札場江相納可申旨孫右衛門江申渡

一 御城山枯枝有之候由去才届猶又申達ス下番所水逢瓦損申達ス

九日 晴 十日 晴 昼後白雨

一 二宮芝居引弘伝内左助見届

一 福渡町幸右衛門盜ニ逢書付今町長八同町五助盜逢書付

一 「」町紙屋甚右衛門大田村勘右衛門娘廿才養女売(イ)

一 吹屋町木屋喜助町内年寄釜屋市郎右衛門ハ西隣之塚に土蔵建造り

裏行ハ三間式尺ニ候処右建物引取候えと市郎右衛門より申之尤市郎右衛門屋敷ハ大野弥太郎屋敷ニて塚之溝ニ式尺除候様兼而書付

申渡有之場ニ付彼是申分出来又木屋方ニてハ先年三善屋与三左衛門持分ニ候町塚之杭を打今堀も掛り居候へハ是□塚と心得候故普請致候を引取候へと申儀不承知ニ而無抛掛り合相成之趣可相糺今日右之書付受取

十一日 晴

一 十大夫殿へ池淵屋藤藏藤堂才五郎と改出入奉公使来り及返答候

一 小倉屋清右衛門伯母備中輕部詣明日日出十日計兩番所へ裏印出ス

一 二町目小倉屋忠兵衛久世村浜野ヤ是助娘きり廿六才妻に迎へ

一 西今町板屋幸助坪井領小山村太平次娘さん卅四才妻引受

一 橋元町藤次後家いく南側家屋敷表口式間裏行拾七間半但半役西隣ハ村屋利八東隣ハ後藤屋孫市式百三拾匁町内同人江売渡同月十七日証文

一 伝内左助牢屋儀八吟味ニ遣ス
四月十二日 曇

一 京町平のヤ次兵衛上縁ふてうの間紙入落申出新職人町瀧元屋借屋もの落候由相渡させ候

十三日 晴

一 組屋勘十郎岡山片上町大和屋清右衛門方へ明日日出十日計(イ)

一 上紺屋町不動院付弟右弁岡山ニ而当月下旬追逗留(イ)

一 新魚町河本屋伊之平南側ニて表口四間小間半裏行十四間但七步半同月十七日証文出ル

東隣魚屋庄右衛門西隣のたヤ孫三郎四百三拾匁同人へ売右ニ付別紙之趣四百三拾匁ニ売去亥六月に拝借利分四百六匁収納残式拾四匁過銀札此分先達而申付置候福渡町中島屋文助へ相渡申度其外之

物ハ去季書付出し候通家財相渡候旨

十四日 晴白雨水まじる

一吹屋町木屋喜助去ル十日書記之堺目為見分小頭市左衛門ヘヤ目付作右衛門大年寄孫右衛門隣町ニ付魚町年寄彦兵衛桶屋町年寄次郎右衛門為立合候是ハ木屋相手町内年寄ニ候間場所江不差出尤木屋組合も同断ニ付右之取計也棟梁茂兵衛訴方相手方も例之通老人ツ、大工為出候保頭ハ遣し候大工市郎右衛門伊介喜助伊介甚平差出

一組屋勘十郎今当春酒運上八拾枚相納候由書付

十五日 晴

一今津屋孫十郎追込差免上被仰付候追込ニ付一昨日山岡与左衛門を以御同申上候処御聞届被成候ニ付

一牢屋中間儀八居宅やねくたけ候ニ付吟味場之勝手を借し厄介共ハ

上番甚兵衛方へつほませ置候

一橋元町福市屋丈右衛門借屋仁三郎同町ひものヤ前ニ而拾ひ届出落手

ハ伏見町戸田ヤ勇藏之由

十六日 晴

一廿三日ニ返書申上幾野シ申来候当方領内町在共去月廿八日書記之返書与左衛門拙者

連名ニ而今日飛脚山本友次江相渡ス同月十八日申上ル

四月十七日 晴

一広四郎昨夜京都へ帰着之届出ル

一伏見町年寄源助備前行昨十六日出十二日計

一郷藏遣入罷在候盗人儀八大山領坊領村之由人別離候哉否問合之為堺町年寄平右衛門書状を以右町ニ而最初引請受人に立候喜八を

遣候様申付候

一銀札場奉行天野郡太シ手代錦屋文兵衛河内屋安兵衛当役所ニ而他参留申付置候ニ付甚手支何とそ市町之間一宮江罷出候義承届くれ候様致度旨書面来此義同月十八日郷左衛門へ達し相濟

一大庭屋万助大坂堂島吉田松林と申者療治頼五十日計滞留願

十八日 晴

一來十月十五日万人講願及御沙汰候

一吹屋町鍋屋初太郎母はる下高倉村三四郎妻に遣度

一東新町鍛冶与八郎借屋喜兵衛四十才妻廿六才林田村文七方へ

一戸川町市町ニ付大坂十人連舞子芝居世話焼願及御沙汰藥介

一万人講之儀白州正法寺之名目を止冥加銀なく四度ニて半分ケ之考

可致旨平井郷左衛門被申聞尤御聞届ハ相濟

一中江弥左衛門明日到着ニ而今日入来扇子持参同十九日一礼ニ相見候

十九日 晴

一盜賊義八吟味市左衛門作右衛門安次出番ハ左助喜作書付爪判取帰

一鍛冶町山形屋与次兵衛家守和泉屋藤右衛門当二月出坂之処病氣ニ

付来月上旬迄日延。右与次兵衛昨十八日夕印肉判形拾ひ訴へ出る

一去ル十五日書記戸田屋忠三郎方へ因州鳥取津山屋源右衛門同所橋

元屋平左衛門と申もの表疊代百式拾老匆七分相渡呉候様被頼右勇

藏受取たる事相違無之旨上之町甲屋右兵衛書付出候ニ付仁三郎

より相渡候様ニ取計セ候

廿日 曇雨

一新魚町年寄共書付伊之平家屋敷買主のたヤ孫三郎へ引渡し親類

黒田屋宇兵衛方へ移り中島屋又助へハ式拾四匁引渡候旨

一昨十九日書面元魚町紙ヤも右衛門へ印肉判引渡し候由

一御蔵米三拾七匁町米三拾三匁

一安岡町神目屋伊兵衛市町十人連操芝居世話焼願承り置候

四月廿一日 晴

一河本屋伊之平掛合相預ケ免し呵申付計

一二丁目三谷屋与三左衛門土岐美濃守殿領分英田郡神田村徳右衛門

一悴九郎右衛門^三妻^七悴甚之助八才同卯之助三才娘子さ十四才五人

引受養育及御沙汰

一京町三栗屋与吉安岡町池田屋太兵衛古道具取売相止跡相勤申度

一西新町大黒屋藤蔵備前屋義助式歩中買株私へ譲り申度

一堺屋伊右衛門京都中江弥左衛門昨日罷越十日計逗留同月廿八日十日延

一西今町いたヤ幸助本証文

一京町海老屋長右衛門京都二文しヤ九兵衛手代金十郎多助吉三郎右

三人呉ふく物売昨日入

廿二日 晴

一一宮^五作右衛門順次田植ニ付

一京町あかヤ文次郎伯州米子大屋甚左衛門方へ今日出卅日計

一御蔵米三拾六匁町米卅式匁

一^{万人講}中江弥左衛門六万人講建札去才之通ニ城州正法寺名目御出被成候

様仕度旨内分伺書付受取置候

廿三日 晴

一孫八左助一之宮へ。広四郎及御沙汰忌明申渡

一加藤関治牢へ下し候義先格を以取計候へハ大蔵塩詰江入賄をハ伺

之上内々ニて只今迄之通下番ニ為賄候事郷左衛門江別席ニて及噂

候処不宜候間やはり其分に差置候儀可然被申聞候

一同人儀追々蚊増候而及難儀候間ひとへもの拾入れ候様伺せ申談

候処是等も不及食着義可然様被申聞其旨市左衛門江申聞候

一中江弥左衛門書面及御沙汰候所弥左衛門存寄之通御任被成候旨郷

左衛門被申聞候此義同月廿八日之事也一件ニ文段入

一柳之土手笋番非人共江例年之通申付大年寄へ関十治合通用有之由

四月廿四日 晴

一伝内忠蔵一宮

廿五日 晴 喜作軍治一宮へ 廿六日 晴

一甚蔵作右衛門一宮へ。下草今日ハ苧三軒屋合届

廿七日 晴 孫八順治一宮

一大目付中ハ廻文 江戸表ハ飛脚到来殿様倍御機嫌克被成御座当

月十五日為上使小笠原三右衛門殿御越御在所江之御暇被仰出御拜

領物被遊候之段申来恐悦之御事候右為御祝御帳付候間明廿八日辰

中刻ハ巳之中刻迄之内登城可有之候此旨同役同列組合并支配方へ

も可被相達候

一一宮日雇幸八脇差塗師辰次郎ハ役所江差出候

廿八日 晴 昼前ハ雨 一宮へ伝内佐助

一京町高橋清吉と申者同名三兵衛死後母江御ふち被下候故右役介ハ御勘定奉行之支配と心得名字帯刀致し候処先達而大札遣候儀ニ付

掛り合清吉名字なく五人組連名ニ而書面出し候儀不束ニ付年寄共
へ及察度候所不調法仕候旨申出候旁此間御勘定奉行栗田只次ニか
け合候処支配とは不存候段被申聞候ニ付猶又今日差詰置支配ニ付
候旨大年寄へ申含メ候彼是之儀ハ権藏ニ出候得共無実ニ付清吉ニ
出候様取計候

一中之町西新町東新町三町之者其上之町悪水抜大溝并溝尻八出村溝
下河原大溝近来殊外埋り候ニ付例年此節ニ至り大雨之砌越水町筋
へ流落所々内庭へ入込致難儀右之場所在分マツ溝攬仕候様奉願候旨
先例も御坐候儀ニ付山岡与左衛門ニ通用致候五年已前願候由

一造酒之助殿ハ酒運上石数ニ付何程と申御伺酒改共書面先日差上候
処此義は秋に至り石数仕込之節多少ニ付可申出尤御勘定奉行中へ
かけ合可申旨被仰渡候此間衛守殿御出席無之ニ付

一盗人儀八ハ於一宮日雇幸八差替婦候脇差郡代所ニ廻し向之方ニ有之
候儀八ハワキ差さし候当役所へ受取候趣御用所へ申上ル

一殿様御帰被遊候ニ付土居駅ニ廿七町御迎馬差向可申旨被仰付郷左
衛門より被申聞則孫右衛門ニ申渡

一先達而入牢榎井村四人之面々明日四つ時出牢之旨当日孫八出番

四月廿九日 晴 喜作忠藏一宮 卅日 晴

一市左衛門甚藏郡次一宮へ
一吹屋町木屋喜助釜屋市郎右衛門堺目一条内済
一二階町ぬしヤ勘平足代下し

五月朔日 晴 作右衛門順次一宮

一宮日雇幸八ハ儀八ハワキ差相廻ル
一錢九拾八文

一彦兵衛次郎右衛門呼出吹屋町堺目噯候而令内済奇特之事令称美候
大年寄広四郎当番忠藏立相

二日 雨 孫八左助一宮

一西新町備前屋市右衛門門ト先ニ而本郷村六右衛門牛日上村甚十郎
牛突合候処六右衛門牛東新町葉屋与七門前ニて病氣発り落候ニ付
取捨之儀届出

一かや岡屋利助と申者之懸人庄八と申者直訴私儀ハ元福松屋次左衛
門悻ニ而弟忠七ハ利助養子ニ参り居申候処福松屋断給仕老人之母
におくれ無擬右利助方ニ懸り居申候兼而私を悪しくあしらい今日
ハ竹杖を以打擲仕無是悲御歎申上候間御考弁被下候様思度もなく

申之趣虚実甚難分り候旁町内年寄組合共差添利助を呼出し候処当
人不快ニ付悻忠七を差出し申候ニ付預ケ一先連為婦候広四郎ニ当
番郡次立合今夕廻りハ伝内忠藏かや町へ遣シ引統甚藏順治遣ス。

岡屋利助と申候先達而松原ニ罷在忠藏ハ松次与申養父ハ其節平兵
衛と申不届有之父子入牢之上平兵衛ハ構松次ハ居村に慎罷有候
而七年以前安岡町岡屋佐助方へ忠七夫婦引請願聞届尤郡代所かけ

合候趣安永三年之四月廿八日之書記に有之在分構松之身として願
も無之忠七方ニ同居致候事不埒ニ付今夕同心差向吟味為致候処甚
不法之仕方ニ付利助父子組合共預ケ中間少々之間町内預且又引受

願候岡屋左助組合預ケ直訴庄八義ハ小倉屋弥四郎甥之由ニ付預ケ
候

五月三日 晴

一ぬしヤ勘平造作場足代下し断

一中江弥左衛門ハ当冬分万人講之儀以書付奉申上候通当月十一月万人

講来丑正月万人講之儀ハ三步銀毎度私共手前より無滯上納可仕候

猶又弥左衛門引受当月十二月万人講之儀者三步銀正法寺へ施入

仕相納可申候旨講元共ハ書付差出郷左衛門江達ス。弥左衛門ハ差

出候者万人講四度之割十月正法寺十一月御地十二月正法寺正月御

地同十月御地十一月正法寺十二月御地寅正月正法寺 右之割合ニ

而年々仕度奉存候ニ付奉頼候尤最初普請入用之儀ハ四ツ割万人講

度々之三步銀ニ而差引仕度奉存候右之通被為仰付被下候様奉頼候

万人講元奥書印今日郷左衛門江達

御册城

一大目付中ハ廻章 殿様倍御機嫌克被成御座去月十八日御暇之御

礼首尾能被仰上御懇之上意御馬御拝領被成候段申来恐悦御事候此

段為相知候様被仰出候右之趣同役并支配方江も可被相達候五月三

日 四日 晴

同月八日及御抄伏候

一盜賊義八儀伯州汗入郡平村庄屋庄右衛門江塚町年寄平右衛門ハ聞

合ニ參候堺町喜八当所ニ而最初義八ヲ引受候もの相渡候返簡当村喜三右衛門悻義八

六年以前根帳切被仰付当村ニ而義八与申者無之御国方ニ可被仰付

之旨尤親喜三右衛門ハも親子ニて無之何之構無之旨印書来四月廿

九日之日付也

一山岡与左衛門ハ新田村ニ預置候盜義八盜物今日被相廻受取

一一宮市今日引私喜作郡次見届例之通ニ而届承置

一海老原右兵衛ハ呼に參林田町田葉粉屋喜介悻仙藏と申者永井大学

殿御領分撰州島上郡上牧村永井日向守殿御領分同州同郡神内村右

西村堺ニて仙助病氣ニ付行倒申候由東町御奉行土屋駿河守殿御役

所へ御両所ハ御届御座候由養生之内両村へ御預被成候仙助与申者

林田町喜助ハ相違無之哉承合相違も無之津山町人に候ハ、親類

之中早速罷登引取可申候歟又ハ当御屋敷江御渡可有之歟何れにも

聞札可申出様御申渡右之趣否早々御申越被成候様仕度之旨申来候

間右町相ハ明朝迄ハ可申出由被申聞候則ハ四郎呼出し申渡候

一小性町あへヤ定右衛門断去戌年七月願小性町南側家屋敷表口三間

裏行十四間三百九拾匁質入此度請返し

一福渡町浜野屋宗兵衛三丁目南側ニ而家屋敷表口四五間裏行町並拾

七間外ニ東西三間式尺五寸南北九間六尺南之方へ入込代銀式貫目

元魚町世田屋与七江売渡同月八日売券

一京町年寄善左衛門悻十郎兵衛京高宮ヤ徳兵衛明後六日出廿日計

五月五日 晴

一海老原右兵衛江林田町之吟味書致持參候処たはこや長七と申者右

町ニ居候へ共伏見町へ八年以前引越候由ニ相聞候ニ付右町へ尋候

処五年以前弓之町太鼓打村上政次屋敷參候処其節ハ届断も不出候

旨不調法之段年寄共ハ申出候間右長七を町へ受取吟味可仕段右兵

衛江申談候処事過候儀難儀ニも可及間御勘定奉行中ニ而吟味為及

可然と被申候ニ付其儀に致承知候

一塚屋伊右衛門大坂金田町金田屋半兵衛手代六兵衛例年之通大工道

具壳

一京町加茂屋平左衛門越中富山舟橋丁松井屋源兵衛同忰亦七同手代
吉兵衛上下三人例年之通反魂丹

五月六日 晴 七日 晴 八日 晴

一直シ切手広瀬平右衛門刀脇差(差込)入札取計可申段申達

一去ル二日之書記茅町岡屋忠七兄庄八直訴ニ付取計之仕方御伺申上
候処存寄之通取計候えと被仰渡候

一京町菊屋清左衛門越中富山板屋理兵衛役介善次郎嘉兵衛当十月迄
請人取私手前に召抱売棄為仕度

九日 小雨

一茅町岡屋忠七安岡町岡屋左助呼出し追込申付候茅町年寄組合年寄
呵禁足(即日)(申上候)

一幾野手代佐藤斎二(申上候)明六時寺和田村出立幾の陣屋江罷帰候手錠腰
繩付五人召連候由先触今晚到来ニ付即刻取計甚蔵郡次出役例之道
筋を考相扣元魚町北詰(申上候)警衛東例場ニて扣

十日 晴

一御蔵米三拾五匁町米卅壹匁
一昨今小頭市左衛門部屋目付大年寄御道筋溝見分相濟伊三郎も罷出
候

十一日 晴

一かヤ町年寄組合ニ迄岡屋不埒ニ付禁足申付ル
一広瀬平右衛門刀脇差道具屋共罷出入札市左衛門当番喜作
一堺町古金屋伝右衛門備州島崎神職吉田左右上下三人造酒之助殿例
年之通祈禱要用之儀ニ付十五日計逗留此段同月十三日大目付所江

達置候

十二日 晴

一御祈禱ニ付登城例之通御用所江出恐悦申上候

一美濃職人町作人与四郎林田村次郎吉妹ふん(二)忰伊助妻に申請

一鍛冶町宗道宮例歳之通祈禱仕度由

一孫八左助牢屋へ盗人義八吟味ニ遣

五月十三日 晴

一御先番着

一茅町安岡町追込差免之儀御伺申上追付御聞濟

一盜賊義八二宮鳥井外ニ而之家主盗もの質に取候儀吟味被下候様及

対応候

一京町之見付橋上(申上候)材木町伏見町内段御堀へ掛り候石垣之草御目通
足代無之人を入草取候儀御承知被置被下候様達ス

一河辺川御船ニ不及。御先手中被差出候ニ付立宿申付候事

一御当日御徒目付下目付立宿ニ不及候事

一大目付中(申上候)廻文 江戸表(申上候)飛脚到来殿様倍御機嫌克被成御座当

月二日御発駕被遊道中無御滞候得者来ル十七日土居御泊ニ而十
八日御城着之御積之旨申来候 一火事用心之儀兼而被仰出候得共

御城着前後別而入念可申付候尤万端相慎可被申候

一御城着之節御城内可為人込之間銘々供之もの御城内ニ差置申間敷
候猶又喧嘩口論等別而相慎候様可被申付候右之趣同役并支配方江
も可被相達候 御触之趣町分へ為知組中触出ス

一來ル十六日(申上候)日參被仰出候

一 中江弥左衛門十月 十一月 十二月 正月六万人講年ニ四度として正法寺ハ御地正法寺来御地

之可被召上書付候処此伺之筋ハ延引其外講元共ニ三步銀取計方之儀

引受可仕書面差出し及御沙汰置候処何分ニも来ル十月ハ正法寺方

人講ニ付其節申出へき義と海老原右兵衛引合被申聞即刻申渡ス

一 京町戸屋伝吉断町内魚屋六次郎去いの十月願当十月迄赤野村權平

衛へ奉公ニ罷越候隙を取ヲ取罷帰候此度ぬしヤ兵吉借屋孫市江

六役介六次郎儀赤野村權兵衛引受世話致くれ候間当子五月マ来ル

寅ノ五月迄三ヶ年之間六二郎夫婦共持罷越申度旨

五月十四日 晴

一 茅町岡屋忠七安岡町岡屋左助追込差免同月十五日御届

十五日 雨

一 三丁目平野屋助左衛門年寄役免願跡役浜野屋六郎左衛門江申付

一 鍛冶町山形屋与次兵衛倅太郎右衛門先達而大坂へ願遣候処今般呼

戻人別人承届

一 小性町あはや定右衛門南側ニ而家屋敷表口三間裏行十七間但彦歩

五厘東隣作屋つね西隣布ヤかね式百めニ右かねへ売同月 廿二日 証文出ス

一 二階町組屋勘十郎家守新吉借ヤニ居候煙皿屋伝兵衛当正月欠落日

数立人別離北郷門兵衛引合

一 西今町松本屋藤助妙勝寺操芝居役者廿五人宿右寺頼ニ付差置申度

一 新魚町茂渡家守かとヤ介七借屋市助正月出奔日数立人別離

一 小性町こうしヤ小右衛門南側ニ而屋敷表口三間表尺七寸裏行拾七

間但九步役東隣作人鉄五郎西隣作人孫八後家へ銀札三拾匁売渡

一 大坂桑原作次江林田町田葉粉屋喜助仙助と申もの無之吟味書付

相廻候処去ル十二日相達候得共駿河守殿御用付被致城入候ニ付難

相済同十三日ニハ御届可申旨申来

十六日 晴

一 今日の日参

一 西今町京屋伝兵衛役介伝藏夫婦小田中新屋敷八助妻はる借屋へ罷

越申度

一 新魚町茂渡家守角屋助七借屋市助当正月出奔之処以今有所不知日

数ニ成人別離及御沙汰

一 二階町組屋勘十郎家守借屋煙皿屋伝兵衛当正月出奔日数相立人別

離及御沙汰

一 播州佐用郡徳久村庄七と申者去ル十一日中之町山西屋要助方止宿

致湯郷江入湯致度右要助を頼足痛ニ而籠を頼代物帶又拾等を質に

入申度途中迄江も致世話くれ候様申之駕籠之者頼遣し候処途中よ

り湯郷へいざり着候処十二日之夕ニ候哉向之方江又駕籠ニ乗セ山

西屋方へ戻し此人出所不存候間返し候由彼是受取渡申合候も届出

申候ニ付何分湯郷江之人を付返し佐用郡へ実否可糾旨申付候処飛

脚相立彼是致候内右庄七鉸を持腕ヲ少々突候ニ付駕籠之者供々差

押へ取留候へ共何となく氣も立候ニ付無抛届出申候ニ付宿屋之儀

旁無油断医療氣を付候様申含

一 御先触着之由申出候

一 大目付中江廻状 伏見之駅江飛脚到来殿様倍御機嫌克被成御旅

行来ル十八日御城着被遊候之旨部屋住ニ至迄江之上刻登城可有之

候尤例格之場所江各可被相詰候家督之御礼無之面々未御目見無之

面々ハ被出間敷候此旨同役同列組合并支配方江茂可被相違候五月十六日

一幾野手代小野三郎次勝間田（生野）ハ飛札来ル及深更候ニ付不及即答尤山

岡拙者宛之書状也御通行之節馬繼ハ土居宿（マ）ハ其御地迄通（マ）し候間村

役人共ハ承合候処此度者其儀無御座旨町役より申来候由困究村之

儀繼馬式正ならてハ無之尤孫四郎支配所近村々ニ□一向「」候之

間前々之通土居宿ハ通させ候様致度夫共繼立申付くれ候義ニ候ハ

、牛又ハ人足等ニても繼為送差支ニ相成す様取計候左候而者乗か

け之面々差支ニも可相成指懸り察当を受候て甚如何ニも存候間い

つれニも前々之通り申付呉候様申来候

五月十七日 晴

一勝間田ハ来候趣与左衛門江も及対談猶又海老原右兵衛江も有無及

噂候処差懸候儀近例之通取計候様被申聞候粗右文段を受此間町役

人共ハ及応答候得共尚又被申聞候趣ニ而甚差懸り候儀旁申談候上

当町馬を以土居駅ハ勝間田駅相通候様取計可申旨及返答候

一広四郎ハ勝間田役人岡多右衛門下山和十郎江飛脚遣ス御通行

ニ付宿馬申来候得共御聞濟無之達候処今日又々差越候様被仰出候

爰元宿馬廿五疋之内取用又者病馬等も有之ニ付土居駅ハ差向置候

廿一疋ニ而其村方ニ而も手配有之度旨為心得申遣候所土居駅ハ被

差遣候馬廿壹疋ニ而亥年ハ当村ニ而用意可致旨御代納致承知乍去

昨日生野御役人中ハ被申上候通当村方馬式疋ならてハ無之候ニ付

若御差支成候ハ、牛又ハ人足等ニ而繼立申候外無之其御役人中様

御承知之義と受差懸り右体被仰付候迎右申上候外致方無之旨返書

差越候由広四郎ハ申聞候。去ル十三日兩人ハ当月大年寄共ハ馬前

々之通御貸被下当地宿馬之外御通被下候様申来候得共海老原右兵

衛江及沙汰候上其段聞濟無之由返書遣候

一三年以前戌之年御城着之節并去才御參勤之砌も勝間田駅ハ当所宿

馬貸借之取合事むつかしく候馬持共之儀ハ両駅ともに賄飼料ニ而

も不及貪着駄賃御払計を受取候故難儀之筋も有之候御下之ものニ

候得者一向通に相勤候義ハいとひ不申候近来両駅とも甚存分法外

を申不敬之様子相見え候連々御威風之有無ニも可相懸事恐入候

一山西屋要助方旅人庄七地合之病氣相重り養生不叶相果候ニ付届出

候
五月十八日 曇昨夜ハ雨

一九つ半時御帰城被遊候古林田村升形之外ニ而御目見申上大年寄三

人共に升形之内北ニ付例之場所ニ而御目見申上候御貸人鑓挾箱合

羽籠籠同心作右衛門順次召連内順次義ハ町分江御懸り被成候註進

を勤拙者立宿山本平右衛門且又草履取ハ去々才御貸被成候得共御

限年明候而ハ自分もの也。御先弘小頭市左衛門甚藏郡京町御註進

佐助人留伝内掃除見分喜作忠藏。御先乗村上清大夫立宿東新町岩

屋文蔵申付ル御徒目付下目付立宿不入出役場大概見合引取登城御

届申達し例之通申合御用所へ罷出恐悦申上ル出役ニ付直に引取内

山下其外御祝廻勤

一尾州知多郡島崎之内寺下村陰陽師高橋伊豆同手代五兵衛式人

十九日 晴

一以来半之日休日ニ相成候由大目付中ハ演説

廿日 晴

一中之町山西屋要助方播州徳久村庄七一件衛守殿へ及御沙汰勿論病死ニ候得共自身少々疵も付候義見分も出候ものニ付寺社取次北郷門兵衛江も及通用右町ハも寺院へ達候儀為心得候尤播州ハ庄七兄覚平と申者入来葬之義相願聞届候而某方も本琳寺を頼候由則今夕葬相濟候旨届出ル右覚平ハ一札町内ハ書上有之

一大目付中ハ廻状 本行寺於境内見せ物有之候所江自分并妻子者不及申下々迄参候儀御停止之事情若まきらハしき体ニ而罷越候者有之候ハ、急度可被仰付候目付之者ハ無用捨申出候様申付置候此旨可被得其意候右之趣同役并支配方江も可被相達候五月

一三丁目平のヤ助左衛門跡役浜野屋六郎左衛門江申付候戸川町年寄ハ兼役

一本行寺見せもの今日ハ廻見
一塚屋伊右衛門伊勢山田御指屋四郎大夫上下三人例年之通且那廻り
一妙勝寺芝居勸進元小性町味噌屋清六借屋くつしきや和助願聞届社方引合役者付一応大目付所江も達し候地所ハ本行寺也

五月廿一日 晴折々雨

一当子之歳町惣人別帳差出辻目録例之通扣を以郡代山岡与左衛門江相廻ス

西北条郡西武拾七町人別分
内男貳千九百九拾六人 女貳千六百七拾八人 座当三人
内男貳千九百九拾六人 女貳千六百七拾八人 座当三人
東南条郡林田六町分
内男七百一拾六人 女六百貳拾四人

千三百五拾人
町惣人別七千貳拾四人

内男三千七百貳拾貳人女三千三百貳人
醫師十八人 社男三人 山伏九人 座当三人 厄者一人

一但安永三年ハ七千貳百七拾人
一 小性町紙屋茂兵衛志摩守殿御領分草ヶ部村平六娘ふさ拾八才俸善吉妻に貫

一京町わたや源七尾張屋長兵衛手代権兵衛上下八人宿願
一すみや市左衛門後家東側表口三間半裏行拾七間但六步役北隣糞屋伊助南ハ横町老貫五百目同人東側ニ而七間六寸裏行拾七間但貳步五厘役南隣ハ大場屋万助北隣油屋歌二郎家三貫目借質入此度受返し

五月廿二日 晴折々雨

一中之町要介方ニ而相果候播州庄七本琳寺江頼葬兄覚平と申者一札出し寺社方引合相濟候段御用番衛守殿江及御沙汰候
一出羽守様御参府五月廿八日廿九日晦日之内御国元御立之御先触先達而有之候処御差障之儀ニ付六月十三日十四日之内御国許御発駕之御義定御先触来四五日前御関札相廻可申由十六日十七日院庄御休土井御泊之由大目付中ハ

一大坂村尾桑原林田町多葉粉屋喜助俸仙助と申者吟味之上先日申遣候処人別ニ無之由右町役人ハ一札相廻去ル十四日東町御奉行土屋駿河守殿御役所江作治罷出御届相濟候旨之書面

廿三日 晴

一山岡与左衛門ハ通用無宿盜賊伊助今日入牢ニ付作右衛門差出候今日御伺ハ濟候得共御日柄ニ付牢番預に取計入牢切手遣ス

廿四日 曇雨少し

一人別帳一応与左衛門の差出候得共町分人別増減有之与左衛門とも申談御下ヶ被下候様右兵衛迄申置候与左衛門も別而申達候

一雲州白杵御師多久十大夫上下三人例年之通旦那廻り堺町小鳥屋次郎右衛門宿切手

一宗永寺長屋に居申候七助与申者今町橋本ヤ義助舅ニ而此度引請願差出候得共此者四年以前戸川町ニ居其後元魚町いたみ屋ニ(不詳)分ニ而勤居候而町人別を離れたるに不当宗永寺にてハ長屋に居候様申旨相聞え追々可相糺候。坪井町鍵屋吉兵衛於久世今十延断承届

廿五 正ならず 暮頃(マ)の小雨

一悴斧助儀今日市村但見長屋もの善兵衛於途中無礼いたし兼而差免し置候も生得虚(マ)つけものニ付見逃置候義も有之候処下村友右衛門

「(マ)」ニ而難遁無礼ニ付打留申候折節存候中間通り掛り候ニ付友右衛門「(マ)」御挨拶申達し市村家来見かけ候故相招御案内申間も無之」及申候此段但見へ達呉候様ニ申候処同人即時相見へ候ニ付御家来へ口上申達候夫共御存寄も可有御坐哉と申候処被入念候義と申之相届候段申聞候「(マ)」元(マ)此方(マ)の相届可申旨応対済友右衛門殿十大夫殿(マ)も使来り別而友右衛門殿(マ)段々懇志之趣拙者方へも追々告知らせ之方々場所(マ)も信音余多相聞候同心共儀相揃候間不整候儀故右屋敷廻り警衛申含メ遣ス町分(マ)の夥敷群集致候ニ付追払セ候御両家(マ)も土中間相詰候由一向与左衛門門兵衛ヲ相招大目付海老原右兵衛(マ)之仕義相届候処但見(マ)も同時届有之候且悴斧助儀未御届も不申上候故其場ニ罷在候御差図次第為引可申旨達

候御政事方へ見分之儀申遣候間相待候様被申聞与左衛門扣居申候所弥御見分被仰付候間斧助立合其上但見方(マ)のハ請人に死骸相渡候由ニ候間見分後但見へかけ合候上引取候様被申聞双方応対済家来両人ヲ残し引取申候見分ハ御徒目付富沢金左衛門下目付也疵所

其外私記に有之死骸引取跡掃除之節家来両人相計セ夜八半頃引取御両方(マ)の高張てうちん箱てうちん出ル手前(マ)の箱てうちん二張出す。京町田原屋伊兵衛備後福山へ廿六日出卅日計

五月廿六日 雨

一今日拙者当病断申上候与左衛門御城(マ)被下カ善兵衛一件届ニ今日ニ不限是追(マ)数度失礼之儀今日之儀誠に難差免ニ付右之始末及候と有之候右弁書差出候様右兵衛(マ)被申聞旨則相認差出私記ニ有之与左衛門所持ニ而差出候処請取候旨右兵衛被申聞候由与左衛門(マ)の通用承る

用承る

廿七日 雨

一宮山方盜賊万助牢中ニ而不快与左衛門(マ)甚兵衛を遣し候上針医田下玄道差遣ス。吉田左右今十五日日延断同廿八日御噂申済

廿八日 晴曇 夜中ニ至雨不絶

一戸川町雲州屋利七掃宅。人別帳御用所(マ)当分御下ヶ被成門兵衛(マ)与左衛門(マ)互届

一盜賊義八盜もの横山に預り候品不残与左衛門(マ)被相廻候。今日当病御届

廿九日 晴曇

一山方万助不快ニ付牢番心付申出則与左衛門(マ)遣候上本道渡部三隅

一大目付中廻状 明朔日御目見被仰付候間嫡子ニ至^{マシ}追辰之中刻
「」有之候此旨同役同列組合并支配方江も可相達候。勝間田町
紙屋茂兵衛願三「」草ヶ部村平六娘ふさ^十八^十幸善吉妻に引請申度
願此間聞届今日本証文

六月朔日 晴

一今日当病届門兵衛を以達ス。芝居江孫八佐助。勝間田町豊野屋「
」真加へ同二日ニ立三廻り

一上紺町円乘院金毘羅へ七日ニ立十日計

一吹屋町熱田若狭同断七日逗留。堺町小林主水七日出七日之逗留

二日 不正白雨

一人別帳大成ニ付与左衛門拙者両判ニ而今日差上候

一拙者不快ニ付当病

一林田町片山文啓母断文啓旅行先足痛ニ付今五十日日延

天変
火災之部

一八半頃雷雨烈敷折節安岡町木綿屋藤助関木外家雷火之由難消留風
も夥敷吹類焼よこのヤ喜助打穴屋忠介きさみや佐七井手屋茂市材

木屋徳之介まんちうヤ治助小倉屋弥四郎ノ八軒之由与左衛門右場

江罷出纏其外欠付之者同心召連同人方へ差向組中追々場所へ罷出

ル七ツ半頃各引取候与左衛門の一通り御届ハ申候得共右書付ハ赤

見類助江拙者相達ス勿論調候而可達旨申遣ス

三日 不正

一明いつつ時御供揃ニ而地藏院へ御社参夫の御道筋久原三益前を泰
安寺御仏参夫の例之通被仰出候旨浜田平大夫の追書地藏院服忌御

改之事

一河村市兵衛明日之掃除触相見以来ハ不参候由申置先格之通

四日 不正

一赤見類助の日参連名宛ニ而御社参御仏参御延引申来浜田平大夫の
同断夫々触出ス

一今日出勤安岡町火事逢横野屋喜助打穴屋忠助生綿屋藤助小倉屋弥
四郎饅頭屋次助材木屋徳之助并手口茂市刻屋左七ノ八人此内生綿
屋藤助小倉屋弥四郎「」方ハ雷火之所為と相見へ全失火手過之
品ニ無之候ニ付通口火元類焼之義ニ無御座常變之差別考并ヲ以取
計仕度口御伺申上候処天災之儀咎も被成間敷御聞届相濟即「
」共江申含メ候一条袋に入置

一中之町福茂屋丈助四国七日立百日計。東新町鍛冶屋六右衛門同断
七日立八拾日計。伏見町古金屋善十郎同断六日立百日計

六月五日 晴

一今朝六半時赤見類助の切紙到来御用筋有之間伊達口兵衛宅江可被
相越旨請返書引続罷越候御徒目付中尾嘉兵衛下目付罷有取次出
座可致旨ニ付罷出候処与兵衛殿の被仰渡有之候旨赤見類助則御書
付を以読渡シ左之通

其方悴斧助義去月廿五日市村但見長屋へ罷在候善兵衛与申者於
途中致慮外候付打捨候段士官之有間敷事ニ者無之候得共慮外之
様子其場を難指延様子共不相聞其上右善兵衛儀虚「」之事ニ
候得者取計方も可有之候所短慮之致方共不埒之至ニ候依之悴斧
助義禁足被仰付其方江御預被成候其方兼々教訓不行届所の右体

之儀致出来候段不念之事ニ思召候右ニ付急度可被仰付候へ共以御用捨遠慮被仰付候間相慎可罷在候 六月五日 立合御使番西尾多内中奥目付柴山十治也御請仕引取候前格も有之候ニ付相頼馬場熊治宅同心其外通行御預ケ所番いたし候追付郡代山岡与左衛門相見へ町奉行役兼帯被仰付候由「夫々へ申通し候尤亦見類助宅ニおゐて被申渡候

- 一 林田中之町葉屋兵藏借屋葉屋平吉四国詣来ル七日出百日計同月六日ニ及御沙汰
- 一 石松院兼住所ニ階町不動堂并ニ鎮守前江来ル七日の十四日迄例年之通灯明之祈願主有之八日之間護摩修行石松院願書同前
- 一 下紺屋町不動院来ル七日の十四日迄祇園会祈禱修行願書
- 一 妙勝寺芝居江孫八順次

六日 晴

- 一 御蔵米三拾四匁町米三拾目
- 一 松屋市郎左衛門明後七日立廿日計京都糸屋忠助方へ
- 一 かヤ町吹屋甚兵衛来ル七日出十日計金毘羅詣同月八日大目付所江出
- 一 同町土橋破損届
- 一 芝居江出役伝内左助
- 一 組中火事羽織安岡町火事之節大雨ニ而こわり着用難致引替「儀小勘者江達候処当分之代り相渡追々操直し引替可申旨ニ付小頭江申渡す
- 六月七日 晴 御蔵米卅三匁町米式拾九匁・芝居へ喜作忠藏
- 一出羽守様近々御城下御通行ニ付小頭市左衛門大年寄町分御道筋見分

八日

一 安岡町火難之家々立柱ハ相残り居申候処御通行之節修覆可相成義ニ而無之候得者崩取候様申付可然哉之旨小頭の伺候ニ付類助江申談候処為崩取候而可然哉之旨被申聞右之内老軒ハ其儘取繕も致度旨左候ハ、残置可申旨小頭江申渡同所困之義何れも貧究(マ)「共ニ候間板垣致候義力ニ難及旨ニ付是亦類助江及噂候処薦等ニて端町之義苦かる間敷旨ニ付其段小頭へ申渡

一 明九日東西御境目辺ニ而服部十兵衛砲術打揚被仰付候其節御次より乗切被仰付候間左之場所江水桶ひしやく相添差出し「様可申付候旨類助被申聞候ニ付町分ニ而京町へ其旨可申付旨孫左衛門江申渡 西京橋御門之外こし休御境目川前 東古林田升かた川崎渡場御境目

右遠馬被仰付候付通筋江者知せ置候而店前に馬なと繋候事などハ相心得居申候而可然哉ニ付申聞候

一 京町加茂屋平左衛門方ニ奈良岡島忠兵衛と申候者墨商人宿例年之通

- 一 中買米屋伊助昨夜病死
- 一 坪井町かきヤ吉兵衛帰着
- 六月九日 曇 芝居作右衛門順次
- 一 町田戸屋宗十郎筑前遠賀郡柏原浦茶碗類売例年「
- 一 鍛冶町の頭五人金毘羅参詣
- 十日 昼後雨
- 一 当时入牢之人類相調明後十二日指出可申旨与兵衛殿被仰聞候

一元魚町大庭屋万助方ニ逗留吉田松林義今日^{四日}三十日逗留日延

【編】一所々橋上ニ而涼其外銘見せ先腰懸涼無札等無之様火之元念入可申
旨例年之通触出ス

十一日 曇

一入牢人万助快方候得共全快不致葉相止メ針者今迄廻り程為致可然
例格之通直に申通候様牢番江申渡ス

□昼時頃宮脇町ニ而道心坊主体之者殺害ニ合町内南側倒居申旨委儀
者相糺不申候得共先註進申候旨同町年寄直に註進申出候「」委細
之訳相糺し尚又可申出旨申渡尤手負及落命「」出所等も難相知
儀勿論ニ付此義急に承届可申旨申付并右ニ付詰合セ同心者人差向
候処手負人最早致落命候旨相手者徳□宮小原秀次家来之由右場所
ニ者不居申と粗相聞候ニ付直に秀次方へ同心遣シ右家来承糺候筋
有之候間其方へ預候間急度捕置候様申遣候返答申越候者家来
儀件之變儀無相違御座ニ付只今寺社御役所江家来儀急度禁置儲
ニ御預り置申旨返答申越彼是致候内□左衛門□尤相届候ニ付爰死
人番等之義不及申候へ共町内年寄の杜方江掛ヶ合番□等入念申付
尤町内も万端氣を付往来之もの右之場所江立集り不申候様其外
町内り等之義入念候様孫左衛門江申渡尤詰合候同心右場所江差
向ヶ万端心付候様申付候事

一右一件ニ付部屋目付中山伝内平ニ而石名忠蔵申付指出ス為御届御
□番与兵衛殿江罷越勿論見届之者差遣候間委細之義ハ追々可申上
□相達置大目付届之義者北郷門兵衛江相頼届ニ及候門兵衛の委細
申談□死骸番其外神主并地子居之者共の万端取計可申事候得者神

主共江申上□被置候様致度旨申談且死骸見分之儀寺社付之下代差

出候ハ、同心□一所に罷越可然是又申談。右俣使罷掃一通り見届
候趣申聞又傷之□疵乳通り一ヶ所有之其外手疵相見へ不申年頃廿
計り之坊主ニ而出所等睨与相知不申旨相聞へ候尤寺社役所下代一
所ニ立合意通り見分遂候旨申聞候方々町内一札并右爰義之場所其
外及見聞候者共申聞委細ニ遂吟味夫々口書等申付候様猶又申達右
両人并寺社役所下代共又々一緒に罷越候事。右一件「」之者吟味
口書見届一札等出役之者申付持參指出ス何れも別紙に有之右吟
味之節徳守神主も右一席へ罷出候由寺社役所吟味書奥書印形いた
し町役之ものハ「」に不及候事。右檢使一札并町内吟味書等夜に
入持參赤見類助へ罷越候他「」平井郷左衛門へ罷越右吟味書
差出シ其外具ニ申達尤一覽候ハ、直に与兵衛殿□持參可致旨申達
候処最早深更之義殊に格別相替儀も無之候得ハ明日於御城ニ相達
候而も可然旨尤類助の委細之儀与兵衛殿へも談被置候由申被聞候
ニ付書付類郷左衛門へ相渡置ク且又寺社吟味書及拙者一緒ニ持參
是又相渡置。平井郷左衛門被申聞候者小原秀次家来入牢取計可申
候旨尤夜隱之儀候間今夕者牢番預ヶ取計可申候勿論門兵衛の神主
江右之段申渡当役所の同心共秀次方へ指向置□右之取計ニ可及旨
同人被申聞候依之其段門兵衛へ通達ニ及候八ツ時過「」室井
作右衛門并寺社役所下代植月元右衛門秀次宅へ罷越右家来入牢申
付候旨元右衛門の申渡則繩付ニ而牢内へ召連罷越牢番預ヶ取計候
事

。爰死人出所等相知不申候付粗聞合等之儀申付候処目明シ共承合

候者「」ニ而粗存候もの有之由ニ而其段書付差出候処右変死之

坊主奥津村宝珠寺弟子ニ而さい原村辺ニ親類等も有之旨相聞候付其段孫左衛門へ申渡宮脇町年寄方の宝珠寺并さい原村庄屋方へ及書通様子承札候様申渡へく旨孫左衛門へ申渡ス。右変死之坊主先達而新田村ニ罷有候道心坊主方へ出入致候義杯も有之旨風聞ニ付新田村相札候処先達而折節罷越候義□有之候得共出所其余之義共委義者不存由申出候事。西寺町長安寺□承合宝珠寺弟子ニ候哉否之義承候処是又委敷訳相知不申候事

一奥津村宝珠寺江承合ニ人指遣候義宮脇町年寄共の先格を以社地地子居之者共江申付候処神主共の申候者兩人遣候内老人者町分内の申付呉「」致度旨達而申候旨如何計可申哉之旨孫左衛門より相伺候ニ付先格も南側地子居之諸人用等町分の食着ニ不及南北格別之訳相立居申候事前々も旧例ニ候ハ、今般も社方の彼是可申儀ニ無之候間取上ニ不及兩人共ニ地子居之方の差遣シ候様可申聞其上ニても異儀ニ及候ハ、寺社役所も社方江可申付候間其旨申聞何ニも片時も早飛脚差立明朝者奥津江差越取計可申旨孫左衛門へ申渡拙者義前段ニ有之候通郷左衛門江罷越暫有之掃宅之上右飛脚之者定而指遣候義与相尋候所社方の兩人遣候儀ハ弥不承引ニ付未差立不申候由孫左衛門申聞之片時指急候場合ニ而強而存所申募り役所申付をも不相用段ハ不届至極候併此義再応申付彼是隙取候而者指文ニも相成候間急ニ町分へ申付即刻差立可申旨申渡尤町内年寄共の神主共へ申聞今般被申聞候義共甚不筋之義ニ存候併彼是申合時刻も移候儀「」此度之儀ハ先例ニ違町分の老人申付遣シ決而以

後之例にハ不相用事ニ候間其□神主共江指詰置候様年寄江可申付旨孫左衛門江申渡ス

「」一条神主共不埒之申分ニ付門兵衛江申通急度呵被置候様致度旨申談置

六月十二日 晴

一宮ワキ町変死之者吟味書類の直に御用所江被指出候旨申被聞

一今晚牢番預申付候小原秀次家来今朝入牢申付候与兵衛殿類助江届

一宮ワキ町変死骸取計之義ニ付宝珠寺の返答若遲滞致候□も今昼

夜程者右之場所に其儘指置明早朝追（マ）ニも宝珠「」返答不相聞候

ハ、仮埋ニも申付可然旨与兵衛殿被仰聞候

一宝珠寺江町内年寄共の及文通候趣与兵衛殿江及御沙汰候

一右取理メ等取計之節指支無之様手配致し置可申段地子居之□神主

江年寄共の及通達候様申渡

一当时入牢之者人数改書与兵衛殿江指出ス別紙扣有之

一出羽守様御參勤御日取り当月十三日十四日之内御国元御免駕之由

先□而御先触申来り候処御障之義御座候ニ付右両日者御延引ニ相

成□而御日限御議治被仰出候ハ、其節可申達旨雲州御役人中の□

状ニ而申来候由院庄御茶屋山田庄兵衛の郡代所江申出其段孫左衛

門江申渡ス

一已後御定日御仏參者中奥目付中のも為知無之旨今日「」ニ付其旨

相心得万端間違無之様取計可申旨孫左衛門江申渡尤御延引知セも

無之旨ニ相極り候段承り候ニ付其旨相心得候様間違無之様取計可

申哉之旨孫左衛門江申渡

一 大坂屋次郎右衛門湯郷江入湯往来十六日計

一夜に入奥津宝珠寺之返書年寄方江相達候所右相果候坊主先年宝珠寺ニ而剃髪いたし遣シ候由今般之義何之存所も無之候間御慈悲を以取埋等被仰付候様申来ル且さい原村親類共へ者宝珠寺之可申聞旨申来ル外ニ拙者方江大意同様之文言ニ而別紙差越候

一 右返書之趣を以与兵衛殿江相届尤今夜中変死人取埋メ可申付旨申達ス類助江も同断門兵衛江右之段及通用其趣神主共へ被申聞候口申談候。右取捨之儀宮ワキ町年寄へ申渡地子居人へ取計候様可申付旨孫左衛門江申渡

一 及深更玉置広四郎罷出申聞候者淡路守様御家中三沢六郎三郎と申仁御在所江帰国之序御使者被仰付候由今夕勝間田宿泊リニ而明早朝御城下着之由此表不案内之義ニ候間宜取計呉候様勝間田以書中申来り候旨相届則右書状指出候ニ付即刻次助江□越相達候処右御使者広四郎方へ指向罷越候ハ、直ニ留置懸合之賄差出候様可申付旨尤同人宅江御取次罷出候様取計可被申渡旨被申聞候ニ付右等之趣広四郎へ申渡

六月十三日 晴

一 宮脇町変死人死骸取捨之儀今曉取計相濟候旨尤横山村惣墓之場所ニ取埋候様右之所横山村内ニ而町役之者共々横山村庄屋江其旨通用及候様孫左衛門罷出相届

一 芝居作右衛門甚蔵

一 右取捨相濟候旨与兵衛殿類介へ手紙ニ而相届ル

一 淡路守様御使者三沢六郎三郎今朝五ツ時頃広四郎方へ着候処追□

御取次後藤守助罷越御口上之趣承之候由無程六郎三郎出立いたし候旨広四郎罷出相届承置ク

一 吹屋甚兵衛讚州金毘羅へ罷帰リ相届

一 野介代村住居當時無宿伊八元同村當時無宿幸助旧妻右両人郡代所へ入牢申付候処及暮候ニ付今日中牢番預ケ申付ル且伊八儀無宿ニ付牢賄申付ル幸助旧妻義ハ野介代村ニ親共有之則親甚六□宿賄申付ル

六月十四日 晴

一 御用所御出席

一 明十五日式日御礼之御序を以大年寄共御目見被仰付候之間其段可申渡之旨類助へ被申聞尤差上物は又例格之通相心得候様被申聞右ニ付指上物取計之儀小勤者中へ申談置候

一 □夜牢番預ケ申付置候猪助幸介妻入牢申付候旨与兵衛殿類助へ手紙ニ而相届ル

一 大年寄共明日登城ニ付御門通行之儀類助へ申遣ス

一 山本屋志之介父母往来九拾日之逗留相願伊勢參宮致候道中ニ而相勝不申候障入候ニ付今三拾日計京都へ日延願申越候旨其段承届ル

一 松本屋長松備中玉島紙屋代助方へ当十五日ニ出立往来廿五日計逗留ニ而罷越申度候よし相願承届ル

一 宮脇町殺害人有之候節町内年寄其外右場所近辺之者并福渡町与助と申者出商人致罷有候由右等之者共取計不行届義共有之候□付小頭郡屋目付藏合孫左衛門宅へ指向件之者共呼出呵申渡し以後之しまり等申付候様小頭市左衛門へ申渡ス尤右之趣類助へ及噂取計候

事

一 今日御仏參御延引ニ付其段從御城小頭市左衛門へ申渡ス

一 大年寄三人共呼出明日御目見被仰付候旨申渡ス

十五日 晴

一 当日御祝儀御目見被仰付候付小従人以上登城無滞相濟

一 右畢而斎藤孫右衛門玉置広四郎例格之場所ニ御目見申上ル尤先

格之通差上物持參無滞相濟藏合孫左衛門儀不快ニ付今朝者登城難

仕旨右同役共今今朝相届候ニ付其段類助へ相届ル

一 左之通被仰出候旨御書付類助より被相渡

是迄養女と相願盼へ娶候得共以後ハ何之誰娘貫置追而世悻と娶申

度旨願可申尤兼而養女に致置誓養子等相願候歎又ハ養女に致置他

へ遣候類ハ格別之事

六月十六日 曇

一 御用所御出席

一 入牢人名面書付今日与兵衛殿へ差出候処尚又認方御好有之明後日

指出可申旨被仰聞右書付御差戻シ候事

一 明五ツ時御供揃ニ而地藏院泰安寺妙法寺本源寺御社參御仏詣被仰

出候旨飯塚弥代ハ通達申来ル此段大年寄藏合孫左衛門江申渡追而

右刻限四ツ時相延候旨被仰出候由太田官平ハ申来是又孫左衛門へ

申達ス

一 御社參御仏詣以後御定日之御社參御仏詣者御延引共為知無之段承

候ニ付其段孫左衛門へ申聞置候処今日浜田平大夫被申聞候者右之

趣間違ニ而町奉行所郡代所へハ是迄之通御出御延引共及通達候間

其段相心得候様被申聞候ニ付其旨孫左衛門へ委細申渡ス

一 播州今市綿屋嘉市郎手代伝兵衛吉兵衛と申者二階町境屋伊右衛門

方へ宿いたし候旨宿切手孫左衛門ハ差出ス

一 古城東村多兵衛妻郡代所ハ入牢申付候ニ付例之通同心共牢内へ差

向取計相濟尤及暮候付牢番預ケニ取計申付ル明日御日柄之儀ニ付

明十八日入牢可取計事

十七日 晴

一 今四ツ時御供揃ニ而四ヶ寺御參詣被遊候付町分取計御先弘例之通

差出無滞相濟

一 豊野屋万助致入湯候処昨日罷帰候旨相届

十八日 晴

一 御用所御出席

一 入牢人万助儀病氣得快氣ニ付鍼藥共今日切ニ而引候旨牢屋より相

届ル

一 同心石名佐助父左五兵衛病氣養生不相叶昨夜相果候之旨小頭ハ相

届

一 吹屋八左衛門母先達而西国致順礼候処今三拾日逗留致度旨申越候

由八左衛門願書差出承届ル

一 吹屋八左衛門同町南側ニ而所持之屋敷地表口二間五尺裏行六間式

尺之所代銀三拾匁ニ同町吹屋八左衛門へ売渡申度旨願書指出承届

ル

一 当时入牢之人数書付与兵衛殿へ指出ス但今朝入牢致させ候古城東

村太兵衛妻共都合拾一人也別紙扣書有之

六月十九日 晴

一 明廿日四ツ時御供揃ニ而地藏院江御仏詣被仰出候旨類助浜田平大夫より通用有之候ニ付市左衛門申達シ孫左衛門へ申渡候様申遣ス

廿日 曇

一 御用所御出席

一 入牢人平七遂吟味可申旨類助申被聞先達而指出置候右一件不残

一 相渡依之明日五ツ時平七并町分掛り合之者共遂吟味候間其段夫々

江申渡候様 市左衛門 孫左衛門 江申渡ス

一 左之通証文印形加之

合米四俵牢舎六人分御扶持方米内貸し

合銀札式拾匁加藤関次場家御賄料内貸し

廿一日 曇

一 五ツ半時頃左之もの共呼出シ遂吟味別紙口書有之出役之もの□先格之通

吟味ニ付出牢終而入牢

平七 福渡町与助

角屋 平七後家 おの屋七右衛門

房屋庄吉

後家

かと屋勝介

土佐屋金十郎

一 明廿二日五ツ時御供揃ニ而丸淵江御出尤かち場御乗船之旨飯塚弥代々通用申来候付其段小頭并孫左衛門へ申渡

六月廿二日 曇

一 今日丸淵御出被仰出候処水増候ニ付御延引押入築江御出被仰出候

旨尤かち場御乗船被仰出候旨浜田平大夫申来候付市左衛門孫左衛門江申遣ス

一 御用所御出席拙者儀病相勝不申ニ付出勤難致旨大監中江門兵衛

相届

一 入牢人平七并懸り合之もの吟味書類助へ指出ス

一 押入築場江被為入候処夜に入五時頃御帰被遊候旨尤御乗船ニ而鍛冶場御上り被遊候旨御先払罷越相届

廿三日 雨

一 田原村船頭ト山北屋伊兵衛懸り合之儀孫左衛門并書ニ一件書付相

添差出候付及再見委細申達置

一 東新町鍛冶屋次兵衛弟伝蔵夫婦林田村次郎右衛門借家へ罷越申度

願書差出ス

一 盜賊吉五郎致所持候盜賊道具北郷門兵衛相廻り市左衛門へ相渡ス

一 勝部村蓮池蓮葉入札之儀寛十平被申聞候事

廿四日 霽

一 御用所御出席

一 拙者儀病所不相勝候ニ付今日出勤不仕候旨大目付中へ相届ル

一 東新町鍛冶屋治兵衛願郡代所引合之上承届

一 蓮葉入札之儀来ル廿八日迄ニ御代官所へ指出候様可相触旨孫左衛門へ申渡ス

一 □之御書付之趣町方江可相触旨御書付被相渡候付孫左衛門へ申渡触書相渡ス

近年於町方御蔵米同然之儀を拵不美成ル町米江御蔵米之上卷
俵を懸ケ船積致シ備前辺を初津々浦々江御蔵米と号致売買之
旨相相聞候其所ら実之御蔵米をも引並に相成當時のミならず
永々直段合ニ拘り不屈之至極之儀ニ候依之運上所通船手形ニ
而御蔵儀に紛敷分ハ小桁於御番所敵敷御吟味有之候様被仰付
候尤御蔵米買溜置積下シ候ハ、通手形受取候御其様相違候
得者無滞通船候様申達置候右之趣米問屋中買買積之船持共別
猥に相聞候已来右体之悪事いたし候もの有之候ハ、当人ハ不
申及年寄五人組に至迄急度咎可申付候其旨可相心得候

六月

右之趣被仰出候間惣町中入念可被相触候尤米問屋中買船持共
急度可申渡候若於相背者可為曲事者也

子六月廿四日

名大年寄中

一かち町小鉄屋小兵衛母四国遍路に罷出候処昨晚無滞罷帰候旨届有
之

一三町目作人新内四国遍路に罷出昨晚無滞罷帰候旨相届ル

六月廿五日

晴

去ル五日の今廿五日迄之日記ハ山岡の廻り候を写置候

一今朝六半時赤見類助の切紙御用筋ニ付伊達与兵衛宅へ可罷越旨即
刻罷越候処遠慮被成御免候間今日の出動可仕之旨与兵衛殿被仰渡
候御使番西尾多内中奥目付柴山十治御徒目付中尾嘉兵衛下目付組
勿論大目付赤見類助出座先日之通帰宅之上髪月代剃廻勤
一芝居へ郡次喜作

廿六日

晴

一芝居へ伝内孫八罷出今日引払届

廿七日

晴

一役者共今日出立之旨勸進元届出ル

一昨夕四半頃林田町吉見屋(空白)方ニ而因州鳥取小松町儀兵衛と申
者聊言分有之廻り同心作右衛門甚蔵罷向ひ目明兩人近辺に罷有候
孫中共差添段々及理詰今朝右之儀兵衛誤り一札取之為引取候右之
者宿中之町山西屋要助不取計ニ付一札申付ル喜作軍治

廿八日

晴

一関治儀明廿九日引廻シ打首之上獄門ニ被仰付候之間取計之趣心得
置候様被申聞申渡之書付其外高札之文段認差出ス追付於御次与兵
衛殿赤見類助立合右之段被仰渡奉畏退出之上夫々大意申合メ七ツ
半頃今首切ハ喜作半屋中間
ニ為持木屋太兵衛方へ遣候処順番ニて研新九江(マツ)
遣夜五時中
間取に遣
大年寄共鍛冶頭針申
付鍛柄屋獸門
台檜物屋高
札穢多頭牢番の
呼に遣手合市左衛門
江申渡

六月廿九日

晴

一今日六時於牢屋小頭市左衛門部屋目付作右衛門平の孫八左助順治
忠蔵罷向ひ揚り屋関治江大札盜候儀頭吟味之上白状ニ付今日惣牢
御下ケ被成候旨申渡穢多共繩を打吟味場土座□すへ御徒目付中尾
嘉兵衛下目付組立合市左衛門其外相詰書役安次申渡読之目明兩人
罷出ル

一其方儀当子正月十四日御城内役所へ忍入銀札盜取於市中取扱候
次第令露頭吟味有之候処様々申拔尚又於牢中遂糾明候節可及白
状元名跡受被下家門之身分御厚恩を忘却并父母へ対し不孝を不

省重々之科によつて引廻シ打首之上獄門に刑罰申付者也 畢而

門外ニおゐて牛ニセ搦み付伏見町へ出兼田へ引作法有之候迄

町ニテ両度穢多頭読之高札之文段紙にうし牛代拾式奴渡ス

一高札之文段 此もの当子の正月中旬御城内御役所口忍ひ入過分之

銀札ぬすみ候儀御吟味及白状其科ニよつて引廻之上

獄門被仰付者也

右之趣ニ而御仕置場へ引取計引取候ニ付与兵衛殿并赤見類助江相

届

一関治と博奕会合之者松者屋藤吉白銀屋安兵衛吹屋幸吉元魚町 二階町 吹屋町 京町こんヤ手間

弥次郎紙屋兵助豊屋六之丞伊部屋又三郎沢屋惣左衛門錦屋文兵衛元魚町 同町 新魚町 吹屋町 京町

和泉屋銀兵衛八百屋茂兵衛加茂屋平左衛門元魚町 伏見町 船頭町こんヤ手間亀之丞福元

屋清六金屋新吾野田屋左衛門ふきや町 新魚町

右之者共兼而博奕会集露頭之上関治吟味ニ付訴人に逢白状ニ付追

込申付候尤先達而御同済

一同断ニ付浅屋義助塗師新吉同新七後家塚屋伊助小紋字屋伊介元魚町 二階町 同 小姓町五

人之者共同断ニ付筋違出役両様共ニ市左衛門作右衛門伝内孫八忠

蔵喜作貫式丁ツ、釘三把人足申付当番御作事へ受取に參ル尤類

助江申達置式丁余分入棟梁伊助へ大年寄孫左衛門申渡し平大工召

連候貫之員数先ハ式丁宛ニ候得とも戸口大小有之故一定難成候受

取候而返納ハ不致事ニ候

一京町ニ関治実母罷有候ニ付悴儀養家相統之身分「処心付異見不

行届候ニ付件之仕義ニ相成候事不念之至リニ候依之呵追込申付候

右等之趣取計両御方へ御届達ス一部袋に入置

一海老屋長右衛門京都二もんしゃ手代宿いたし候処関治を誘ひ博奕
致候ニ付右長右衛門を呵り大年寄宅

六月卅日 晴

一赤見類助の大坂布屋町丹波ヤ庄七支配借屋願人河内屋甚三郎病氣

ニ付茂兵衛相手御当領津山今町直屋孫兵衛へ生魚商内并旅籠ヤ去

亥七月の罷登江戸堀式丁目まつ金屋嘉右衛門貸屋敷借り生魚売掛

五百拾九匁八分八厘内百卅匁（マ）いノ九月八日ニ受取三百八拾九匁八

分八毛外ニ錢壹貫貳百八拾三匁（マ）不埒孫兵衛御召出し之趣初度之訴

状（子）六月之日付右被相渡今日呼出し孫兵衛父子不快之由間柄故罷出

候年寄之内直屋市左衛門江申渡立合平太兵衛市左衛門作右衛門大

年寄孫左衛門今日御飛脚仕舞ニ付大坂村尾桑原両氏へ右申渡候旨

申遣

七月朔日 晴

一御居間御目見申上ル

一兼田ニ獄門有之候間若最寄御出被遊候義も候ハ、通用被下候様相

頼置

一宗旨奉行中の例歳之通証文案紙廻章

一式歩中買株中谷屋文七譲りとみや蔵次譲受願聞届

一新職人町百万遍

七月二日 晴

一馬持共廿五人咥人ニ付大豆壹表（マ）ツ、拝借願申上御聞届被成候

一明三日五ツ時御供揃ニ而丸淵辺江御川狩被為入京橋今川井内左衛

門前川戸の御乗船之御出触太田官平被申聞

一石名左助妻女子出生

一和田村文四郎娘年廿老才妻ニ貫願今町庄原屋善兵衛

一東新町黒田良朴倅太郎市廿老才備前盤梨郡市場村三郎兵衛養子遣度。御藏米卅式匁町米式拾八匁

三日 晴

一獄門首致紛失候趣村方申出右引受ニハ無之候得共向寄相尋候処

見へ不申候旨山岡与左衛門申通用有之即刻鈴木此右衛門口達し御用番衛守殿へ及御沙汰首無御座候故高札ハ倒し置牛屋 取越三日計有無ニ付而申上御差図ヲ受取計可仕段申上置候

一盜賊万助出牢追払郡代所ニ而取計伝内罷出候

一明四日四時御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣被成候旨浜田平大夫

一戸川町目明甚助母江紗屋家跡相続之存所を尋候右返答書出ス

一上紺屋町早助夫婦当三月一日家出承置日数立人別離同日ニ申上

四日 晴

一関治取計一条類助江差出。先年儉約触町分取計之写此右衛門江出ス

一明五日五時御供揃ニ而今町迄田町御門の例之通夫西へ本通り筋

竹田村妙見淵之辺御川狩御帰ハ加々美落合の鍛冶場迄御乗船之旨

太田官平被申候夫々取計此間伏見町ニ而婦人とも御駕籠端江

不埒ニ押シ出候由仍之以来御通り辻々ハ横町までも組頭差出無礼

乱雜無之様尤年寄共も見廻り所に寄相詰候様申渡ス

七月五日

今曉雨屋前迄雨降

同日六日及御沙汰御藏奉行御勘定奉行中へ及噂候
一戸川町沢屋龜三郎借屋喜助昨四日七ツ半時京町吉田屋前ニ而切手

式枚老枚ハ半表子二月十八日 老枚ハ七折四合三引い十二月十七日造酒介殿御内松本正藏名宛之由届出候

一磯野伊兵衛組曾川勝三郎上紺屋町作人徳三郎引請人別人願承届

一上紺屋町作人徳三郎引請倅勝三郎当子廿七才妻廿一才勝手ニ付式

人共ニ一宮神人中島巨名跡相続之為養子遣度人別除郡代所社役所 引合承届

一河原町利右衛門事直次と申者当正月野介代村幸助從弟を同道いた

しニケ村伊介方へ参妻を連帰り此女ハ去ル未十一月口ニ而 不詳候此一件ニ付郡

代所右直次を相糺し申度旨ニ付被及御沙汰候ニ付及吟味口書有

之候

六日 晴

一当子之年人別改帳認違之儀恐人差扣同候処被仰付即刻下城門戸を差し相慎夫々為相知候右ニ付山岡与左衛門兼帯被「」由拙者

儀ニ付大年寄指扣同候ニ付一応此右衛門迄及噂候由

七日 晴

今日御礼被為請候次第不見申候拙者慎之内也

一市郷寺院宗判之一冊北郷門兵衛へ指遣来ル十八日今廿日迄町分

同廿一日今廿三日迄在分

一明日四時御供揃泰安寺へ御仏參被成候

八日 晴

九日 晴

六日今八日迄之日記ハ山岡与左衛門の廻り候を写置候

一今早朝衛守殿の折掛ケ御奉書此方今御請遣し引統御礼參上仕候御

用掛り并大目付中へ廻勤二日計ニ而免す

一中之町山西屋要助去月廿七日書記之趣ニ付呵禁足大年寄宅ニ而取

計

一御藏米卅壹匁町米貳拾七匁

同日於御次申上願候
一岡屋忠七兄庄八あはれ候ニ付同心喜作郡次腰繩預ケ申付ル

一細工町灰屋喜平次十三年以前船頭町和泉屋清助に被頼巻貫五百目

に名代ニ成右清助家屋敷買願聞届候此度今津屋万次郎願元出銀

出し候ニ付冲屋広助江壳渡し申度家壳券ニ喜平次印形致くれ候様

相願候得共承引不致及難儀候間申付くれ候様及訴訟候間今日喜平

次呼出し所存糺し候処安之外ニ而何分私名前ヲ消し壳券ニも御立

被下候様ニ相答申候併右掛り合尋之書面之表ハ中々直に請申間敷

合も相聞候間何分罷帰候而組合年寄共申談し得不詳も致候ハ、書

付を以相答候様申聞届候

七月十日 晴

一去ル五日拾ヒ切手之儀触出す

一徳守小原秀次家来へ牢食之擬ヒ不足ニ而牢番共へ歎候由相聞候間

寺社取次門兵衛江及噺置候

一山岡北郷両氏当病断申達ス御勤定奉行中へ噺申

一関治獄門取捨候様申渡尤相見へ不申候段申上候而御差図之上

十一日 晴 御藏米卅匁町米貳拾六匁

一鈴木此右衛門江町分御通り之節町々へ申付候趣書付持参

一明十二日四時御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣飯塚弥代分

十二日 晴

一戸川町医師橋本利斎大峯十二日立二十計分

一元魚町伴幸斎後斎一昨十日病死今日申上

十三日 晴白雨

一東新町初屋利八大峰十五日立廿日計

一御藏米三拾壹匁町米貳拾七匁

一中之町豊久屋幸助後家大工義助願多賀明神へ十六日立往来廿日計

一明十四日四時御供揃ニ而泰安寺御仏詣柴山万兵衛通用

十四日 晴

一今日地藏院へ御仏詣夫々泰安寺へ被成御出候処昨日地藏院之儀通

用無之官平通用ニ付急ニ触出口右両寺御仏参ニ付例之通七間廊

下へ日参之面々相詰御通懸ケ相済直に申合退出

一三丁目福谷屋伝介大峯明十五日出廿日計。鍛冶町宇之助同断

一今晚例歳之通盆中ニ付町廻り喜作郡次召連御貸人箱分持挟箱

合羽籠草履取御手人勿論高張無之例刻分罷出相済衛守殿へ直御届

大目付此右衛門へ手紙を以届ル例之通一種

一今夕今町途中中之横町西側松物屋東壁張出御通行之砌甚不安堵ニ

付年寄へ見及候趣同心を以申聞せ罷通り候

七月十五日 晴

一元魚町紙屋助右衛門大峰へ明十六日立願聞届ケ候処懸り合有之も

のに付差留申候様大年寄へ申渡ス

十六日 晴

一明十七日地藏院御社参之儀例刻之通飯塚弥代通用ニ付触出ス

一大目付中分廻状於江戸表板倉佐渡守殿御卒去之旨申来十八日迄三

日之内鳴物高声御停止之事ニ候尤普請者不苦候右之趣同役并支配

方江も可被相達候夫々例之通触出ス

十七日 晴

一今日御社參御延引柴山重治ハ申來ル

十八日 晴

大目付所江及鳴中奥目付所江も通し置候

一今町ハひものヤ小兵衛方去ル十四日之通修覆申付候処壁を落し土蔵を入起し候様ニ仕度旨尤來四日以前ニハ成就仕候様申出

十九日 晴

一去ル十五日紙屋助右衛門大峰差留候者西今町橋本屋儀八方へ舅七助ヲ町分人離之訳も不付宗永寺人別として此度引請申度旨相願右七介ハ元戸川町藤屋甚助借屋ニ罷有候ハ四年以前ニ而以後伊丹屋久吉へ勤ニ參戸川町ハ相離候由甚助書面出ス。久吉書面ニハ六ヶ年已前桶屋町佐平次ニ借宅四国ニ出歸候而妹聳三町目神代屋和兵衛方へ參夫ハ戸川町藤屋甚助借家ニ居申候之由請人ハ紙屋助右衛門神代屋和兵衛之由久吉方ハ右新右衛門縁類ニ階町紙屋兵助元魚町豊島屋伝次神代屋和兵衛何方も引受候様ニ申之由四月中旬ハ差置候由今町儀八七助を寺人別ハ引受候儀難心得段々氣を付候得共不致承知候由申之候

右之大底ニ付態与不遂吟味橋本屋儀八願不聞届相返ス尤昨日大

年寄へ申渡ス

一今夕上紺屋町ニ而百万偏(マ)

七日廿日 晴

一古城村ハ入牢之女不快ニ付山岡与佐衛門江通河辺周見遣ス直ニ相止ル

一出羽守様九月九日十日十三日十四日之内御国元御発駕之御積御先触後藤嘉兵衛ハ飛脚江隅長助御発□之内九日十日差支有之候ハ、(不詳)

九月六日七日兩日之内御発駕之御積相極罷帰候様被申付候由与左衛門ハ為知院庄御休十二日十三日十六日十七日

一岸権六遠慮御免被成候由右ニ付町方追込之者又ハ戸ハ之□共日取之考旁御差免之儀御伺申上候処日数之儀申上候様此右衛門被申候ニ付戸ハ卅日閑治実母同断追込ハ廿五日と申上候処於御席伺之通取計候様衛守殿被仰渡候

一大目付中ハ廻状 惣而御出之節透見等致シ或者御駕籠所相濟候得ハ早速門外へ罷出御見通致往来候類有之候様相聞へ不敬之至不慎之事情已後御通筋者勿論之儀御見通筋たり共急度相慎可申候此段及演達候様御用番御申ニ付申達候

右御触書之趣を以町方一統存寄を加へ申渡候様此間御内聞有之候付左之趣大年寄へ申渡シ尤丁々年寄共呼出入念申渡候様申含メ候此度御家中へ御触書被差出別紙之通町方一統可恐入儀ニ付町々年寄共へ相知らせ候兼而御通之節之儀嚴鋪申渡候処無何と不作法之趣も相聞へ候ニ付此度左之通申付候

一御通筋者家々大人男女幼少之もの迄銘々内庭に手をつき恐入拜之候義者不苦候事

一御通之節御先御跡御左右遠辺惣而御見通シ之場大人男女幼少之者たり共差置間敷自他無差別人を払可申事右之作法直し受(マ)
□木戸を立テ切年寄共組頭手を配リ万端氣を付第一御行列濟候否ヤ外へ駈出格子或者高見より覗き亦ハ透拜見等致候事有之候而者乱雜無礼不届之至ニ候間右人払押へニ罷出候年寄組頭共一入心を付町々銘々相慎已來法外無礼不仕候様申付を相

守可申候

右者町々裏借家之もの迄嚴敷可申付候以後亡却違犯之族相聞(ツ)

候ハ、急度咎申付候其旨相心得恐入可罷在候

廿四日類助へ指出ス

一 町奉行所属役之者書付可差出旨此右衛門被申聞候

廿四日類助へ差出ス

一 盗人吉五郎所持之盗ニ用候手道具可差出旨被申聞候

一 今夕福渡町百万遍

一 下紺屋町長松備後尾野道へ廿二日立七拾日計

一 亥十一月福渡町中島屋文助取次田原屋六兵衛北側家屋敷書入五百

目借用之処不埒ニ付訴状依之同人ハ急度致返濟候様申渡ス

一 東新町鍛冶与八郎家屋鋪北側ニ而表口一間半裏行十七間但ニ歩五

厘役東隣高原屋甚七西隣鍛冶屋勘右衛門三百七拾五匁町内鍛冶屋

勘右衛門へ売渡

七月廿一日 晴

一 安岡町錦屋吉左衛門死後相統之儀ニ付戸川町松野屋甚助訴訟之義

材木町万屋与惣兵衛相手方ニ而懸り合有之今日錦屋組合木綿屋次

助外組三倉屋清吉錦屋宇兵衛呼出存寄申聞候年寄久米屋勘八久米

屋友七罷出

一 今晚方同断ニ付材木町万屋与三兵衛呼出存寄申聞候年寄車屋源兵

衛罷出ル

七月廿二日 晴

一 伏見町林田町細工町百万遍

一 船頭町今津屋万次郎細工町灰屋喜平次へ懸り合ニ付呼出候処不快

ニ付新魚町伊勢屋猪大夫名代罷出右ニ付懸り合有之姫路屋彦兵衛

出座申付ル船頭町年寄熊野屋文五郎罷出ル

廿三日 晴 廿四日 晴

一 今日去月廿九日追込申付置候もの迄於役所差免申渡ス立合小頭市

左衛門部屋目付作右衛門出番左助順次書役保次即日於御城大目付

此右衛門へ相届ル於御用所衛守殿へ申上ル

廿五日 晴

一 御藏米三拾二匁町米式拾八匁

一 細江武助長家源次郎四拾三才同人妻はつ廿一才坪井町神門屋利介

引請

一 新魚町魚住屋太郎右衛門家屋敷売私家質証文取戻シ指出候様先達

而申付候処望之者急に無之且又勘右衛門へ私右家屋敷売次第筋立

可申旨断書出ル

一 下紺屋町作人助七家屋敷表口式間小半裏行拾七間但シ半役西隣大

工多七東隣元魚町堺銀札百式拾目美濃職人町作人龜吉へ売渡

一 藤野屋多吉家守藤右衛門勘太兵衛廿二才大坂上町福井伝兵衛方へ

当子今丑迄一ヶ年切奉公

一 安岡町佐七安兵衛徳之介次助忠介喜助藤介二拾二年已前卯ノ十一

月安岡町茅町出火之節類焼に逢去月二日雷火ニ而類焼諸道具着類

焼失致類家立立除小屋懸等及自力ニ不相叶困窮難儀ニ付御手当歎

書出ル

一 京町壁師屋甚六娘あさ拾九歳林田村兼先和助嫁に差遣度

一 三船八郎右衛門ハ上河原村助六置綿入巷ツ去秋流れニ付銀札拾匁

役所へ納させ郡代山岡与左衛門へ相渡ス尤盗人万助置也

一二丁目福寿屋久米吉継父伊左衛門去ル廿日之朝与風罷出帰り不申候ニ付相尋候□共行方不相知届承置ク

一細工ノ町灰屋喜平次今津屋万次郎へ懸り合船頭町ニ而同人持分家屋敷元来買請候儀無相違ニ付御上御苦勞ニ不相懸□様仕へき筈之儀致免□由然ル上者以来申分無御座取計可仕之旨去ル廿二日呼出受一札差出ス

七月廿六日 晴

一今夕廻り作右衛門甚感遣ス去ル八日岡屋忠七方手錠人歎ニ付免し候儀於御次与兵衛殿へ申上此右衛門江同断

一渴水ニ付川筋船尾明候儀船頭ハ庄屋へ達し通船も可成ハ五艘之ものハ一所に参候様ニ致度旨前例之通蔵元共へ申付呉候様与左衛門より被申候勿論上り船ハ番所ハ庄屋へ取計船尾明候趣也大年寄へ申渡ス

一大目付中ハ廻状 落切手拾ひ候者有之候心懸り之儀候ハ、下々マツ遂吟味来ル廿八日朝迄可被申出候右之趣同役并支配方へも可被相達候同心組牢屋三軒屋へ触

一松岡左助服氣上漸いたし候ニ付月代承届

一大目付所ハ落切手拾候者有之候心懸之儀候ハ、下々追遂吟味来ル廿八迄可被申出候右之趣同役并支配方へも可被相達候。支配中拾候者無之届廿八日申渡ス

廿七日 晴 廿八日 晴

一戸川町切手拾候者へ明日相渡候様大年寄江申渡
一元魚町灰屋左衛門印形改印鑑出ス

一今町坪屋藤十郎明廿九日立入湯十六日湯郷

一西新町肥後屋長助他請酒株組屋勘十郎ハ借り居申候処此度同人手前江取もとし断

一山北村百姓十太郎卅才同人妻かね廿五才娘まん五才妹つね当□元魚町紙屋茂右衛門引請願

一京町桶屋勘左衛門訴訟方桶屋町久右衛門相手方ニ而両通之訴答指出ス勘左衛門ハ十三年以前迄養父桶屋左平次方ニ罷有同年二月ニ

四間半之内式間并諸道具田地借銀位牌相譲り其家へ祖母引受移り同年十月ニ親共勝手ニ成不申と申候故京町借宅仕六年以前相果候祖母遺言も御座候ニ付右□屋敷大切ニ致し去才ハ町内諸役私相動居申候此度家屋敷名面付替呉候様弟久右衛門に申懸候得共承知不仕候間付替候様申付呉候様申之弟勘右衛門ハ不勝手を「我儘マツに別宅仕式間口親共ハ讓候儀ハ無御座願書も不出家役去才迄八年寄役相動候間家役相動不申当年之家役ハ私相動候旨申之追々取計可申候

一新魚町百万遍

七月廿九日 晴

一戸ノ五人之者去月廿九日取計候処今日呼出差免且又関治実母追込免御届立合市左衛門小頭内出番筋違取逃孫八順左助甚蔵費役安次大年寄広四郎申渡

八月朔日 雨有

一御居間御目見申上七間廊下日参之面□御通懸表御礼例之通

二日 晴

一 山田衛守殿彈正と御改号大目付所ニ而演説類役江達候様被申聞達ス組中町方江も相触候

一 此度御藏米付出ニ付沙汰も可承いか様ニも存寄を付馬持共吟味可致旨郷左衛門被申聞即日馬持并馬子共呼出遂吟味候年寄召連出ル

一 大目付中〆廻状 御家中之面々拜領屋敷表通有来候石垣取崩新規

不宜右ニ而筑直候族茂有之候様粗相聞候甚心得違之事也以来者無

抛儀候ハ、其段相達し差図を請可申候尤破損有之候節繕等之儀ハ

不及届候此段可及演説之旨御用所御申ニ付申達候右之趣同役并支

配方へも可被相達候 八月二日 組中江相触候

三日 晴

一 明四日四時御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣被仰出候柴山十治〆

一 今日馬持利八 長吉 徳次郎 源藏 宇八 嘉吉 三吉呼出

一 御藏立番川端喜六請人うを屋権兵衛堺町古金屋伝兵衛被預候由届

四日 晴白雨

一 石松院兼住所ニおゐて雨乞昨日〆上届申出候得共修〆中間三輩ほ

と集り表塀ハ燈籠を出し候由何分例も無之事故聞届かたく今日

其旨北郷門兵衛へ及通達然る所燈籠ハ出し不申由左候得者法務之

事其分に承り置候

一 馬形吟味書郷左衛門江出し候所町方ニて受取〆者勝手次第其外ニ

ても存付次第吟味致し候様被申聞候則今日大年寄於宅吟味立合目

付中山伝内罷出候

八月五日 晴

一 塗師助平病氣之処落命届出郷左衛門江届ル

一 宗門帳一昨日差出候ニ付今日奥書印形ニ而改所渥美跡屋敷へ遣ス

一 入牢平七江小原秀次方〆飯食おひ候由牢番申出候ニ付同六日門兵

衛へ達ス

一 玉置宅ニ而付出シ米再吟味

六日 晴

一 御藏米卅四匁町米三拾匁

一 浜野屋乙四郎〆親太郎兵衛大坂大川町錢屋七郎右衛門方往来卅日

明後日立

七日 晴

一 明八日四時御供揃ニ而泰安寺へ御仏參飯塚弥代〆通用

一 中之町粟井屋善吉借屋ニ罷在候車屋市平智利七并娘関夫婦当月十

二日晚方不斗罷出婦不申ニ付届出ル

一 新魚町油屋弥兵衛弟庄七式十四歳備中小坂辺大坂屋源介方へ寅之

才込奉公遣し度

一 美濃職人町憲法屋又兵衛庄助此度守田庄助と改友右衛門殿へ出入

奉公

一 三丁目若元屋五兵衛弟安兵衛五年切大坂大川町備前屋へ去々戌七

月願奉公ニ罷越候処此度罷帰

一 安岡町扇屋兵助南側家屋敷東隣ハ岡崎屋伊兵衛西隣ハ江川屋太郎

市去ル西正月岡崎屋善吉へ壹貫三百目質入此度受戻し

一 安岡町錦屋跡之一件ニ付材木町万屋与三兵衛〆左之通一札差出候

。錦屋吉左衛門跡式万吉へ讓候ハ内々松野屋「」私人込世話仕候様

申候へ共実家難捨置候処甚助ハ願出右譲り願不指出恐入然上者今
度相改讓状差上尚又跡式之義者悻遣候ニ付随分大切永々相続可仕
之趣也

八月八日 晴

一 付出し米吟味書不殘郷左衛門江差出ス此一件ニ付馬持六人之者三
日之日記ニ有組合預ニ申付置候所一体吟味之為ニ取計置候もの共
故差免申度旨及噂即日呼出し免

一 明九日六半時御供揃ニ而加茂川辺御遠乗京橋口ハ東へ御通り被成

候旨太田官平被申聞夫々相触入念候様申渡ス

一 河原町利右衛門野介代幸助懸り合郡代所と申合計方其節存寄付申

出候様与兵衛殿被仰聞吟味口書御下ケ被成候

九日 晴

一 加茂川御出孫八左助罷出

一 宗門帳改に取懸られ候処名前等不順ニ相成候故先帳引合混雜ニ而

難相調先帳扣可有ニ付先格之通無相違相改来ル十日迄ニ弥出来候

様取計可申旨端書ニも以今不殘相改申候義ニてハなく候得共不相

改分を先帳引合相違も候ハ、先帳之通仕立差出候様可取計旨去ル

七日奉行中ハ被相返候ニ付則広四郎へ申渡候処請負之者甚当惑致

候由

十日 晴

一 今朝宗門帳書役之儀ニ付大年寄ハ何とそ当年之通来歳ハ前例ニ可
仕左も無御座候ハ、今日日延被仰付被下候様市左衛門を以書付
出し候得共甚不埒之歎ニ付不取上候処又候無何角日延之儀考弁與

候様ニ書付出候ニ付此上仕方も無之今朝佐藤彦右衛門へ參談遂候
処追付御城江手紙来両三日日延之儀聞届候様申来り其段大年寄共
へ申渡尤口日延之訊ハ名順改候ハ随分可相成候得共帳面綴之仕方

請負之者共悪敷乱雜口「彼等手前ニて存分ニ先帳之次第を違へ

候不届旁是非御奉行中差図違背難成候得共自他遠近寺方印形取直

し口「間に合候有無難計り無扨日延之儀及対談候大年寄孫右衛

門方ニて与三七与市平右衛門助右衛門源助昼夜出精ニて清帳調候

由

一 今町角屋宇助儀此度徘徊之女を隣国へ金子を取下女に取持遣候処

先方ニてハ大坂へ売婦に遣候由申ニ付不致承知帰候儀露頭ニ付永

代売買人勾引之仕方ニ付追々吟味ニ及粗無相違ニ付組合預申付ル

一 牢番左助快気明日ハ出番御使組明日牢番引候由届

一 宮脇町ニ而當六月殺害坊主之儀ニ付存寄書与兵衛殿へ上置候

八月十一日 雨少

八月十一日 雨少

一 明十三日四時御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣飯塚ハ通用

一 勝間田町ニ而米子手間村林左衛門と髮結才次聊言葉論ニ及ひ尤夜

に候而之事也夜中頃孫右衛門宅江直訴ニ来酒気悪言を申町奉行所

江訴互申募候故目明へ談し先右町へ預ケ置候

十二日 昨夜中雨少

一 昨夜林左衛門ハ所付其外申趣爪判目明共取帰ル今夕廻り伝内口「

吟味書付取帰ル五六年此方寺院方去才御家中長屋ニも罷有口「

年以前ハ御當所町方所々ニ相勧富沢武左衛門宅ニ而受人も有之三

年居候由無宿者ニ決し候故目明共ハ追払セ候御領内へ立入問敷一

札取之

一 入牢義助郷藏取計伺申上ル。錢遣九拾四文

一 明日入牢伊助吟味郡代所居候左助罷出候由

十三日 晴白雨

一 明十四日四時御供揃天合而泰安寺へ御仏詣柴山万兵衛真言合

一 宗門改清書 千七拾人内五百七十人 式千三百人内千貳百五十五人 禪宗淨土宗 五百三

拾老人内貳百七拾老人 七百九拾三人内四百卅六人 四百九拾八人内貳百六拾七人 式千九拾三人内千百十四人 七千貳百八拾五人内男三千九百十三人 今日清書認差出

八月十四日 晴雨

一 昨日相納候宗門帳改役所江差出

一 今町角屋吉兵衛合悖宇助勤当願当二月出候得共宇助不埒共 候

付吟味片付候合追漣不及御沙汰大年寄共今日受取置

一 二町目福寿屋久米吉親伊左衛門百日及候共日延滞候ニ可心付義

一 孫左衛門孫右衛門広四郎三人宗門帳不取計ニ付呵申付候

一 町方宗門改帳例歳之任立方ニ違候ニ付改方役所合書面之通ニ而

被差戻候処認直し今日差出候由日取間ニ合於自分令大安候宗門

御改之義者一統重キ段者各存之前ニ候請負之者共へ〇任せ置候

処合右等之一事を得候段畢竟申合不行届役前等閑之処心付薄之

致ス処ニ候此義に不限存意も候得共態与令黙止候向後之儀不埒

無之様万端申合可入念候

一 右三人へ呵申付候前ニ呼出し与三七与市平右衛門助右衛門源助合

「其方共此度大年寄於宅急調之帳面有之候〇付因頼ニ昼夜合」

相詰彼是心を配出精大形ならず清調差出「間ニ合於自分全安堵

セしめ候右ニ付今日及会见候

但此者共玄関に罷有候内大年寄共呵申渡し指扣伺候得共不及〇

儀

十五日 晴雨

一 御居間御目見申上候表御目見済引統各御席へ出当合

一 勝間町髪結才次林左衛門江不筋之言葉論致候ニ付呵之上預免ス

一 林田町福地屋嘉七所持之造酒株此度東新町茶屋五郎右衛門へ譲申

度聞届

一 下紺屋町原田屋利助姉民卅壹才此度神田順治妻ニ遣度同十六日市左衛門合引届

十六日 晴

一 田原村舟持共当所舟持山北屋伊兵衛舟差留右ニ付船中魚荷ハ沖合

積ニ而抜荷と申之伊兵衛ハ牛窓舟頭合送り書候得者岡山京橋下ニ

而積其上〇島塩屋清助切手ニ而川口番所通り候故沖合ニてハ無之

と申候得共粉村屋伊助先方好ニて魚荷ハ沖相と記し一札出し候由

夫故魚荷計ハ受取候得者西大寺ニて伊部屋弥助荷割之外ハ抜荷ニ

相成候事強て論相理運不相見候ニ付今日荷主兩人粉村屋不詳〇山北屋

呼出し存寄「」与申聞せ候而差帰候 立合まつヤ滑右衛門合をヤ平吉右衛門安次孫左衛門懸元兩人

「日九つ前時御供揃ニ而加茂川辺江被為入候ニ付宮川橋上其外小

路等心を付候様為知候柴山十治合

一 明十七日四時御供揃ニ而地藏院御社參柴山十治合

一 田原屋六兵衛合中島屋文助家質差引遅滞ニ而廿日迄済口申付候

請書出

一城州正法寺万人講ニ付地所受取并拜借道具講元今断申出郡代所引合

八月十七日 晴

一古川屋佐七所持式步中買株此度三丁目若本屋嘉兵衛弟安兵衛内縁ニ付讓

一(3)中買弥吉近来病身ニ付中買役今町古河屋左七江相讓申度

十八日 晴

一(差六月卅日記)直屋孫兵衛方大坂布屋町丹波屋庄七支配借屋河内屋甚太郎代茂兵衛生魚壳掛銀可調達之処孫兵衛病氣ニ付例之通書面「」村尾桑原両氏宛

□今日宇助呼出し備前へ遣候女之一件及吟味候市左衛門作右衛門安次「」平太兵衛も出座

一福渡町筑後屋安左衛門伏見町南側ニ而家屋敷表口三間裏行十七間但半役西隣田邑屋東隣吉田屋材木町大工市右衛門□次四百匁五十
一月切質入借用

十九日 晴

一安岡町先達而雷火烧失之もの共廿二年已前類焼に逢已来困窮渡世
凌兼候処当時ニ而仮住居農業商売難成小家掛等茂得仕不申候ニ付
何卒御手当被成下候様申出候得共内町外町俱ニ例格に相成候而ハ
如何ニ付郷左衛門へ及噂候趣意尤と被申候ニ付不取上候旨大年
寄へ申渡ス

廿日 晴

一田原屋六兵衛廿八九年已前二千俵近く調達致候処年賦御返済之御納米御滞に相成難儀當時商内茂得不仕渡世必至ニ付塩座先年「」ニ而三年三貫目差上ケ相勤度旨願出候ニ付御勘定所へ内談及尤先達而諸座御停止被仰付殊更茂渡庄右衛門同藤右衛門同様先達而御願申候節茂御聞届無之処御聞届被成候而者筋目違候旨も談候処奉行中も同意ニ付当方へも出候得共取揚不申候旨被申□其旨大年寄へ相含め候

一御用番与兵衛殿拙者と左衛門一緒に御呼出御年貢不相濟候内例之御文段ニ違御渡被成兩人御請仕即日町方へ触書出ス 御年貢米於町在切手替或ハ外払致候儀兼而堅ク停止申付置候処近来甚猥に相聞在中之者と及相對集め米并餅米等□銀差出取入「」不申及町米を拵置替り米差遣其上郷中之者相頼ミかぶ讓拵御年貢米引受直に御蔵へ差出追々下々之者へ手を入置相納メ再御家中為替米之名目ニ而郷中へ取入候趣粗相聞不届至極ニ候此已後右之類於有之者当人者不申及五人組之もの「」急度越度可申付候尤目付之者差出候間末々迄妄成義無之様可申渡候

一宗門奉行中へ惣町改帳面一冊老本証文付紙ニ而被指越候付「」申渡ス

八月廿一日 晴

一今今後藤守助へ遂參寺名順之儀日数相懸り可申尤去歲名順違候所右帳面を以御調ニてハ無之哉寺印之儀者相違茂無御座様申談候処其儘ニ而相納候様尤去歲の跡ニ候改メ可申旨被申聞

一御蔵米三拾五匁町米三拾壹匁

一下紺屋一文屋一六大坂玉子屋九兵衛へ明廿二日出拾五日計逗留

廿二日 晴

一元魚町浅屋茂助が断野田多介太田仙助が暇出厄介ニ引受候旨

一二階町島屋藤吉願播州加古川の手伝九兵衛長次郎十二月□頃迄

一明廿三日四時御供揃中島村へ御出田町御門が今町通り御通り柴山

万兵衛が通用

一与兵衛殿へ罷越宇助吟味之趣申達ス

八月廿三日 晴

一今日御帰之節大坂屋車場へ被為入候旨大年寄迄申出承置

一今日宇助呼出并懸り合皆木屋甚助右女俱ニ相尋ル立□会市左衛門

作右衛門保治多用ニ付喜作助ニ申付ル孫左衛門も罷出ル

一今日御出孫八喜作御先払右ニ付伝内喜作ニ替ル

一紺屋町作人文太家屋敷表口三間裏行拾七間但シ六歩東隣大工仁右

本正文今日指出ス
衛門西隣中山良意百五拾目満照院へ売渡シ

一同人家屋敷表口一間半裏行拾七間但四分役東隣作人と平次西隣原

田屋利助銀札百目町内作人市右衛門へ売渡

廿四日 晴

一明日五時御供揃本郷高野辺御出京橋の東へ通り筋飯塚弥代が通用

一御駕籠源助と申者病身ニ付願御聞届跡御抱恙「」触出候様郷左衛

門申渡例之通中奥目付中へ適用之上来月十五日迄ニ相触ル

一角屋宇助親吉兵衛が舁字介を義絶勘当願二月已来湛置同人吟味ニ

手懸候上右願一応及御沙汰候処今日御返シ被成候

一出羽様御家老中が此方様御家老中へ来状ニ付宿かしのヤより相届

候旨申出ル

一野瀬屋源助岡山木地屋平十郎方へ明日出十一日計

一吹屋町金屋次郎左衛門同町吹屋八左衛門兩人願主。吹屋町北側金

屋治郎左衛門家屋鋪表口五間半裏行拾九間但巷間^三三步□厘役東隣

吹屋八左衛門西は南北へ横町。同町北側吹屋八左衛門家屋鋪表口

四間裏行拾四間但本役東隣者釜屋市郎右衛門西隣者金屋治郎左衛

門右之両家敷組合相談之上吹屋八左衛門方が負銀札三百「」出替

合致度旨承届ル

一新魚町魚住屋借家猪八郎願魚住屋太郎右衛門町内北側ニ而家屋鋪

表口四間裏行拾式間但本役西隣者魚屋善四郎東□私居宅銀札五百

目同町若葉屋伊八郎へ売渡シ

一田原屋六兵衛中島屋文助へ懸り合家質来九月廿日迄日延申付□其

後日延等御断申上間鋪旨請書差出ス

一油屋与一郎と吉田屋平吉懸り合ニ付さしヤ甚蔵が願書不埒□及察

度候処誤一札差出し袋に入置

八月廿五日 雨

一今日本郷高野御出御延引飯塚弥代が通用

一今日宗門帳直差出ス

一明廿六日五時御供揃ニ而押入築場へ被為入候尤雨天「」御延

引之由飯塚弥代が通用

一宗門奉行中又々付紙申来ル右ニ付今夕後藤守助へ罷越去ル廿一

日書記之趣申談相済候

廿六日 晴

一今日御出伝内順次御先私

一 村尾彦右衛門の直屋病氣断御番所へ達候旨申来ル同人□表向勤方被仰付候付案内之別紙来ル

一 一方村太兵衛妻布团宿に有之候を入呉候様願且又小原秀□家来綿入入レ遣度旨宿の願両様牢番の申出ル与左衛門門兵衛□及通用候

一 宮脇町生駒屋左助方去ル廿四日之夜盜賊入表之方「」へ逃去候趣何方より入候哉贓物十六品書付差添届出依之今夕の町方木戸を以立番御家中ハ非人共二組相廻候様郷左衛門へ申達ス

八月廿七日 晴

一 今晚山岡与左衛門の伯州久米郡上米積村宗七^廿四国ニ出当月八日「」領山田郡古馬船村ニ而足痛右在所へ送り川下村々々送り出候知セ山北村□町分の送出シ御方へ御届申達ス

一 宗門帳認直シ右役所へ指遣ス

一 氏神大隅宮願開之ため祭礼之砌屋台差出シ子共五人計躍ら□申度衣装之儀絹以下ニ致儉約仕候而神事之供為致方願右ニ付時節柄旁及察度候処御国賑々敷奉祝度并町内祈願御座候付御「」仕度町内兼而除置候用意も御座候故当時世話之儀も無御座旨申出之町内組頭不残印形同月廿八日及御沙汰

一 今日京町桶屋勘左衛門桶屋町桶ヤ勘右衛門呼出大意勘左衛門儀者養父左平次養子ニ而家之娘与娶セ右娘ニて母者相果其後妻に出生之勘勘右衛門と申者当時左平次家相統表口四間半之家「」方勘左衛門に分候処勘右衛門ハ一人相構候様に申勘左衛門ハ名前付「」申之然れ共左平次の讓願等^茂無之兄弟之間出入ニ成候義追々相

捌可申

一 河原町理右衛門野介代村幸助妻同村猪八先達而連除ニヶ村に在住之処幸助右女を連帰り候儀ニ致同意右村へ入込相連帰候一件懸り合ニ付呼出存寄申聞置候

廿八日 晴

一 宮脇町生駒屋盜賊入紛失もの之儀及御沙汰

一 郡代所入牢古城之女布团入呉候様願牢番の申出勝手次第可入旨山岡へも及通用置

一 秀次家来平七入牢宿元の綿入申度敷是又門兵衛へ「」

一 東大番所御制札場御繕ヒニ付高札隣町之年寄共へ御作事の通用次第預り候様申渡ス

一 今津屋孫十郎兵庫栗屋長兵衛方へ明廿九日出十日計

一 船頭町下横町土橋破損御届申

一 三丁目源之丞婆はな一件ニ付孫左衛門方ニ而市左衛門立会「」

一 与兵衛殿の宇助吟味書取に來り返上

一 大坂村尾彦右衛門の來書直屋懸り合病氣日延之届致「」

八月廿九日 晴

九月朔日 晴

一 今日御目見例之通申上ル御用席へ例之通何^茂御祝儀申上ル

一 御城山下草苺

二日 雨

一 三丁目組屋太郎右衛門当秋の造酒商売仕度願尤一兩年不勝手ニ付

相止居申候

一香山忠治郎の字助へ下女奉公人世話之儀頼候并台委細承り張紙ニ
而も可差出旨彈正殿被仰渡候

一御次の呼に來り長沢右源次を御城山平茸生出候ハ、差出候様被申
聞則中村清治へ役所へ不及案内御次「中間を受取可差出旨申渡
ス

三日 晴

一加茂川御出五ツ半時宮川御門を林田本通り被成御口孫八忠藏御先
弘

一明四日四時御供揃泰安寺御仏詣太田官平の通用

一彈正殿へ字助吟味書持參

四日 晴

一今屋佐七の米請取遲滞之儀川端喜六吟味書大目付右兵衛「致
吟味候様被申聞大年寄へ申渡ス

一堀屋伊右衛門大坂久太郎町境筋松屋甚兵衛手代平兵衛与申者例
歳之通小間もの売

一中ノ町西新町両町の大隅宮祭礼ニ付家台差出候願及口沙汰御聞届
被成候

九月五日 晴

一吹屋八左衛門金屋治郎左衛門替合本証文出ス
六日 晴

一新魚町作人清吉元魚町桶ヤ豊八一件ニ付吟味書付取之伝内取計右
豊八勝間田村錢屋与平治娘ぬいの丈吉与申岡山ニ而知音之男方へ

着物届ケ呉候様頼受取候を丈吉口不届当町安原屋川口其外へ質に
置勝間田ニおゐて「察度に逢難遁被盜候と陳之既に御代官役所
へ訴にも可及一条村役人富右衛門与申もの孫左衛門へ内分懸合
申來り豊八儀者手錠組合預ケ申付候処右村の内濟願下も致候由申
來候得共右清吉漸相計と候儀先村に無構清吉致方追々吟味仕御伺
可申上但清吉儀他參留

七日 晴

一明八日四時御供揃泰安寺へ御仏詣柴山万兵衛の通「喜作郡治
御先弘

一出羽守様來ル十二日院庄御茶家御休寄馬五疋之入用与左衛門へ申
遣尤廿式疋ハ宿馬拾疋ハ通馬借請候処例之通

一大隅宮祭礼町分ニ而群集日も可晚ニ付一町ニ而六ツ五ツ屋口を極
メ候様申含メ町分ニ而拾三所致芸候様相極申渡ス

一明八日例月之御仏詣少々御風邪被成御座候付大目付月番口御延引
被成候旨為知申來ル宛大沢近藤北郷

一太田官平の御延引通用同断

九月八日 夜中風雨烈敷

一懸り合はな安岡町古川屋へ預ケ申置候処甚難儀「以用捨年寄三
人并親類古川屋安左衛門組合共へ氣を口候様預ケ旁申渡ス喜作軍
次廻りより

一來ル十二日出羽守様御通行ニ付出役之儀申上御貸人馬之儀申達ス

一造酒之助殿御家來香山忠次郎一件ニ付於役所吟味可仕之旨於御次
彈正殿被仰渡候海老原右兵衛出合

一大目付中の廻状 明九日重陽之御祝儀少々御風邪被成御」御礼不被為請候旨被仰出候ニ付諸士御帳付候間辰之中刻」中刻迄之間登城可有之候此旨同役同列組合并支配方へも可」達候
一元魚町作人善七願小田中村勇左衛門妻地子居善八後家」ゆう四十四此度引受

「三軒屋之下藪之中大木根倒候由豊次届出候申達候

九日 晴

一今日御機嫌能被為入候ニ付御礼被為請候旨右兵衛の被申聞候例之通於御居間御目見申上候表御礼濟御用」各出座当日御祝義申上候

一明十日四時御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣之儀浜田平大夫の通用

一今日大隅宮祭礼練物警固加人不出同心出払

一青木楠五郎殿今夕宮尾村止宿ニ而明日四半時出立御城下通行之旨

二宮へ出役之旨山岡より為知夫々申」

一今日警固之内家台脇群集之中宮部園右衛門」杖さわり候由ニ付疑有之候処伝内の其場取合候由出」面々其余無滯候旨届出候尤御届ハ不申候

九月十日 晴

一昨日警固之内杖当り候得者右方群集中へ入込候儀□同心共役前之儀ニ付不埒と難立旨粗右兵衛迄」

一今日御出御延引飯塚の通用

一青木楠五郎殿幾野支配所廻村先払作右衛門忠藏罷出ル

一伏見町築後屋安右衛門所持之家屋布南側ニ而表口三間裏行十七間

半但シ半役西者吉田屋半三郎西隣田邑」材木町市右衛門取次四百目質物に書入

十一日 晴

一三浦備後守殿来ル十五日止宿先触来ル

十二日 晴

一今日出羽守様御參勤御通行御先払小頭中市」三船孫八藤森喜作の馬場中山伝内石名左助」石名忠藏神田順治御貸人鍵挟箱合羽籠御貸□両口立宿今町坪ヤ藤十郎御目見場所例之通」

一備後守殿先触福林藤左衛門本馬式拾式疋

一出羽守様御使者請佐藤彦右衛門斎藤孫右衛門方例之通向方御使者信田治部右衛門

一備後守殿止宿ニ付預り居申候湯殿閑所広四郎入用□ニ而取立申度尤先手止宿案内日間無之ニ付湯殿閑所用意難成旨達之」三日も間御座候者相成」申候処此度日間御座候付断も難成旁広四郎の伺之趣拙者今日出役故門兵衛を以大目付中へ申達候□御聞届相濟則申渡ス

一来ル十五日備後守殿止宿ニ付出役可致旨右兵衛」到来

十三日 晴

一明十四日四時泰安寺へ御仏詣浜田平大夫の

一造酒助殿家来香山忠治郎今日昼後呼出宇介懸り合吟味遂候執権松本正藏差添山籠」御城代組四人当人大小中間持之むき出呼出縁側ニ而無刀先方家来之内へ差込例之処違儀ニ而重方取計ニ付無刀ニ被申付候由小頭部屋目付東書役西正藏儀者格別ニ付拙者脇ニ扣小頭ハ次座ニ扣ハ四人之組者玄関ニ扣出番

兩人拙者後屏風之中「」扣(2)

一

九月十四日 晴

一今日元魚町桶屋豊八役所ニ而吟味

一徳守宮祭礼ニ付京町の屋台差出度願御聞届被成候右ニ付先格を以

町方へ触書差出ス

□大目付中廻文 近々三浦備後守殿堺町御止宿「」御旅宿前御

家中下々に至迄往来有之間敷「」被仰出候通火之本堅ク可被

申付候右之趣同役并「」へも可被相達候

一同断廻文 御家中御引米之段去十月よりハ去ル未年之通被仰付候

処米直段各別下直ニ付無引方御渡被成「」十月者是非引方不被仰

付候而ハ御差支ニも可相成儀「」打続キ米直段下直ニ付各別之

御評議之上当年□無引方御渡被下候様に被仰出候尤来歳者米直

段高下無差別引方被仰付候間兼而其旨相心得候様被仰出候右之趣

同役并支配方江茂可被相達□

一宗道宮夜宮右止宿ニ付太鼓打不申候様申渡ス尤大目付中噂之上取

計候

十五日 雨

一備後守殿石薬師之駅九月八日大還出水ニ付止宿被致泊り休ミ相達

伏見より宿々故障も候ハ、二三宿前迄申出候様福林藤左衛門の廻

文問屋の届ケ出ル依之十六日へ止宿相延し委細申達ス町方へ触出

ス

一堺町の屋台差出度旨願鍛冶町元魚町坪井町同断

九月十六日 晴

一船頭町屋台追々願出候趣御用所へ及御沙汰「」追付御聞届被成候

旨被仰出候

一先達而相触候御駕籠望候もの無之ニ付其□申達ス

一明十七日御社參触出

一御使組田中伴次与申者帯刀構暇出候由「」通用

一今七ツ前時孫左衛門方へ罷出御貸人鍬挟箱合羽□高張老人拙者供

室并作右衛門神田順治馬駅中山伝内福田甚蔵暮先弘三船孫八石名

佐助明ケ藤森喜作杉本郡次馬駅明ケ室并作右衛門神田順治今夕「

」備後守殿御着追付案内ニ付拙者為見廻參上取次渡部多助別人

福井藤左衛門対面相当之挨拶ニ而引取ル使者宿斎藤方御取次後藤

守助使者吉竹軍次從此方様御使者古谷其次「」相勉ル拙者義九ツ

時引取

十七日 晴

一大目附中の廻文 近日徳守宮祭礼ニ付練物様々之品差出候様相聞

候其節内山下初町方通行之砌御家中之面々見物者不苦候得共立懸

り又者付纏及見物候儀可為無用候惣而祭礼に不限及群集候場所へ

罷越候者形儀正敷万事かさつ成筋無之可被相慎候此段可申達之旨

御用所御申ニ付及演達候右之趣同役并支配方へも可被相達候以上

一問屋の人足廿一人分私馬式拾三疋此人足六人作右衛門 順次

九月十八日 晴

一祭礼順書大目付所へ出ス同心加人四人被差出候加藤登八橋元基内「」 笹岡瀬助

一去ル十六日川辺ニ而御乗船へ百疋惣供船へ百疋彦兵衛 善左衛門へ百疋下

裁許人へ鳥目式百文十七日院庄川十六日同斷

一明日六時半時御供揃ニ而宮川御櫓江被為入候旨

一上三間屋下ニ平茸生候ニ付御次江番人ハ差出候

一家台明六時朝日御門江引付候様ニ同心江申渡今日六町ニ而大□試

致し曉六つ時前ニ徳守へ引付社參相応之芸致候様夫々申渡北郷門

兵衛江粗引合候。所々灯灯申出承置候

十九日 晴

一家台福渡町戸川町通関貫挟く通シかたきニ付本町通りへ為引候様

市左衛門江申渡候神主江も夫々通し候様申合メ候

一例歳之通警固部屋へ贈り物御幸内山下へ廻り候ニ付先格有之二階

町山手屋江配り徳守江も遣し候山手屋江者妹尾次□取計□祭礼濟

両御方へ御届申達候

廿日 晴

一入牢古城之女痢疾相煩候処在ハ湯茶殊外冷其外薬もあ(不替)敷不束

ニ付牢番共ハ申出湯茶ヲ熱ク薬等為致候得者牢屋ニ而為取計候故

木代十六錢老月九十六文之額
二日ニても十五日ニても十六文穢多頭ハ割出候由在へ可申付山岡

江通用

九月廿一日 雨

一箕作文庵牢内右女之療治

一今日忠次郎屋後吟味家敷ハ此間之通此方ニて平太兵衛罷出市左衛

門伝内孫八喜作出番安次相勤ル吟味書同廿二日差出

一備後守殿此間止宿ニ付福林藤左衛門ハ広四郎へ頼置候由金式百足

拙者両日御先弘孫八左助喜作軍次各老両ツ、広四郎ハ挨拶申遣候

様致候又古谷園治へ式百足御徒目付へ百足

一(マ) 無宿 廿二日 雨

一盜賊義八敲追払取計 空はれ候間御徒目付荒井安左衛門下目付此方より市

左衛門作右衛門安次出番軍次忠藏 義八へ申渡

。其方儀先達而寺院方町方ニも致奉公候処以來離散ニ而當春以來

寺院之仏具社堂之神具「」ぬすミ屋敷方町家江も這入盜ものお

のく町方ニ而實に「」売払一宮於茶屋出会之者脇差押領之巧

ニ差替候儀吟味之上ニ々及白状候且又追廻郷藏ニ隠れ白中之臥

所ニ致し夜々罷出盜取候品落し家ニ致し候儀共兼而御下ニ徘徊

致し乍存件之狼藉重々不屈之至ニ候死罪難遁ものニ候得共以憐

愍敲之上御領分追払申付候

右於御城御届申達スシナへ式尺三寸五分廻り四寸八割西ニひかへ
南ハ依臥 打櫓扇扇扇十ツ、

一中江弥左衛門昨夜着致し三十日逗留境屋伊右衛門ハ宿切手

一戸村源五右衛門渡部唐兵衛ハ十月米平均之儀飛札到来

一田戸屋惣十郎紀州谷町備前屋孫左衛門方へ明廿三日出卅日計

一綿屋左助中買目付役申付

一戸川町年寄播磨屋七左衛門へ申付

一伏見町年寄小坂屋善兵衛へ申付

一三町目年寄平野屋助左衛門帰役

一戸川町玉津屋勘左衛門屋敷地表口五間裏行拾七間但シ一間役東隣

者作人藤八右家屋敷地之内裏ニ而東西五間南北へ七間之所岡屋多

七口入ニ而組合文助妻きんへ質物に書入銀札二百目に来辰ノ歳迄

借用

一人右断書出ス同人組合と同様ニ付受取之一札差出ス
一京町吉田喜次郎足痛ニ付中買役坪井町神門屋理助由緒有之ニ付為勤申度願

一伏見町田邑屋善七追廻御作事構義兵衛と申者三拾三才妻よね三拾式才粉倉之丞拾三才娘いき六才私内縁御座□付引受人別入

一元魚町灰屋伊左衛門田邑身内百姓新八娘ぬい拾八才嫁□貫請度願

一元魚町米屋新兵衛養父猪助当六月病死中買跡役之儀二丁目安原屋

太兵衛助宇助へ甥ニ付相讓申度願

一伏見町わけや万吉家屋敷町内田邑屋取次百式拾匁借用候処此度元利相濟申候

一同人家屋敷南側ニ而表口三間裏行二拾三間但シ半役東隣作人弥兵衛西隣者古銀屋善十郎三百五拾目ニ町内紙屋甚右衛門へ売渡シ

一伏見町小田屋伊平次後家幸吉式拾才罷成当月五日罷出歸り不申候届ケ

九月廿三日 晴

一杉山江五半時御出被成候ニ付浜田平大夫の昨日被申聞候

一御先払作右衛門甚藏。中江弥左衛門入来

九月廿四日 晴

一万人講当年之処割方仕方割□之儀如何致候哉郷左衛門申聞候

廿五日 晴

一かけや甚右衛門の塀覆并屋根損候ニ付届御見分之儀申出候

廿六日 雨

一三十三匁式拾九匁新四拾式匁五分新三拾八匁五分と四段之書付差

出候ニ付弁書申付候処中買共の御藏古米卅三匁町米廿九匁御藏新米四拾式匁五分町新米卅八匁五分当年ハ諸方共□別而古米多く御座候ニ付買人無御座候故左之通ニ御座候尤当年□儀者於御藏新御切手ニハ新米御渡被成九月切御切手ニハ古米御渡被成御渡方二色ニ御座候故新古相場立分ケ差上候旨此儀今日□藤伊左衛門の通意有之候

廿七日 晴

一古城女葉引候儀申出

同月晦日申上候

一林田町八出屋六兵衛の村方ニ土手下長四郎と申者江女房□着類廿四色銀札百五十匁計大底三百匁位之者取出し相渡「」女房仕方不審ニも存憤り之余り面皮も難立長四郎と女房兩人儀吟味致しくれ候様願差出候ニ付追々可取計

右長四郎ハ欠落致候由相聞候思慮可致もの也

一今日柴田弁兵衛於吹屋町責馬致候所丸尾新之丞も居合候由折節喜作那次廻りニて通り懸り候処御免と申乗候由難聞通年寄市郎左衛門方へ「」存寄尋候所二三年難儀致候得共御家中様方右差扣罷在候由町内難儀ニ成候儀何故大年寄迄不申出候哉と差詰候処誤入右書付印書取馬肝煎大和屋市郎左衛門も同様一札取之届出候

廿八日 晴

一東新町いなはや新七撰州大坂玉造町板屋忠右衛門例年之通唐弓弦

一吹屋町槌右衛門笠岡休意引受願

一愛染寺兼帶所威徳寺ニ而地蔵一鉢弁才天一鉢掛物ふし見「」ニふくまん

木具膳十人前八月十五日の当月廿日迄之内紛失之由寺社取次門兵衛の達しニ付被申聞町触差出ス

一

一

一

〔欄〕一中江弥左衛門の書付江戸表権門方礼金六十兩内々出此分惣入用之

内被入式厘銀も上納仕残ル分ニ割寺納金之内の六十兩ツ、関東へ出候へハ益金減少仕此外出張之義御座候へハ物入多く御座候ニ付六十兩金之義両割へ差入候様被仰付被下候様申出候得共於別席ニ郷左衛門へ及噂何分此等之義於当方差綺難成旨被申聞候ニ付相返し候

一講元共の書付三步銀一所ニ致二ツニ割七ツ分正法寺七ツ分当役所江相納候様書付出候得共何分十一月ハ当方倭約□□一体ニ心得候様申渡ス

一安岡町当八月ニ相果候米屋十右衛門家屋敷南側ニ而表口三間裏行拾六間但半役東隣大坂屋宇八西隣ハ岡崎屋伊兵衛下紺屋町龜屋三右衛門甥ニて十右衛門遺言ニ付五人組の譲り候段願

一西新町作人市助家守爪田屋弥助土岐美濃守殿領分勝北郡真加部村庄七廿三才母かち五十三此度引受及御沙汰

一東新町鍛冶屋勘右衛門家屋敷北側ニ而表口老間半裏行十七間但五歩東隣ハ高原屋甚七西隣種屋仙助同町岩屋文蔵方へ質入五百目借用仕度旨天明四辰年十一月十九日返并落

一京町戸屋伝吉断父佐右衛門去い九月願大坂大屋次三郎方へ当九月(イ)迄逗留又々来丑九月(イ)迄願

一中之町小山屋与三右衛門播州綱干丸尾屋六三郎例年之通荒物売。播州綱干平松屋惣九郎例年之通小間ものさらし蠟。播州綱干余陸屋武兵衛老例年之通八百屋もの鯉節。播州あほし米子浜茶屋弥七郎倅新兵衛同手代弥吉例年之通小間物

〔式雜〕

一海老原右兵衛の夜に入切紙明廿九日使組兩人追払候間付添同心組兩人伊左衛門宅へ出し尤伊左衛門のかけ合候様申達置候由通用次第差向候様申来候

九月廿九日 晴

一川端喜六儀近藤伊左衛門於宅追払申渡左助順治相添古城村へ送る手形取帰門口喜三太江同断申渡作右衛門喜作相添河辺村へ送る手形取帰候。喜六妻金九娘市廿兩人儀ハ立去候様ニ可申渡尤家財ハ某等江被下候由右取計御届申達ス。喜六家屋敷之儀ハ役所江取上候ニ付市左衛門孫八見届ニ罷越書付取帰ル

一西新町高松屋平吉方へ盗人入候由紛失物無之候得共届出候由

一先達而新屋敷十と申女を妻ニ貫候内談之上安岡町嘉右衛門仲人に成結納遣候処六日迄候而十の結納を返し此一件去歳今大年寄大庄屋中島徳助懸合候得共不筋付既に両役所掛ケ合相当之取計可申付と与左衛門江も申談候処勝間田町伊助一昨日病死之届

九月晦日 晴

一吹屋町熱田若狭讚州金毘羅へ往来十日之逗留来月七日立

一廿六日之書記林田町六兵衛訴訟之相手長四郎儀矢場に罷在候池村金次妻所持之借屋家守ニ居申新助事之由去ル廿三日欠落有所知候ハ、注進可仕旨林田上之町右新助引受願主御中間仁助妻去月廿六日之書付差出候由与左衛門の囀承之

子九月十日立

一桶屋町高津屋利右衛門門先ニ而切手老儀亥ノ納広瀬周蔵殿右拾候旨届出候ニ付御用番大目付所御勘定奉行御蔵奉行四ヶ所江届手紙遣ス尤右切手御蔵奉行中へ相渡ス十月一日書替

一 田原屋六兵衛中島屋文助へ質入家屋敷相渡候様当廿日切申付候
所来月五日迄日延申出ル

一 当子歳御物成米来ル二日相渡候可相受旨御藏廻状

十月三日日本証文出候

一 東新町大和屋和助南側家屋敷表口式間半裏行十七間但式歩五厘東

隣荒神屋敷西隣ハかちヤ新兵衛右屋敷之内長式間半横式間土蔵老

ケ所并長三間半横式間長屋老ケ所老貫式百目江見屋伝七方へ質物

に書入来ル丑九月切。同人願先書之所内土蔵一ケ所長屋老ケ所去
ル戌八月同町細屋惣兵衛取次に老貫日此度請返

一 戸川町年寄高尾屋藤助願書年来相動罷有候所近来病氣付悴岩助名

代相願漸相動居申候所老衰仕難相動候ニ付何卒岩助へ年寄被仰付

并万人講元役之儀両様共申付呉候様願差出加判同役長左衛門講元

浜野屋宗兵衛先今日年寄跡役申付候

一 甲屋右兵衛ひめし白銀町大村屋平吉弟も兵衛例年之通筆墨太物

一 林田町八出屋六兵衛妻組合預申付候

十月朔日 晴

一 去月廿九日拾ひ切手本切手ニ書替老俵子納子八月卅日
丑七月切広瀬周藏殿古

米と朱ニて書入御藏奉行松岡治郎助明日ニも正米うけ取可然旨

ニ而被渡候

二日 晴

一 造酒助殿家来忠次郎暇出刀取上奉公構村江被帰候由

一 土手下長四郎昨夜いつ方か帰宅致し尤目明共道ニて連立□由尤

宿へ達し置候故か番付候由

一 四拾三匁三拾九匁

三日 晴

一 明四ツ時御供揃泰安寺江御仏詣太田官平カ

一 中之町久屋亦兵衛二ヶ山手村宇助方へ三年切奉公年数考違延引之

段差免此度暇取断

一 船頭町土橋破損届明日申達

一 常沢嘉十郎去月廿九日御蔵下代風聞不宣候ニ付暇出候処即日北郷

門兵衛江出入奉公罷出候由下紺屋町作人亀吉カ届

一 四日 晴

一 林田町八出屋六兵衛土手下長四郎と懸り訴状及御沙汰

一 造酒之助殿差扣伺被仰付候由

一 大目付中カ廻状明後六日玄猪之御祝儀被下候間申之中刻登城可有

之此旨同役同列組合并支配方へも可被相達候尤嫡子同事ニ候且又

家督番第格式御役替等之御礼不相濟面々ハ被出間敷候

一 明日宇助一件伺之趣取計可申旨被仰渡候

一 戸川町年寄高雄屋藤助役免躬岩助跡役申付候藤介与改号同月八日父藤助相果候

十月五日 雨

一 西今町角屋宇助御領分追払。三丁目松尾屋源之丞婆同人孫源之進

町払。美濃職人町豆腐屋善兵衛同町勤八禁足。今町宇介親吉兵衛

禁足。福渡町甚助同町小文字屋茂市追込無宿はな両所立去り宇助

追放喜作郡次古城源之丞婆兩人町分追込弥八佐助。今町年寄三人

阿三丁目年寄助左衛門同断右立会石名平太兵衛中山「」衛門室并

作右衛門妹尾保次大年寄孫右衛門相濟御届申上ル一件袋に入ル

六日 雨

一 玄猪御祝儀例之通御表ニ而頂戴

一 今日順次方男子出生

一 今屋左七追込差免七日切八日ニ取計候様同済

一 安岡町作人源助金毘羅參詣七日立七日計り

七日 晴

一 鍛冶町鍛冶屋岩助西大寺中野屋清吉方へ今朝出立往来七日以別人

一 申出候付以後ケ様之儀無之様当番軍次ハ孫右衛門迄相移ル

一 西今町京屋多吉大坂玉子屋九兵衛方へ来ル八日出廿日計り

一 四拾式匁御蔵米三拾八匁町米

一 明八日四時御供揃泰安寺へ御仏詣浜田平大夫ハ

一 松田屋孫市病身不勝手付年寄役免差免ス

一 茅町忠七兄庄八儀ニ付先達而為立去候養父平兵衛毎度罷越致難儀

一 候間宜布取計呉候様申出候処右平兵衛屋敷方ニ差置其主人より決

一 而遣間敷旨差詰り有之由申出候付其分致置候

一 大目付中ハ手紙少々御風邪被為入候付明八日例月之御仏詣御延引

一 被仰出候此段為相知申達候旨

一 明日御仏詣御延引之旨浜田平大夫ハ申来ル

一 幾野御代官所田中丈右衛門根本小右衛門ハ例歳之通十月十五日ハ

一 同晦日迄上来大豆相場之儀作州村々銀納直段に相用候旨奥印尤十

一 一月二日頃以飛脚可申遣旨承知之返書遣ス

十月八日 晴雨

一 出羽守様御通行付御蔵元船年寄へ被下物申達ス

一 九条様御内白井主膳上下三人六七日頃京都出立鳥屋与惣兵衛へ宿

一 申付賄諸事下代ハ取計候由近藤伊左衛門ハ右申付呉候様通用之儀

一 御用番中ハ御移り之由則申付ル然ル処与惣兵衛修覆致候懸り押而

一 難申付下代見分之上菊屋清左衛門へ申付ル

一 坪井瀧口与左衛門吉田幸藏ハ来書与左衛門爰元発足替り合ニ付挨

一 拶之趣

一 上紺屋町今屋佐七追込差免御届申達ス

九日 晴 夜中雨

一 八出屋六兵衛夫婦長四郎一件ニ付吟味呼出シ

一 来ル十一月十八日正法寺万人講伺書指出ス

十日 晴

一 新魚町魚住屋太郎右衛門質入証文錦織村より証文取戻候旨届ケ

一 下紺屋文太家屋敷壳渡候付小田中村そよ借家へ引越当人四「才

一 妻とよ四拾才粉文吉十一才郡代所引合済ム

一 今町角屋吉兵衛美濃職人町善兵衛勘八禁足差免ス

一 松田屋五郎左衛門ハ願親孫市儀御蔵奉行松岡治郎助へ出入奉公致

一 度片山孫市与改メ町内人別差除ケ承届ル

一 当子御役料御給米来ル十二日相渡り候旨廻状

十一日 晴

一 赤見頼助ハ紋大夫彦右衛門与左衛門伊左衛門拙者宛 御風邪未脱

一 与御勝不被遊候付明十二日例月之御仏詣御延引被仰出申達シ手紙

十二日 晴 十三日 晴

一 今日甚助茂市追込差免御届申達ス

一赤見類助より明十四日御風邪未御勝不被成候付御延引被仰出為知手紙到来

一東新町野田屋礒右衛門断借家に居申候青山道閑義当子ノ三月二日之願四国に出候処未罷帰当年ノ日延願

寛政二戌四月降

一西新町米屋彦太郎北側表口六間裏行拾七間本役也東隣者おけ屋四郎兵衛西隣者中之町作人虎藏右之内東之方三間裏行拾七間大溝切半役之所初屋文太郎取次ニ而六拾匁質物に書入ル

一東新町市右衛門願林田村忠兵衛借家鍛冶伝蔵妻まつ二拾才私娘に候処伝蔵病死ニ付引請願郡代所引合済ム

一万人講廻り目明手伝孫市伊助平助庄兵衛

一松本屋長雲因州へ十六日出四拾日計り

一大目付所へ拙者と左衛門猪左衛門呼出去月廿九日九月切切手理右衛門拾候処落手不相知候ニ付一統之触出有之候義歎各銘々存所之趣申出候様類助不申聞拙者ノ書付高津屋理右衛門九月切之切手老儀去月廿九日拾候旨同晦日晚章届申付其旨即刻御届申候而尚又夫々へ申達候得共月切之もの故為念御蔵へも罷越シ面談も仕候処当月朔日古米と朱点御座候丑ノ七月切切手ニ書替御蔵奉行中ノ被渡候月切之もの故筋立候事と相心得翌二日拾候当人へ正米受取候様申渡シ取計申候乍此上町在へ九月切切手落手有之哉触出被仰付有之候ハ、御定法之通受渡之儀「」付候様仕度候勿論其節御伺可申上与被存候旨書付差出ス与左衛門伊左衛門ハ落シ切手訴不出者不届ニ付御捨被置候様口上ニ而申上られ候由。拙者儀去ル二日拾手へ渡候儀取取計之様承候付門兵衛を以去ル十二日指扣伺候処今日

右書付出候上不及其儀旨類助ノ同人へ演達有之候

十月十四日 晴 十五日 晴

一今日万人講出役拙者門兵衛罷出ル

一備前野村平左衛門ノ飛札到来去夏以来船頭町山北屋猪兵衛田原村ニ而舟差止有之此一件に付田原村船持共ノ願出候書面并初村伊助右村へ罷越猪兵衛と連名ニ而書付荷物上ケ候一札之写致内見候様書面差越此儀ニ付懸り合松屋清右衛門魚屋平吉船頭町山北屋伊兵衛（三）爪原屋仁左衛門新屋藤助初村屋伊助組合預申付右書状者当番相受取候旨飛脚へ書付渡ス此一条追々可取計

十六日申越

一寄札高六千三百式拾枚此銀札三拾壹貫六百匁 内九貫四百八拾目

三步に引残而式拾式貫百貳拾目 壹番壹貫貳百六拾四匁 十番壹

貫百三拾七匁六分 二拾番同 三拾番三貫七百九拾貳匁 四拾番

壹貫百三拾七匁六分 五拾番貳貫五百式拾八匁 間々式百五拾式

匁八分。御小納戸ノ御内々寄札高申来書付差出ス

一上才原治助助富棚へ投駒及両度召捕孫市へ預ケ誤一札ニ而追放

一太神楽岡田忠大夫夜前着河本屋兵助宿

一造酒助殿御羽織頂戴御役御免。弾正殿御家老御当職要人殿御年寄

見習被仰付

十月十六日 晴

一明十七日地藏院御社參柴山重治ノ通用

一与兵衛殿於御次被仰渡立会赤見類助無宿盜賊伊助鼻刑追払無宿

盜賊吉五郎打首野介代当時無宿猪八打首尤兼田ニおゐて取計同村

幸助旧妻髮切親甚六へ預ケ右之通可取計旨被仰渡候尤郡代与左衛

万人講

門与申合せ候様被仰渡候

一河原町直次呵追込申付へく旨於御席被仰渡候一件袋ニ入ル

一郡代所懸り合此度取計様之伺書等ハ互ニ申合同日に差出候様心得

可申候旨御用番被仰之由類助カ被申聞候

一野介代本夫幸助儀者手錠追込父甚六ハ呵追込之由

一京町田原ヤ猪兵衛因州鳥取当廿一日出四拾余日計り

十七日 晴

一関次帯刀并紙入レ袴於拙宅闕所方中尾伴助へ送りを以引渡御徒目

付河村市郎兵衛下目付組此方市左衛門立会尤伴助カ受取紙面箆筒

に入置

一茅町百万扁カ

十月十八日 晴

一御仕置者明日取計牢屋六ツ時揃大目付中へ申達ス牢番へ例之通何

角手当申渡ス

一八出屋六兵衛吟味書与左衛門へ直に相渡候様与兵衛殿被仰渡候

一小性町帯屋かね家屋敷表口四間半裏式拾間三尺五寸但シ式歩五里カ

役東隣作人つね西隣松本屋弥吉右之家屋敷此度入候札を以御払ニ

成私落札ニ而買上ケ仕則代銀札三百六拾老奴五分并二十歩一銀札

十八奴七分五毛上納仕候上以後右家屋敷ニ付違乱無之旨書面買主

船頭町広島屋清七同月廿日に相納ム御運上奉行中カ受取箆筒に入

置尤委細類助へ申達ス

一今日於牢屋伊助鼻刑伝内順次古城御境目迄差添罷越候幸介旧妻髪

切穢多頭太兵衛缺ニ而ツム郡代下代立会之上与左衛門宅へ召連村

方へ申渡有之候由御徒目付中尾嘉兵衛下目付組読渡シ書役保次文

段役所ニ而調ル市左衛門作右衛門立会畢而伊八吉五郎切繩ニ而兼

田へ遣ス途中先格之通甚蔵喜作忠蔵郡治出役取計引取川崎庄屋宅

ニおゐて朝飯差出候由下代罷出候由右相濟河原町直治呵追込取計

且又於兼田御徒目付河本市兵衛下目付組罷出候庄屋方休息一緒之

由右相濟御用番中并大目付中へ御届申達ス

一中ノ町西屋治三郎借家家守粟井屋善吉断り借家に居申東ヤ市平智

理七并同人妻セキ当七月十二日之夜罷出候以後出奔届申出候処両

人致參宮山田を出河田村弥右衛門与申もの方ニ煩快氣之上罷帰此

元出立之砌願茂不出不調法之段相断候付呵禁足申付候

一松田屋跡役三谷屋与惣左衛門へ申付ル

一去月十二日出羽守様御通行之節人足六百八拾人内百九拾式人手札

払同三拾八人分払残而四百五拾人増町馬式拾五疋郷中馬五疋通馬

拾疋内三拾五疋払式疋分払残而三疋用意馬なり伝内佐介問屋カ書

付取帰ル

一右ニ付院庄ニて鳥目七百文惣船へ同六百文感元 善左衛門 下裁川辺

ニ而鳥目老貫文惣船へ同六百文文五郎 文左衛門 同百文 下裁人へ

十月廿日 晴

一安岡町久米屋兵八願土居大炊守殿御領分弓削村見付屋弥七借屋平

吉由緒御座候ニ付引請人別人卅式才妻なつ廿六娘かね式才及

御沙汰候

一幾野御廻米今日カ積出シ山岡氏カ通用

一 大坂屋車場辺川筋其外故障之有無蔵元船持召連致見分候様申渡ス
是八十一月一日之取計也

廿日 晴

一 川端喜六住居候小性町かね屋敷入札代三百六拾壹匁五分相納ル

廿一日 晴

一 明廿二日五つ時御供揃ニ而丸淵辺へ御川狩被遊御越候旨浜田通
用

廿二日 晴

一 喜作軍次御先私五ツ時御帰被成候

一 御運上奉行中布屋かね納銀受取相廻ル

廿三日 晴

一 岡田忠大夫今朝出立

一 東屋利七郎今日免申渡ス

一 中谷筏師与三右衛門次郎右衛門罷出船頭町ニ而筏流し米屋左七に
被留致迷惑候由先年親自分も此事六ヶ敷成候由御裏判も所持仕此
儀弥左様ニ成候得者罷帰御役所江申上候杯と申之候得共船頭町之
者卒爾之儀も申間敷同心蔵元追遣シ聞合させ候処公料私領米積下
之節筏通し候而者川荒候故差留申候当所通り候ても下ニ而決定留
申候帆柱木ハ損料出し通し申候筏ハ船ニてハ通申候彼等損し料を
いとひ候故か様ニ申候船ニハ四拾匁入申候得者筏ニてハ半分ニて
御座候併了簡ヲ以宿山城屋善助ニ為計船ニて為下候由

十月廿四日 晴

一 先達而役所江受取置候元広瀬平右衛門所持之払代大小紙入式拾式匁

式分金式分銀式匁五分今日御運上奉行中へ相納メ受取来ル申司ニ
入置候

同月廿五日到着届

一 九条様御内平野多中と申者上下四人参候間取計之儀此間談候通宜
申付呉候様ニ伊左衛門被申聞候大年寄へ申渡置

一 新魚町魚住屋太郎右衛門梓岩次郎孫右衛門宅へ直訴私不承知之処
太郎右衛門家売願書差上申候ニ付早速当月二日年寄口左衛門相届
留置明四日歎書持参致候処取次不申又々願書改替組頭へ印形頼候
処先達而と致相違印形致くれ不申其節嘉兵衛江も口上書出し候処
不取次組頭与年寄申合候故致難儀私悪事致候覚も無御座付而者男
女得引受不申組合初心身ニ成候ものも無御座無抛直参仕候願之通
印形致くれ候様申付くれ候様齋藤孫右衛門殿魚住屋岩次郎印件之
通乱雑法外之儀ニ付親へ渡し組合預に先申付置書付申付ル

廿五日 晴

一 田邑川東村百姓新八入牢当方出番左助

一 御蔵米四拾壹匁町米卅七匁

一 岸権六匁十平手紙町作年貢米為吟味近々追々町内江差出候ニ
付自然不埒有之候ハ、吟味之上差懸り手錠等申付候義も可有御座
候間左様ニ相心得候様

一 細工町勤六願惣右衛門殿下屋敷鉄砲町ニ罷在候伝内と申者五十五
才親類ニ御座候間引受渡世為仕度旨

十月廿六日 晴

一 自他国座頭共江戸表御普請出来ニ付御建物御棟上御地祭之御祝儀
頂戴仕度旨此間申出候得共御裏御殿ハ信源院様被成御座候通ニ

而御表此度御建添ニ候間御地祭ハ無之ニ付外二品ハ可被下且又公儀御転任御祝儀頂戴も仕候ハ、此分ニ而三ツ分ハ可被下ニ而配当場へ大年寄共申聞せ候様申含メ候処岡山ノ組頭座頭参り岡山ニても御転任御祝儀頂戴仕候ニ付御願申候由申出候

一類助ノ左之御書付被渡、御家中并未々ニ至迄衣服其外一切儉約之義先年ノ度々被仰出其上去ル子才思召之趣御直に被仰渡も有之候処近来心得違之族も有之哉之様相聞候此已後兼而被仰出之趣急度可相守候別而下々ニ至候而者分限忘却之様子相聞不埒之事ニ候以來召仕「」銘々主人ノ兼而被仰出之趣急度相守候様可申付候諸事之義御時節を勤へ銘々場合分限を弁へ質実第一取統相勤「」專要之事ニ候右之趣以來相背候面々も有之候ハ、目付役之者より無用捨申出候様申付置候条堅可相守候以上

一河原町直次追込差免申付御届申達

一下紺屋町亀吉ノ兄清吉人別離願不出候儀尋候処私親嘉十郎去才御藏下代御抱ニ成其後十一月ノ清吉儀北郷門兵衛へ出入罷成帯刀仕其節人別離願可申之処幼年之者之儀一向心付不申候而御断も不申上候段不調法仕恐入此度門兵衛へ兄清吉暇被具候様聞届ニ付役介ニ仕度町内人別に相加くれ候様願聞届遣候

廿七日 晴

一高尾屋勘七平岡屋へ出入借物当十二月迄可済之旨書付指出候

十月廿八日 晴

十一月二日 申上候
一座頭共へ御転任并御建物御棟上御祝儀三ツ分被下置候ニ付室井作右衛門藤森喜作出役いたし候 七拾式匁在名二人 拾八匁七分五

厘はれ衆分壹人 壹貫七百拾匁衆分百拾四人 八拾式匁五分打懸十一人 八拾六匁式分五厘初心式五人 六拾七匁五分寿名十五人 九拾目配當場役料 式貫百式拾七匁百六十六人

一去才以來広原分喜助姪ちう勝間田町立爪屋伊助と縁談之儀ニ付在町懸り合ニ相成候処右伊助当九月廿九日病死致候ニ付願下ケ嘉右衛門并伊助組合俣門藏ノ差出し山岡与左衛門へ申談し双方相当之呵ニて済候申合ニ付大年寄手前ニ而嘉右衛門呼出し候様申渡ス書付外ニ有之

廿九日 晴

一大目付中ノ廻状 御留場之内網わなはこ之類ニ而殺生致候儀兼而御停止之処有之様粗相聞不埒之至候兼而被仰出候通心得違有之間敷候目付之者其外殺生人より無用捨申出「」申付置候此旨可被相心得候右之趣同役并支配方へも可被相達候以上 右御触書組中并牢屋三軒家番并惣町へ相触ル

十一月朔日 晴

一御居間御目見申上候引統例之通御祝儀頂戴御礼申上ル御用席へ揃之出座無之

一御廻米積下ニ付大坂屋車場辺浚之儀ハ藏元へ引合小田中村ノ取計

一河端代八福井市郎左衛門ノ上中下米相場之儀申来ル

一高田戸村源五右衛門渡部唐兵衛ノ平均米相場之儀同断西両所へ

二日 晴 同事二日遣ス

一牢内藤藏太兵衛仕き申達ス

一 檜村川岸御廻米昨日の積出し初り候由郡代所の通用

一 坪井吉田市郎兵衛平均上米相場之儀申来ル

十一月三日 晴

一 明四日四時御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣柴山重治の

一 目木陣屋江尻順左衛門先月中武藤甚左衛門替り合相詰候付案内状
且別紙に去月中米上中下直段之儀申来ル

四日 晴

一 今日御先弘伝内甚蔵

一 魚住屋太郎右衛門岩次郎拔身を携へ孫右衛門方へ直訴致候付佐
助順次差向手錠申付候委細袋に入置

一 新魚町豆腐屋又兵衛去亥五月京都本願寺参り道中の病氣当月十四
日帰宅候処永々之間追願不出恐入候由書付承り置

一 田原屋六兵衛の福渡町中島屋文助へ懸り去歲家屋敷家賃元利算用
相済候由届書出ル

一 今日御倭約町触書付を以窺候処此通ニ而相触可申旨此右衛門の被
申聞候

一 此間逗留九条様御内平野多仲明四つ時御使者相勉候付使者宿申付
候様此右衛門の手紙到来玉置広四郎へ申付ル

五日 晴雨

一 太田仙助御取次に罷出候由御料理二汁五菜可被仰付之処相止一汁
五菜に相成候由尤小勤者三浦仙左衛門挨拶に被^レ

一 今日魚住屋太郎右衛門岩治郎組合共召連呼出吟味書有之

一 斎藤治郎左衛門内用ニ付明六日出十日計播州三日月へ

一 幾野田川丈右衛門根本小右衛門へ相場付差遣ス
(生野)

六日 雨

一 平野多仲今朝出立

一 東新町鍛冶新蔵家屋敷拾五年已前寺田治助へ書入銀札五百匁借候
処拾貳年已前子ノ歳治助駈落然ル処^レ「年已前亥年今津屋孫十郎
の銀札五百匁治助借受右之形ニ鍛冶屋五百匁之証文渡是を致所持
孫十郎の書付差出候得共筋違ニ付取計之大意以書付御用番与兵衛
殿へ申上置ク

一 一方村孫右衛門方へ去ル三日之夜盜賊入紛失もの郡代所の「町
方へ相触候様此右衛門の申聞ニ付取計

一 堺屋伊右衛門江州多賀成就院使僧玄乗坊上下二人昨日参着
(御通行)

十一月七日 雨 幾野へ相場書飛脚へ遣ス

一 明八日四時泰安寺へ御仏詣柴山十治の通用

一 安岡町十右衛門五人組の福島屋伊助へ家讓証文出ル

八日 晴

一 来月五日万人講御伺之上御聞届被成候

一 中買共請状申付候節其町年寄共奥書致候儀已来無用致中買頭の引
請取計可然旨相心得候様孫左衛門へ申渡ス

一 山本屋志之助致病死候処変死之由区々浮説有之候付屋廻り伝内喜
作勝間田町年寄へ尋候処吐血之病死無相違旨一札取帰ル
林

一 三丁目次田屋十兵衛大坂行明九日立廿日計り

九日 晴

大目付中の廻文半紙組中計へ為知

一 栄光院様五十回御忌之処当月十一日於江戸表御取越御茶湯被仰付
(益(初代富富の娘富))

候此段為相知候様被仰出右之趣同役并支配方へも

一かや町岡屋忠七兄庄八直訴しまりもなき事申之仍而年寄組合呼出し引渡ス

一勝間田町蒨田屋治七郎明十日出備前西大寺肥後屋多七方へ七日計

一魚住屋太郎右衛門見届出出来ニ付作右衛門甚蔵罷越□

十一月十日 晴

一御藏米四拾壹匁五分卅七匁式分

一魚住屋方岩治郎困へ入左助 孫八見届年寄封印引統太郎右衛門并組合阿

追込御届申年寄兩人禁足一件袋に入置ク

一郡代所々盜賊常右衛門入牢出番甚蔵

十一日 晴

一明十二日四時御供揃泰安寺へ御仏詣柴山万兵衛同日御延引触同

士の

十二日 晴

一吹屋町北村屋土右衛門持分之畑に去ル西ノ九月鍋釜有之訴出付郡

代所へ達シ向方へ取上有之候処今日役所へ相廻され同十三日年寄

槌右衛門を召連出相渡し遣ス

同上四日向寄町へ触ル
一竹之馬場辺培シ数多有之候付例格を以取計候様此右衛門申聞

一新魚町年寄禁足差免ス

十三日 晴

一小頭（不詳）伝内作右衛門呼出今度儉約御触并勉方心得等書付を以申渡ス

一伊勢川北助大夫手代辻田善次老人昨日參ル堺屋伊右衛門切手

十四日 晴

一荒物方の鯛三拾枚代六匁孫右衛門同断広四郎指上ケ物代取立相納

可申旨即日申渡ス

一備前懸り合ニ付当方返答書并拙者返書御用所へ差上ル

一押入下村宮山に布子羽織（不詳）小財布布（不詳）刀（不詳）有之町触取計候

様郡代所々申出此右衛門被申聞即日相触ル

一明十五日月並之御礼少々御風邪被成御座候間不被為請候旨大目付

中の廻状

一明十五日申達候儀有之候付可參之由此右衛門被申聞候

一京町作人伝蔵西今町北側私所持之家屋敷表二間半裏行拾七間但四

歩一厘七毛西隣正田屋吉右衛門東隣浅島屋茂兵衛也七百九拾匁に

正田屋吉右衛門へ売渡

十一月十五日 晴

一牢下番義八不快割場（不詳）替り老人取之

一公方様去戌九月四日内大臣御転任被成候段此右衛門宅ニおゐて演

達有之候

十六日 晴

一明後日万人講出役大鼓為打候儀申上ル

一明日御社參御仏參御延引被成候段此右衛門（不詳）申聞

一鈴木甚大夫江差越候相場書相調候

一錢相場百（不詳）文。御藏米四拾式匁町米卅八匁

十七日 曇

一青木楠五郎殿手代江上中下米平均御勘定奉行中へ相頼

一かもや平左衛門奈良金井町墨屋伊兵衛手代源介例年之通墨筆売

一橋元町吉野屋勘六南側表口三間役彦歩式厘五毛裏行十七間七歩五厘西隣黒茶屋伊之助東隣村屋伊八右屋敷大破ニ付修覆難成後藤屋孫市弟定八へ譲り之儀願

一二かい町境屋伊右衛門ハ中江弥左衛門罷越卅日計逗留

十一月十八日 曇

一万人講出役御貸人馬例之通

一団屋甚兵衛ハ水野但馬守殿役人備中小坂辺中島幸右衛門同文助近藤政藏ハ例之通一種到来

一今日寄札老万四千九百卅四枚銀札七拾四貫内式拾貳貫四百老ハ三歩引百六拾九匁。六拾番割 一番式貫貳百四拾匁老分 拾番老貫四百九十三匁四分 二拾番同 卅番八貫九百六拾匁四分 四十番十番 五十番同 六拾番

三貫四百卅四匁八分式厘 間々五百九拾七匁三分六厘ツ、
十九日 晴

一八百屋六兵衛夫婦追込免御届申達ス長四郎跡請所受取長四郎ハ御領分追払

一小林孫四郎殿手代大塚十藏藤岡直八ハ十九日出五拾艘積受備前金岡湊迄川下致候様頼越当川筋受負船計ニテハ差支候趣書面扣ニ有
一柏原前幸神ニ風呂敷有之申出御徒目付下目付差出可申間町分ハ預置可申旨相受取候様此右衛門ハ申来り作右衛門見届ニ遣ス

廿日 晴

一御中間切手落候旨式表老斗六升五合十一月十二日書替一橋久三郎宛例之通町方触出ス

一大目付中ハ廻状去ル十八日夜米切手落候もの有之拾候もの有之候

ハ、下々追逐吟味可被申出候右之趣同役并支配方ハも可被相違候
一玉置方ハ御酒上候処御德利之中酒に筆之軸か入候儀ニ而相咎候様ニ大目付中ハ申聞られ去ル十八日之夕追込申付候処差免候様被仰付候同廿一日朝免

廿一日 不詳

一松岡才之助妻出産届出候承り置

廿二日 晴 廿三日 晴

一來丑正月十八日万人講相願尤正法寺之講に願候へハ無御取上

一京町二文字屋徳左衛門ハ親善兵衛儀井岡道貞弟子ニ御座候処此度医名貫井上道嘉与相改本道致度願承届ル

一同心順次明日ハ出勤

一茅町年寄伝右衛門昨夜致病死候由

十一月廿四日 霽

一藤岡直八大塚重藏ハ船之儀ニ付来書則返事出「」扣に有之

一今夕六ツ過時堺町藤屋孫市宅火燵ハ失火早速消留忠藏郡治見届此右衛門へ達ス

一大社西村勘大夫上下四人坪井町桔梗屋庄右衛門ハ宿切手

一藤波神主手代松井木工江旦那廻り

一河原町梶田屋茂平次借家岡屋治助与申もの盼忠吉十九歳当月五日行方不知断出ル

一新職人町作人伝蔵真島郡鹿田村甚助ハ弟四拾老引請住宅願

廿五日 霽

一堺町藤屋追込御両所へ申達ス

一明日牢屋ニ而新八吟味郡代所_レ下代出ル

廿六日 霽

一備前野々村平左衛門へ懸ヶ合存寄之書付於御次与兵衛殿へ差上ル

一八出屋六兵衛方質札并質取方書付与左衛門_レ受取之

一川下一件勝手次第に飛脚差立候様与兵衛殿_レ被仰渡同廿七日岡山

へ飛脚指立候御使組山本友次

廿七日 霽

一牢屋中間義八病死

十一月朔日也

一魚住伊予守参着扇子持参同廿八日申達ス朔日登城

一銀札拾六貫目講元_レ指出ス奥書調同廿八日勘定所へ納ル

一明日五時杉山辺被為入柴山重治_レ御道筋京橋通り妙願寺前桶屋南

座也

一今日出牢郡代所_レ取計順次差出ス

十一月廿八日 晴

一船頭町粉村屋猪助山北屋猪兵衛追込尤外懸り合他参留

一今日御先弘佐助孫八

一船頭町今岡屋浅右衛門方へ阿州名西郡高原村直兵衛同手代平左衛

門例年之通藍玉同州板野郡鳴瀬村曾右衛門同州同所河端村堂本屋

清兵衛同州名東郡柴原村栄次同国板野郡高房村新兵衛右之もの共

同人宿切手

一今町庄原屋善兵衛願妙願寺長家新四郎儀借家へ為引越門兵衛へ引

合承届ル

一西今町福江屋文吉困窮ニ付封札百匁開封之儀申出候得共願意難済

付差戻候

一中之町山西屋要助方越後国則浄甲斐国七左衛門武蔵国新蔵道行之

内則浄病氣不軽候旨届出ル

一二丁目福寿屋伊左衛門出奔後満日ニ付人別相離ス則及御沙汰

一東新町鍛冶新蔵家屋敷取揚に申付候処当月晦日切ニ候得共借毛調

不申歎候付来正月十五日迄日延

一西新町玉屋平吉去ル廿七日盗賊入候得共紛失無之由

十一月廿九日 霽

一西新町大黒屋源右衛門届盗人入紛失もの無之

一非人加廻明日_レ二組差出候旨届申

一山西屋要助方ニ而昨夕則浄相果爰元ニて葬「」道行願候付作右衛

門儀見届ニ遣書付取帰ル

晦日 霽

一西今町坪や藤十郎断盗人昨夜這入候処紛失物無之

一茅町森長屋源兵衛落手取捨承届ル

一元魚町玉島屋安右衛門堺町太布屋喜兵衛持来り自国株当子_レ辰ノ

歳迄借請商売

一西新玉屋平吉盗人入

一大熊勘解由殿昨夜盗賊入廿匁札六百匁但百匁札四枚小札二百匁金

子三両二歩銀五六拾匁古切之巾着白木箱文字替銭百疋小判右紛失

之由西川平兵衛_レ通意承置ク

一則浄死骸寺社方へ通用之上勝手次第葬候様申付ル

一牧十郎治娘由緒御座候付私養女に貰引請置追而相成之儀御座候ハ

、縁付遣申度願書以後異変□敷文段与左衛門加判拙者願与左衛門
取計相頼候処御□取被成即晚与兵衛の奉書從此方御受書尤御請□
罷越候

十二月朔日 霽

一今日御居間御目見被為召候御用ニ付不能出右御座間濟御用所へ郷
左衛門同道重郎治娘願之通被仰付与兵衛殿其外廻動

一物忌ニ付同心共目明手配いたし廻り致候非人共を召連目明其外心
得有之もの共東西へ五六人宛遠近在へ□覆(マ)に遣ス

一与兵衛殿来歳詰江戸被仰付於御用所御相抄申上ル

二日 雨

一昨日娘引取候与左衛門の申達ス

一村尾彦右衛門の直屋孫左衛門銀子出入病氣断候得共扱之訳も不聞
候付内分通意有之

一則浄晦日之夕葬候旨届

一御前被為入候

一福茂屋武助播州津宇郡妹尾村綿屋太兵衛例年之通木綿畳之表

一六部兩人出立

三日 霽

一柴山万兵衛の明日例刻之御仏参申来ル

一二文字屋徳左衛門年寄役申付候儀届来ル

四日 霽

一平野屋助左衛門先月廿八日之夕盗賊入紛失無之

一川島桃庵粉秋庵京都堀本其厚方へ医学当子之寅迄逗留追願

一今日御先払孫八喜作

一東西□覆(不詳)帰る意味相有

十二月五日 晴

一役訴有之

一今日万人講寄高五千六百三拾三枚此銀二拾八貫百六拾五匁 内八
貫四百九匁五分 残而拾九貫七百拾五匁五分六拾番に割。壹番

八百四拾四匁九分五厘。拾番五百六拾三匁五分。二十番同。三拾

番三貫三百九匁八分。四拾番五百六拾三匁三分。五拾番同。六拾

番壹貫貳百九拾五匁五分九厘 間々貳百廿五匁三〇二厘宛

一於講場巾着切捕へ例之場所に擲置追払可申先例ニ候得共物忌之砌

ニ付牢番預にも可仕旁引取御届兩人与兵衛殿へ懸御目達置ク郷左

衛門へも同断

一今夕右之もの牢番に預ル

六日 霽

一伯州米子欽城坊今日牢番預ケ追而吟味

一御用番与兵衛殿の銀札通用ニ付正銀錢内々取遣停止之旨先達而度

々触候処近来不埒之族有之旨〔儀者 銀錢取払候共銀札場

ニ而兩替為致受取可申銀札場ニ而少分之義者小売場候間其場所ニ

而引替当地之者正銀錢取遣之儀者不相成右之通内々取遣堅ク御停

止之儀。綿実他国他領へ差遣間敷之処内々他所へ懸組猥に相成候

不届ニ付触出被仰渡候

一馬持持借大豆二俵半宛納所之儀者来丑ノ二月の七月迄引取例之通

及御沙汰

七日 霽

一 明八日四時御供揃御仏詣之儀柴山万兵衛「通用之事

一 紺屋町小山屋岩右衛門借家土佐屋「三郎同人母」徳藏長家へ引

越

一 江戸表御老中阿部豊後守殿去月十四日御卒去之旨申来依之今日の
来ル九日迄三日之内鳴物高声御停止之事情尤普請者不苦候旨大目
付中へ廻「夫々触出ス

一 中之丁河内屋武兵衛口上書伝内順治取帰ル別に有之

一 阿州名西郡桑島村平次兵衛手代吉兵衛例年之通藍玉売。同州板野

郡中留村兵助手代平兵衛同州同郡同村武右衛門手代与一兵衛各今

出屋半兵衛切手

一 林田町豊屋方へ喜作軍次指遣ス書付別に有り

十二月八日 霽

一 御前被為入候

一 中之町河内屋武兵衛方幸八与申家来不審相懸り別に書面有之

一 馬持拝借大豆之儀申上ル

一 今町作人五助勝手ニ付鉄砲町栄源借家ニ引越「三人右郡代所引

台済ム

一 橋本町ニ而備前相撲取貫原丹藏与申もの押而逗留可致「無体を申

旅籠屋武八書付外に有り

一 大目付中江大坂村尾彦右衛門の書面ニ階町組屋勘十郎水車絞油一

条ニ付大坂西御番所与力の申渡之趣郷左衛門の被相渡今日組屋勘

十郎家来清八福渡町升屋平兵衛呼出委細申渡取計候此一条追々可
及御沙汰入組候儀ニ付「

(マ)

九日 晴

一 十二月十日 雪

一 御前被為入候

一 水車一件ニ付大坂村尾彦右衛門へ勘十郎早速可致登坂之処眼病不
相勝負に難相登快罷成候ハ、家来「人懸り合之者召連登坂可仕之
旨日延之歎指出候「拙者致奥書及御沙汰候処御聞届被成飛脚可差
立旨被仰渡右ニ付大目付中へ彦右衛門へ書面被相渡拙者の委細相

頼遣ス「

一 来三月愛染寺祖師年廻之法事修行之建札御聞届相濟西橋に建申度

旨寺社取次門兵衛の通用大年寄へ申渡ス

一 幾野小林孫四郎殿手代田川丈右衛門根本「右衛門当子ノ正月の十

二月迄銭相場の儀野井乃の例を以差越候様申来り相応之返事差

遣置扣に有之

十一日 晴

一 今日飛脚差立候尤組屋勘十郎方へ取計候様「

十二日 晴

一 今日御仏参ニ付柴山万兵衛の昨日通用有之候之処御延引被仰出候

一 与左衛門へ相頼願差出ス私養女尾上庄八母貫置追而庄八与娶申度

旨相望候付差遣申度之願尤已後異変仕間敷文段与左衛門加判御用

所御請取被置候旨

(マ) 十三日 雨

一御蔵四拾壹匁町米三拾七匁

一明十四日泰安寺へ御仏詣被遊候旨柴山〔申来ル〕

十二月十四日 晴

一今日御先私作右衛門甚蔵

一大年寄共歳末献上伺相済ム

一御手廻り三人町分触出候様大目付中被申聞来正月廿日日切

一大坂屋治郎右衛門出奔致シ去ル十二日之夕之由

一御中間金七病氣ニ付勝間田町才治与申者請人□引取尤扶持方相渡

候由

一橋本町元屋武八此間不埒もの為泊候付呵禁足今日指免ス

一与兵衛殿〆奉書到来御請書□例之通

十五日 不正

一今日別御用ニ付御目見無之引統郷左衛門同道御用所ニ而与兵衛殿

被仰渡願之通御聞届被仰付廻勤

一京都愛宕山長床坊使僧常意上下三人例之通旦那廻り肥後屋茂八勢

州浅熊巽明王院使僧宝蔵坊休加坊悦中坊義中坊上下八人例年之通

旦那廻切手同断

十六日 晴

一本郷山西市右衛門盼之由文七与申もの林田町角屋又七方ニ而銜を

申銀札拾五匁受取其外不埒有之跡を付候処二階町ニ而廻り同心甚

蔵作右衛門承之吟味之上及御沙汰牢番預ケに申付ル別に有之

一町米三拾九匁五分町米三拾五匁五分

一明十七日四時御供揃ニ而地藏院へ御社參飯塚弥代〆通意

一真壁村新吉昨十五日二丁目小倉屋ニ而買受取候切手同所より今町

之間ニ而落シ二俵老枚切手子ノ□月廿二日ニ印磯野伊兵衛宛与左

衛門〆申聞ニ付相触候様大目付所申聞大年寄へ申渡ス

一中之町福茂屋寿助切手播州姫路辰野町和泉屋弥兵衛小間もの同國

同所豆腐屋町腕屋藤□衛例年之通宿同断

十二月十六日 正

一山手屋弥太郎断他國請酒株三年前西新町井筒ヤへ借置候処取戻

し

一中江弥左衛門用事不相濟候付廿日計逗留断塚屋伊右衛門

一元魚町作人新兵衛昨晚古川屋惣助頼ニ付両山寺へ參候処一方村奈

屋源右衛門〆半町計先にて裸切手老枚拾〆両山寺に一宿今日書付

出ス昨日書面之切手に無相違預り置

十七日 霽 十八日 晴

一昨日拾ヒ切手之儀申達ス与左衛門へ申談先格之通受渡之趣

一中之町高雄屋勘七切手播州網干塩屋伊兵衛同弟〔例年之通荒

もの。同州同所高屋彦右衛門小間もの例年之通。同所余陸屋惣七

例年之通八百屋もの切手同断

十九日 晴 廿日 晴

一御前被為入候

一牢番預り歎城坊主追払御聞届

一中之町福井屋要蔵父源十郎去ル戌ノ歳〆当〔家内四人土屋健次

郎殿領分福井村孫左衛門へ引受候処源十郎去春病死当人并役介て

ま之処家業勝手ニ付卯ノ年迄出職願

一 真壁村新吉へ二俵渡し半俵受取双方書付取替尤庄屋召連參候由

一 大目付の演説 御家中屋敷盗人入紛失もの候ハ、不依多少町奉行

へ致通用番頭大目付中へ可達之旨

一本多嘉内の長屋へ盗人入紛失もの、品内通有之承置

一 十二月廿一日 晴

一 養女昨夜庄八方へ遣候旨御申達ス

一 村尾彦右衛門の來書組屋勘十郎日延願書西御番所へ申達候由扣に

有之

一 坊主追放喜作孫八罷出ル

一 京町二文字屋徳左衛門年寄役申付ル

廿二日 晴

一 御前被為入候

一 大坂の返書御用番中へ申達ス

一 橋本町山田屋七之助西側ニ而家屋敷表口四間裏行捨五間本役西隣

山形屋喜八北隣林田町文助同町鍵屋茂助取次来丑ノ十月切五百匁

質入

一 林田町鍋屋治兵衛借家文左衛門河村市兵衛渡り家敷へ引越

廿三日 晴

一 京町鍵屋宇兵衛梓孫三郎札元手代ニ召抱候旨川口小弥太の通用

廿四日 晴

一 惣船持老貫八拾匁五年以前拝借去歲迄納所済当年又□拝借願来丑

より五ヶ年之間上納可仕之旨願及御沙汰御聞届

一 武田七郎兵衛へ伊勢屋長右衛門弟惠十郎廿三才此度養子ニ貫

一 今町直屋孫兵衛大坂布屋町河内屋甚太郎代茂兵衛生魚壳掛銀三百

八拾八匁九分八厘八毛錢老貫貳百八拾三文之処此度梶木町松屋平

兵衛と申參対談之上貳百匁嘸イ濟書付取之差出旨郷左衛門へ及

嚙御用所へ申上候

一 御蔵米四拾匁町米卅六匁

一 元魚町住屋市左衛門後家三貫目来丑四月切町内神喜屋取次

一 荒物屋元太郎所持之家屋敷中之町南側表口五間半裏行十七間本役

也裏之方土蔵老ヶ所式間に三間之処林田町武蔵屋源次郎へ書入三

百目来ル丑十月切

一 安岡町とうふや伝左衛門北側表口式間半裏行拾四間半半役東隣ハ

古川屋安右衛門西隣ハ日笠屋甚蔵也来丑十月迄

一 西新町江見屋伝七差引出入三通追々取計

一 戸川町目明甚助安岡町綿屋吉左衛門跡式材木町万屋与惣兵衛へ懸

り合先達而之的一件吉左衛門跡式御訴訟申上候通相統仕候様御裁

許被下已後申分なく一札差出之別に有之

十二月廿五日 昨夜の雪 廿六日 霽

一 講元共の差出高二拾二貫四百老匁三步銀也内拾六貫目十一月廿七

日相納老貫四百九拾三匁四分郡代所へ納メ六拾匁小川太兵衛へ差

出四百八十九匁六分老厘普請方一切諸入用半銀之分相渡三貫百四

拾七匁七分諸入用に払六百匁講元六人へ世話料ノ式拾老貫七百九

拾匁七分六厘引残六百拾匁二分九厘

一 西新町大坂屋宇兵衛厄介徳左衛門娘かね六年已前林田村鍛冶屋六

左衛門方へ嫁候処離縁

一今朝五ツ過時御用之儀ニ付与兵衛殿御宅へ罷越候様平井郷左衛門
 の手紙到来即刻罷越候之処同人立会ニ而与兵衛殿を被仰達候趣其
 方義思食有之候付御役御免被成候旨被仰渡畢而於次座差扣之義郷
 左衛門へ伺候処未跡役も不被仰付半伺者勝手次第にいたし引渡之
 儀者取計可有之旨ニ付伊藤采女を以指扣伺候処其旨被仰付相慎罷
 在候内後藤守助大目付格町奉行役被蒙仰候趣入来之上通意引統御
 役筋旧例之通大旨以書付組中不残大年寄麻上下着用此方共平服ニ
 而諸辺引渡致演達候尤例之通牢家中間へ持運ヒ守助も持夫手当
 有之無滞相済ム

一今日山岡与左衛門御役御免差扣窺ニ付被仰付其外文略ス

(約半丁分の空白あり)

十二月廿六日

後藤守助日記

廿六日

一今日被為召於御前町奉行格式大目付并役高大目付並付人等被下置
 候段被仰渡右ニ付先役大沢三平の支配之者并御用物引渡無滞相済
 一御用所面謁相済

一大目付中是迄市郷懸り被仰付候処向後相止候段平井郷左衛門を被
 申聞

一来ル廿八日於御用所神文被仰付候旨大目付中を被申聞

一於御用所町奉行是迄之勤方思召ニ不相叶依之向後勤方御書付御渡
 被成候ニ付思召ニ相叶候様可相勤之旨御用番伊達与兵衛殿を被仰
 渡

十二月廿七日

廿八日

一 小桁御番所長沢清左衛門へ印鑑差遣尤御蔵元へ申付遣ス

一 大年寄三人共例歳之通歳末之為御祝義雉子一番宛献上ニ付自分請
 取御奏者番中江差出後刻中ノ口ニ而御奏者中大年寄三人共ニ被謁
 其節立合

一 惣而役筋ニ付候もの年中出精之趣申立候ハ、十一月晦日迄ニ調へ
 以来可申上旨御用番伊達与兵衛殿被仰渡候

一 大年寄并札元補闕等年頭之御礼席順相認明日迄ニ可指出旨御奏者
 番中被申聞

一 元日御流前ニ御役義御礼被仰付候箱肴差上可申旨被申聰

一 御用所におるて神文被仰付大目付中読渡御用番中へ相渡候而被差
 出候而退

一 於御用所大目付平井郷左衛門立合支配方之ものへ左之通申渡候様
 被仰渡

一 父藤右衛門勤功ニ依而札元役見習
 名字門松被指免候出精相勤候様可申渡候

一 父三右衛門勤功ニ依而札元役
 見習申付候

一 出精相勤候ニ付札元本役申付候

札元

茂渡藤右衛門跡 三

忠右衛門

札元

山本三右衛門悴 四

与市

札元補闕

玉置宇左衛門 二

尚出精相勤候様可申渡候

同
妹尾平兵衛 五

一先役中ニ願相濟候当町船持共困窮ニ付拝借相濟本証文大年寄玉置
広四郎ニ指出候て奥書相渡

出精相勤候ニ付一ノ宮市町并
旅帯刀被指免候

礼元
川口藤十郎 一

一安岡町豆腐屋伝右衛門家屋敷同町古川屋八「」へ質入ニ致候願先
役中ニ相濟候依之本証文ニ大年寄共奥書□之差出
十二月廿九日

役筋出精相勤候ニ付金貳百足
被下之候

鍛冶頭
市郎右衛門

一大年寄并礼元町医等年始御礼順席玉置為參御奏者平井郷左衛門へ
差出

作事御用其上勘定所御用

致出精候ニ付門松合印被指免候

塗師
勘平

御用向出精相勤候ニ付

門松合印被指免候

右之もの共奉書を以召出右之趣申渡奉書文段如左

御用之儀有之候間我等宅へ只今可被罷出候

十二月廿八日 後 守助

殿

一鍛冶頭市郎右衛門并塗師勘平へ者玉置広四郎より罷出候様申達召
出玄関ニ差置申渡右何れも小頭并大年寄立合

一右之申渡相濟候段御用番伊達与兵衛殿大目付平井郷左衛門へ申達
一万人講銀之差引残六百拾匁式分九厘大目付平井郷左衛門へ及噂候
而勘定奉行近藤伊左衛門へ相渡尤証文ニ通添委細者先役ニ談有之
由

津山松平藩町奉行一覧表

※家格欄のうち、「古取」は古参取立、新並は士格新参並、新取は新参取立の略。前職欄の括弧書は、町奉行任命直前に無役の者の役免前の役職を示す。大目付など町奉行より格が高いと思われる役職の就任者のうち、町奉行からの直接転免でない者（つまり後職欄に記載されぬ場合）は、備考欄に「後に□□」としてその役職を示した。

| 町奉行名 | 家格 | 前職 | 任年月日 | 転免年月日 | 後職 | 備考 |
|---------|----|-------|------------|------------|-----|--------------|
| 馬場縫殿右衛門 | 古参 | 勤者 | 元禄11・2・22 | 宝永6・11・13 | 免 | |
| 植木園右衛門 | 譜代 | 中奥組 | 元禄11・2・22 | 元禄11・10・26 | ? | |
| 入江吉左衛門 | 譜代 | 勤者 | 元禄11・12・13 | 元禄15・7・25 | 持筒頭 | |
| 植木惣左衛門 | 譜代 | ? | 元禄15・7・25 | 宝永7・6・23 | 大目付 | 再任（園右衛門から改名） |
| 神谷庄左衛門 | ? | ? | 宝永7・6・23 | 享保4・正・28 | ? | |
| 石丸仙右衛門 | ? | ? | 宝永7・6・23 | 享保8・4・25 | ? | 彼の免により二人制廃止 |
| 松島儀左衛門 | 古参 | 旗奉行 | 享保4・2・朔 | 享保6・12・10 | 召放 | |
| 馬場喜内 | 古参 | 先手弓頭 | 享保7・正・11 | 享保11・9・26 | 中奥頭 | |
| 川村源内 | ? | ? | 享保11・9・26 | 享保12・閏正・3 | ? | |
| 村山左仲 | 古参 | 旗奉行 | 享保12・閏正・3 | 享保15・3・13 | 免 | |
| 馬場縫殿右衛門 | 古参 | (中奥頭) | 享保15・3・13 | 元文4・2・12 | 免 | 再任（喜内から改名） |
| 江口勘大夫 | 譜代 | 持弓頭 | 元文4・2・12 | 延享元・7・朔 | 免 | |
| 山田与市 | 新参 | 勘定奉行 | 延享元・7・朔 | 延享2・10・28 | 死 | |
| 市村番右衛門 | 譜代 | 勘定奉行 | 延享2・10・28 | 延享4・6・19 | 大目付 | |
| 鈴木喜右衛門 | 古参 | ? | 延享4・6・19 | 延享4・10・3 | ? | 郡代、当分兼務 |

| 町奉行名 | 家格 | 前職 | 任命年月日 | 転免年月日 | 後職 | 備考 |
|----------|----|----------|-----------|-----------|------|----------------|
| 太田定右衛門 | 譜代 | 持筒頭 | 延享4・10・3 | 寛延3・7・朔 | 大目付 | |
| 鈴木喜右衛門 | 古参 | 郡代 | 寛延3・7・朔 | 宝曆4・7・28 | 大目付 | |
| 井上弥三兵衛 | 古取 | | 宝曆4・7・28 | 宝曆9・4・3 | | 郡代、当分兼務 |
| 服部弥左衛門 | ? | | 宝曆9・4・3 | 宝曆10・10・5 | | 勘定奉行、兼務 |
| 上原彦市 | 古取 | | 宝曆9・4・3 | 宝曆10・10・5 | | 勘定奉行、兼務 |
| 佐々木九郎左衛門 | 新参 | | 宝曆9・4・3 | 宝曆11・3・晦 | | 勘定奉行、兼務 |
| 大橋源右衛門 | ? | | 宝曆10・10・5 | 宝曆11・8・15 | | 勘定奉行補欠、兼務 |
| 大沢三平 | 古取 | | 宝曆10・10・5 | 明和4・3・9 | | 勘定奉行補欠↓郡代、兼務 |
| 平井半平 | 譜代 | | 明和4・3・9 | 明和4・4・朔 | | 郡代、兼務 |
| 井上弥三兵衛 | 古取 | 使番 | 明和4・4・朔 | 明和5・11・27 | 大目付 | |
| 永井甚大夫 | 新参 | (勘定奉行) | 明和5・11・27 | 明和7・6・15 | 大目付 | 明和6・正26↓勘定奉行兼務 |
| 大沢三平 | 古取 | (郡代兼町奉行) | 明和7・6・15 | 明和7・7・22 | 先手惣頭 | |
| 栗田唯治 | 新参 | | 明和7・7・22 | 明和7・11・10 | | 勘定奉行、郡代・町奉行兼務 |
| 平井半平 | 譜代 | | 明和7・7・22 | 明和7・11・10 | | 勘定奉行、郡代・町奉行兼務 |
| 山岡与左衛門 | 新並 | | 明和7・7・22 | 明和7・11・10 | | 勘定奉行、郡代・町奉行兼務 |
| 清水多橘 | 古参 | | 明和7・7・22 | 明和7・11・10 | | 勘定奉行、郡代・町奉行兼務 |
| 栗原新五兵衛 | 新参 | | 明和7・11・10 | 安永元・6・21 | | 郡代、兼務 |
| 大沢三平 | 古取 | 先手惣頭 | 安永元・6・21 | 安永9・12・26 | 免・差控 | 再任 |
| 後藤守助 | 古取 | 使番 | 安永9・12・26 | 寛政4・6・22 | 死 | |
| 増見右門 | 新参 | 徒頭 | 寛政4・6・22 | 文化元・6・8 | 免 | |
| 江口勘大夫 | 譜代 | 奥用取次 | 文化元・6・8 | 文化5・6・朔 | 免 | 後に小姓頭 |

| 町奉行名 | 家格 | 前職 | 任命年月日 | 転免年月日 | 後職 | 備考 |
|---------|----|-------|------------|------------|-----------------------|-------------|
| 近藤伊左衛門 | 新並 | 近習 | 文化5・6・朔 | 文化9・5・26 | 小納戸 | 後に大目付 |
| 田中 蓑助 | 新参 | 勘定奉行 | 文化9・5・26 | 文化11・5・21 | 大目付 | |
| 小島 清介 | 古参 | 寄合 | 文化11・5・21 | 文政元・10・3 | 免・差控 | 青年期に江戸で学問修行 |
| 小島 定人 | 古参 | 先手弓頭 | 文政元・10・3 | 文政6・正・16 | 先手弓頭 | |
| 大村 成夫 | 新参 | 使番 | 文政6・正・16 | 文政11・7・3 | 免 | |
| 野条縫殿助 | 新参 | 小納戸 | 文政11・7・3 | 天保2・正・21 | 死 | |
| 増兒 里見 | 新参 | (小納戸) | 天保2・正・25 | 天保13・6・朔 | 丹山守役 | |
| 稲垣武十郎 | 新参 | 儒者 | 天保13・6・朔 | 天保14・10・18 | 死 | |
| 内山 洞藏 | 古取 | 勘定奉行 | 天保14・10・18 | 弘化元・正・23 | 勘定奉行 | 郡代、当分受持 |
| 馬場五郎平 | 古参 | 使番 | 弘化元・正・23 | 弘化3・10・21 | 長柄奉行 | |
| 鈴木 仁作 | 古参 | 使番 | 弘化3・10・21 | 安政元・8・18 | 免 | |
| 三浦十郎左衛門 | 新取 | 先手弓頭 | 安政元・8・18 | 万延元・4・23 | 免 | |
| 西尾源右衛門 | 古参 | 大番組頭 | 万延元・4・23 | 文久元・10・4 | 免 | |
| 大村 斐夫 | 新参 | 大番組頭 | 文久元・10・7 | 元治元・8・14 | 大目付 | |
| 増兒 伊妻 | 新参 | 使番 | 元治元・8・14 | 慶応2・9・24 | 死 | |
| 本郷恒右衛門 | 新並 | 勘定奉行 | 慶応2・9・15 | 慶応3・3・22 | 勘定奉行、当分受持 後に松平家の家令 | |
| 中 沢 広江 | 新並 | 大坂留守居 | 慶応3・正・21 | 明治元・正・20 | 小納戸頭取 | |
| 佐々木勘右衛門 | 古参 | 寺社取次 | 明治元・正・21 | 明治元・2・8 | 寺社取次 | |
| 大村 斐夫 | 新参 | 大目付 | 明治元・2・8 | 明治2・3・20 | 免・差控 | |
| 飯塚 一介 | 古取 | 使番 | 明治2・3・21 | 明治3・2・25 | 免・遠慮 | |
| 芦沢彦次郎 | 新参 | 軍器方 | 明治3・2・25 | 明治3・4・5 | 免 | 民政局長属・市政懸 |

《解説》歴代町奉行の経歴について

津山松平藩の町奉行一覧表は、任免年月日のみを示したものは既に『津山松平藩町奉行日記』二の巻頭に掲載されているが、これに家格や前後の役職などの項目を追加して（主に「勤書」簡略本に拠り、必要に応じて諸日記を参照した）津山松平藩の職制・人事に関する研究の一助とすべく作成したのが右の表である。以前の表には、わずかに数日間の仮役・受持まで示してあり、今後「町奉行日記」解読が進むに従って、多くの類例が明らかになると思われるけれども、本表はあくまで正規の専任者に関する考察に供するものとし、後任者決定までの仮役のうち十日以内の者、専任者の病氣・出府・差控え中の仮役の者は除外した。また、明治維新後の職制改革によって町奉行は市政監と改称されるため、従来はその改革時の就任者である大村斐夫までしか列挙されていないが、この改革が城下町行政において何らかの具体的な機構改革を伴うものであったのか、現時点では不明であるので、市政監及びその系統と考えられる役職に就いた者を末尾に加えた。以下、本表をもとに町奉行就任者の経歴について、その傾向を分析してみる。

まず、町奉行になる直前の職は、最多が使番の六件、次いで勘定奉行の四件、先手弓頭の三件と続くが、かなりばらついており、時代による偏りも見られない。何らかの傾向をつかむには、町奉行就任以前の経歴を全て洗い出す必要がある。ただし、特に江戸中期以降は郡代・勘定奉行経験者が多いように思われる。

町奉行を務めた後は、そのまま役免となる例が最も多く一五件（召放一件含む）、次いで大目付就任が八件、死去による解任が五件となり、このうち、役免と死去の場合、そのほとんどは町奉行が、そして大目付就任の場合はそれが、その人物の最高位の役職のようである（ただし、厳密な役職の高低は、今後の職制研究の進展によって明らかにされねばならない）。つまり、多少の個人差はあるにせよ、長年の勤務を経て老練の域に達した者が町奉行に就任し、これを大過なく務め上げてなお健康面にも問題がなければ大目付に昇進できるという、一つの典型的な経路が浮かび上がる（次頁の事例①②参照）。

家格について専任者のみで集計すると、越後騒動以前からの家臣である譜代が六人、光長が許されて江戸に戻ってから津山に領地を得るまでに家臣となった古参が一人、同じ期間に士分以下で仕え始め後に士分に取り立てられた古参取立が四人、津山入封以後の家臣である新参及びそれ以下の者が一四人であった（二回就任した者も一人として計算）。譜代は最初の五〇年間に

町奉行就任者の昇進事例（「勤書」簡略本より）

①典型例 永井甚大夫（新参）

享保7（1歳）出生 元文4（18歳）家督相続・大番組

寛保2（21歳）中奥組 寛保3（22歳）金奉行

延享4（26歳）番外格・蔵奉行

宝暦元（30歳）使番格・勘定奉行 宝暦4（33歳）使番当役

宝暦12（41歳）勘定奉行 明和2（44歳）役免

明和5（47歳）物頭格・町奉行 明和7（49歳）大目付

安永元（51歳）小姓頭格・政事惣奉行

安永3（53歳）高50石加増

大目付・奏者・大番頭・寺社奉行

安永7（57歳）死去、香典下賜

②極端な例外 小島清介（古参、後に此母と改名）

天明5（1歳）出生 寛政11（15歳）家督相続・寄合

文化6（25歳）林述斎に入門、昌平坂学問所に寄宿して

一年間の学問修行

文化10（29歳）学問修行のため江戸に出る

文化11（30歳）帰国、町奉行 文政元（34歳）役免

文政5（38歳）蟄居、妻子を連れ英田郡へ離散

天保元（46歳）病死

集中、それ以後は新参が多くなっているが、古参は全期間を通じて見られる。ここで注目したいのは、宝暦〜明和年間
の度重なる兼務である。従来は城下町行政の軽視としてのみ
とらえられてきた。しかし、結果論ではあるが、郡代や勘定
奉行という町奉行よりも格下（と思われるが、検討が必要）
の者を町奉行職に就かせることにより、人材登用・抜擢の道
を開いたとも言える。宝暦〜明和以前の専任者のうちで新参
はわずかに一人であり、兼務とは言えこの時期の人事が前例
として大きな意味を持ったのではないだろうか。ただ、家格
を論じる際に注意すべきことは、先に述べた家格区分が一七
〇年余の津山松平藩の歴史の中で徐々に形成されたものだ
という点である。家格意識が実際の人事においてどれ程反映さ
れていたかについては、家格区分の動向を踏まえたいうで、
町奉行以外の役職についても検討して初めて明らかになるこ
とであり、今後の課題とせねばならない。

（小島 徹）

津山郷土博物館紀要第十四号

津山松平藩町奉行日記九

平成十三年三月三十一日発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地
印刷 株式会社 三勝

岡山県津山市高野山西三五―二五

1870
1871
1872
1873
1874
1875
1876
1877
1878
1879
1880
1881
1882
1883
1884
1885
1886
1887
1888
1889
1890
1891
1892
1893
1894
1895
1896
1897
1898
1899
1900

